

学生生活に関する調査報告書

平成25年度

小樽商科大学

ま え が き

本学では3年に1度、学生の生活実態調査を行っている。平成25年度は調査年であり、本報告書はその調査をまとめたものである。

調査の方法は前回（平成22年度調査）と同様であるが、回収率は若干低下した（本調査74%、前回調査76%）。調査の大項目については、今回新たに「6 学習状況について」、「8 ボランティア活動について」、「12 カルト、薬物について」という3項目を追加した。

全体として学生の生活状況に大きな変化は見られないが、個々の調査結果からは、学生の生活実態がより具体的に伝わってくる。項目ごとに、特徴を掴むためのコメントを付している。最後の「自由意見」では、他者を中傷した内容やプライバシーに関わるものは調査目的に合致しないので削除した。また、勘違いや思い込みによる大学への非難も一部見受けられたが、大学がさらに前進を図るための「手がかり」ともなるので、そのまま掲載した。

この調査結果は、学生支援を行う際の貴重なデータであり、本学はこれによって、学生諸君の生活実態への理解を深め、有効な学生支援を行っていきたいと考えている。また、学生諸君も、この調査結果を参考に、自身の生活実態を相対化し、望ましい改善を目指してほしい。

最後になるが、調査にご協力いただいた教員の方々、学生委員会から種々の作業に携わっていただいた寺坂崇宏教授、岩本尚禧准教授および学務課に厚くお礼申し上げます。

平成26年3月

小樽商科大学理事（副学長） 大 矢 繁 夫

目 次

I 調査の概要	1
1 調査の目的	
2 調査の組織	
3 調査の内容	
4 調査の対象	
5 調査の実施時期	
6 調査票の回収状況	
II 調査結果	
1 基本的事項	4
(1) 入学年別・性別・所属コース	
(2) 性別・出身高校所在地	
(3) 所属学科別・出身高校所在地	
(4) 所属学科別・性別	
2 入学の経緯等について	6
(1) 大学進学の本機	
(2) 本学を最初に知った情報源	
(3) 本学を選択した本機	
(4) 本学の志望順位	
3 家庭状況について	10
(1) 主たる家計支持者の住居	
(2) 主たる家計支持者の職業	
(3) 主たる家計支持者の年収	
4 住居・通学について	14
(1) 学生の現住所	
(2) 同居者	
(3) 住居を選択したときに考慮した条件	
(4) 家賃・下宿料	
(5) 通学所要時間	

5	生活費・アルバイトについて	21
	(1) 親（学資負担者）との同居している者の割合	
	(2) 1か月の生活費	
	(3) 1か月の小遣い・仕送り	
	(4) 授業料免除結果	
	(5) 奨学金受給額（月額）	
	(6) アルバイトの職種	
	(7) 1週間のアルバイト時間	
	(8) 1か月の収入の平均額	
	(9) 就労の理由	
	(10) 学業とアルバイトとの関係	
6	学習状況について	34
	(1) 1週間の通学日数	
	(2) AL授業に関わる1日平均予習復習時間	
	(3) AL以外の授業に関わる1日平均予習復習時間	
	(4) ゼミに関わる1日平均予習復習時間	
	(5) 自習の場所	
	(6) 授業の空き時間の居場所	
	(7) 1週間に本学図書館で過ごす時間	
	(8) AL教室と一般教室との集中程度の比較	
	(9) AL教室と一般教室との知識獲得程度の比較	
	(10) AL教室と一般教室との自学自習意欲の比較	
	(11) AL教室と一般教室との授業時間外学習時間の比較	
	(12) ICT教室の増加に対する評価	
	(13) ICT教室の利用希望	
	(14) カリキュラムの満足度	
	(15) カリキュラムの消化度	
7	課外活動について	50
	(1) サークルに加入経験のある者の割合	
	(2) サークルへの加入動機	
	(3) 1週間当たりのサークル活動に費やす時間	
	(4) サークル活動にかかる1か月当たりの費用	
	(5) サークル活動と学業との関係	
	(6) サークルに加入しない理由	

8	ボランティア活動について	59
(1)	大学入学後のボランティア活動経験	
(2)	ボランティア活動の内容	
(3)	ボランティア活動の合計日数	
(4)	ボランティア活動をしたきっかけ	
9	健康について	62
(1)	朝食を食べているか	
(2)	睡眠時間	
(3)	喫煙しているか	
(4)	飲酒の経験、頻度、程度	
(5)	保健管理センターの利用経験、利用理由	
(6)	エイズの感染経路及び予防に関する理解	
10	友人・悩みについて	67
(1)	友人づきあいの程度	
(2)	友人を見つけたきっかけ	
(3)	現在の悩み	
(4)	悩みの対処方法	
11	ハラスメントについて	71
(1)	ハラスメントを受けた経験の有無	
(2)	受けたハラスメントの種類	
(3)	ハラスメントを受けた状況	
(4)	ハラスメントを受けた時の対応	
12	カルト、薬物について	73
(1)	カルト宗教団体等から勧誘された経験の有無	
(2)	友人がカルト宗教団体等から勧誘されたのを見聞きしたことがあるか	
(3)	大麻や脱法ドラッグの使用を勧められた経験の有無	
(4)	友人が大麻や脱法ドラッグの使用を勧められたのを見聞きしたことがあるか	

1 3	就職について	7 5
(1)	卒業後の進路	
(2)	就職する場合の選択基準	
(3)	就職する場合の希望勤務地	
(4)	専門学校等への通学状況	
(5)	大学の就職支援に対する評価	
(6)	就職支援に関しての要望	
1 4	その他	8 0
(1)	携帯電話の種類	
(2)	タブレットPCの所有状況	
(3)	大学から学生全体への情報提供に関する希望	
III	学生生活実態調査「自由意見」	8 2
IV	資料 学生生活実態調査「アンケート用紙」	9 9

I 調査の概要

1 調査の目的

この調査は、本学学生の生活実態をより正確に把握することで、今後における学生の福利厚生充実及び就学環境の改善を図り、学生の多様なニーズに応えるための基礎資料を得ることを目的として実施する。

2 調査の組織

小樽商科大学学生委員会

3 調査の内容

- | | | |
|------------|----------------|-------------|
| ①基本的事項 | ②入学の経緯等について | ③家庭状況について |
| ④住居・通学について | ⑤生活費・アルバイトについて | ⑥学習状況について |
| ⑦課外活動について | ⑧ボランティア活動について | ⑨健康について |
| ⑩友人・悩みについて | ⑪ハラスメントについて | ⑫カルト、薬物について |
| ⑬就職について | ⑭その他 | ⑮自由意見 |

4 調査の対象

平成25年10月1日に在学する昼間コース・夜間主コース学部学生とする。

対象とする学生は以下のとおり。

- ・1年次生 : (昼間コース) 英語I Cの授業を履修している学生
(夜間主コース) 英語I Bの授業を履修している学生
- ・2年次生 : (昼間コース) 英語以外の外国語の授業を履修している学生
(夜間主コース) 英語II B 2の授業を履修している学生
- ・3、4年次生 : 研究指導を履修している学生

5 調査の実施時期

平成25年10月1日(火)～10月11日(金)

6 調査票の回収状況

回答者数

入学年次	昼間コース			夜間主コース			合計			
	男性	女性	計	男性	女性	計	男性	女性	不明	計
H25	260	159	419	24	26 ※ ¹	50	284	185	—	469
H24	215	172	387	14	22	36	229	194	—	423
H23	202	137	339	13	29 ※ ²	42	215	166	—	381
H22	192	136	328	13	18	31	205	154	—	359
H21 以前	23	6	29	5	0	5	28	6	—	34
不明※ ³	—	—	—	—	—	—	—	—	15	15
計	892	610	1,502	69	95	164	961	705	15	1,681

在籍者数

(平成 25 年 10 月 1 日現在)

入学年次	昼間コース			夜間主コース			合計			
	男性	女性	計	男性	女性	計	男性	女性	不明	計
H25	308	189	497	28	25 ※ ¹	53	336	214	—	550
H24	280	207	487	24	26	50	304	233	—	537
H23	289	197	486	23	27 ※ ²	50	312	224	—	536
H22	291	179	470	29	22	51	320	201	—	521
H21 以前	94	23	117	10	3	13	104	26	—	130
計	1,262	795	2,057	114	103	217	1,376	898	—	2,274

回答率

(%)

入学年次	昼間コース			夜間主コース			合計			
	男性	女性	計	男性	女性	計	男性	女性	不明	計
H25	84.4	84.1	84.3	85.7	(100.0)	94.3	84.5	86.4	—	85.3
H24	76.8	83.1	79.5	58.3	84.6	72.0	75.3	83.3	—	78.8
H23	69.9	69.5	69.8	56.5	(100.0)	84.0	68.9	74.1	—	71.1
H22	66.0	76.0	69.8	44.8	81.8	60.8	64.1	76.6	—	68.9
H21 以前	24.5	26.1	24.8	50.0	0.0	38.5	26.9	23.1	—	26.2
不明※ ³	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
計	70.7	76.7	73.0	60.5	92.2	75.6	69.8	78.5	—	73.9

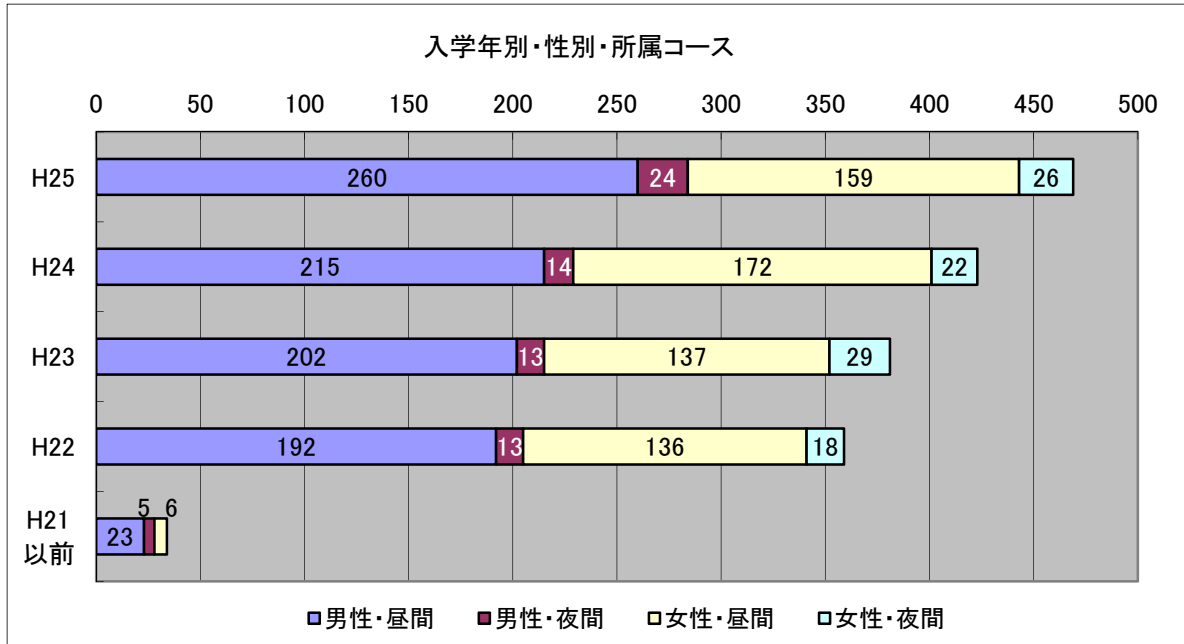
備考

- ※¹ 回答者数が在籍者数を上回っている。回答の際、選択肢を誤ったものと思われる。
- ※² 回答者数が在籍者数を上回っている。回答の際、選択肢を誤ったものと思われる。
- ※³ 基本的事項のうち「問 1 入学年次」、「問 2 性別」、「問 3 所属コース」のいずれかが無回答の分である。

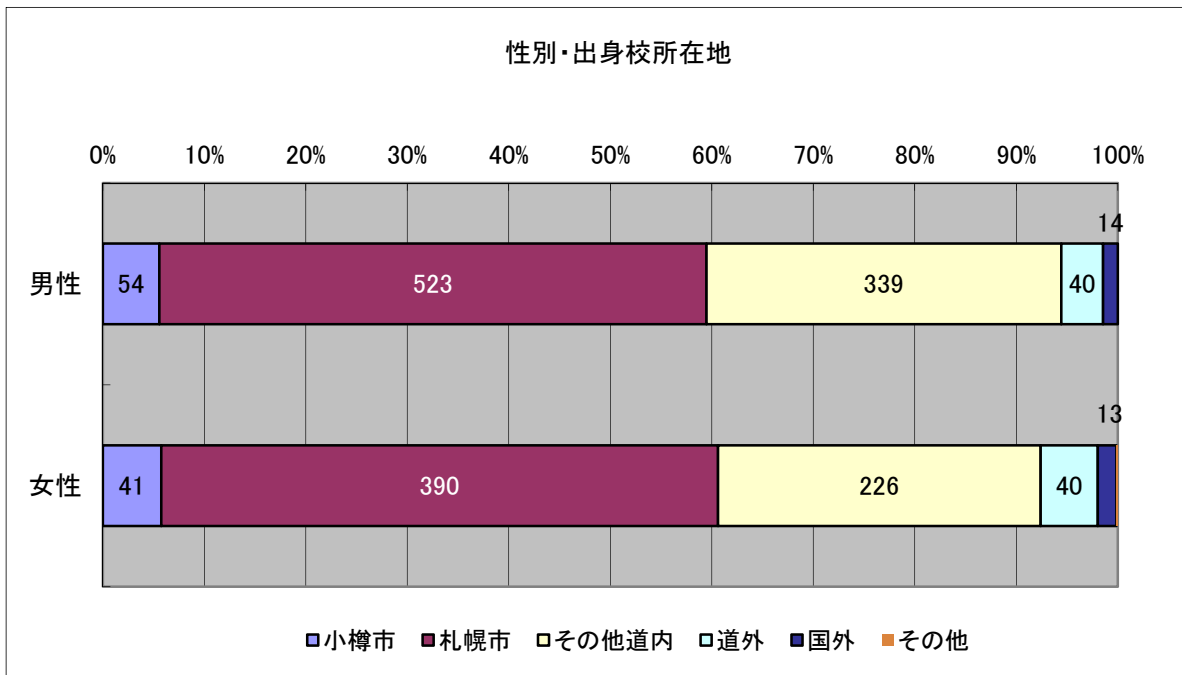
II 調査結果

1 基本的事項

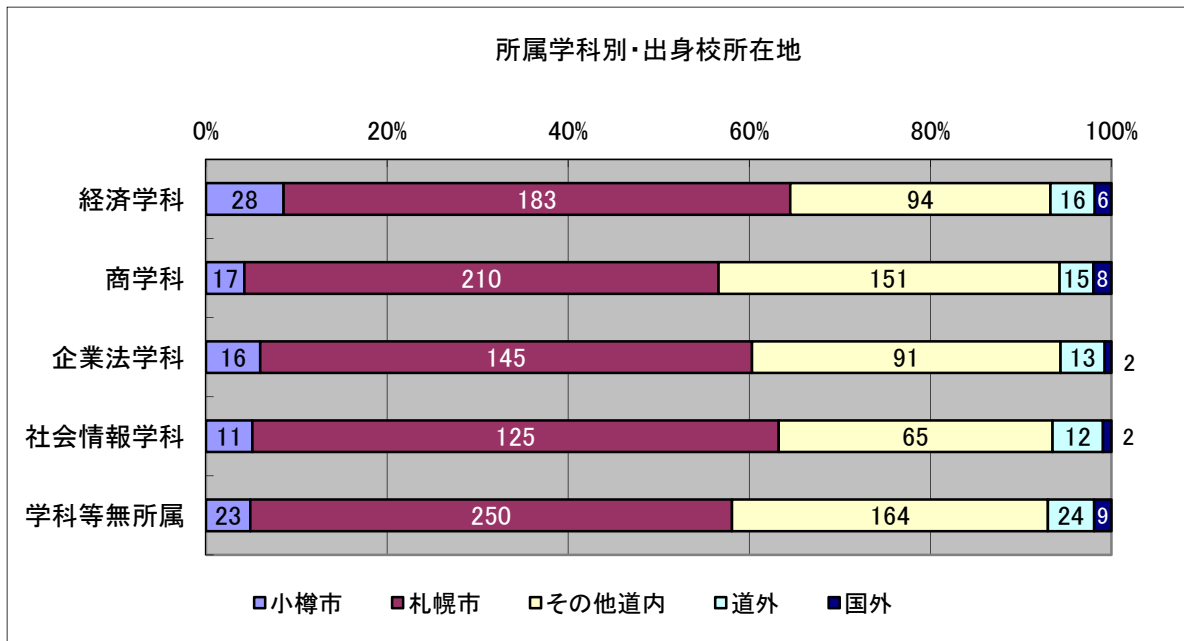
(1) 入学年別・性別・所属コース (問1・問2・問3)



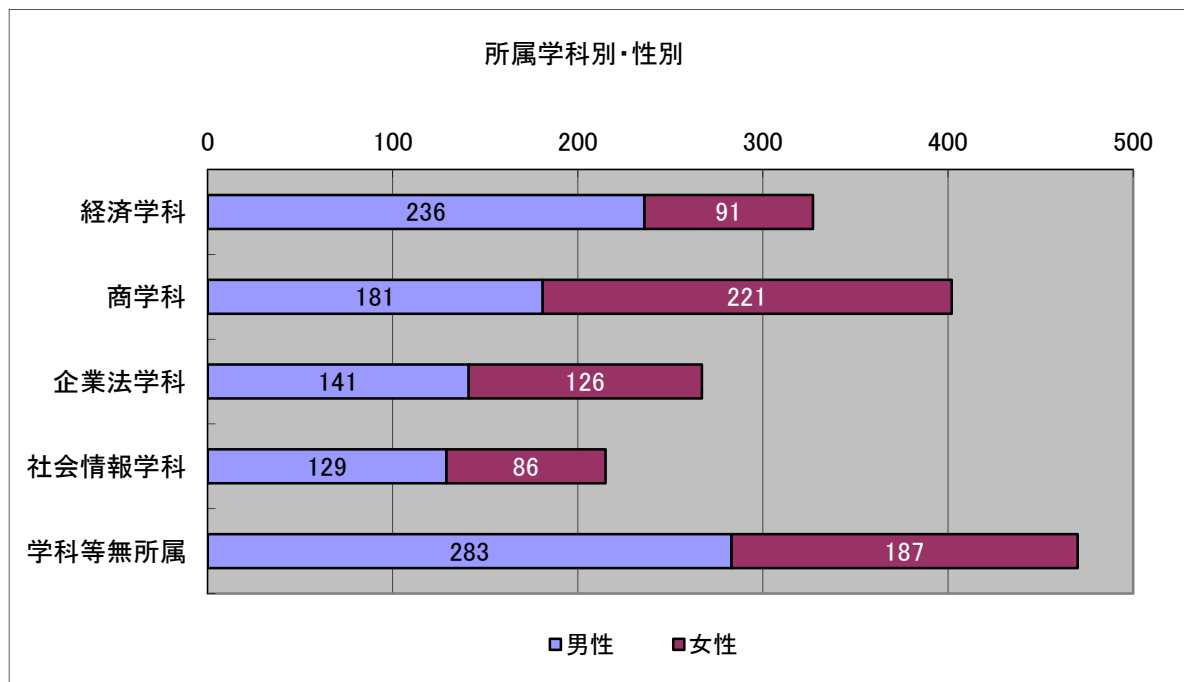
(2) 性別・出身高校所在地 (問2・問5)



(3) 所属学科別・出身高校所在地 (問4・問5)



(4) 所属学科別・性別 (問2・問4)



2 入学の経緯等について

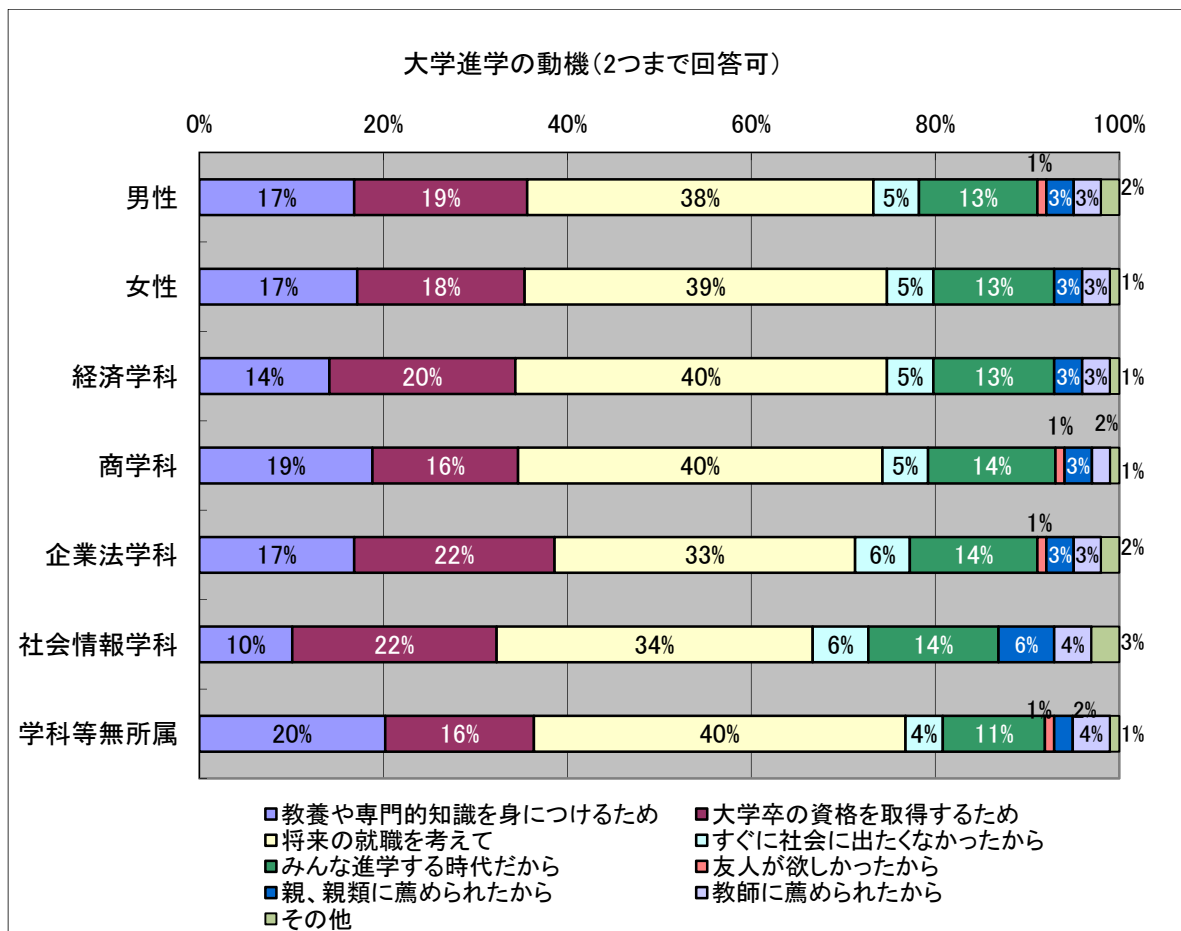
- ・大学進学 of 動機（2つまで回答可）は、「将来の就職を考えて」が男性 38%、女性 39%
- ・本学を最初に知った情報源は、男性は「教師」が 42%、「親・親類」が 24%、女性は「教師」が 42%、「親・親類」が 27%
- ・本学を選択した動機（2つまで回答可）は、「国立大学で経済的」が、回答票を提出した 1,681 名のうち 1,458 名、「就職に有利」は 801 名、「成績を考えて」は 741 名
- ・志望の順位は、昼間コースで「第 1 志望」が 47%、夜間主コースで「第 1 志望」が 85%

(1) **大学進学 of 動機**について、性別で見ると、男性は「将来の就職を考えて」が 38%、「大学卒の資格を取るため」が 19%、「教養や専門的知識を身につけるため」が 17%、女性は「将来の就職を考えて」が 39%、「大学卒の資格を取るため」が 18%、「教養や専門的知識を身につけるため」が 17%であり、大きな差は見られない。いずれも「将来の就職を考えて」の回答比率が高い。前回、前々回調査と比較して、男性、女性とも大きな変化は見られない。

所属学科別で見ると、企業法学科と社会情報学科で、「将来の就職を考えて」が、それぞれ、33%、34%と、経済学科、商学科、学科等無所属より、それぞれ、7ポイント、6ポイント低い。社会情報学科の「教養や専門的知識を身につけるため」が 10%と、経済学科、商学科、学科等無所属より 4ポイント～10ポイント低い。

大学進学 of 動機（問 2・問 4・問 6）

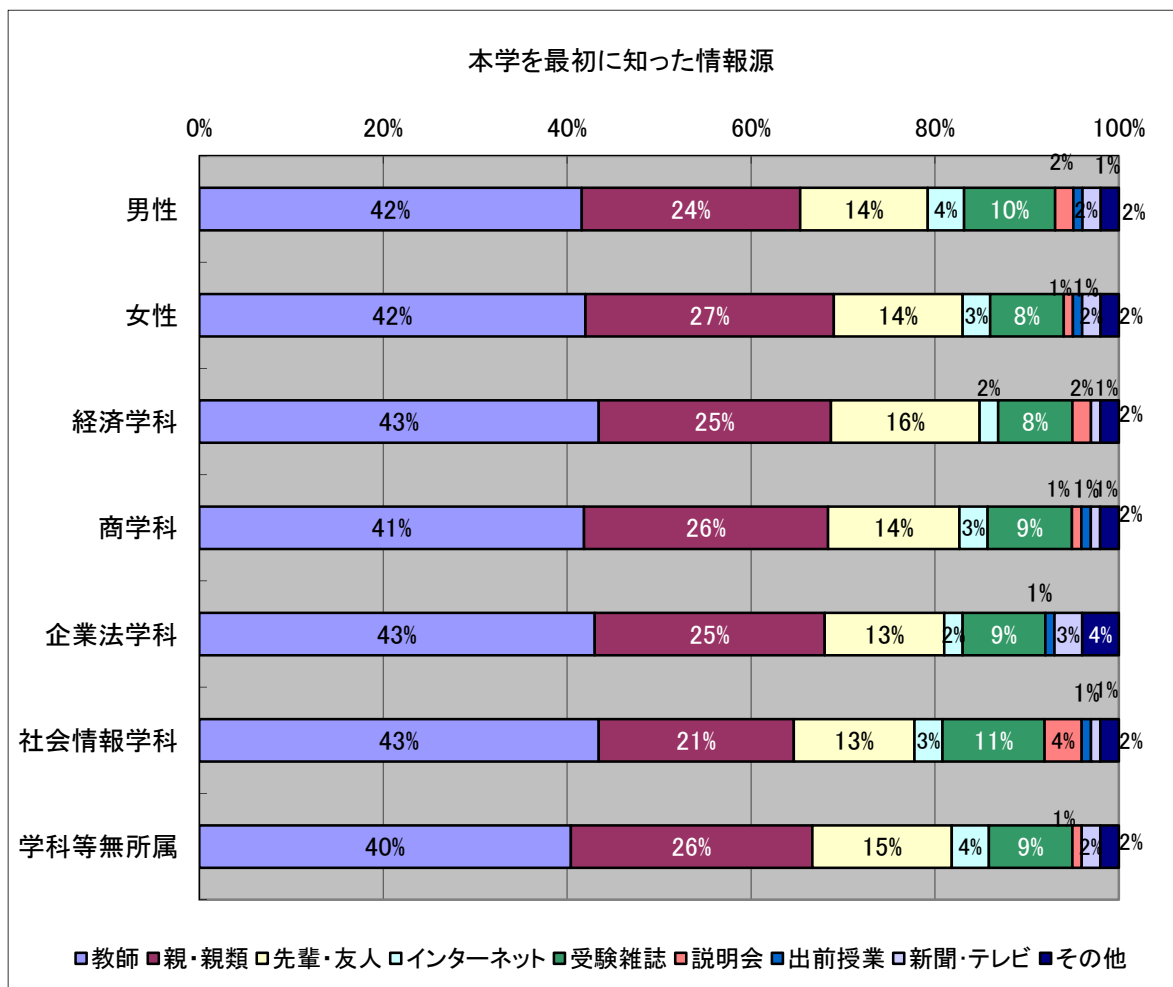
問 6 大学進学を決めた時の動機は何ですか。（2つまで回答可）



(2) **本学を最初に知った情報源**について、性別でみると、「教師」は、男性、女性共に42%、「教師」、「親・親類」、「先輩・友人」の3つの、身近な人からの情報の合計は、男性、女性共に80%である。性別、所属学科別、いずれも同様の結果である。前回調査と比較して、性別では大きな変化は見られないが、所属学科別では、社会情報学科で「教師」が6ポイント少ない。

本学を最初に知った情報源（問2・問4・問7）

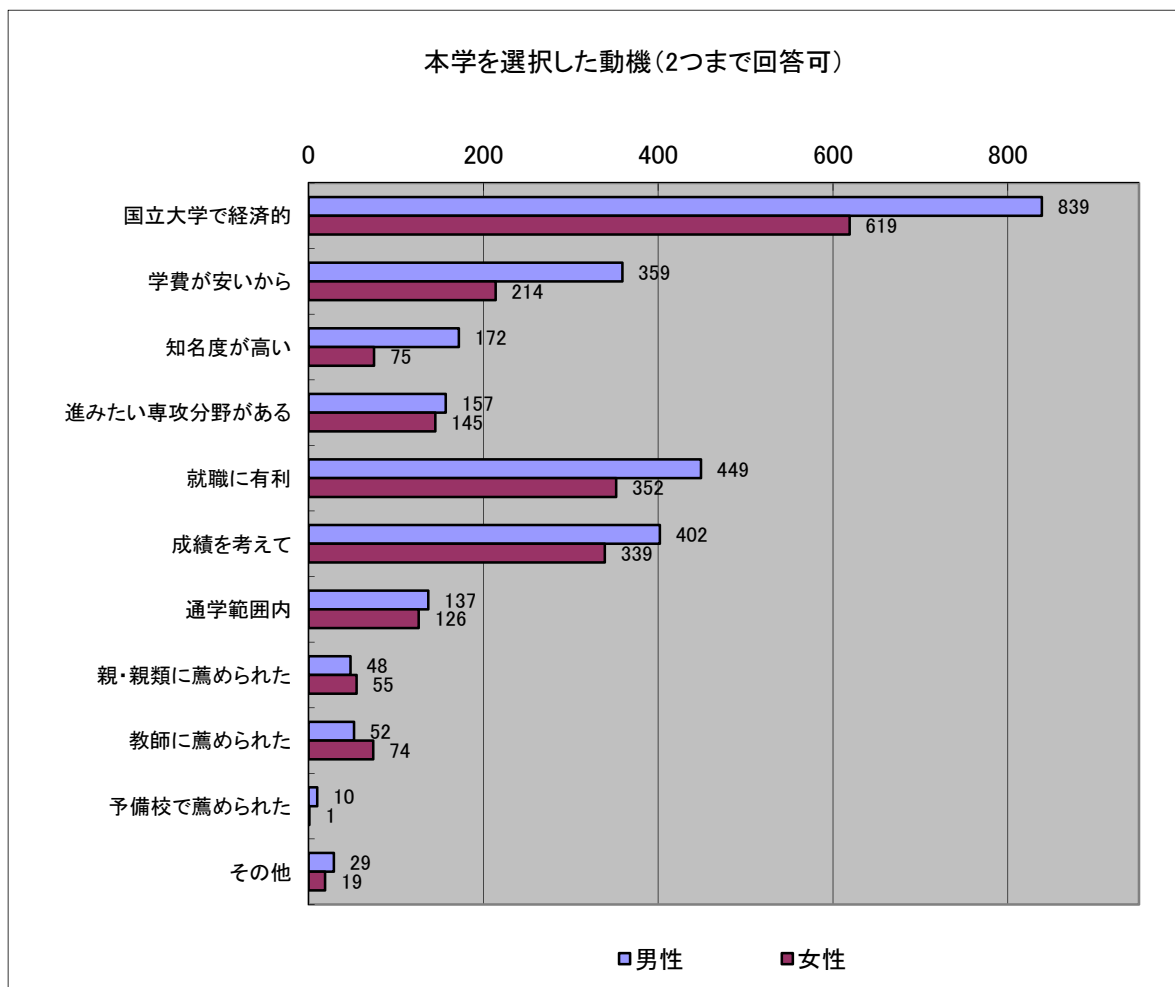
問7 本学を最初に知ったのは、どこからの情報ですか。



(3) **本学を選択した動機**について、「国立大学で経済的」と回答した学生は1,458名で、回答票を提出した1,681名に占める割合は87%である。「就職に有利」は801名(48%)、「成績を考えて」は741名(44%)、「学費が安いから」は573名(34%)である。「進みたい専攻分野がある」は302名(18%)と上位4項目と差が見られた。本学を選択する動機としては、「国立大学で経済的」が非常に多い。

本学を選択した動機 (問2・問8)

問8 本学を選んだ主な動機は何ですか。(2つまで回答可)

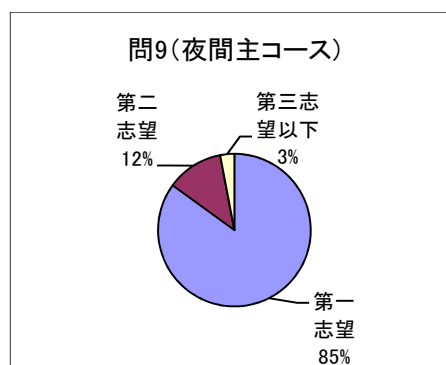
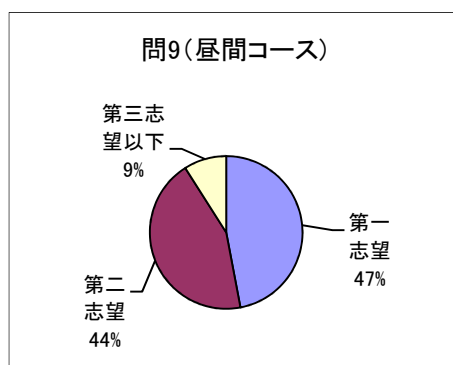
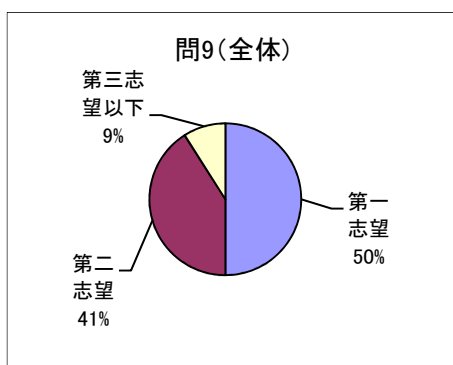
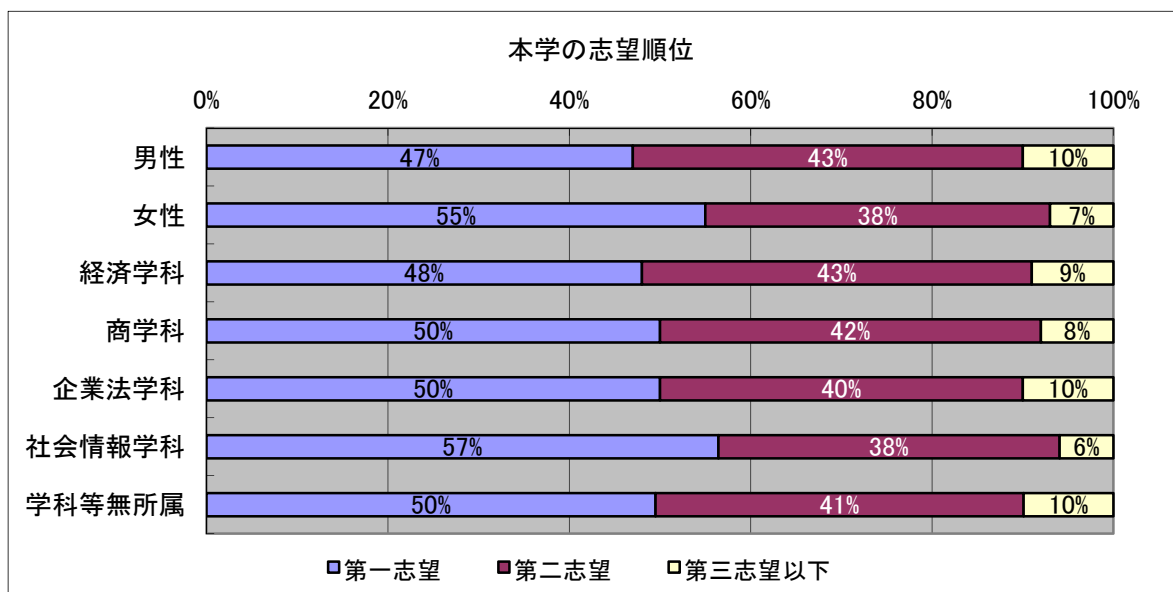


(4) **本学の志望順位**について、コース別で見ると、昼間コースでは「第1志望」が47%、「第2志望」が44%、夜間主コースでは、「第1志望」が85%、「第2志望」が12%であり、夜間主コースの「第1志望」の回答の比率が85%と高い。昼間コースの結果は、前回、前々回の調査結果と比較して大きな変化は見られないが、夜間主コースの結果は、前回、前々回の調査結果と比較して、第1志望と回答した学生の比率が8~9ポイント上昇している。全体で見ると、「第1志望」が50%、「第2志望」が41%であり、前回の調査結果と比較して、大きな変化は見られない。

男女別、学科別にみると、女性の「第1志望」が男性より8ポイント高いことと、社会情報学科の「第1志望」が、他の3学科及び学科等無所属より7ポイント~9ポイント高い。これらについては、前回の調査結果と比較して、大きな変化は見られない。

本学の志望順位（問2・問4・問9）

問9 あなたにとって本学は何番目の志望でしたか。



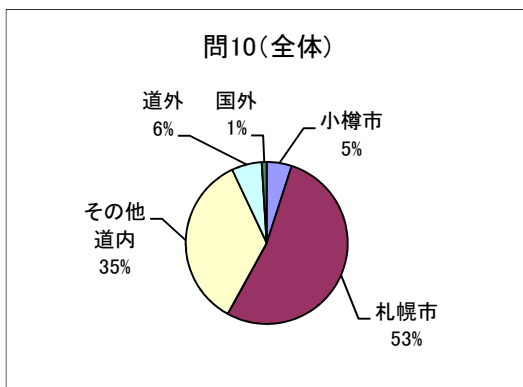
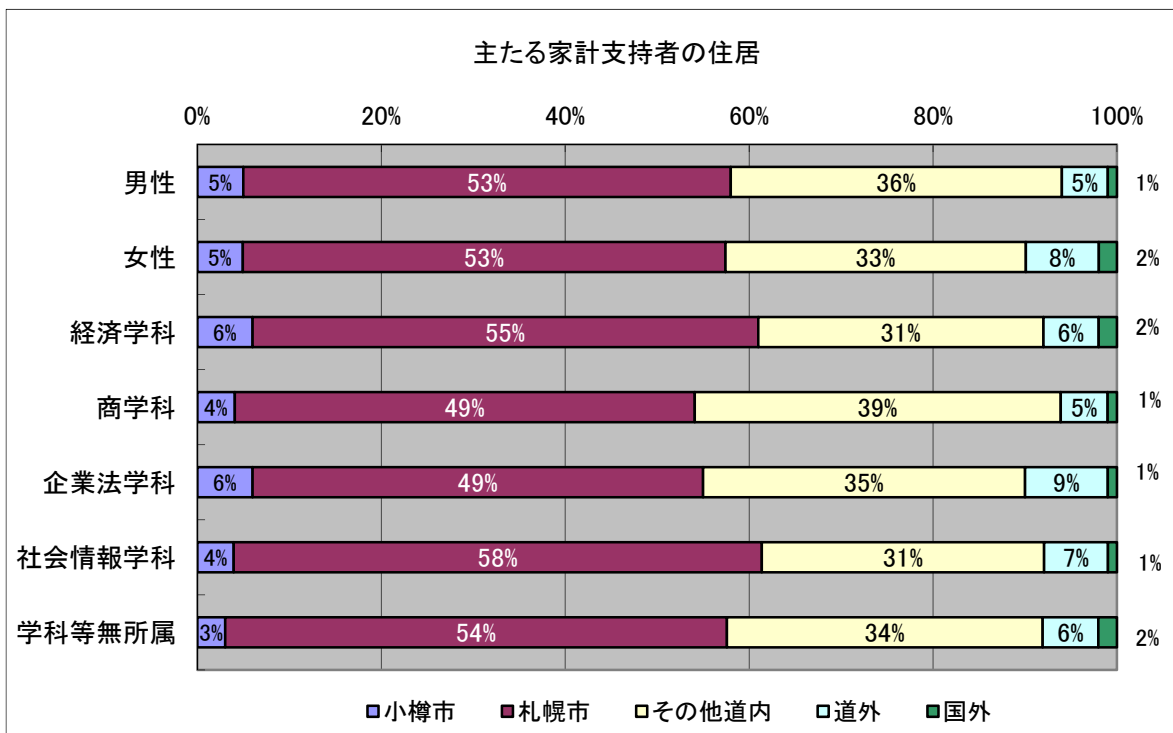
3 家庭状況について

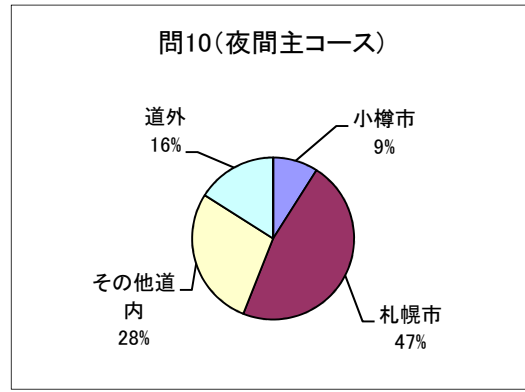
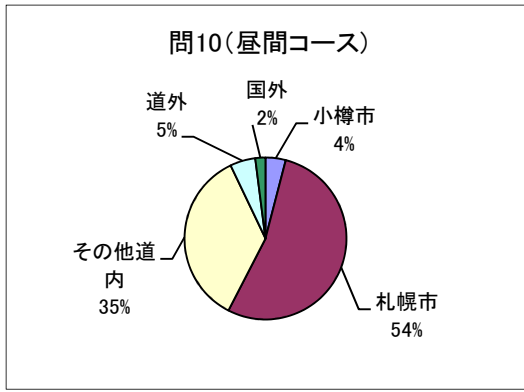
- ・家計支持者の住居は、昼間コースで北海道内が93%、夜間主コースでは84%
- ・家計支持者の職業は、「会社員」56%「国・地方公務員」20%
- ・家計支持者の年収は、昼間コースで「300万円未満」が16%、「300万円以上～500万円未満」が28%、夜間主コースで「300万円未満」が30%、「300万円以上～500万円未満」が35%

(1) **主たる家計支持者の住居**は、昼間コースで、「札幌市」が54%、「小樽市と札幌市を除く道内」が35%、「小樽市」が4%であり、道内が93%である。夜間主コースで、「札幌市」が47%、「小樽市と札幌市を除く道内」が28%、「小樽市」が9%であり、道内が84%である。夜間主コースは、昼間コースと比較して「小樽市」、「道外」のポイントが高い。全体では、道内が93%、道外が6%である。前回の調査と比較すると、昼間コース、夜間主コース、全体、いずれも大きな変化は見られない。男女別、学科別では、いずれも全体の結果と大きな差異はなく、前回の調査結果と比較しても、大きな変化は見られない。

主たる家計支持者の住居（問2・問4・問10）

問10 主たる家計支持者の住居はどこですか。

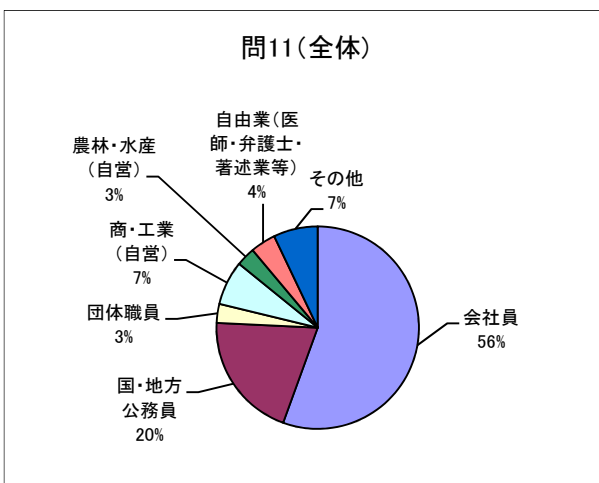
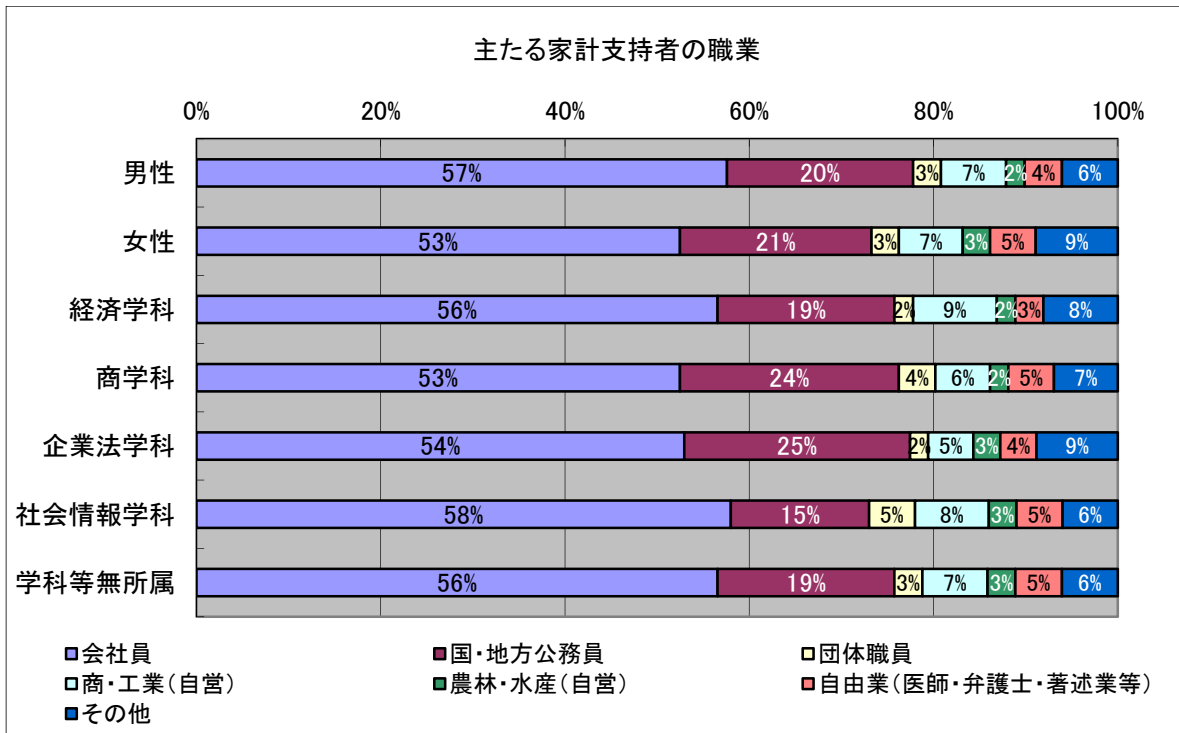




(2) **主たる家計支持者の職業**は、全体で見ると、「会社員」が56%、「国・地方公務員」が20%である。男女別、学科別で見ても、全体の結果と大きな差異はなく、前回、前々回の調査結果と比較して、大きな変化は見られない。

主たる家計支持者の職業（問2・問4・問11）

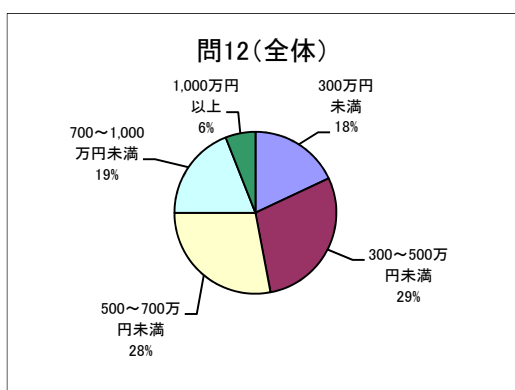
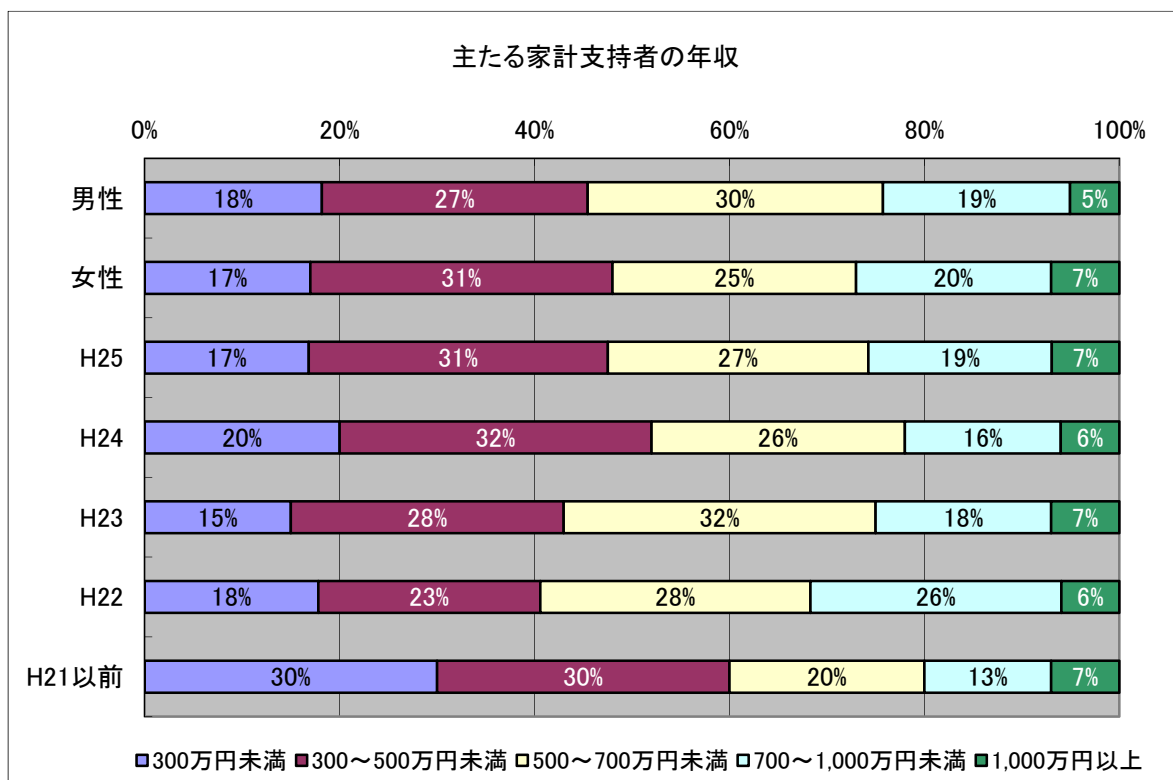
問11 主たる家計支持者の職業は何ですか。

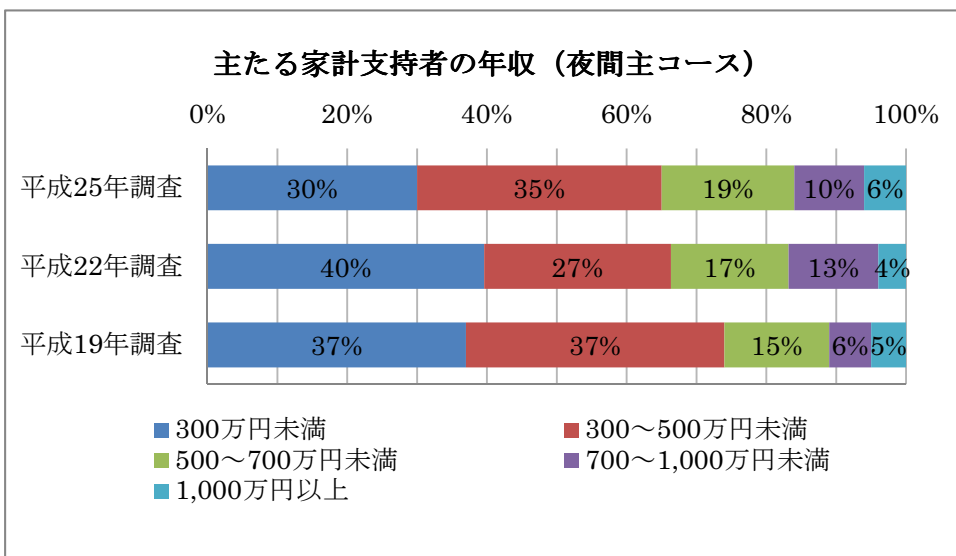
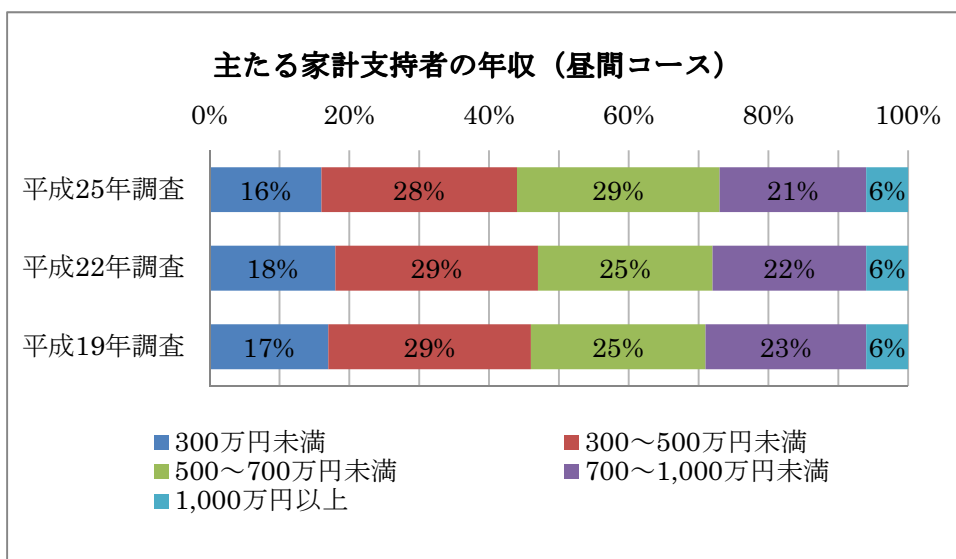
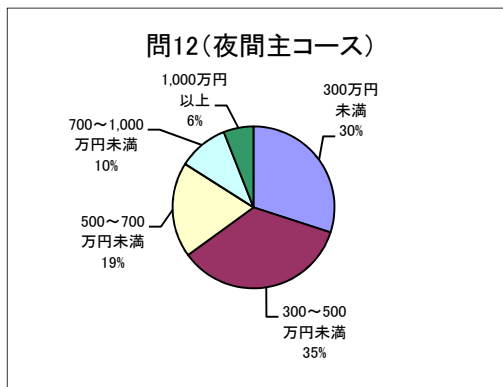
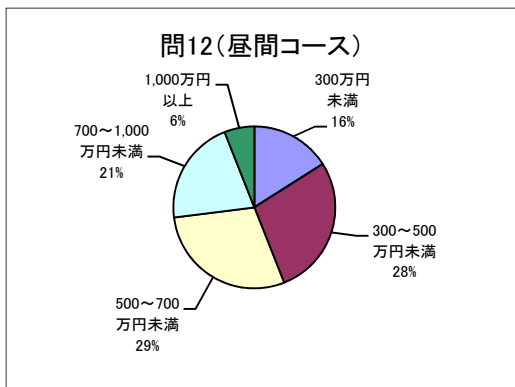


(3) **主たる家計支持者の年収**について、昼間コースでは、「300万円未満」が16%、「300万円以上～500万円未満」が28%、夜間主コースでは、「300万円未満」が30%、「300万円以上～500万円未満」が35%である。昼間コースは、前回、前々回の調査と比較して大きな変化がないものの、年収500万円未満が44%であり、多いと考えられる。夜間主コースでは、「300万円未満」が30%で、前回調査と比較して10ポイント減少、前々回調査と比較して7ポイント減少、「300万円以上～500万円未満」が35%で、前回調査と比較して約8ポイント上昇、前々回調査と比較して2ポイント減である。年収500万円未満の比率が減少傾向にあることが示唆されるものの、多いと考えられる。

主たる家計支持者の年収（問2・問4・問12）

問12 主たる家計支持者の年収総額（税込み）は、どのくらいですか。





4 住居・通学について

昼間コース

- ・現住所は、「札幌市」が58%、「小樽市」が31%
- ・「親・親戚と同居」が68%、「一人暮らし（賄いなし）」が28%
- ・1人暮らしの1か月の家賃・下宿料は、「3万円以上～4万円未満」が35%で「3万円未満」が20%
- ・通学所要時間は30分未満が44%

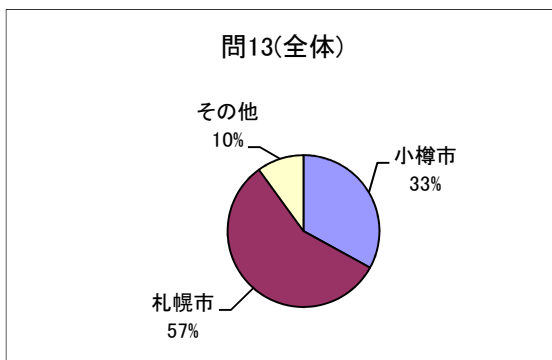
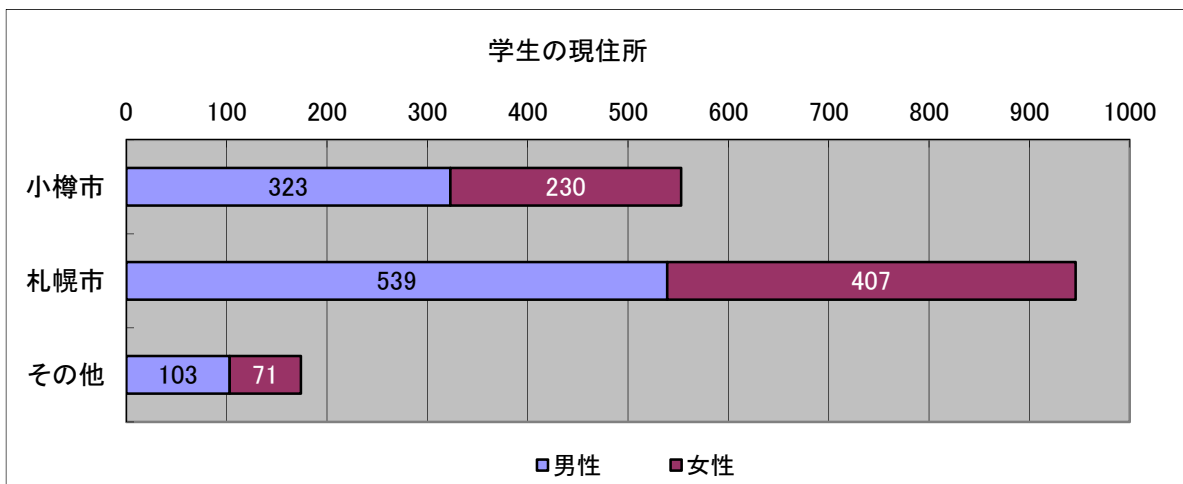
夜間主コース

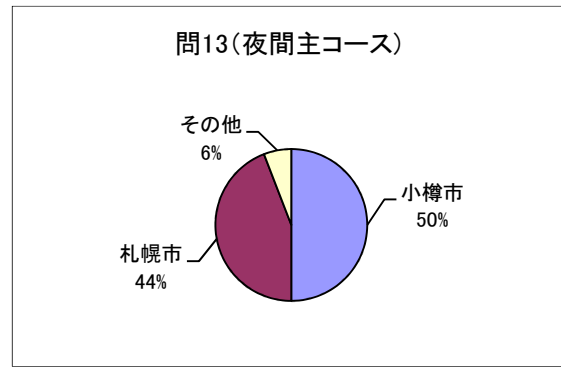
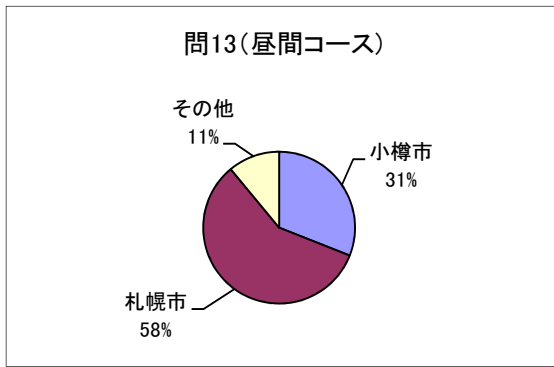
- ・現住所は、「小樽市」が50%、「札幌市」が44%
- ・「親・親戚と同居」が50%、「一人暮らし（賄いなし）」が45%
- ・1人暮らしの1か月の家賃・下宿料は、「3万円以上～4万円未満」が35%で「3万円未満」が29%
- ・通学所要時間は30分未満が56%

(1) **学生の現住所**について、昼間コースでは、「札幌市」が58%、「小樽市」が31%、夜間主コースでは、「小樽市」が50%、「札幌市」が44%であり、昼間コースと比較して、小樽市に現住所がある学生が多い。全体では「札幌市」が57%、「小樽市」が33%である。前回調査、前々回調査と比較すると、全体、昼間コースでは、いずれも大きな変化はないが、夜間主コースでは、前回調査と比較して、「小樽市」が4ポイント増、「札幌市」が5ポイント減で、今回の結果は、前々回の結果とほぼ同様である。性別で見ると、小樽市、札幌市、その他いずれの地域においても、男性の数が女性の数より多く、これは前回調査と同じである。

学生の現住所（問2・問13）

問13 あなたの現住所はどこですか。



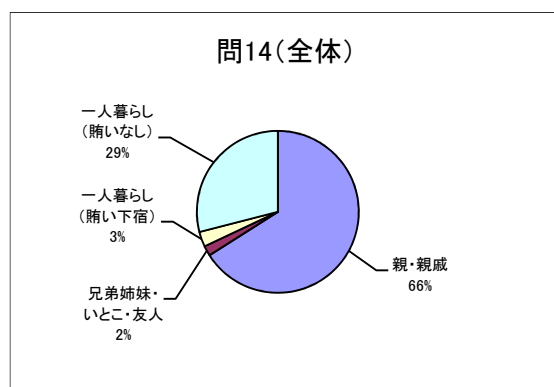
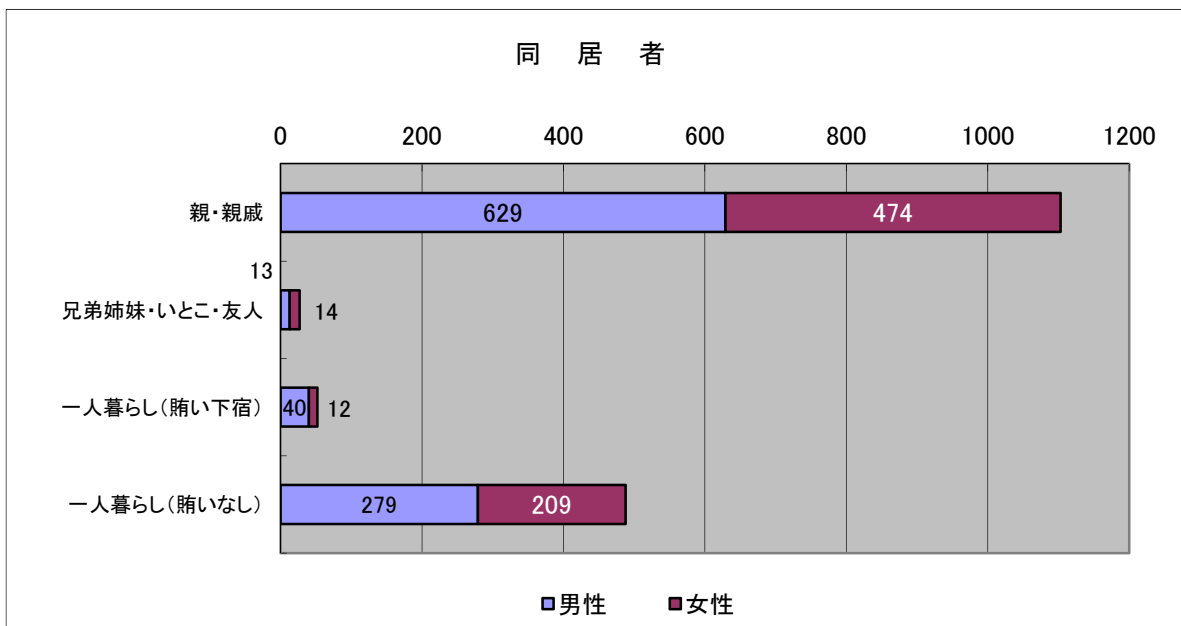


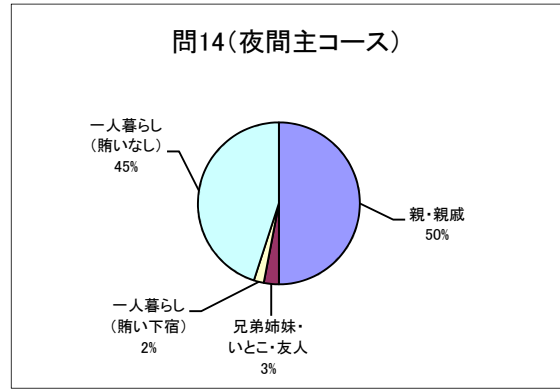
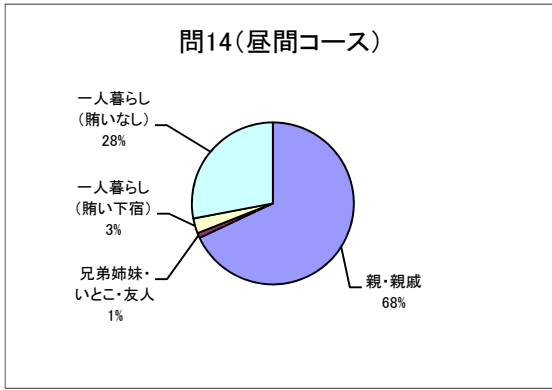
(2) **同居者**について、昼間コースでは、「親・親戚」が68%、「一人暮らし(賄いなし)」が28%、「一人暮らし(賄い下宿)」は3%である。夜間主コースでは、「親・親戚」が50%、「一人暮らし(賄いなし)」が45%、「一人暮らし(賄い下宿)」は2%である。夜間主コースは、昼間コースと比較して、一人暮らしの割合が高い。いずれのコースについても、前回、前々回の調査と比較して、それぞれ大きな変化は認められない。

性別で見ると、「親・親戚」、「一人暮らし(賄いなし)」、「一人暮らし(賄い下宿)」で男性が女性を上回っている。

同居者 (問2・問14)

問14 誰と一緒に住んでいますか。



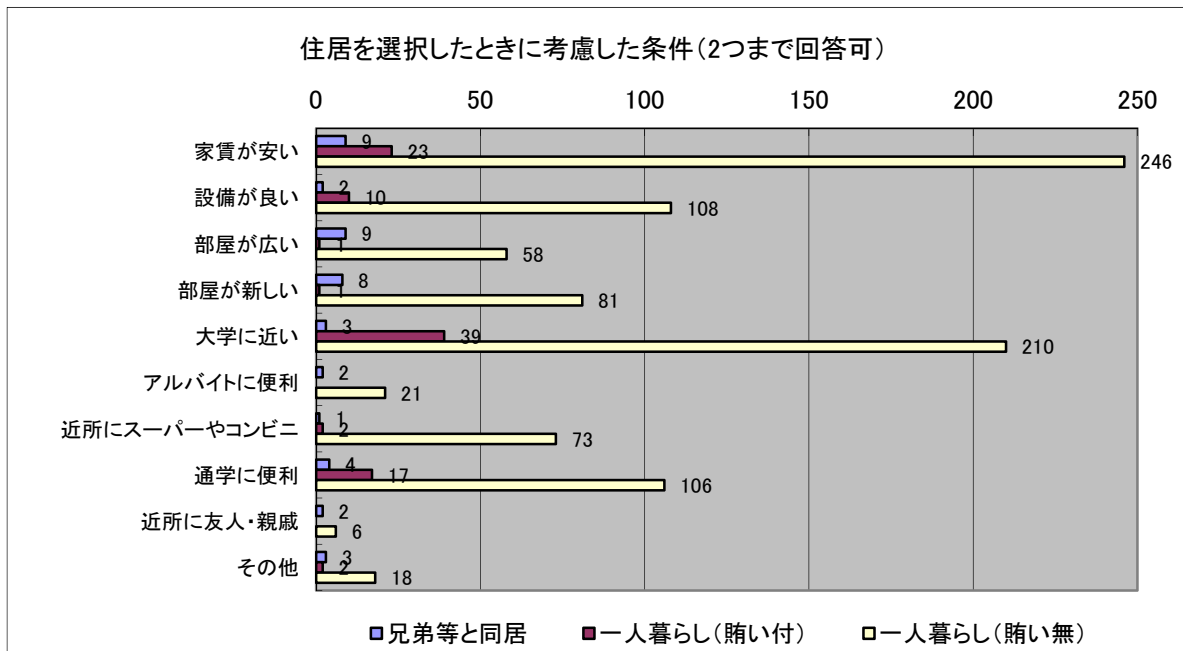


(3) 親・親戚と同居していない者(567名)が、現在の住居を選択したときに考慮した条件は、1位「家賃が安い」、2位が「大学に近い」であり、いずれも200名を超えている。前回調査でも同様の傾向が見られたが、1位と2位の順位が入れ替わった。

回答の比率をみると、一人暮らし(賄い無し)では、「家賃が安い」が27%、「大学に近い」が23%であり、前回調査と比較して、大きな変化はみられない。兄弟等と同居している者では、「大学に近い」が7%、「家賃が安い」「部屋が広い」がいずれも21%であり、一人暮らし(賄い無)とは傾向が異なる。

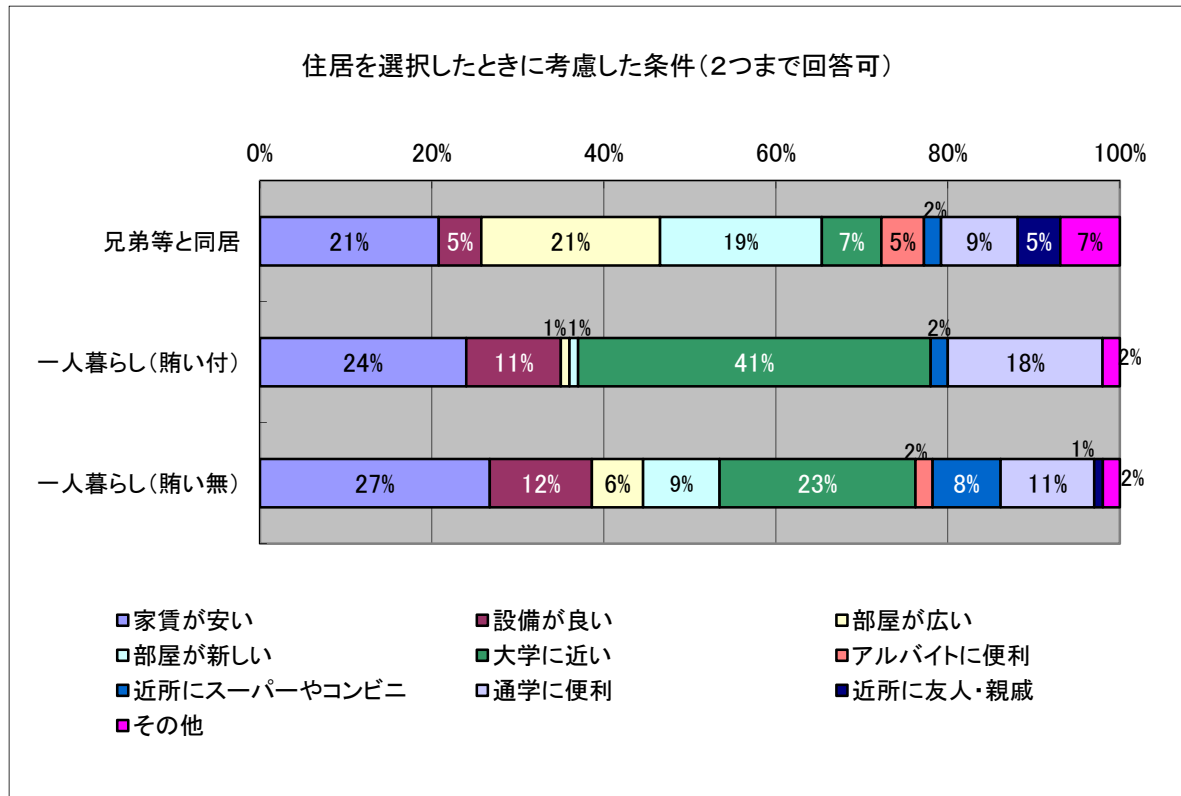
住居を選択したときに考慮した条件(問14・問15)

問15 現在の住居を選ぶ時に考慮した条件は何ですか。(2つまで回答可)



住居を選択したときに考慮した条件（問 14・問 15）

問 15 現在の住居を選ぶ時に考慮した条件は何ですか。（2 つまで回答可）

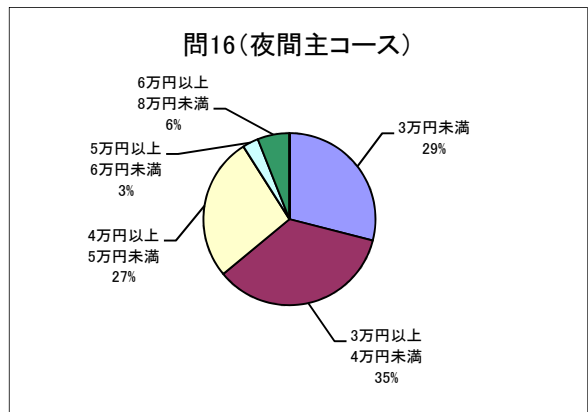
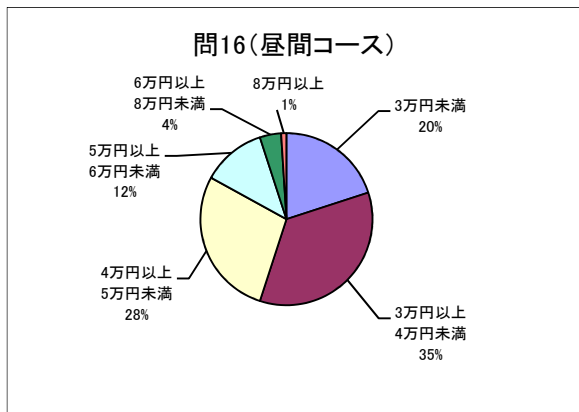
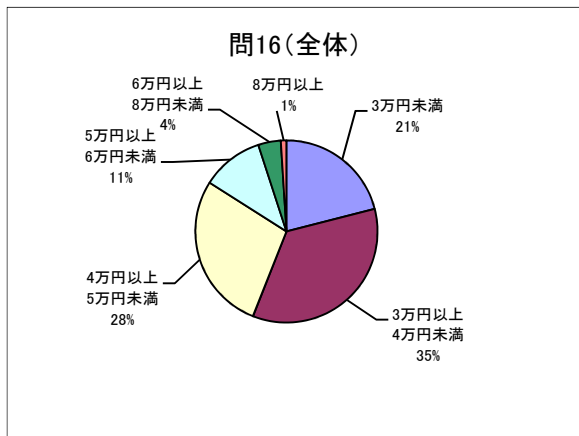
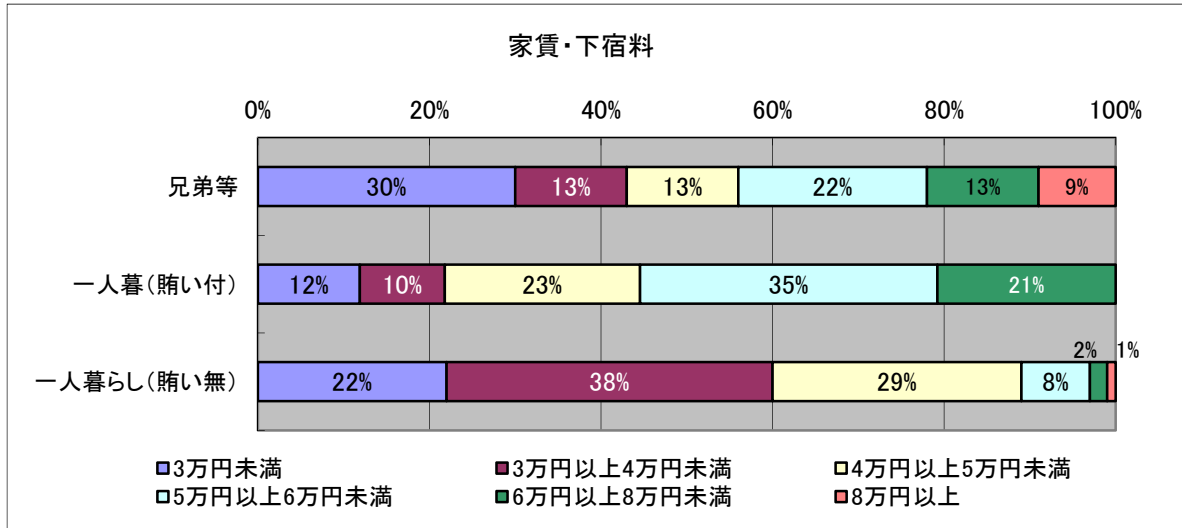


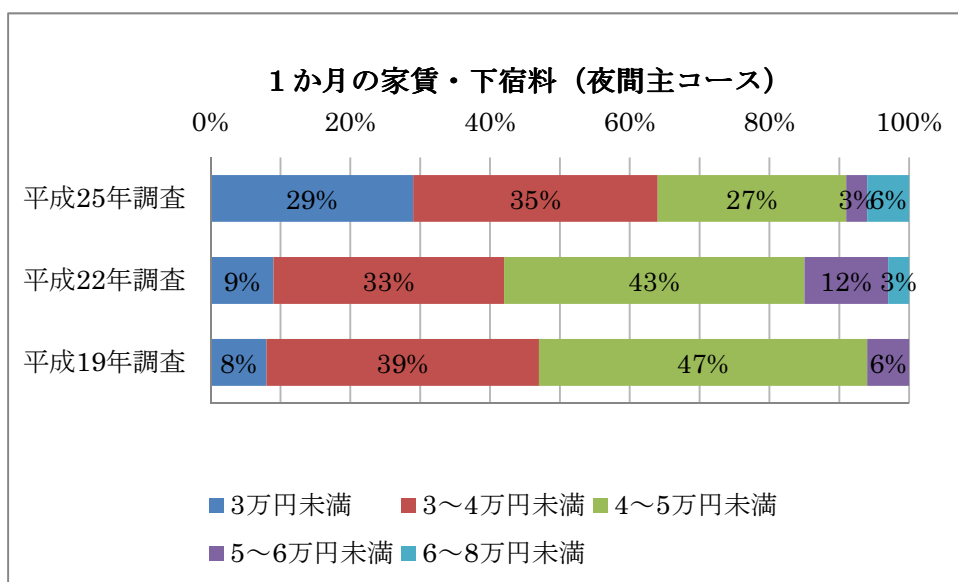
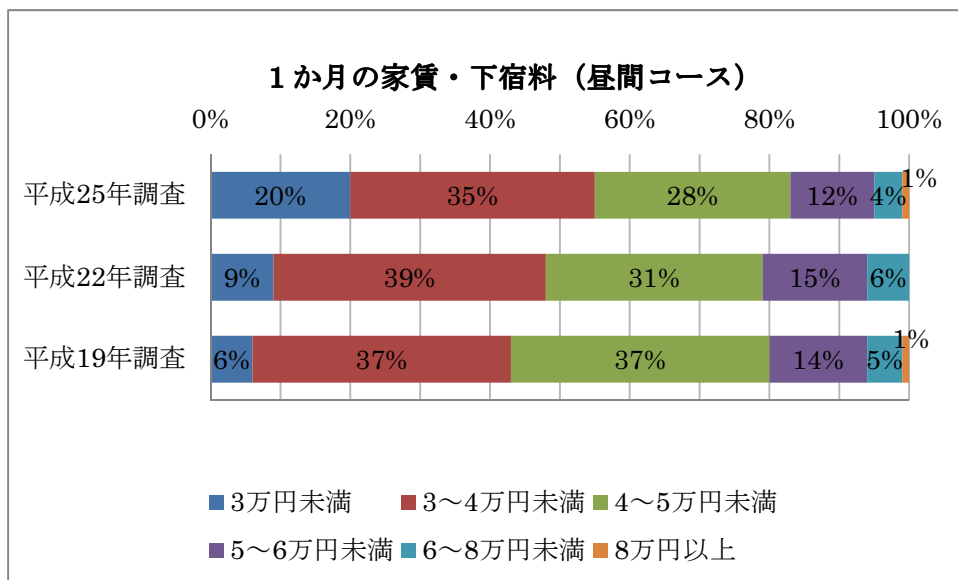
(4) 1か月の**家賃・下宿料**について、昼間コースでは、「3万円未満」が20%であり、これは前回調査と比較して11ポイントの上昇、前々回調査と比較して14ポイントの上昇である。「3万円未満」と「3万円以上～4万円未満」の合計は55%で、前回調査と比較して7ポイント、前々回調査と比較して12ポイントの上昇である。

夜間主コースでは、「3万円未満」が29%であり、これは前回調査と比較して20ポイントの上昇である。「3万円未満」と「3万円以上～4万円未満」の合計は64%と22ポイントの上昇である。学生寮が設置されたことに伴い、家賃・下宿料の回答の金額が下落した可能性があるのと、関連して大学周辺の住居の家賃が下落した可能性がある。

家賃・下宿料（問14・問16）

問16 1か月の家賃・下宿料はいくらですか。



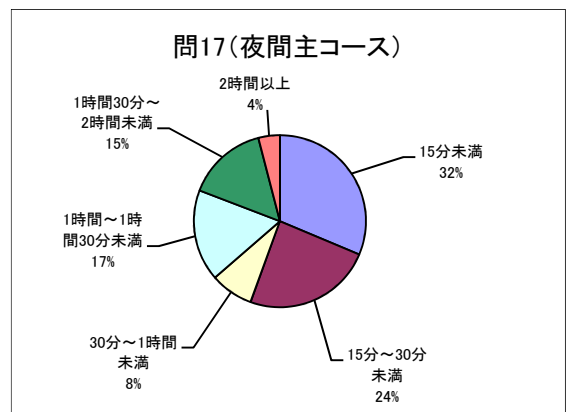
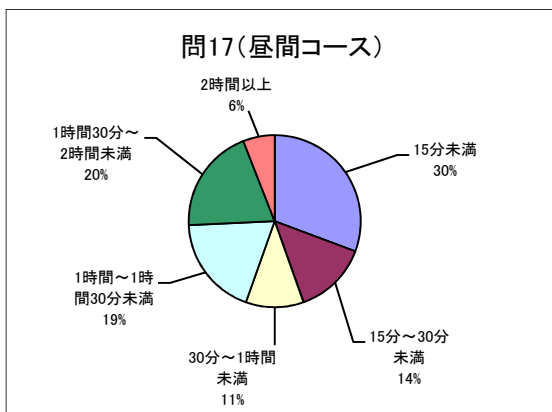
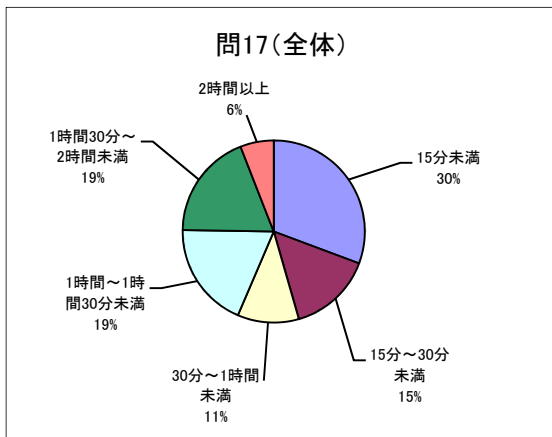
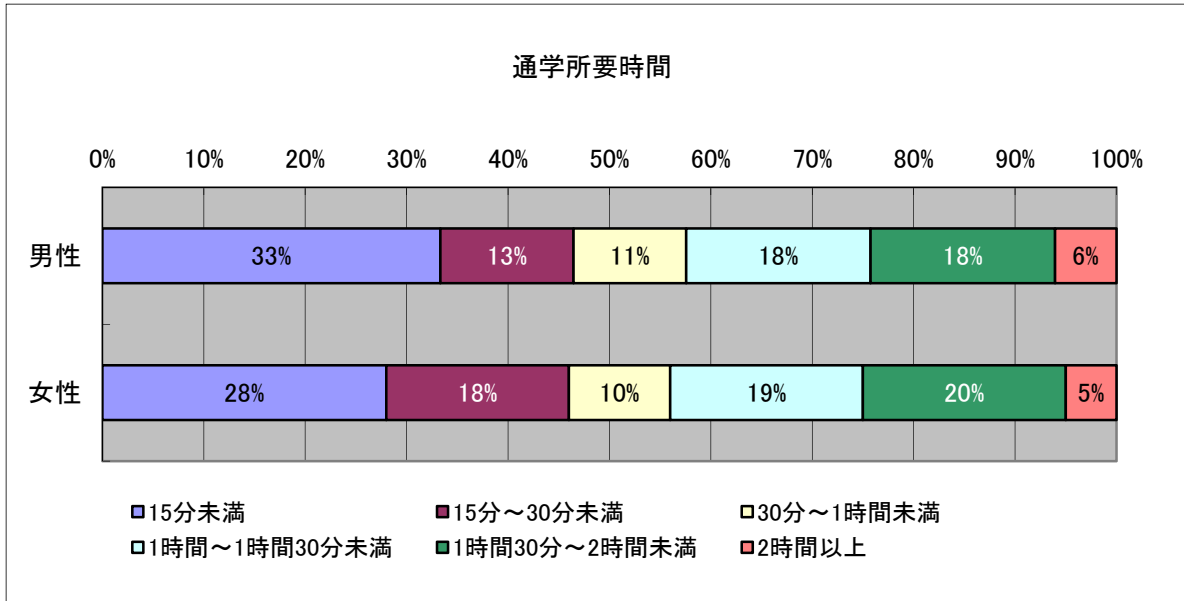


(5) **通学所要時間**について、昼間コースでは、「15分未満」が30%、「15分以上～30分未満」が14%、夜間主コースでは「15分未満」が32%、「15分以上～30分未満」が24%である。前回と比較して、昼間コース、夜間主コース共に、「15分未満」、「15分以上～30分未満」の回答の比率が増加して、「30分以上」のいずれの回答項目の比率がすべて減少していることから、通学所要時間の平均は減少していると考えられる。

全体では「15分未満」が30%であり、前回調査と比較して12ポイントの上昇であるのと、「15分未満」と「15分以上～30分未満」の回答の合計が45%であり、前回調査と比較して17ポイントの上昇である。学生寮が設置されたことに伴い、通学時分が短くなった学生が増えたことが一因と考えられるが、それ以外の要因（例えば、寮の設置に伴う大学周辺のアパートの家賃が下落したことにより、大学周辺に居住する学生数が増加した可能性）について検討が必要である。

通学所要時間（問2・問17）

問17 通学のために要する時間はどのくらいですか。



5 生活費・アルバイトについて

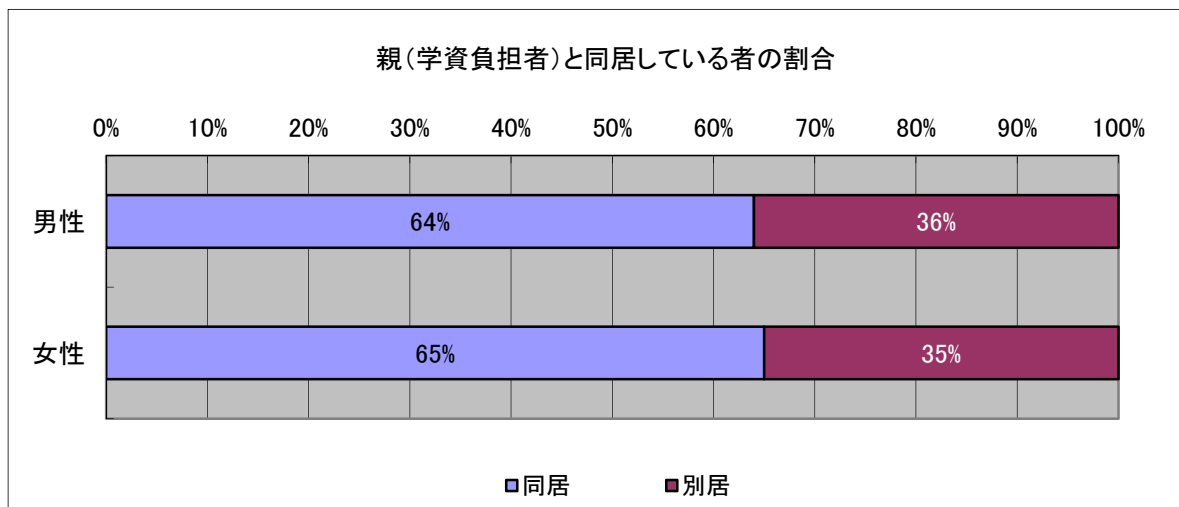
生活費と奨学金

- ・「親（学資負担者）と同居している」比率は、男性で 64%、女性で 65%
- ・1 か月間の生活費は、同居で「1 万円以上～3 万円未満」が 42%、別居で「3 万円以上～6 万円未満」が 39%
- ・1 か月に親からもらう額（小遣い・仕送り等）は、同居で「1 万円未満」が 72%で、別居で「3 万円以上～6 万円未満」が 35%
- ・授業料免除結果は、全額免除が 7% 半額免除が 6%
- ・奨学金受給額（月額）は、昼間コースで「受給していない」が 52%、「3 万円以上～6 万円未満」が 27%、夜間主コースで「受給していない」が 42%、「3 万円以上～6 万円未満」が 33%

(1) **親（学資負担者）と同居している者の割合**は、男性が 64%、女性が 65%である。前回調査と比較して大きな変化はない。

親（学資負担者）との同居している者の割合（問 2・問 18）

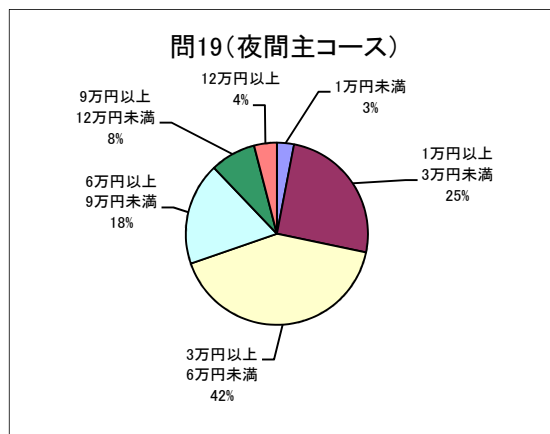
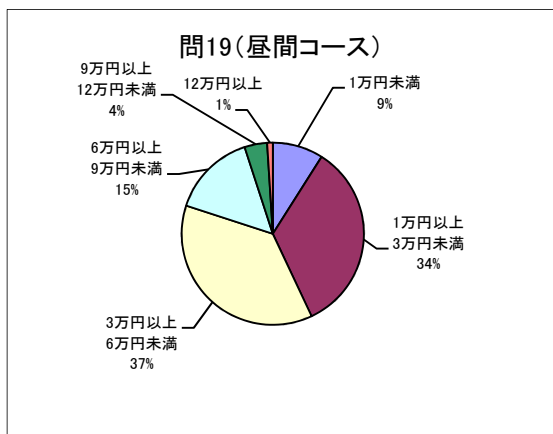
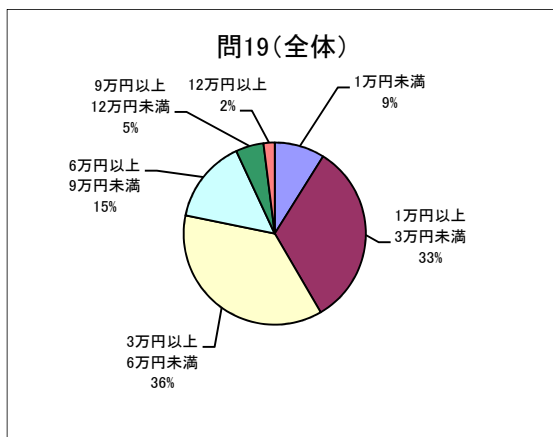
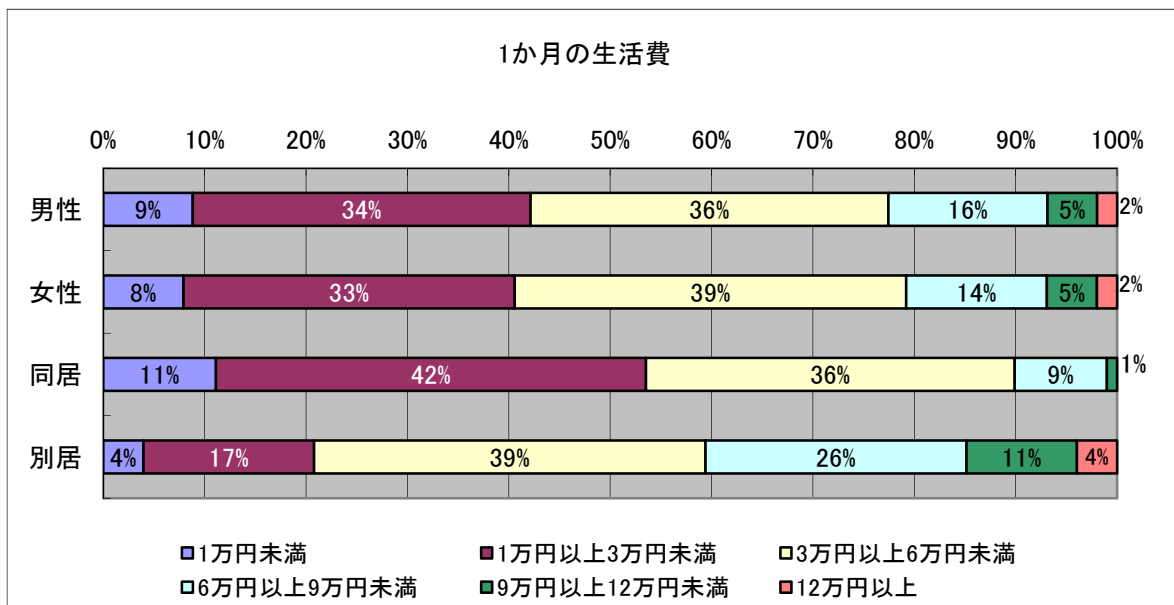
問 18 親（学資負担者）と同居していますか。



(2) 1か月の生活費について、全体では、「1万円未満」が9%、「1万円以上～3万円未満」が33%、「3万円以上～6万円未満」の者が36%である。昼間コースは「1万円未満」が9%、「1万円以上～3万円未満」が34%、「3万円以上～6万円未満」の者が37%である。夜間主コースでは、「1万円未満」が3%、「1万円以上～3万円未満」が25%、「3万円以上～6万円未満」の者が42%であり、昼間コースの学生と比較して、生活費が高い傾向が観察される。男女別では回答に大きな差は見られない。同居、別居別でみると、別居している者の平均生活費が高いことが推測される。

1か月の生活費（問2・問18・問19）

問19 1か月の生活費はどのくらいですか。



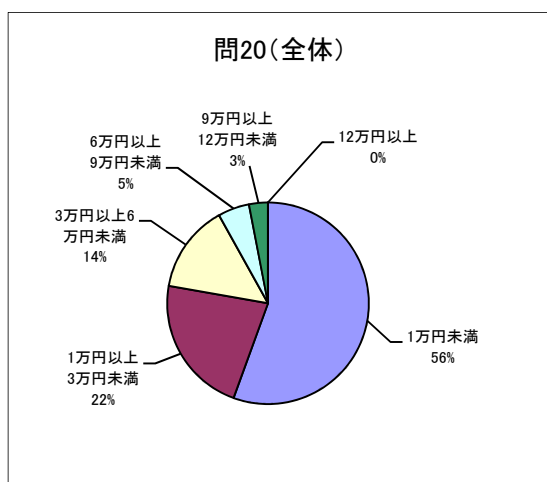
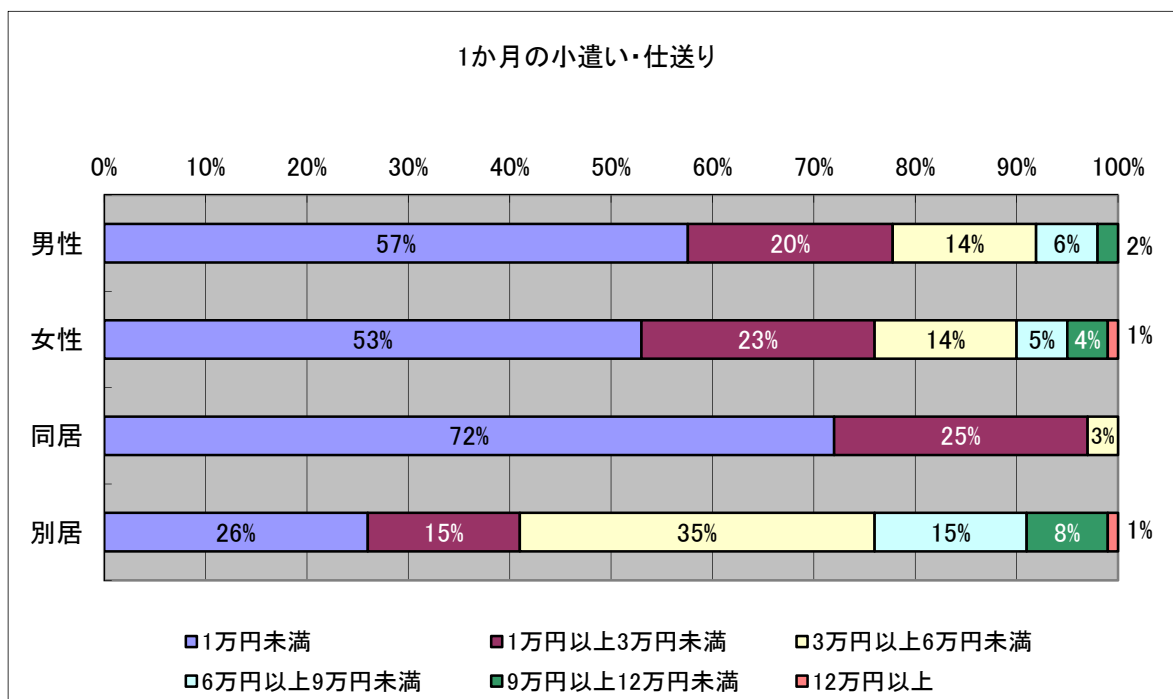
(3) 1か月の小遣い・仕送りについて、全体では、「1万円未満」が56%、「1万円以上～3万円未満」が22%である。コース別にみると、昼間コースでは「1万円未満」が55%、「1万円以上～3万円未満」が22%であり、前回調査、前々回調査と比較すると、「1万円未満」の比率が上昇している。夜間主コースでは「1万円未満」が61%、「1万円以上～3万円未満」が17%であり、前回調査、前々回調査と比較すると、「1万円未満」の比率が上昇している。夜間主コースの学生の小遣い・仕送りの金額の平均は、昼間コースの学生と比較して少ないと推測される。

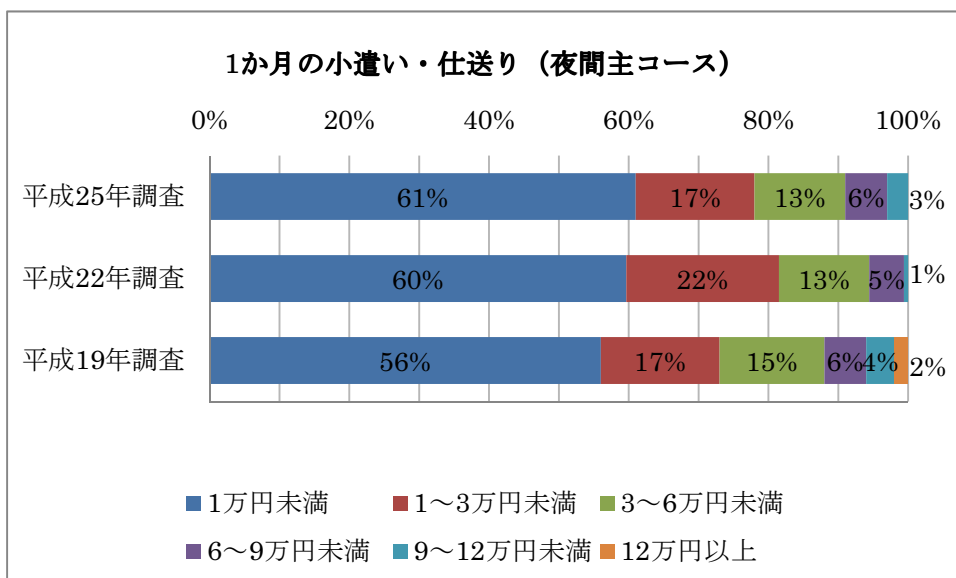
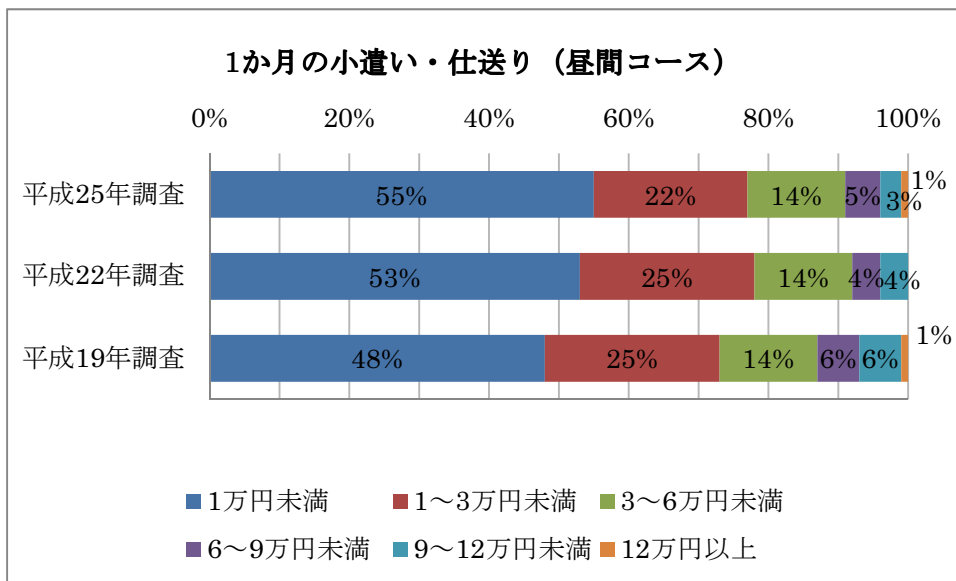
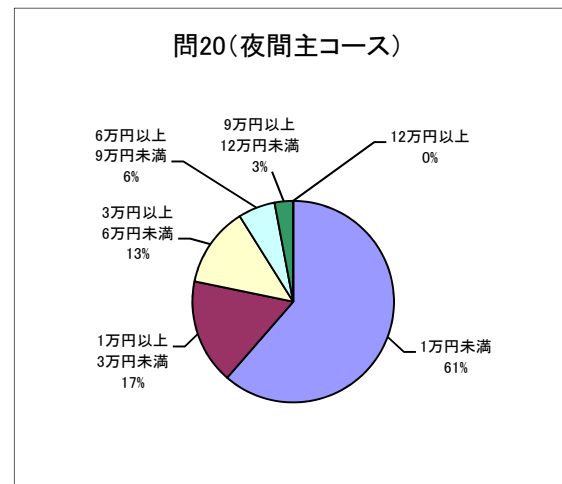
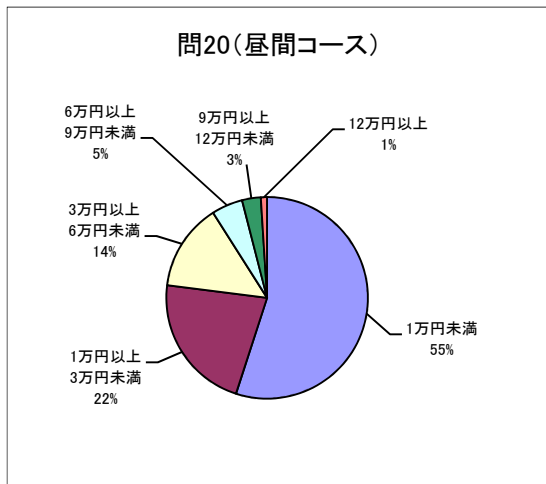
男女別では、全体の結果とほぼ同様であった。

同居、別居別でみると、同居では、「1万円未満」が72%、「1万円以上～3万円未満」が25%である。「3万円以上～6万円」が3%で、これらの項目の合計で、ほぼ100%である。別居では、1万円未満が26%、1万円以上～3万円未満が15%、3万円以上～6万円未満が35%であり、別居している学生のほうが多いと推測される。

1か月の小遣い・仕送り（問2・問18・問20）

問20 1か月に親からもらう額（小遣い・仕送り等）はどのくらいですか。



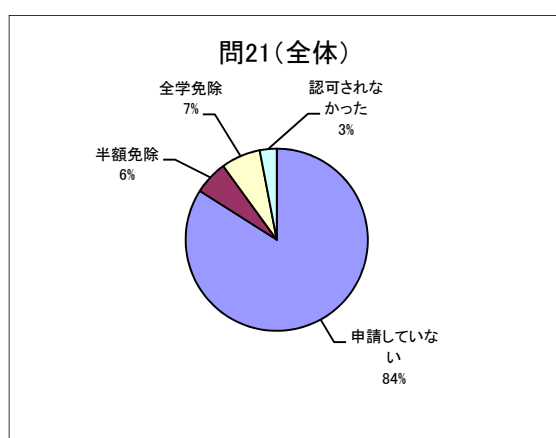
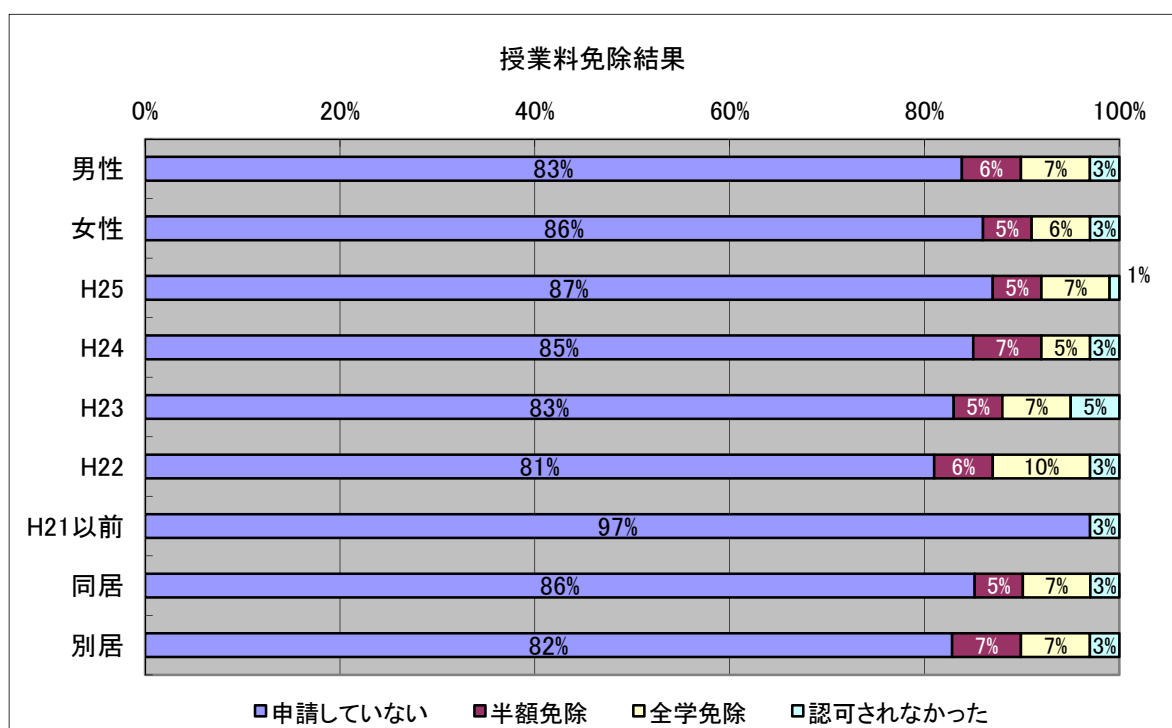


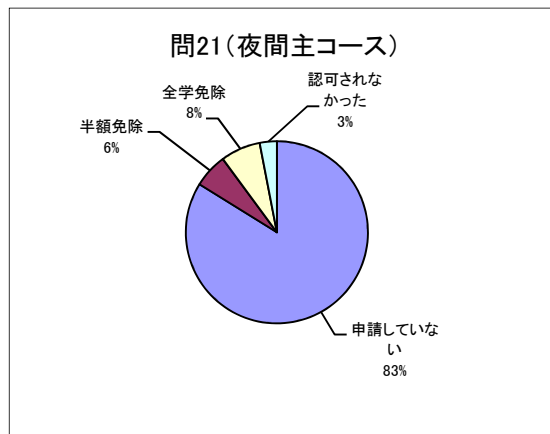
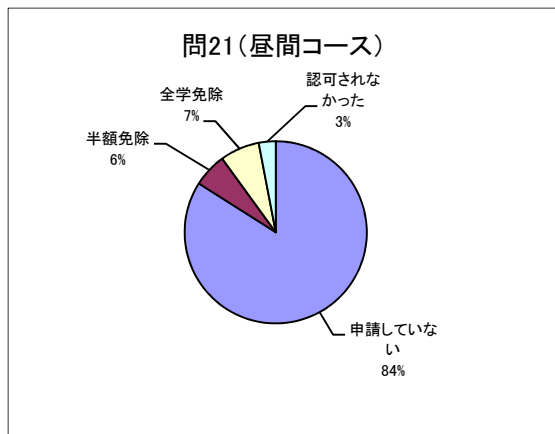
(4) 平成 25 年度前期**授業料免除結果**であるが、全体、昼間コースでは「申請していない」が 84%、「全額免除」が 7%、「半額免除」が 6%、夜間主コースでは「申請していない」が 83%、「全額免除」が 8%、「半額免除」が 6%であった。前回調査と比較して、昼間コース、夜間主コース共に「全額免除」の比率が高くなり、「半額免除の比率」が低くなった。これは授業料免除予算が増額されたためと考えられる。また、昼間コースでは全額免除と半額免除を合計した比率が、前回調査と比較して 1 ポイント増えているが、夜間主コースでは 2 ポイント減少している。夜間主コースでは、申請していないものの割合が、前回調査と比較して 5 ポイント上昇している。

性別、入学年度別、同居、別居別でみると、平成 21 年度以前入学生を除き、全体とほぼ結果が同じであった。調査時点で平成 21 年度入学生は過年度生であるので、原則として授業料免除の対象とならないためと考えられる。

授業料免除結果（問 1・問 2・問 18・問 21）

問 21 平成 25 年度前期授業料免除結果について教えてください。



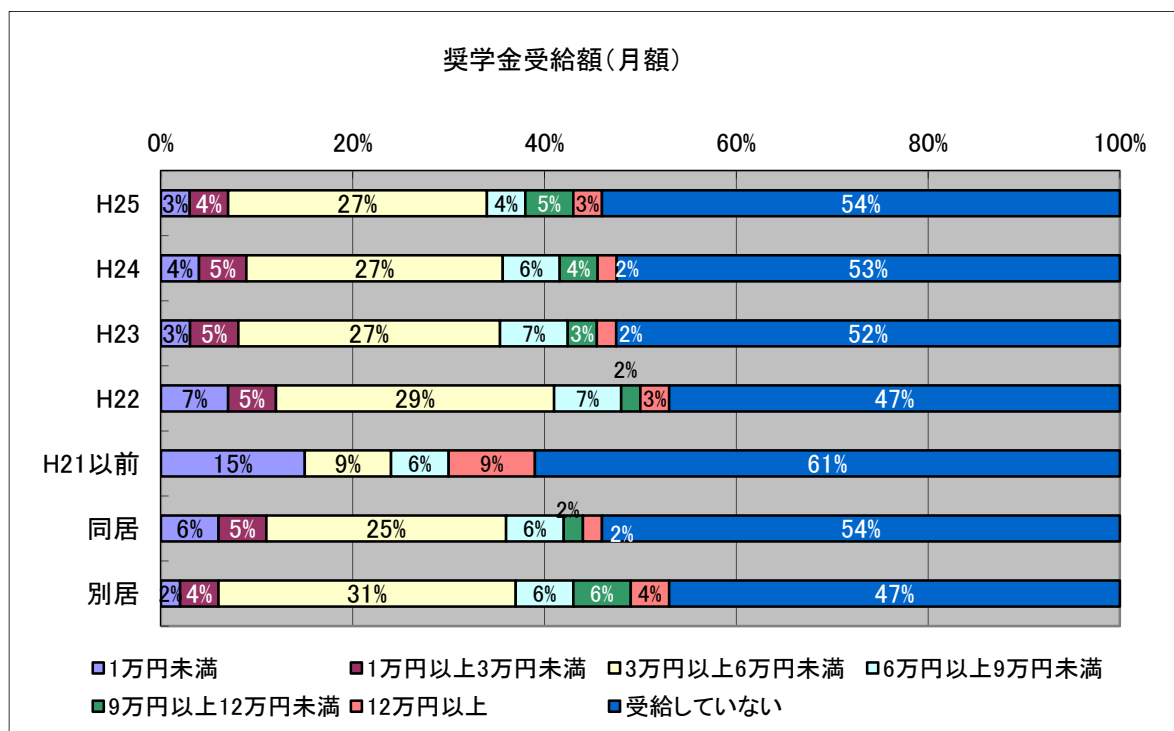


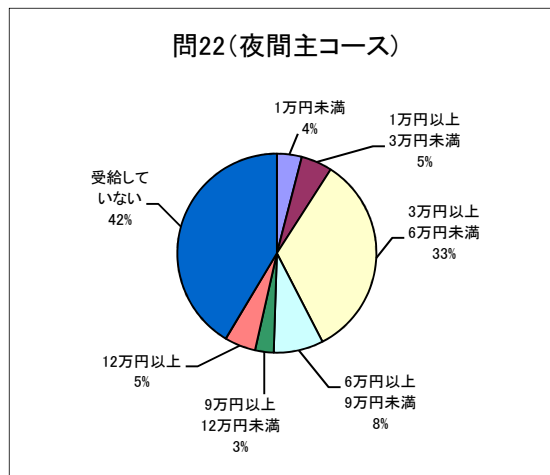
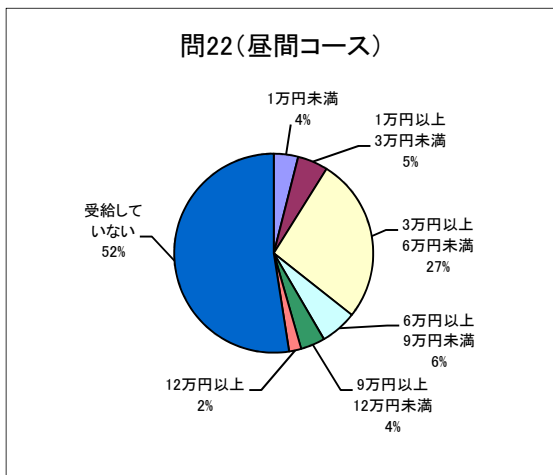
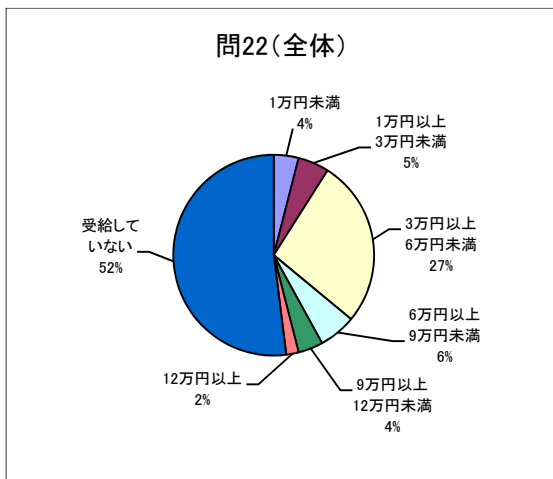
(5) 本年度の**奨学金受給額(月額)**について、昼間コースの「受給していない」者の割合は52%、夜間主コースは42%であり、昼間コースのほうが多い。受給額は、昼間コースで、「3万円以上～6万円未満」が27%、「6万円以上～9万円未満」が6%、夜間主コースで「3万円以上～6万円未満」が33%、「6万円以上～9万円未満」が8%である。昼間コース、夜間主コース共に、受給額の構成比は、前回調査と比較して大きな傾向の変化は見られない。

同居、別居別にみると、「受給していない」ものの比率は、同居のほうが高く、入学年度別にみると、平成21年度以前入学生の「受給していない」ものの比率が、他の年度より高いが、これは、調査時点で平成21年度入学生は過年度生であるので、特別な理由のない限り(4年間の)奨学金受給期間が終了したためと考えられる。

奨学金受給額(月額) (問1問18・問22)

問22 本年度の奨学金受給額(月額)はいくらですか。(日本学生支援機構以外の奨学金を含む)





アルバイト

昼間コース

- ・職種（2つまで回答可）は、「ウェイター、ウェイトレス」が35%、「販売(店員)」が14%
- ・週当たり平均のアルバイト時間は、「15時間以上～20時間未満」が28%
- ・月当たり平均のアルバイト収入額は、「3万円以上～5万円未満」が33%
- ・アルバイトをする主な理由は、「レジャー（旅行含む）娯楽・嗜好費」が42%、「生活費」が30%
- ・学業との関係は、「授業を優先」が39%、「（授業と）重ならなかった」が29%

夜間主コース

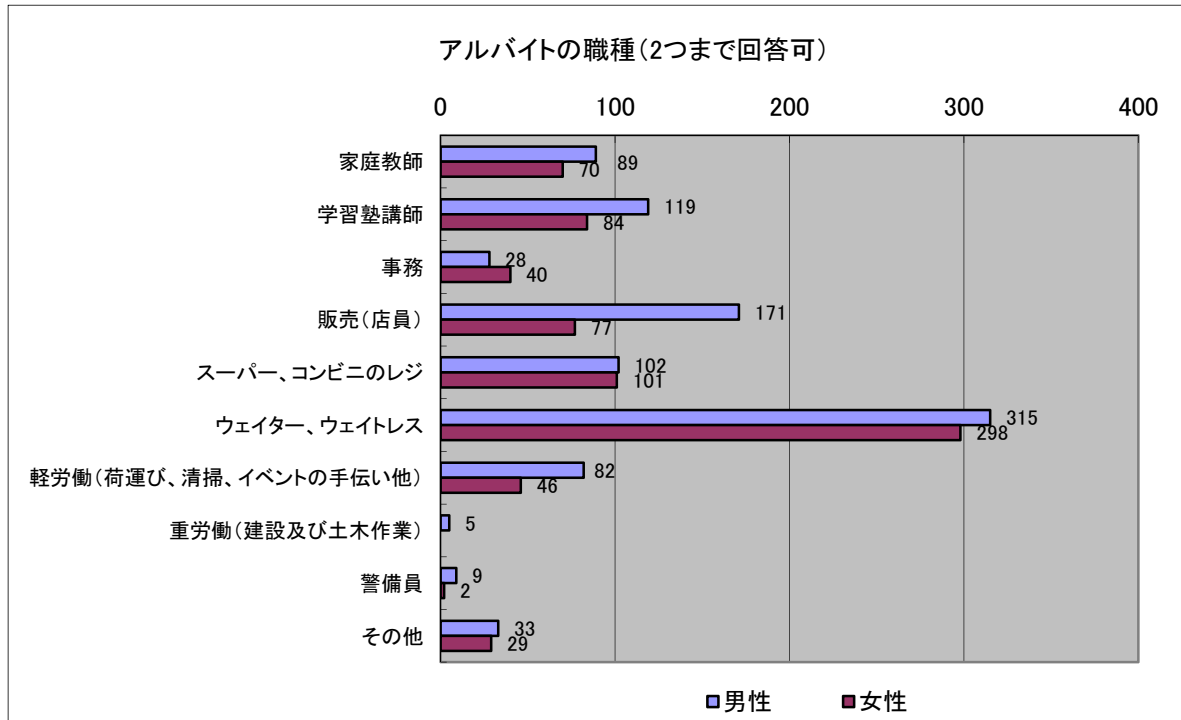
- ・職種（2つまで回答可）は、「ウェイター、ウェイトレス」が42%、「販売(店員)」が19%
- ・週当たり平均のアルバイトの時間は、「20時間以上」が36%
- ・月当たり平均のアルバイト収入額は、「5万円以上～7万円未満」が38%
- ・アルバイトをする主な理由は、「生活費」が41%、「レジャー（旅行含む）娯楽・嗜好費」が28%
- ・学業との関係は、「授業を優先」が33%、「（授業と）重ならなかった」が23%

(6) **アルバイトの職種**について、全体では、「ウェイター、ウェイトレス」が36%、「販売(店員)」が14%、「スーパー・コンビニのレジ」、「学習塾講師」がいずれも12%である。昼間コースでは、「ウェイター、ウェイトレス」が35%、「販売(店員)」が14%、夜間主コースでは、「ウェイター、ウェイトレス」が42%、

「販売（店員）」が19%である。「家庭教師」と「学習塾講師」を合わせた比率は、昼間コースで23%、夜間主コースでは8%であり、いわゆる教育関係のアルバイトは、昼間コースの学生のほうが15ポイント高い。男女別では、女性の「ウエイテレス」の回答比率が男性より7ポイント高く、「販売（店員）」の比率が8ポイント低い。

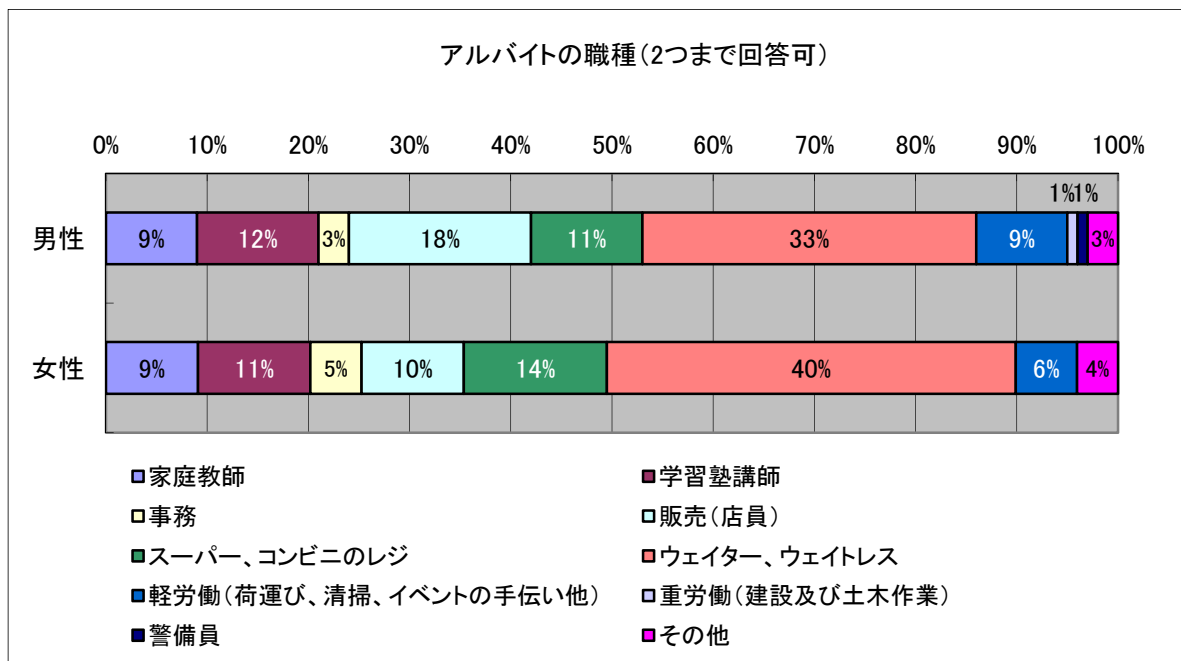
アルバイトの職種（問2・問23）

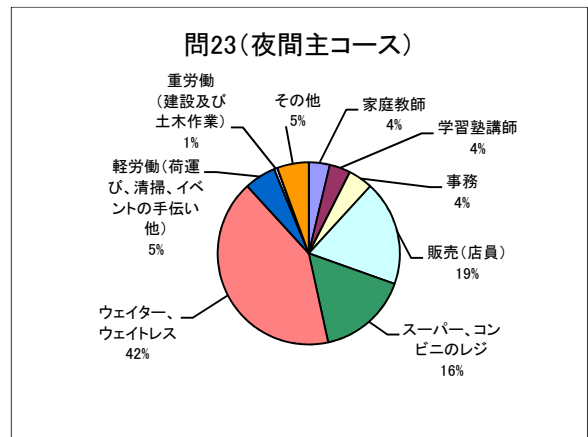
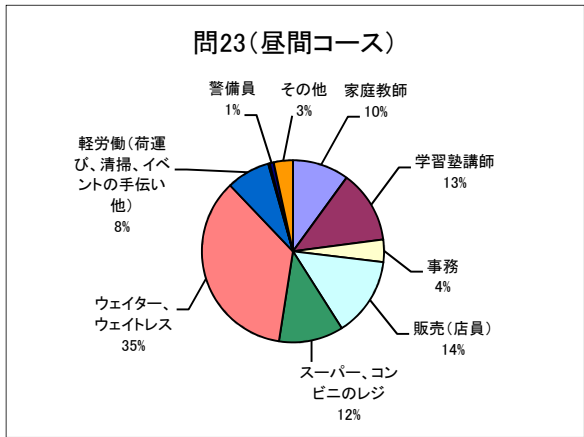
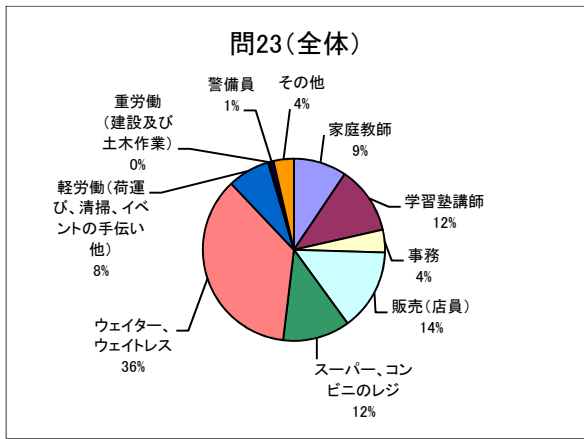
問23 アルバイトの職種は何ですか。（2つまで回答可）



アルバイトの職種（問2・問23）

問23 アルバイトの職種は何ですか。（2つまで回答可）





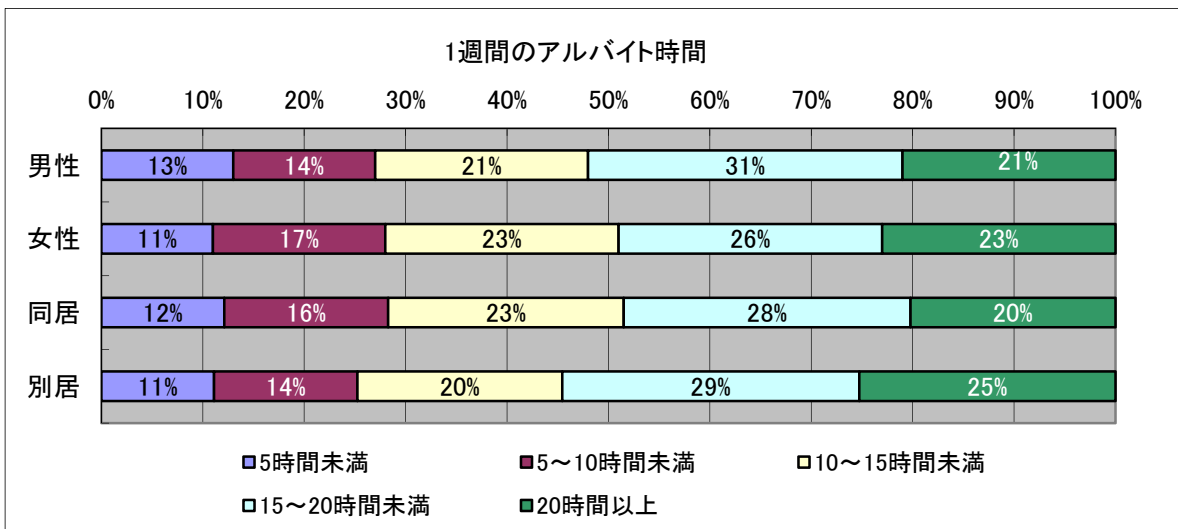
(7) 1週間のアルバイト時間について、全体では「15時間以上～20時間未満」が29%、「10時間以上～15時間未満」と「20時間以上」が22%である。

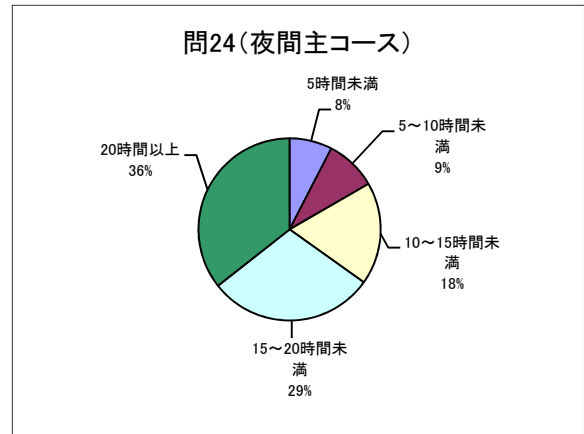
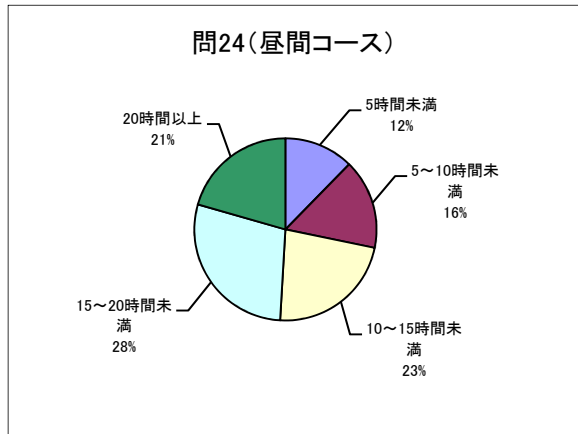
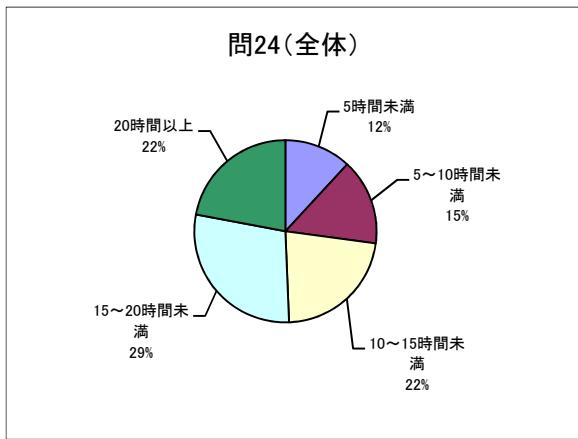
昼間コースでは、「15時間以上～20時間未満」が28%、「10時間以上～15時間未満」が23%である。夜間主コースでは、「20時間以上」で36%、「15時間以上～20時間未満」で29%であり、夜間主コースの学生のほうが昼間コースの学生と比較して、平均アルバイト時間が高いことが推測される。

性別、同居、別居別で見ると、いずれも、全体の結果とほぼ同様である。

1週間のアルバイト時間 (問2・問18・問24)

問24 アルバイトに費やす時間は1週間に平均してどのくらいですか。(大学の休業期間中を除く)

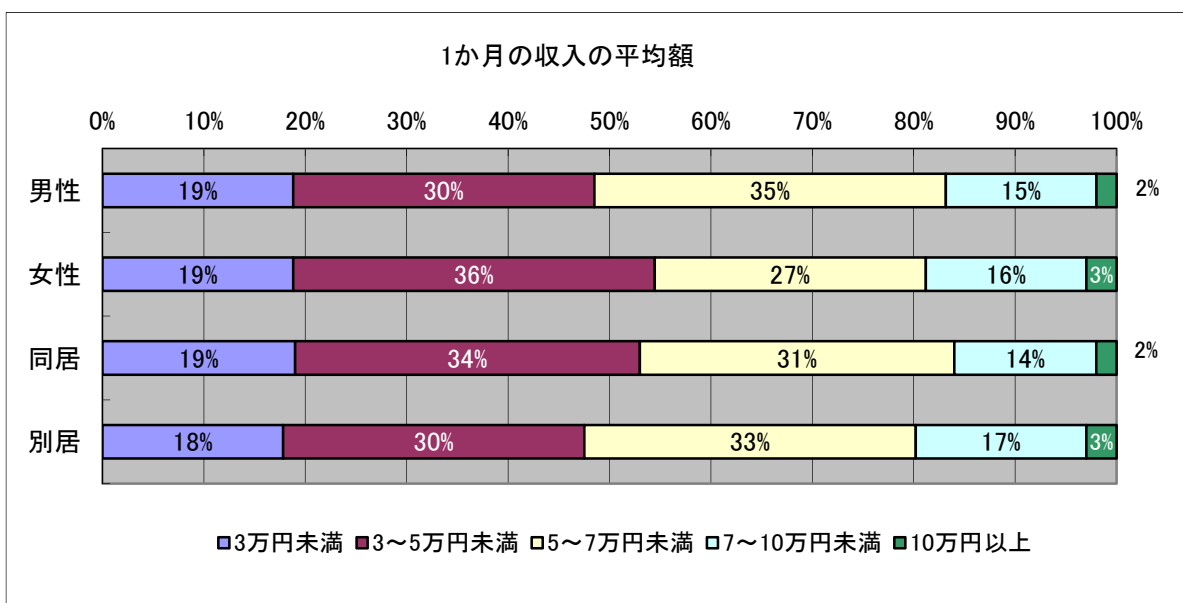


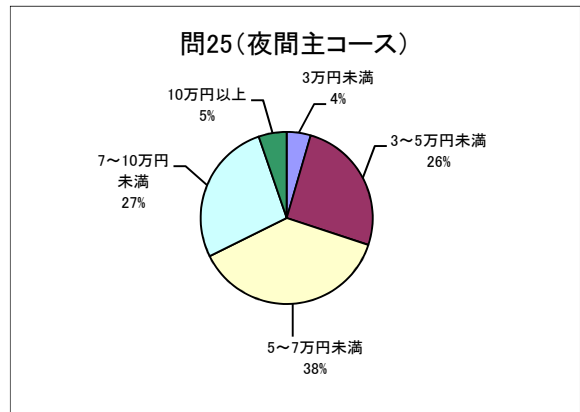
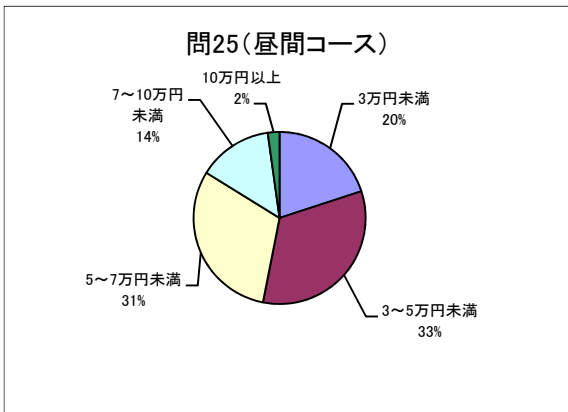
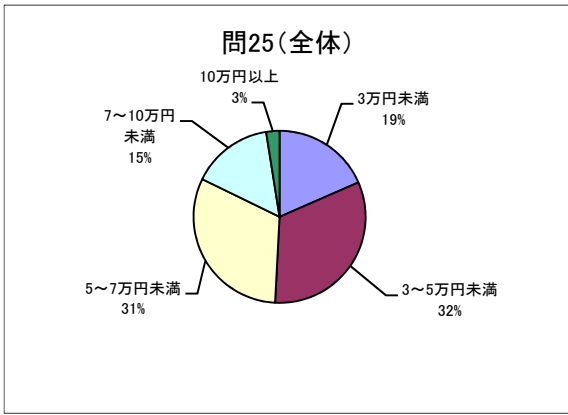


(8) 1か月の収入の平均額は、全体で「3万円以上～5万円未満」が32%、「5万円以上～7万円未満」が31%である。昼間コースでは「3万円以上～5万円未満」が33%、「5万円以上～7万円未満」が31%であるのに対して、夜間主コースでは、「5万円以上～7万円未満」が38%、「7万円以上～10万円未満」が27%であり、「10万円以上」は5%であった。夜間主コースの学生の収入の平均額が昼間コースの収入の平均額より高いと推測される。

1か月の収入の平均額 (問2・問18・問25)

問25 アルバイト収入の平均額は1ヶ月にいくらくらいですか。(大学の休業期間中を除く)

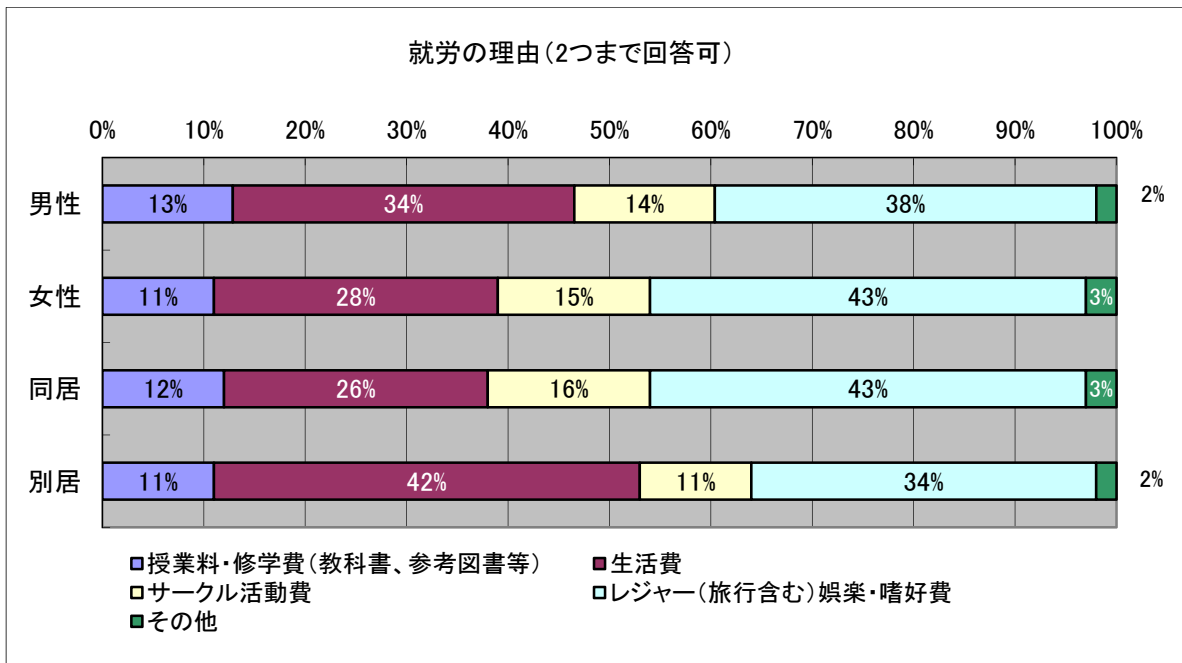


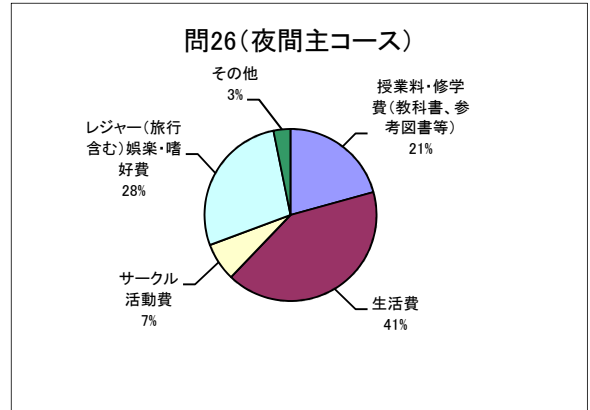
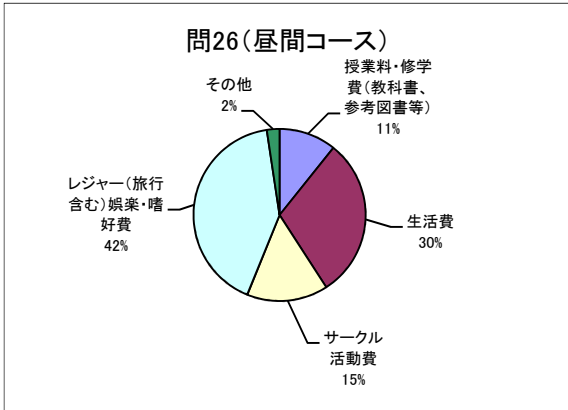
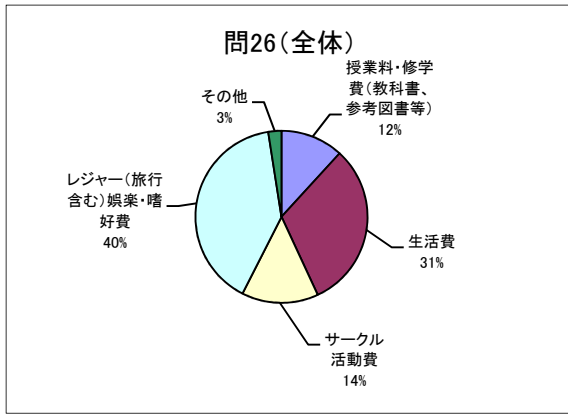


(9) 就労の理由は、全体で「レジャー（旅行含む）娯楽・嗜好費」が40%、「生活費」が31%、昼間コースでは、「レジャー（旅行含む）娯楽・嗜好費」が42%、「生活費」が30%、夜間主コースでは「生活費」が41%、「レジャー（旅行含む）娯楽・嗜好費」が28%である。昼間コースの1位がいわゆる娯楽であるのに対して、夜間主コースの1位は「生活費」である。

就労の理由（問2・問18・問26）

問26 アルバイトをする主な理由は何ですか。（2つまで回答可）

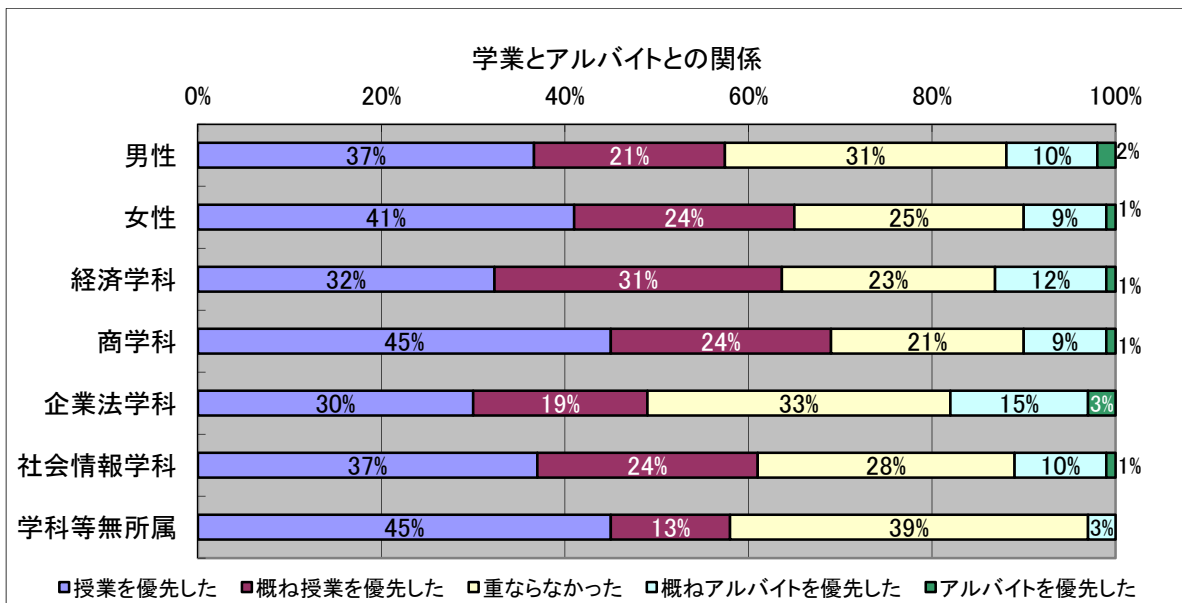




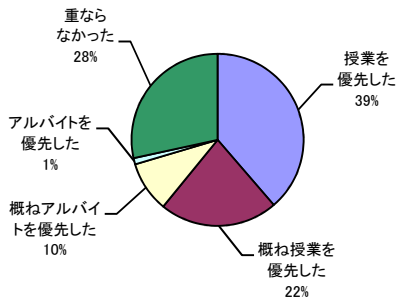
(10) **学業とアルバイトとの関係**では、昼間コースでは、「授業を優先した」が39%、「重ならなかった」が29%、「概ね授業を優先した」が21%で、これらの合計は89%であり、前回調査と比較して、合計が4ポイント増加している。夜間主コースでは「概ね授業を優先した」が34%、「授業を優先した」が33%、「重ならなかった」が23%で、これらの合計は90%であり、前回調査と比較して16ポイント増加している。いずれのコースも授業を優先する傾向が強いことがうかがえる。

学業とアルバイトとの関係 (問2・問4・問27)

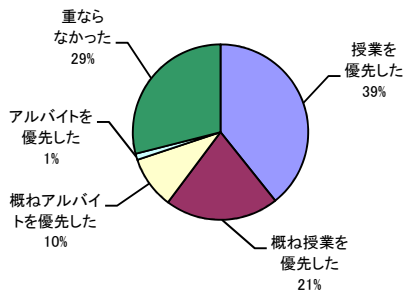
問27 アルバイトと授業が重なった場合どう対応しましたか。



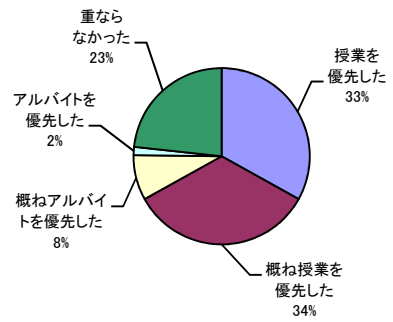
問27(全体)



問27(昼間コース)



問27(夜間主コース)



6 学習状況について

本調査項目は新規に設けられたものであり、前回までの調査と比較して新たな特徴を探り出すということとはできないが、以下、重要と思われる点を指摘しておく。

1週間のうち大学に来る日数については、4年生になると格段に減っているが、それでも4年生（平成22年度入学生）の4割ほどの学生は週に3～4日以上通学している。

A L教室を用いた授業（A L授業）は始まったばかりなので、この授業を未経験の者が全体の40%ほど存在する。

予習復習時間について、A L授業とそれ以外の授業を比べてみると、まだ大きな差は見られない（例えば1日平均「30分未満」：A L授業64%[A L授業経験者のうち]、一般的教室授業63%、1日平均「30分～1時間未満」：A L授業23%[A L授業経験者のうち]、一般的教室授業25%など）。

ゼミの予習復習時間については、1日平均1時間以上行う者の比率が、一般的教室授業と比べて目立って高い（ゼミ38%、一般的教室授業12%）。

自習場所については、ゼミ室等より自宅（46%）と本学図書館（31%）が主となっている。

空き時間は、様々な場所で過ごしていることが分かるが、3～4年次になるとゼミ室利用が目立ってくる。

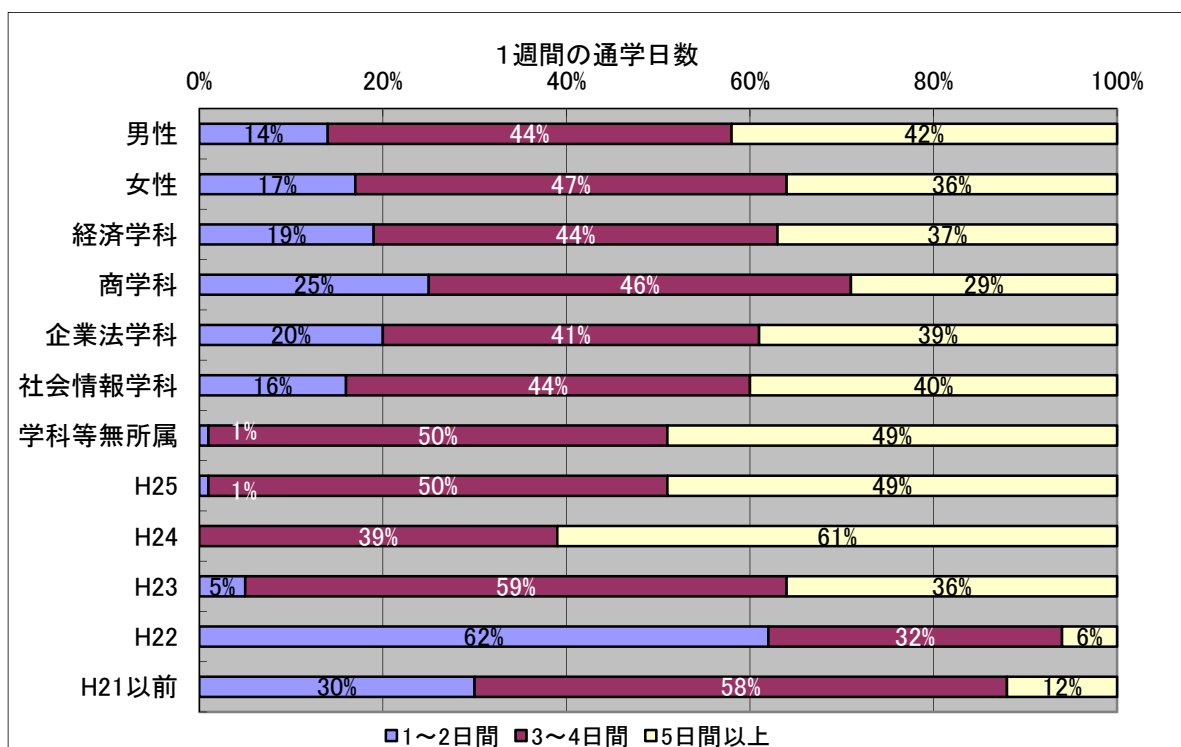
A L授業と一般的教室授業における授業集中度については大きな差は見られないが、「知識獲得量」についてはA L授業の方が勝っている。また自学自習意欲の強さについてもA L授業の方がかなり高い。

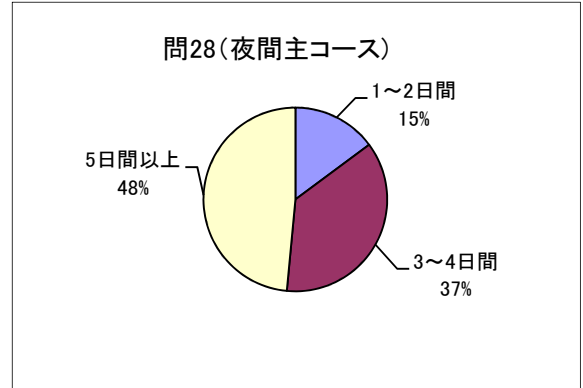
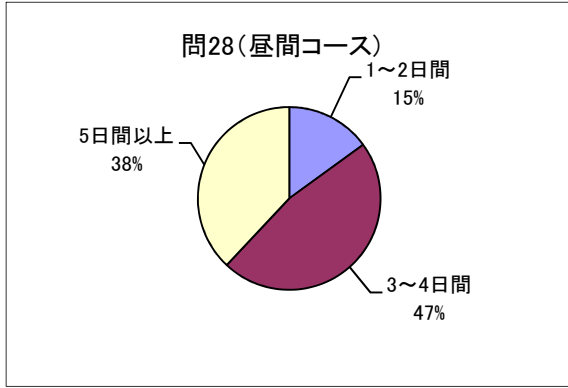
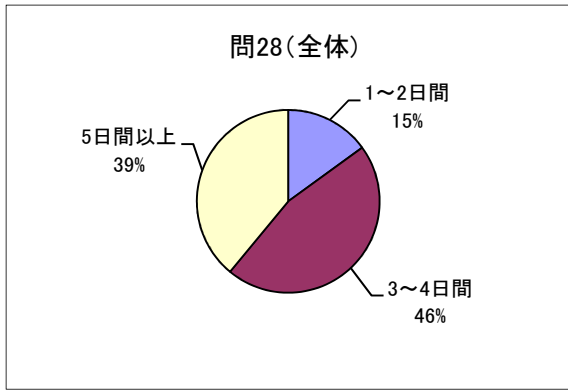
I C Tを備えたA L教室の今後の拡大に対しては、70%近くの学生が肯定的に受け止めている。また、そのような教室を「自習や勉強会」にも利用したいとする回答も25%あった。

現行のカリキュラムにほぼ満足している学生は全体では60%を越え、また、現行カリキュラムをほぼ消化できていると回答した者は全体では80%近くに達している。ただし、平成24年度入学生（2年生）に限って見れば、満足度・消化度ともに他学年より目立って低い。要因は分からないが、学科に所属した最初の年であること、調査時期がゼミの選択と決定の直前であったこと等が影響している可能性も考えられる。

(1) 1週間の通学日数（問2・問4・問28）

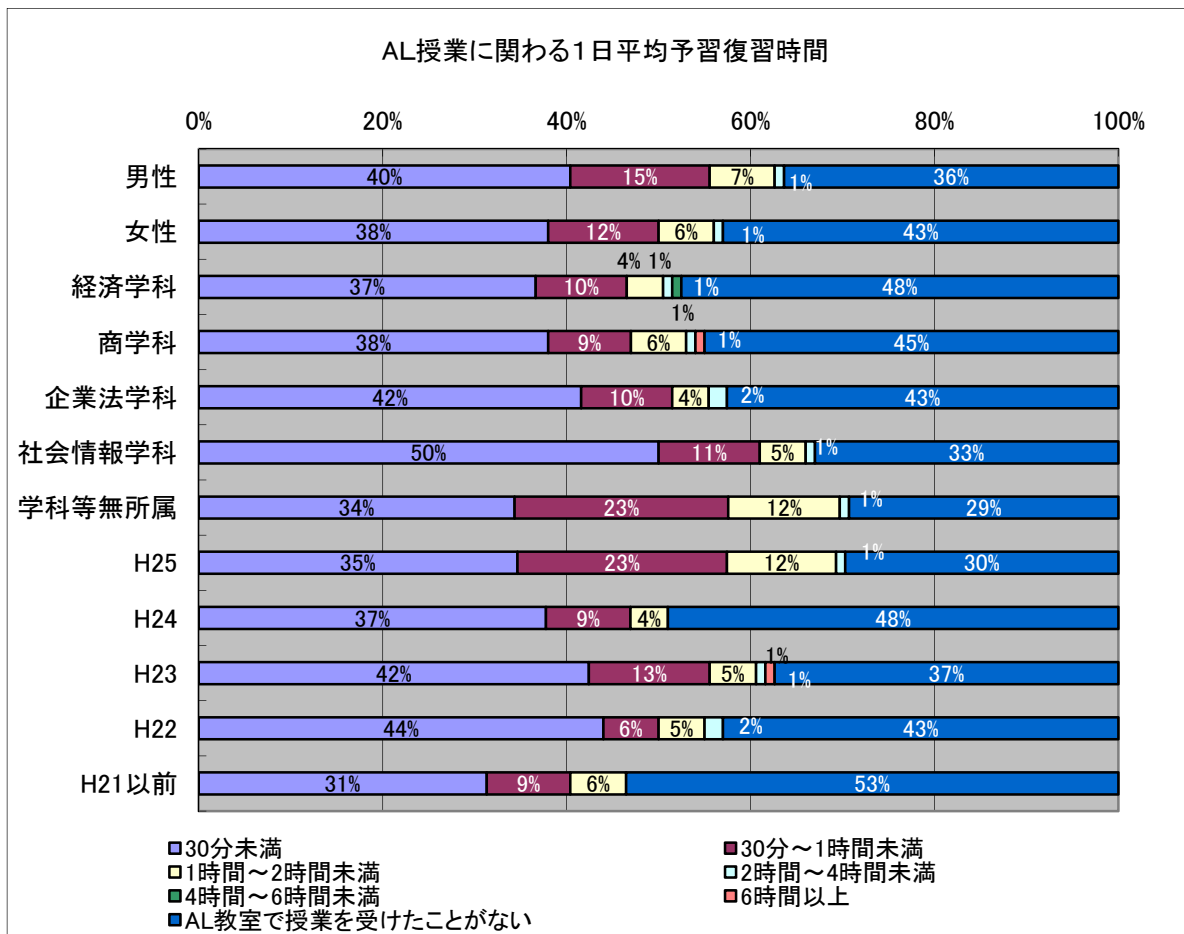
問28 1週間のうち、何日間、大学に来ていますか。

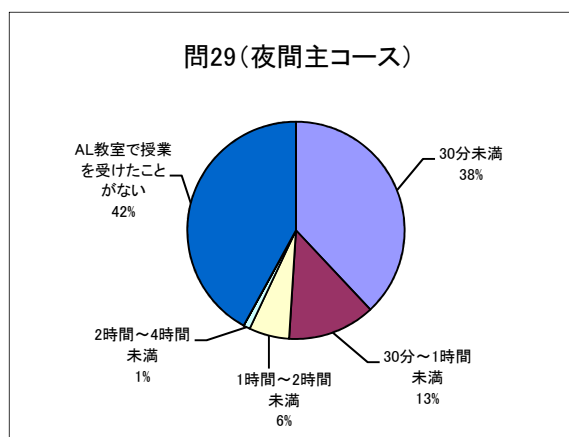
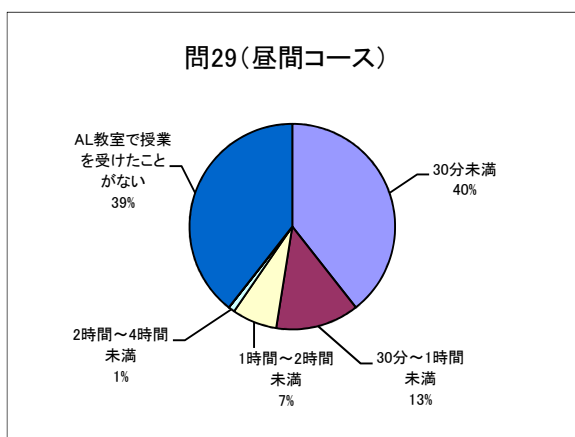
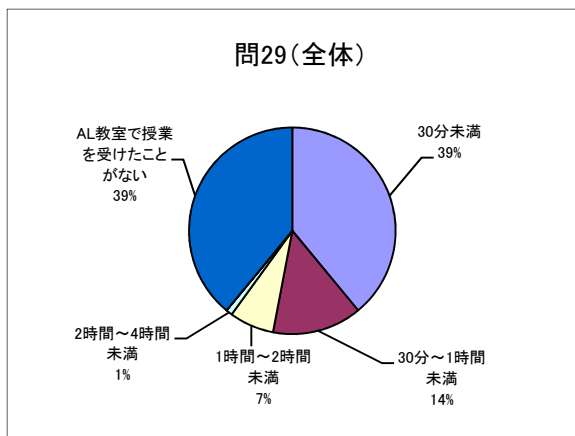




(2) AL授業に関わる1日平均予習復習時間 (問1・問2・問4・問29)

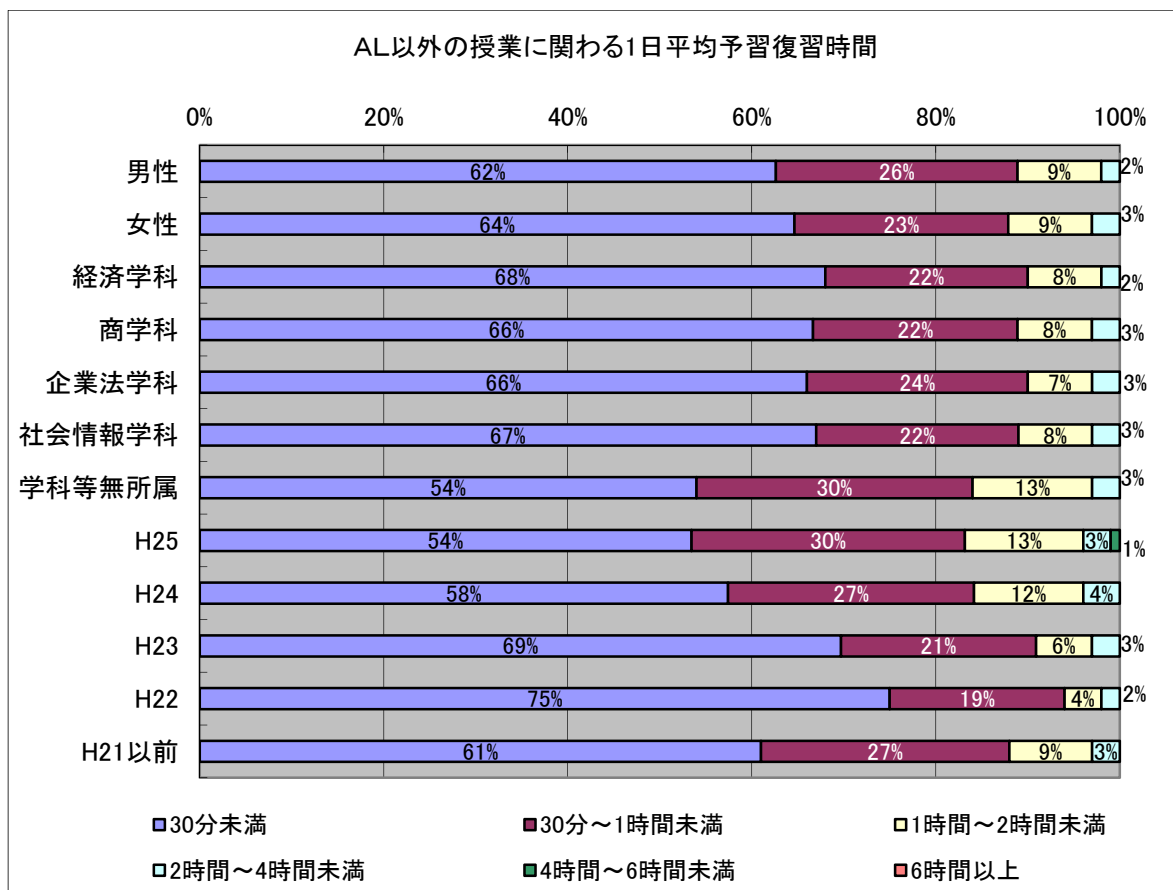
問29 アクティブラーニング (AL) 教室での講義に関わる1日平均予習復習時間はどのくらいですか。

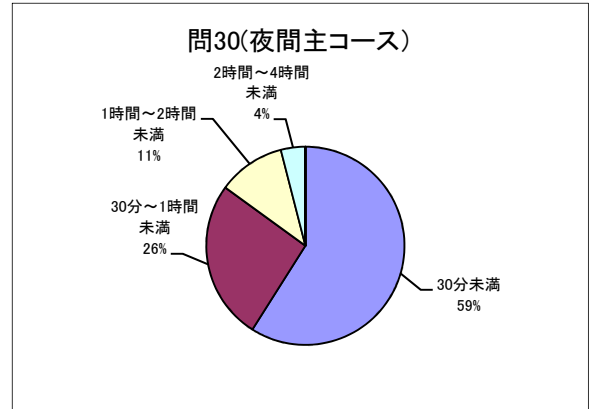
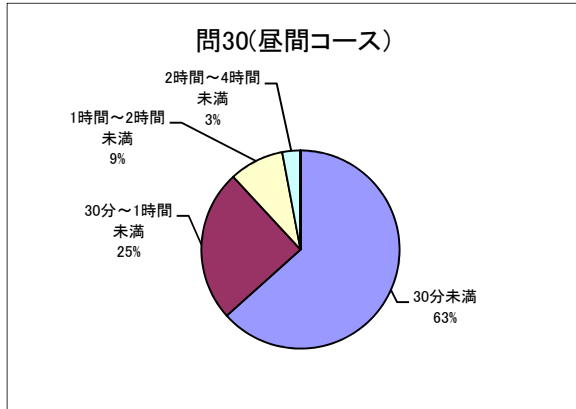
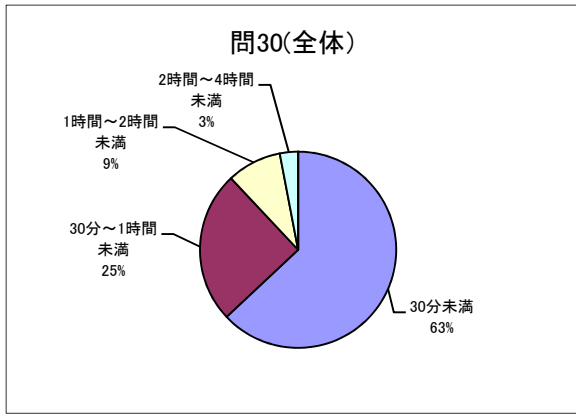




(3) AL以外の授業に関わる1日平均予習復習時間(問1・問2・問4・問30)

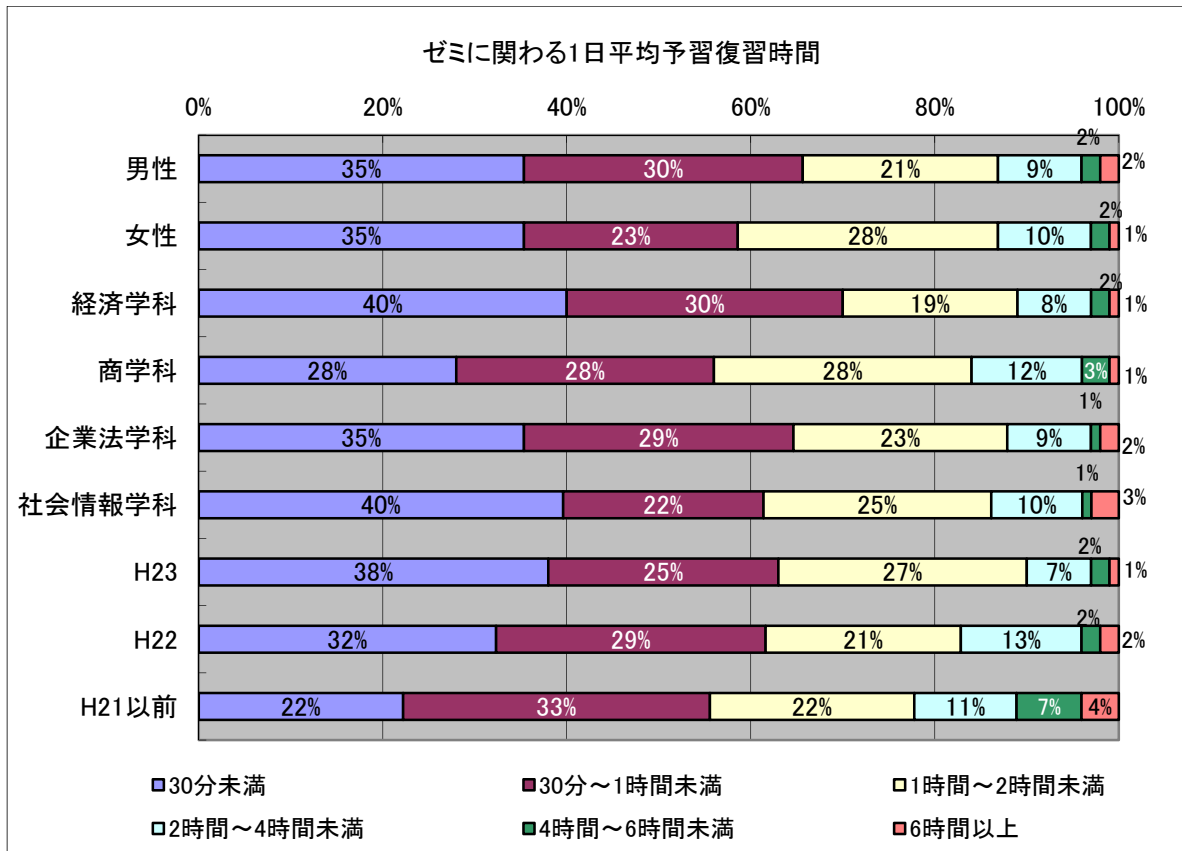
問30 一般的な教室で行われる講義に関わる1日平均予習復習時間はどのくらいですか。

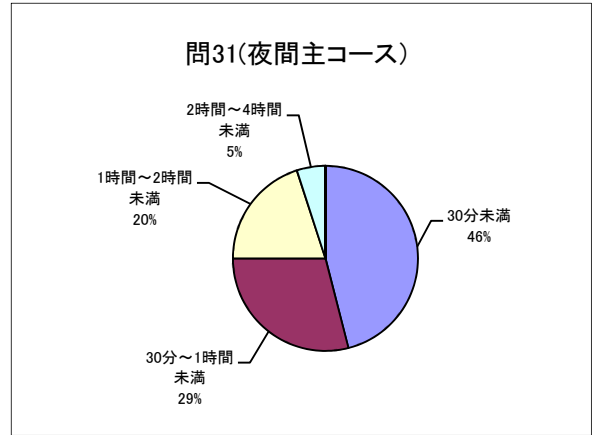
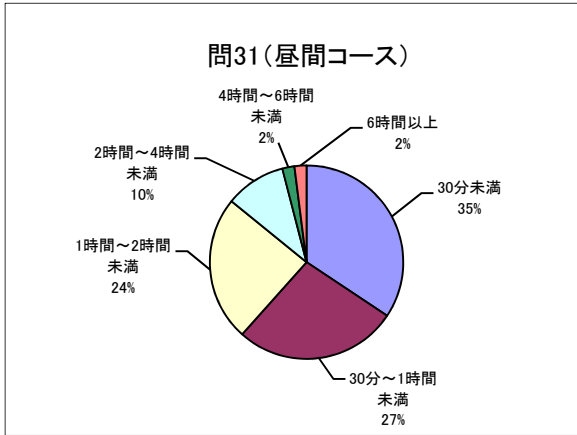
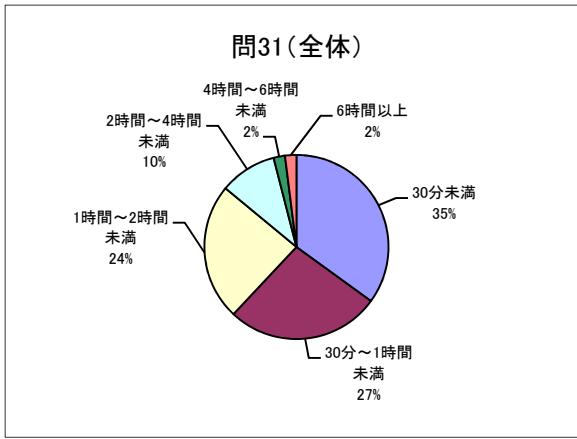




(4) ゼミに関わる1日平均予習復習時間 (問1・問2・問4・問31)

問31 ゼミに関わる1日平均予習復習時間(卒論研究も含む)はどのくらいですか。

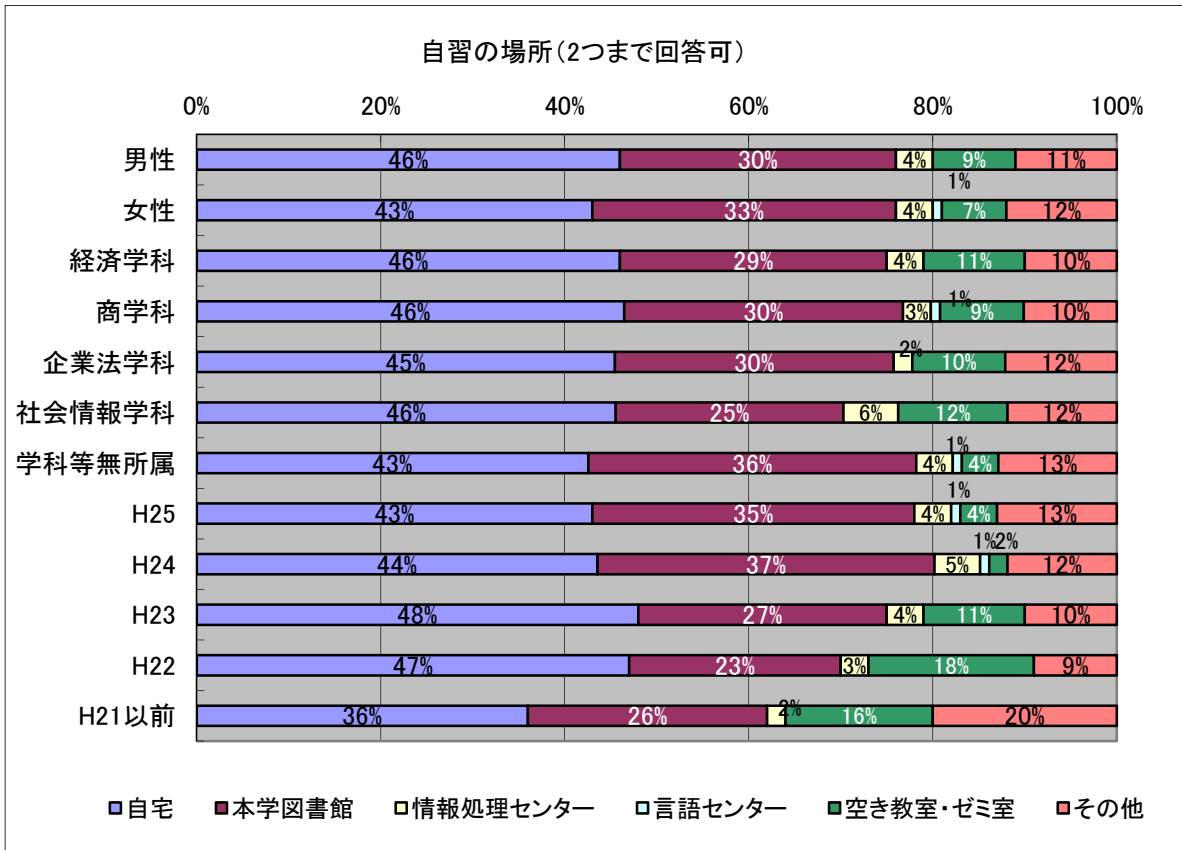


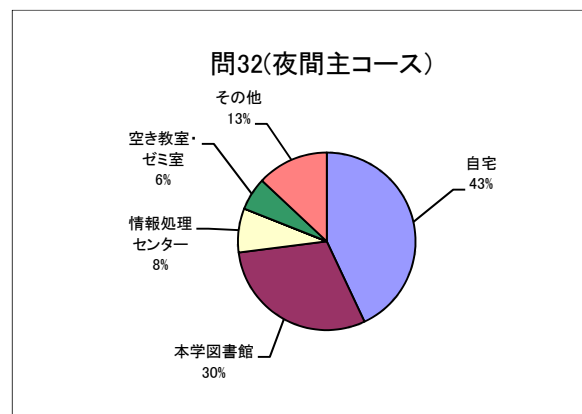
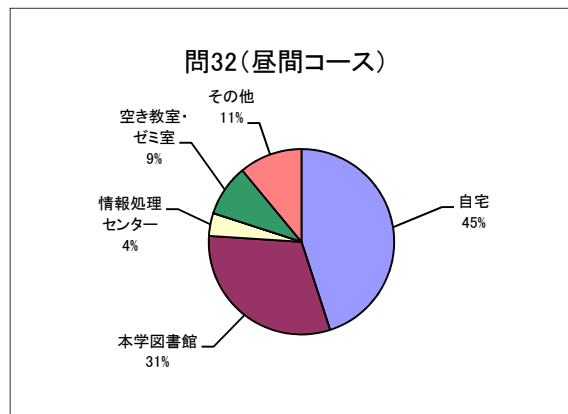
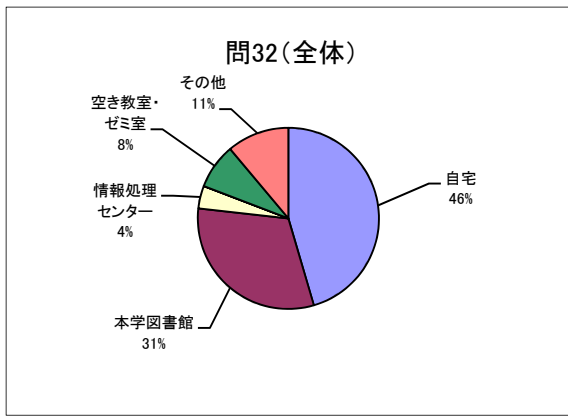


(5) 自習の場所 (問1・問2・問4・問32)

問32 自習の場所はどこですか。(2つまで回答可)

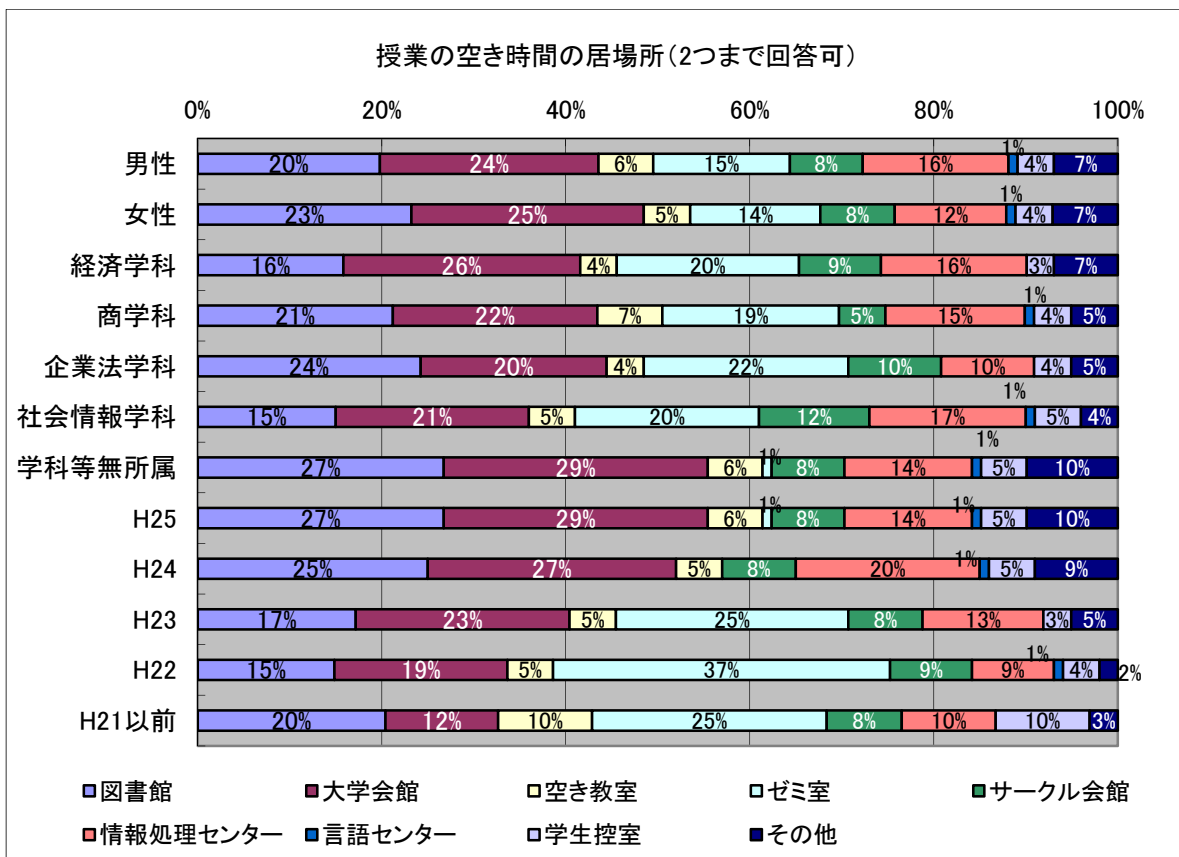
※選択肢は10設けたが、回答が少なかった一部を「その他」に集約した。

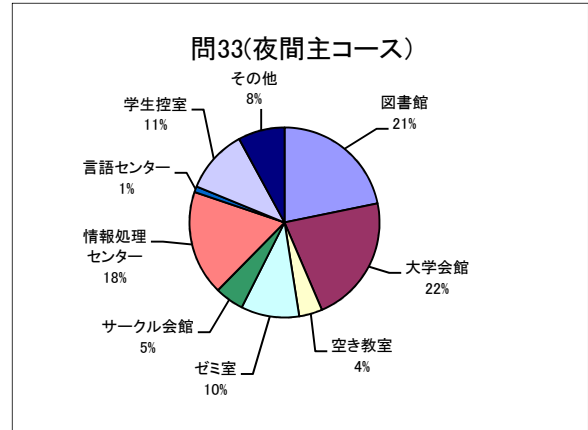
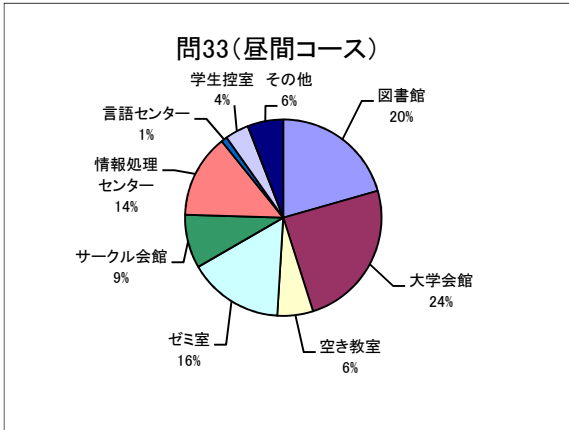
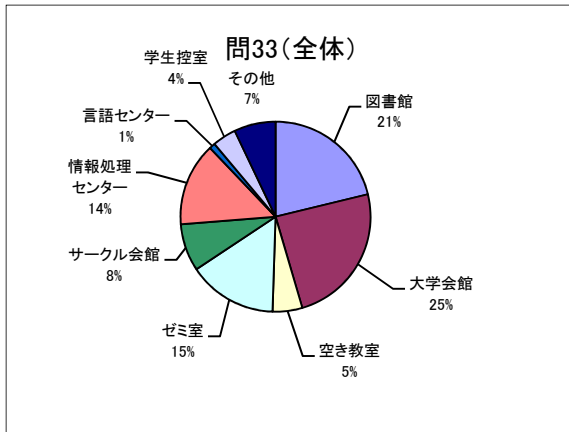




(6) 授業の空き時間の居場所 (問1・問2・問4・問33)

問33 授業の空き時間は主に何処で過ごしていますか。(2つまで回答可)

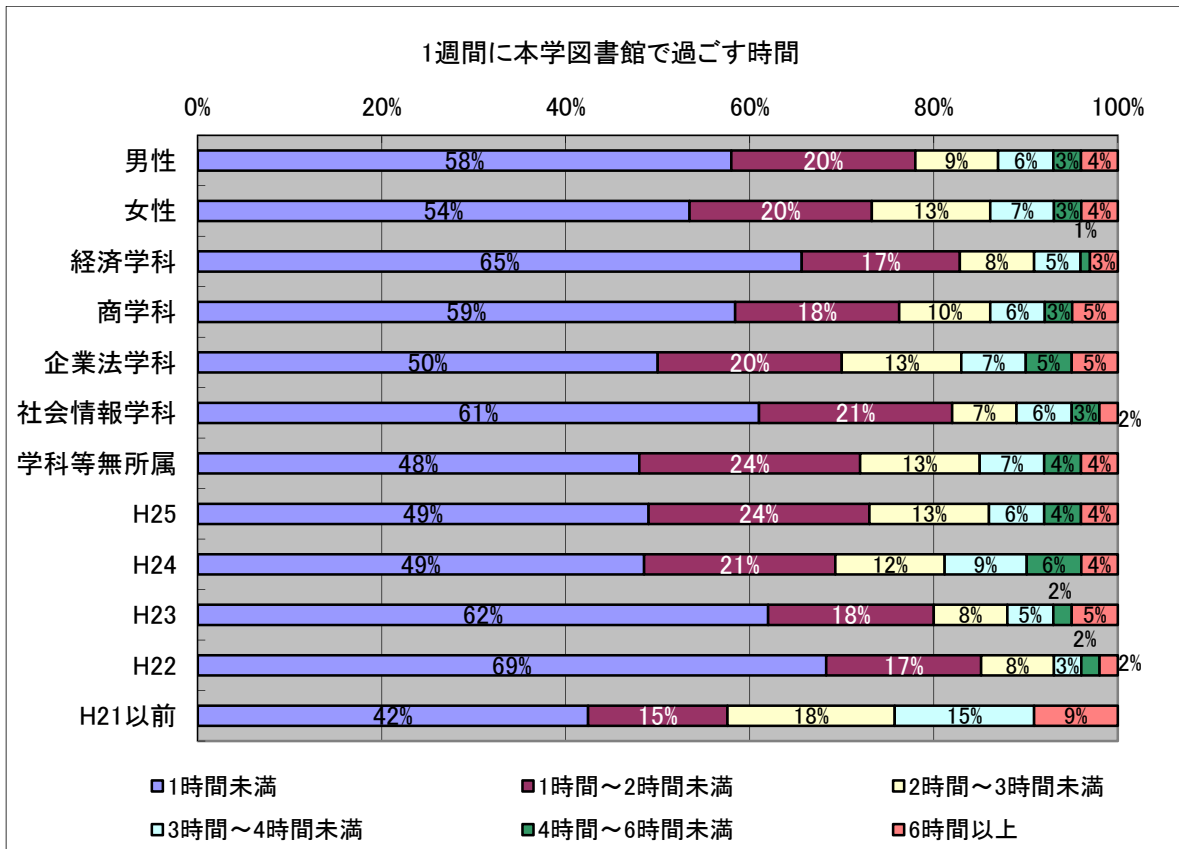


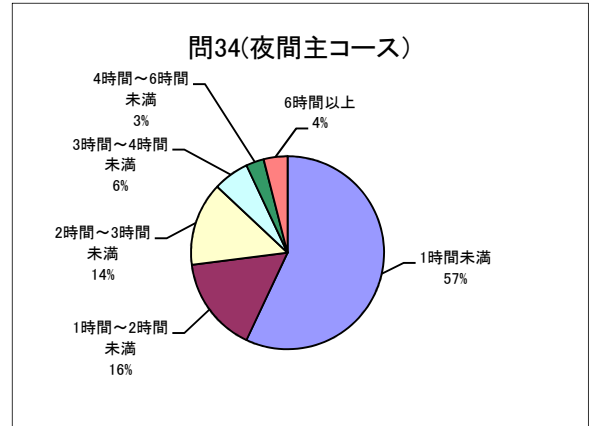
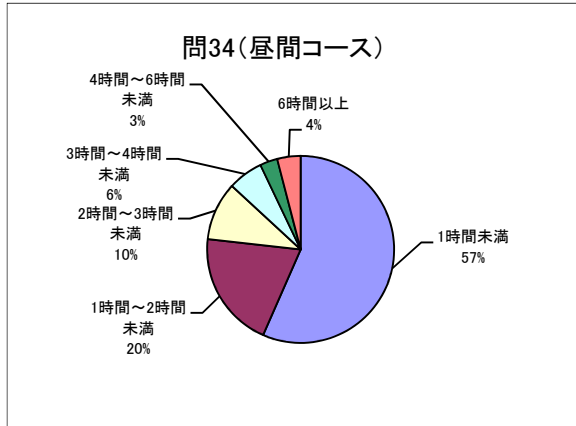
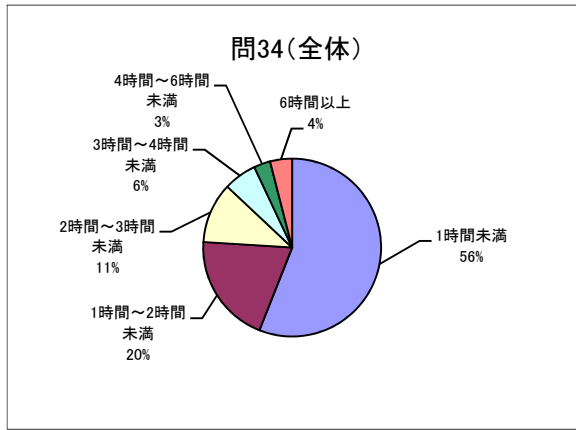


(7) 1週間に本学図書館で過ごす時間 (問1・問2・問4・問34)

問34 1週間のうち、本学図書館で過ごす時間はどのくらいですか。

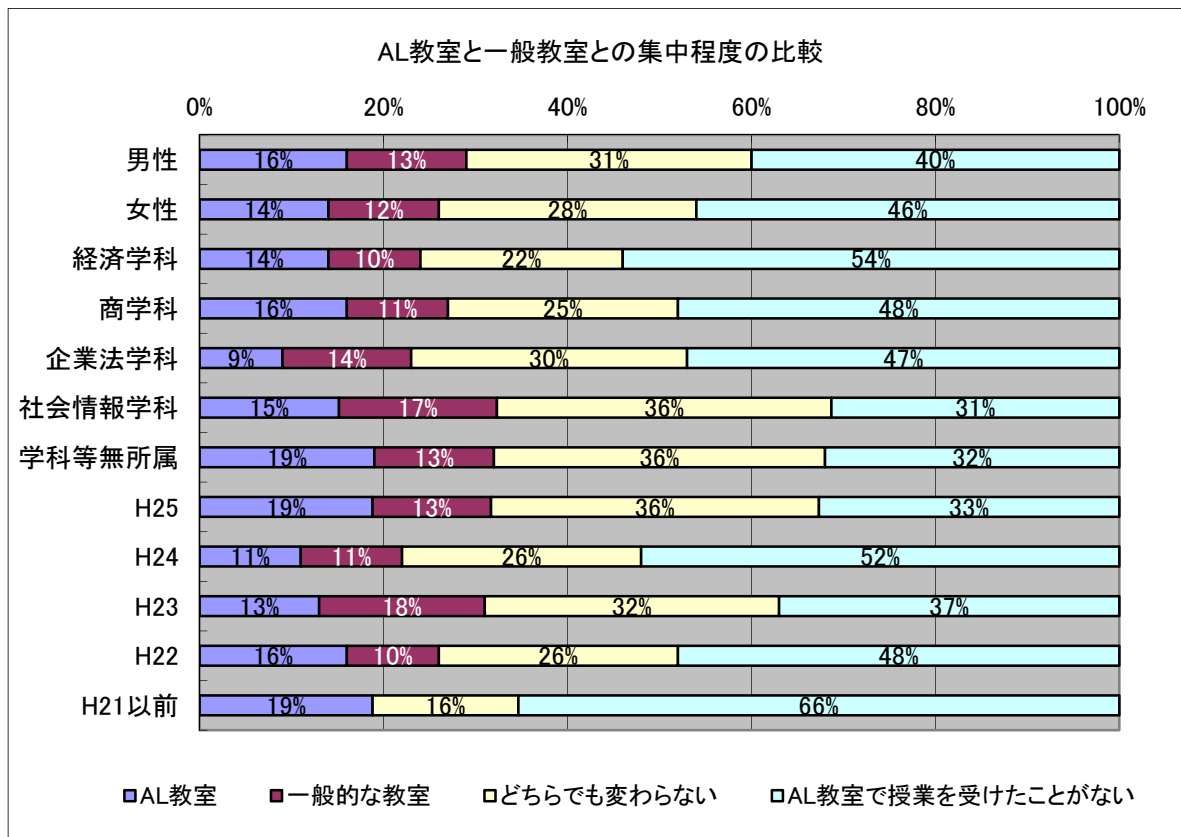
※選択肢は8つ設けたが、回答が少ないものがあつたため、6つに集約した。

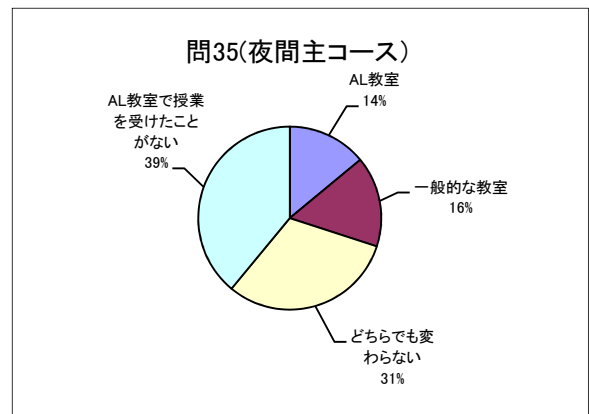
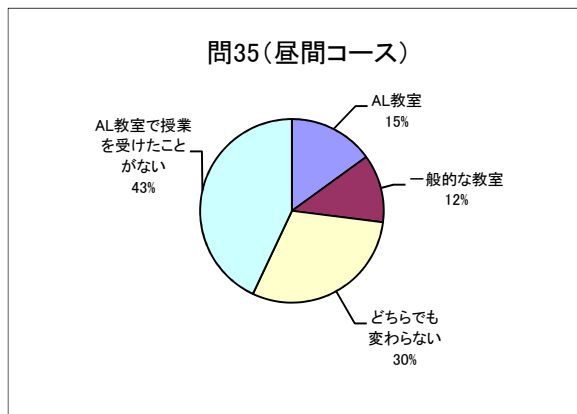
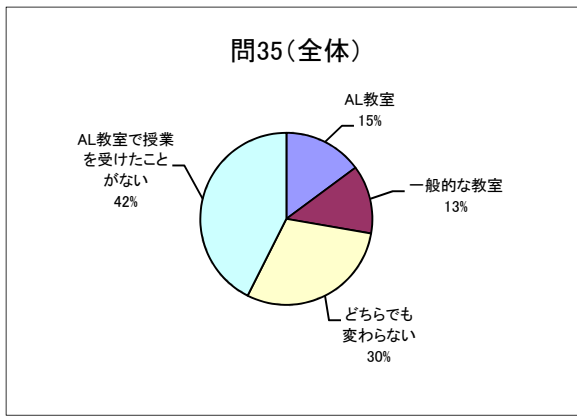




(8) AL教室と一般教室との集中程度の比較 (問1・問2・問4・問35)

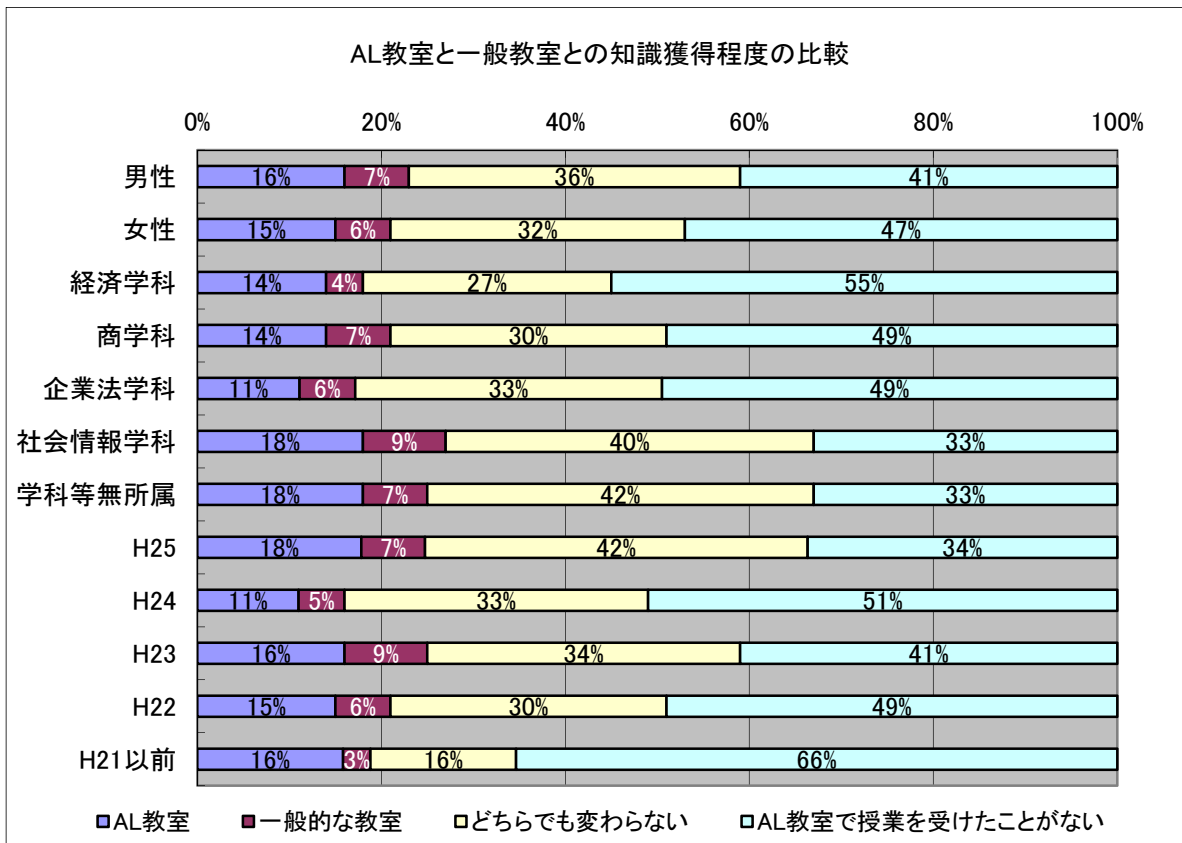
問35 アクティブラーニング(AL)教室と一般的な教室とを比較して、どちらの教室の方が集中しやすいですか。

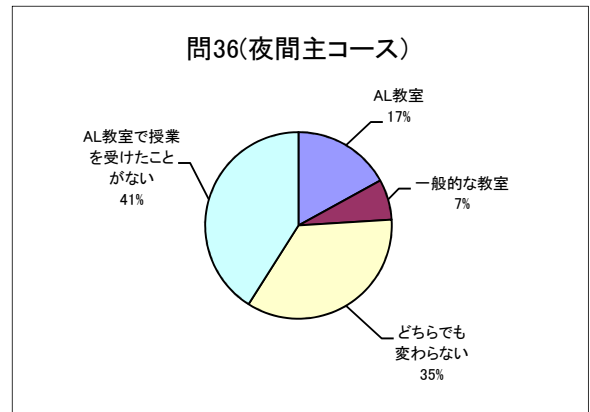
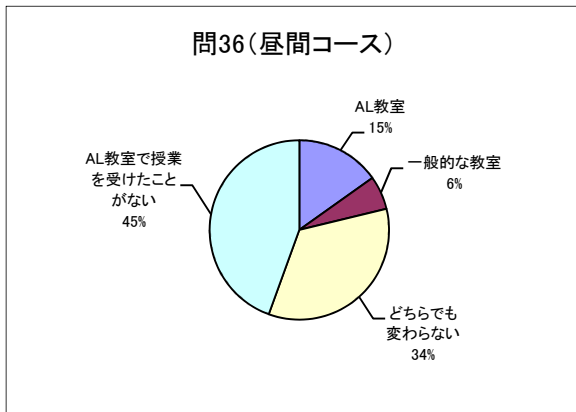
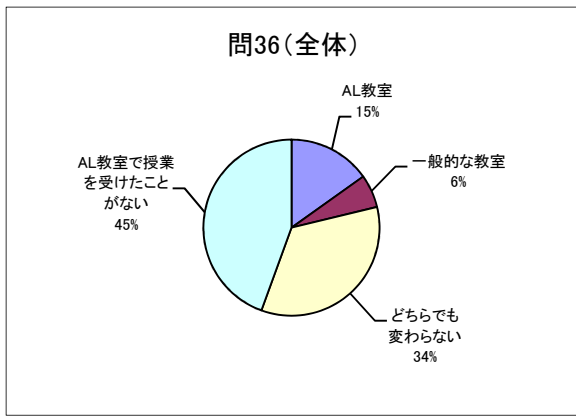




(9) AL教室と一般教室との知識獲得程度の比較 (問1・問2・問4・問36)

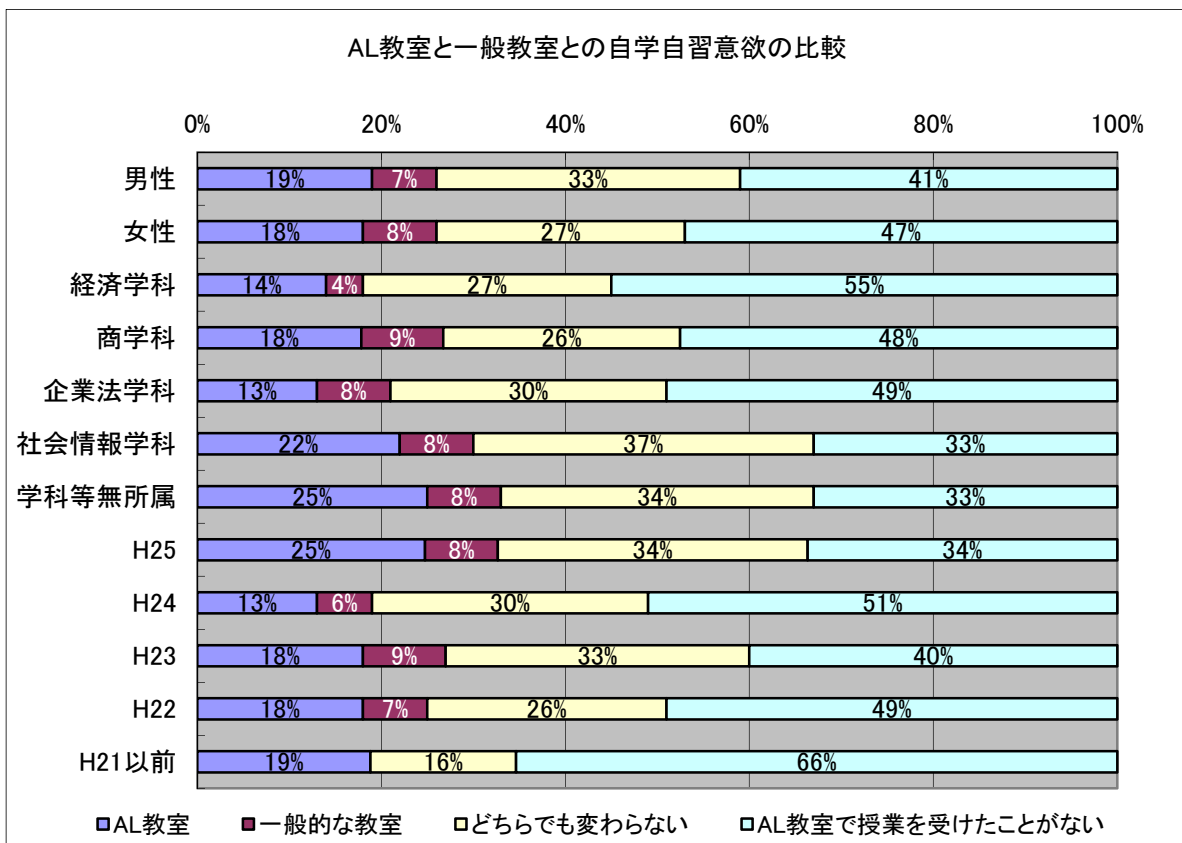
問36 アクティブラーニング(AL)教室と一般的な教室とを比較して、どちらの教室の方がより知識を獲得できますか。

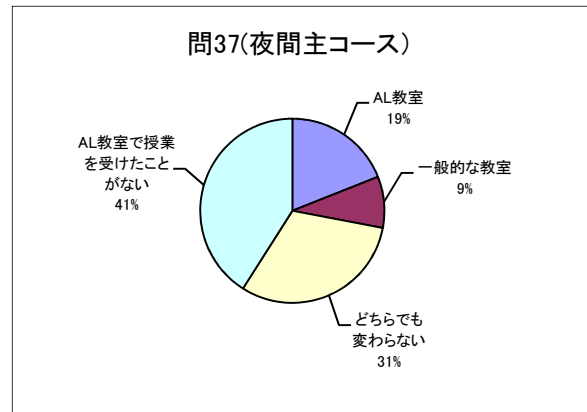
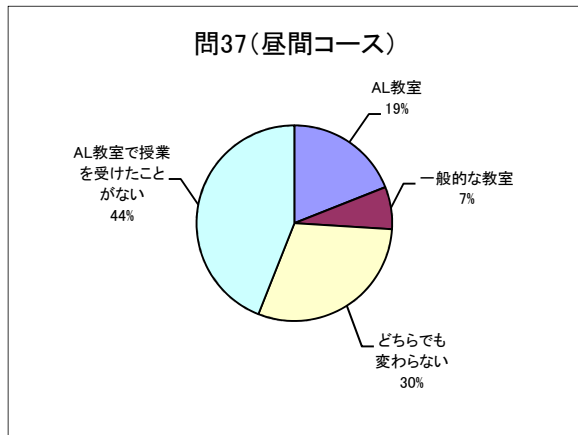
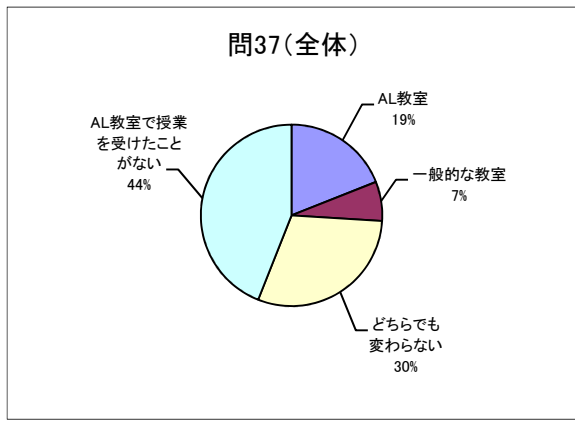




(10) AL教室と一般教室との自学自習意欲の比較 (問1・問2・問4・問37)

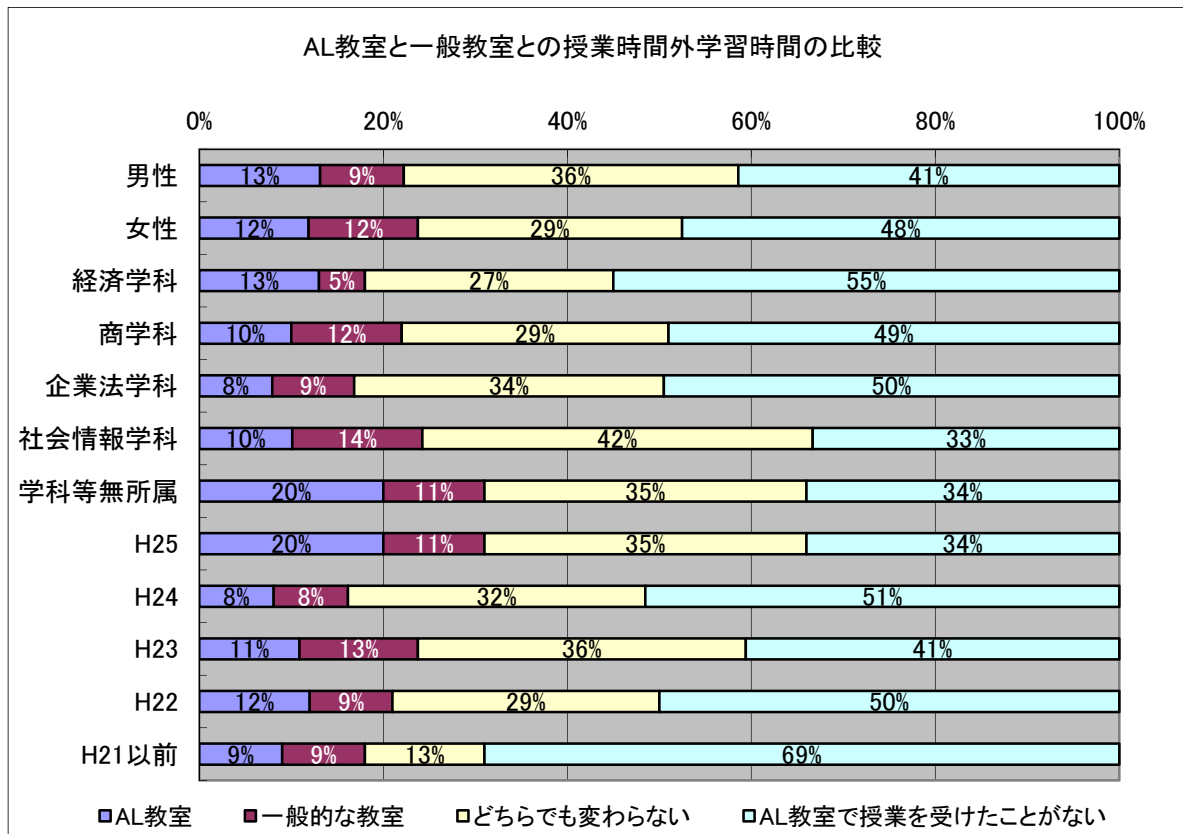
問37 アクティブラーニング(AL)教室と一般的な教室とを比較して、どちらの教室の方が自学自習のやる気が高まりますか。

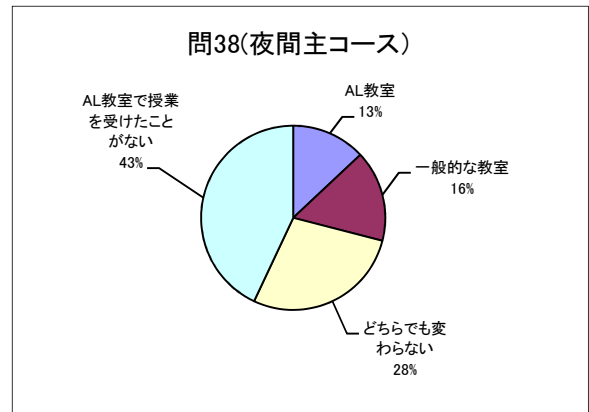
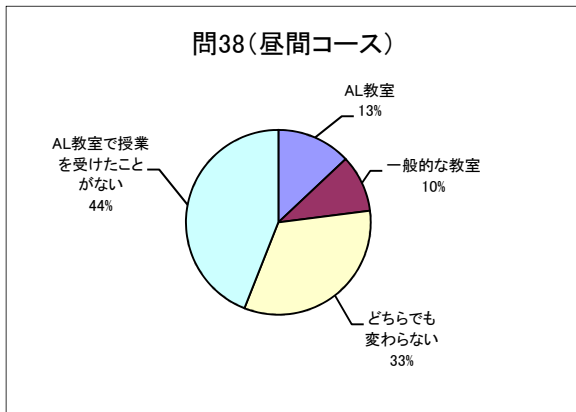
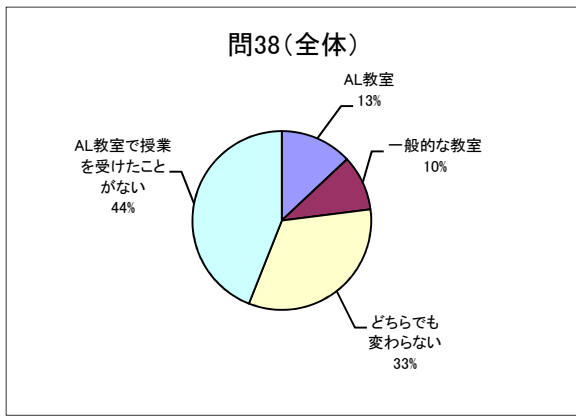




(11) AL教室と一般教室との授業時間外学習時間の比較 (問1・問2・問4・問38)

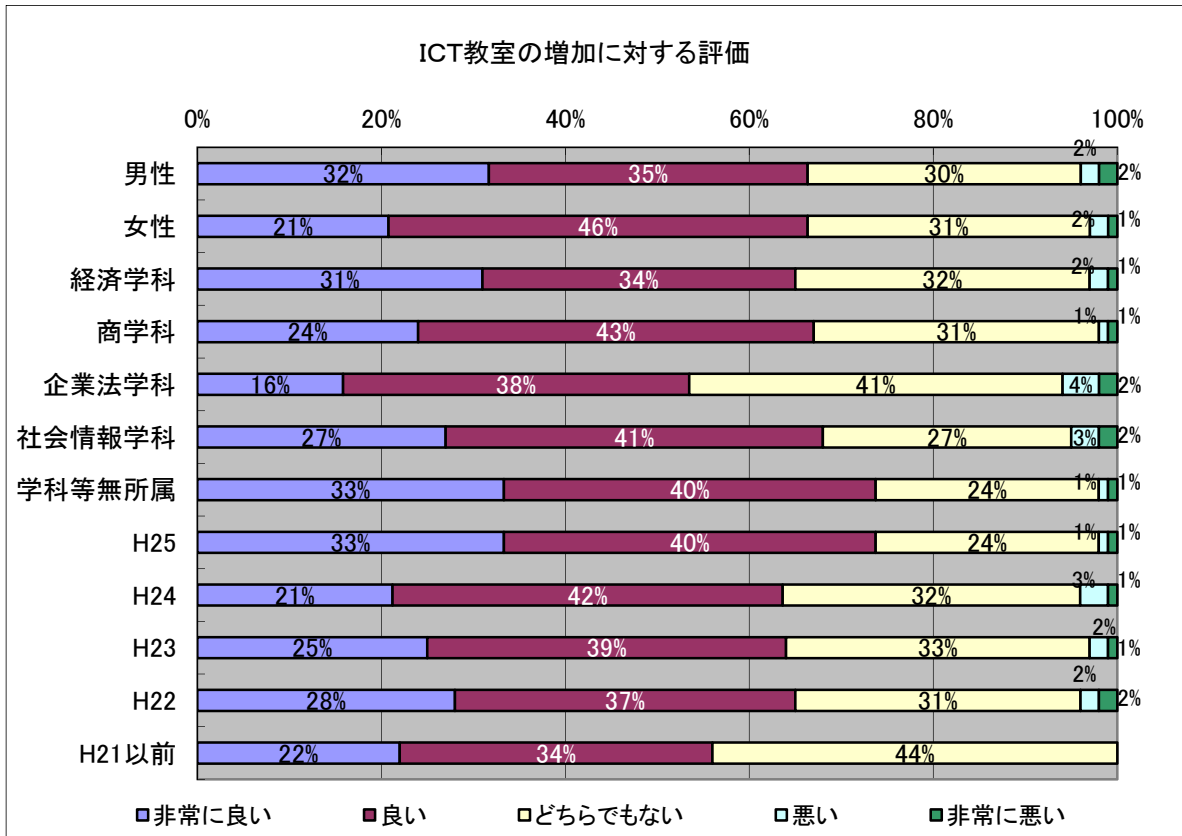
問38 アクティブラーニング（AL）教室と一般的な教室とを比較して、どちらの教室の方が授業時間外学習に要する時間が多いですか。

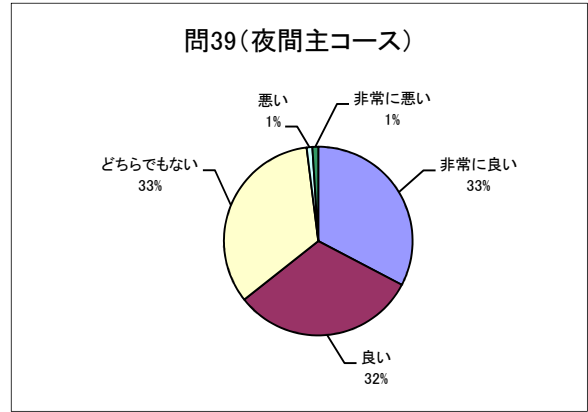
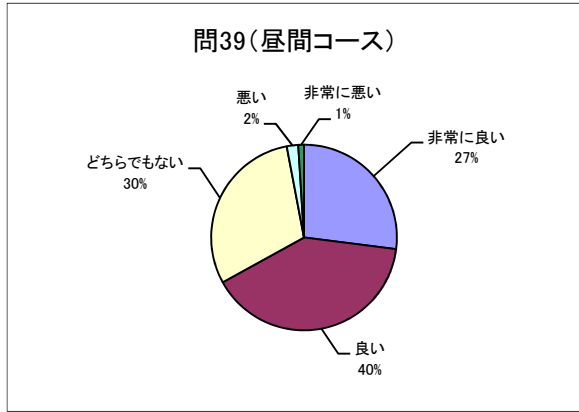
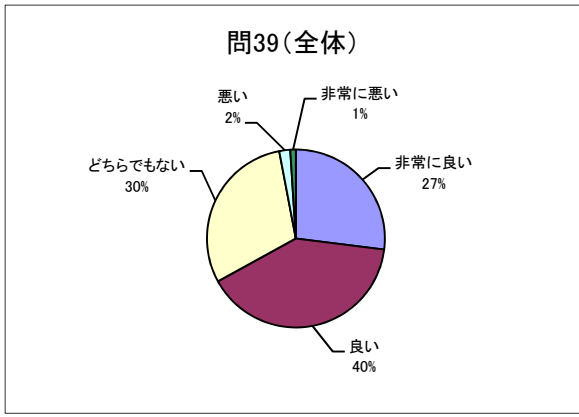




(12) ICT教室の増加に対する評価 (問1・問2・問4・問39)

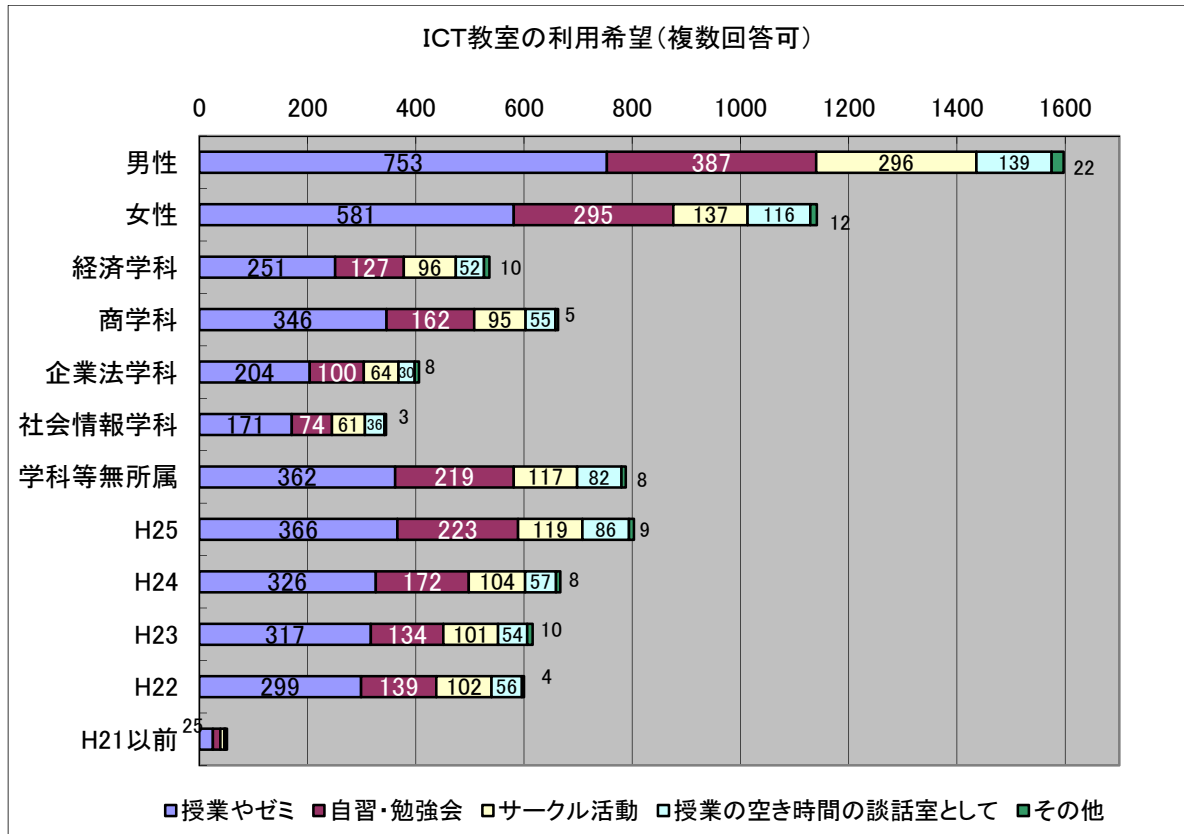
問39 今後、AL教室のようにICT機器の備わった高機能な教室が増えていくことに対してどう思いますか。

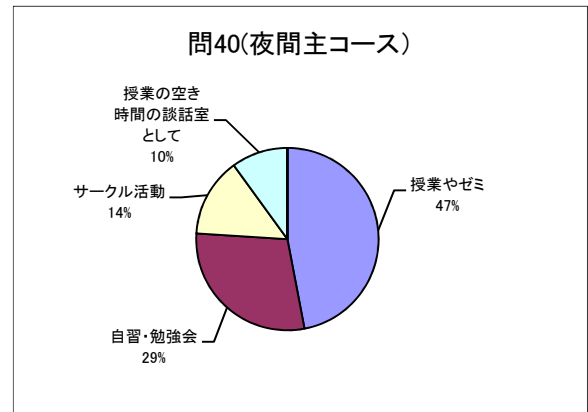
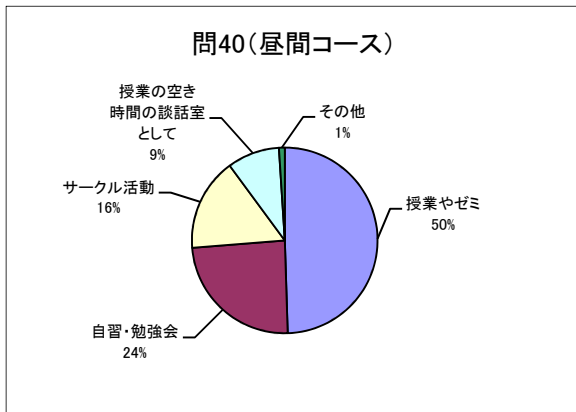
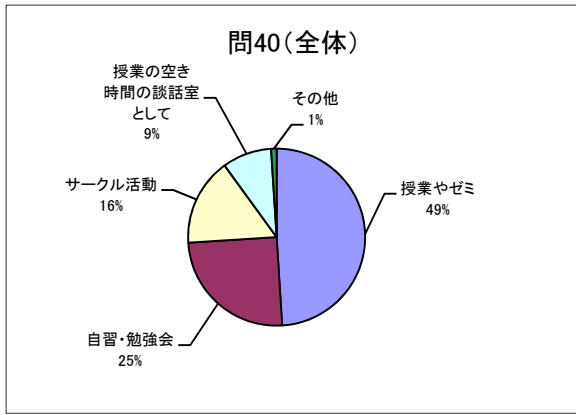




(13) ICT教室の利用希望 (問1・問2・問4・問40)

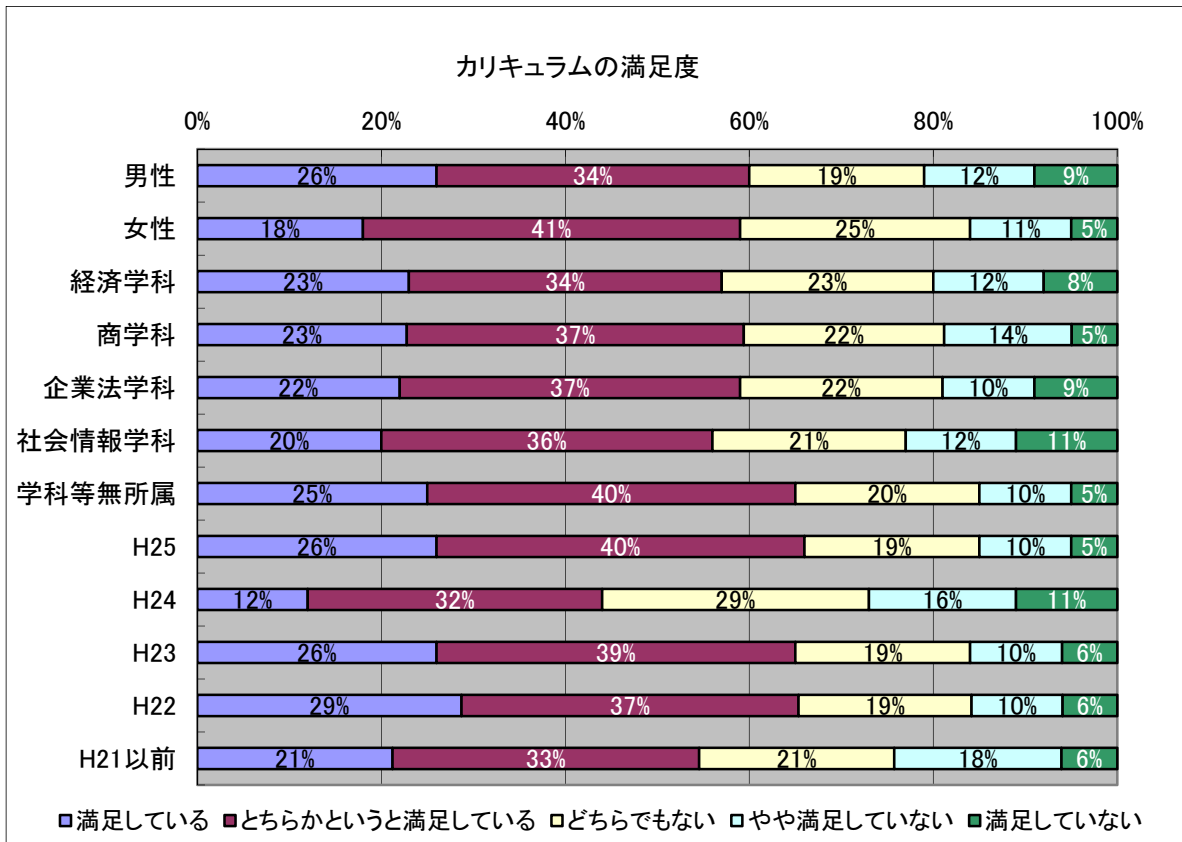
問40 AL教室のようにICT機器の備わった高機能な教室が増えた場合、どのような目的で利用したいですか。(複数回答可)

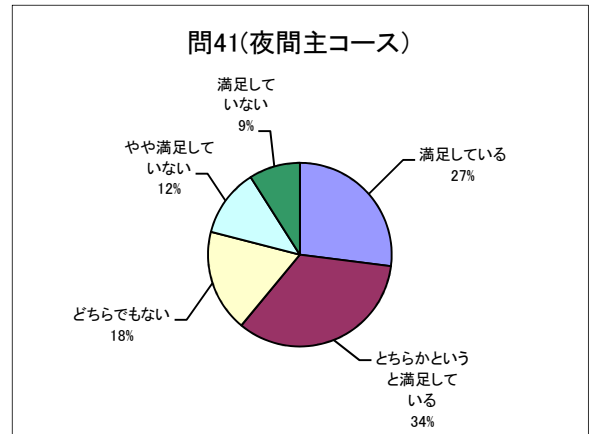
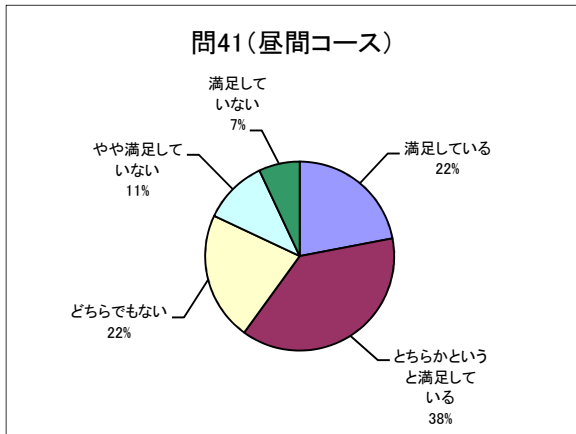
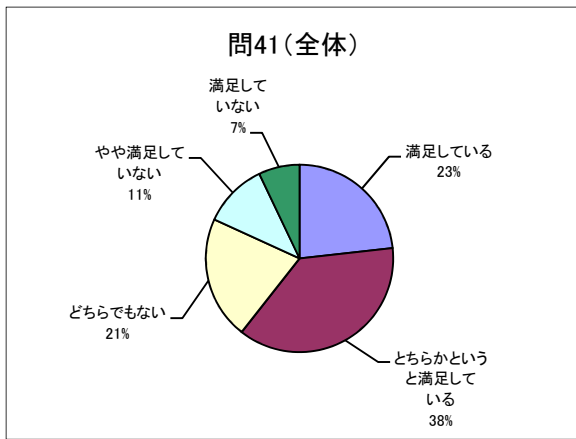




(14) カリキュラムの満足度 (問1・問2・問4・問41)

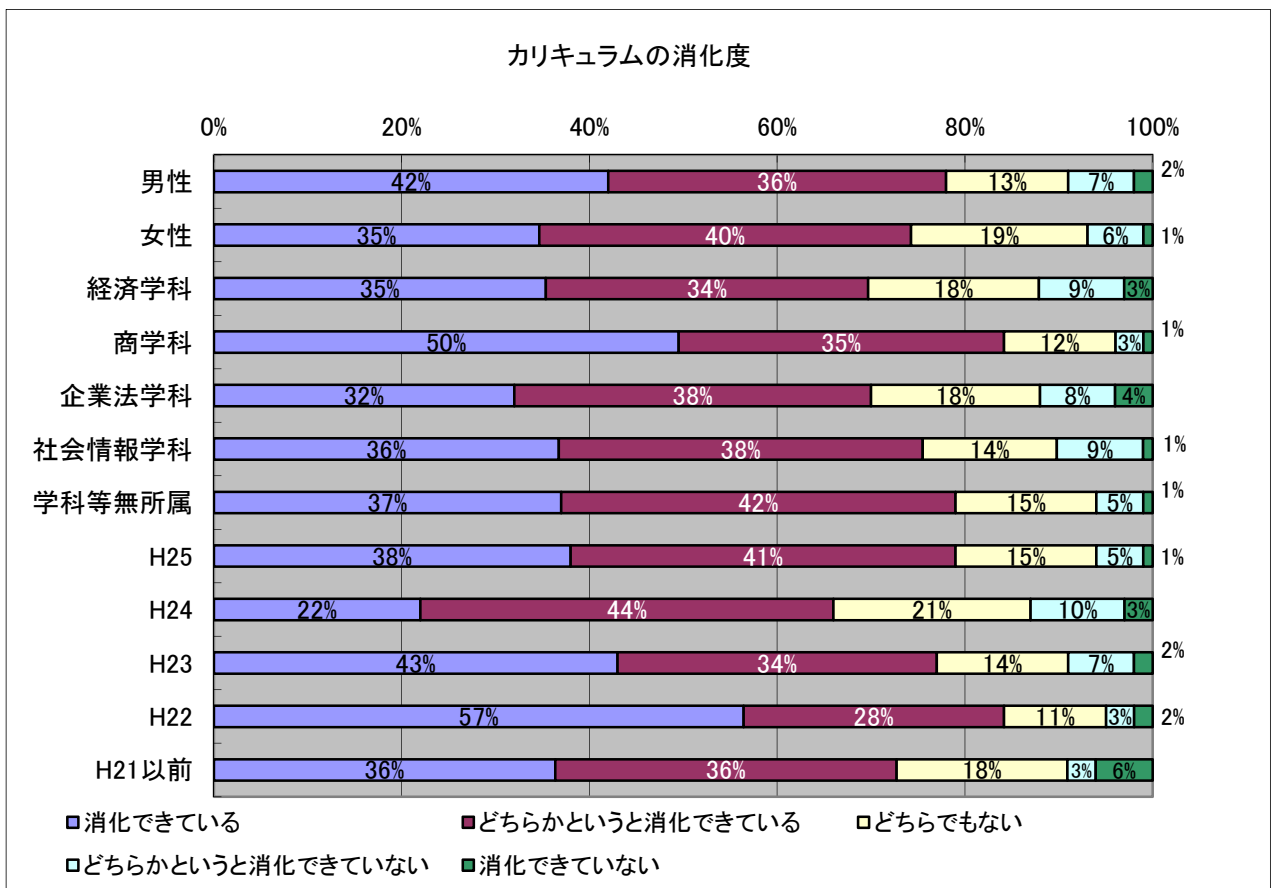
問41 現在のカリキュラムに満足していますか。



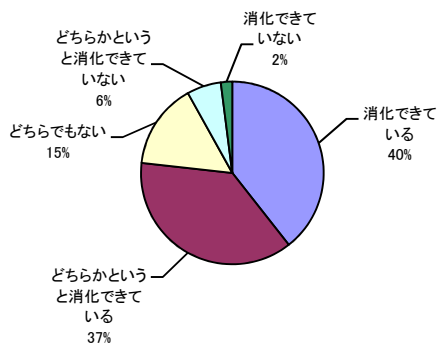


(15) カリキュラムの消化度 (問1・問2・問4・問42)

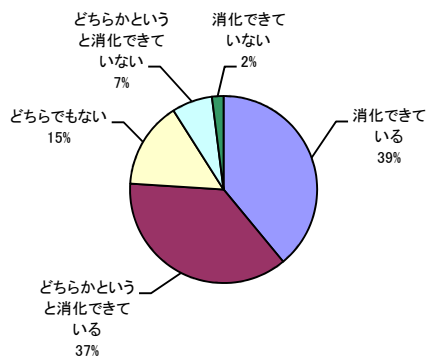
問42 現在のカリキュラムについて消化できていますか。



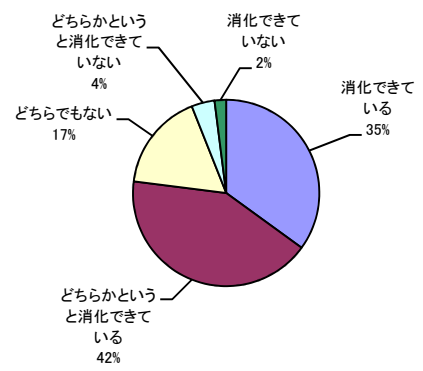
問42(全体)



問42(昼間コース)



問42(夜間主コース)



7 課外活動について

昼間コース

- ・サークルに加入経験のある者は93%
- ・1週間当たりサークルに費やす時間は、「5時間未満」が43%
- ・1か月当たりサークルにかかる費用は、「ほとんどかからない」が31%
- ・サークルと学業との関係は、「授業を優先」が44%
- ・サークルに加入しない理由は、「自分の趣味・娯楽で満足しているから」が18%、「興味のあるサークル又は同好会がないから」「時間がないから」がそれぞれ17%

夜間主コース

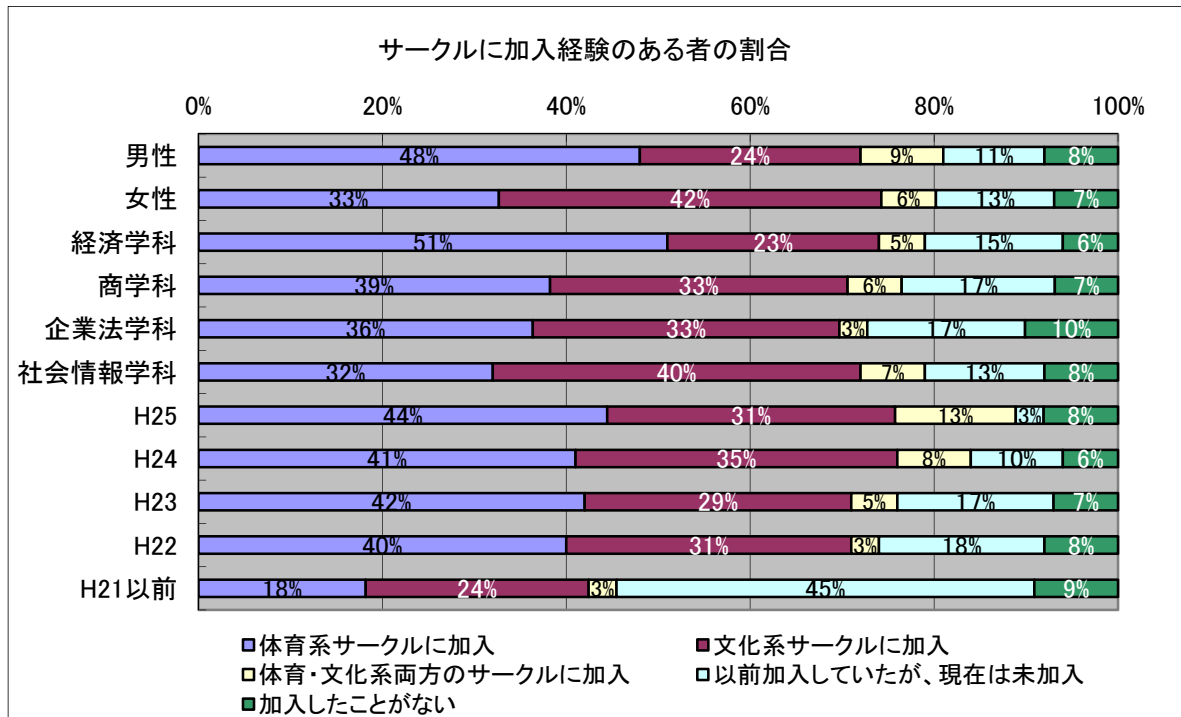
- ・サークルに加入経験のある者は93%
- ・1週間当たりサークルに費やす時間は、「5時間未満」が58%
- ・1か月当たりサークルにかかる費用は、「ほとんどかからない」が41%
- ・サークルと学業との関係は、「授業を優先」が48%
- ・サークルに加入しない理由は、「時間がないから」が36%、「自分の趣味・娯楽で満足しているから」が15%、「学業の妨げになるから」が13%

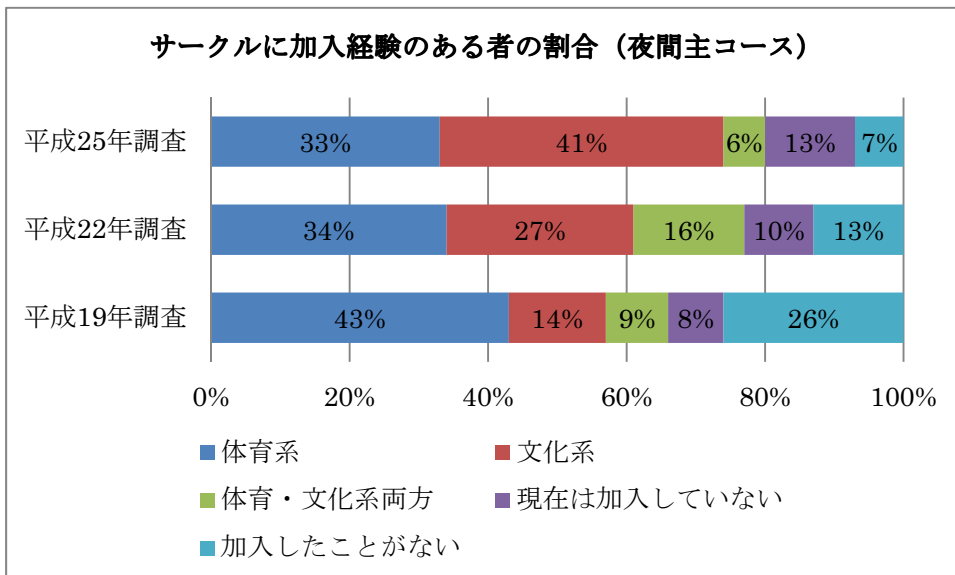
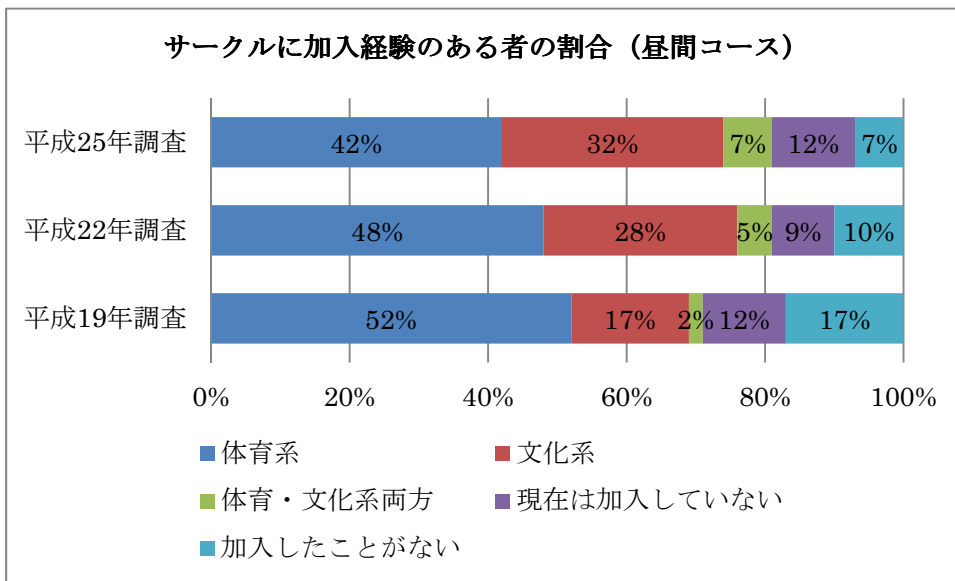
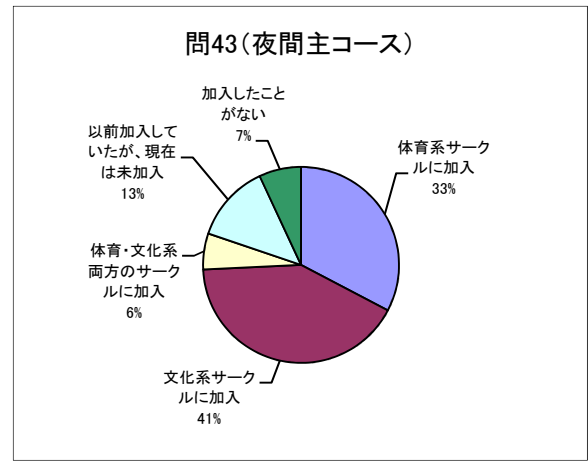
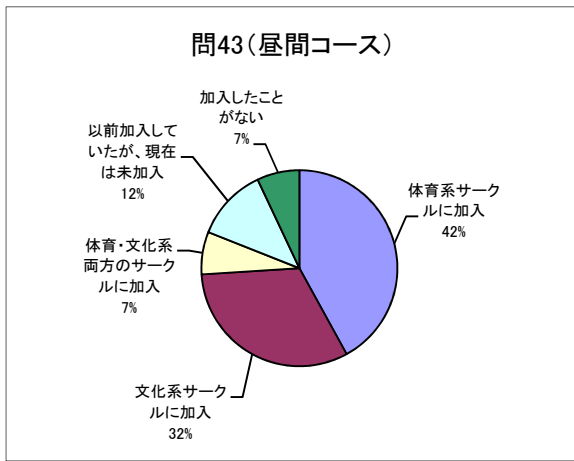
(1) **サークルに加入経験のある者の割合**は、昼間コース、夜間主コースともに93%で、前回調査、前々回調査と比較して、一貫して加入率は増加している。

加入しているサークルの種類では、昼間コースでは「体育会系」が42%と6ポイント減少している。これは、平成24年度に、構成員の多い運動系サークルが廃部したことによる影響が、要因の1つとして考えられる。夜間主コースでは、「文化系」が41%と前回調査と比較して14ポイント上昇しているが、「体育・文化系両方のサークル」に加入している者の割合が6%と前回調査と比較して10ポイント減少している。

サークルに加入経験のある者の割合（問1・問2・問4・問43）

問43 本学のサークルに加入していますか。

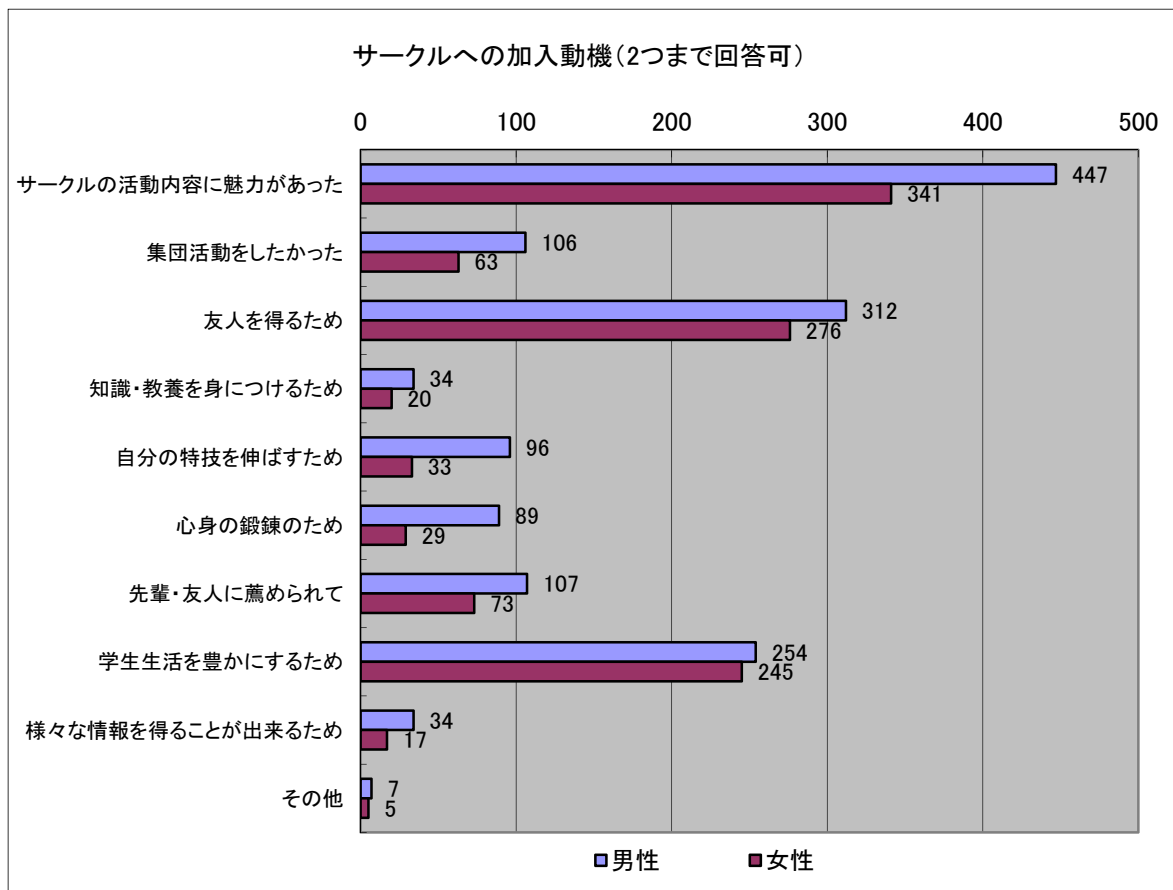




(2) **サークルへの加入動機**は、1位が「サークルの活動内容に魅力があった」、2位が「友人を得るため」、3位が「学生生活を豊かにするため」であり、これら3つの項目の回答人数が多い。前回調査と同様の傾向であるが、2位と3位が入れ替わっている。

サークルへの加入動機（問2・問44）

問44 本学のサークルに加入した動機は何ですか。（2つまで回答可）

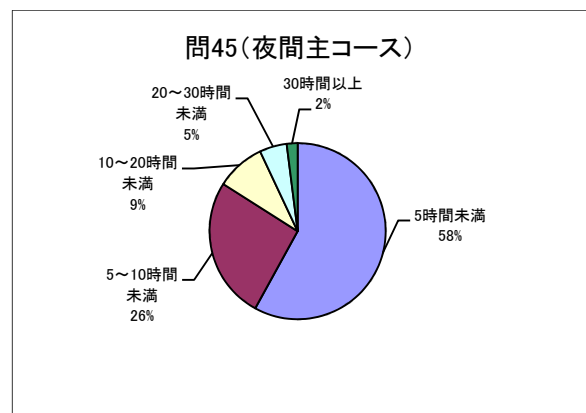
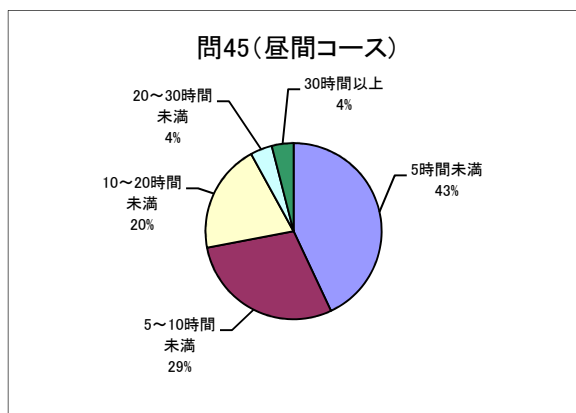
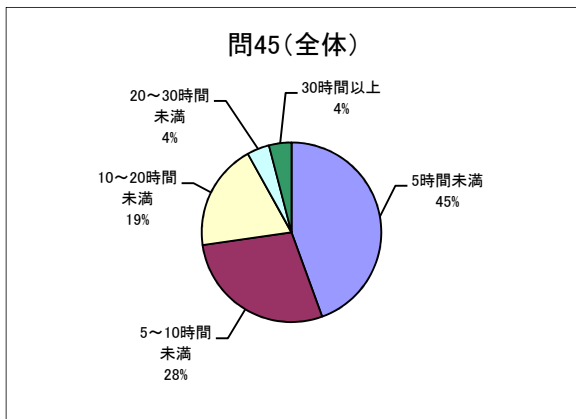
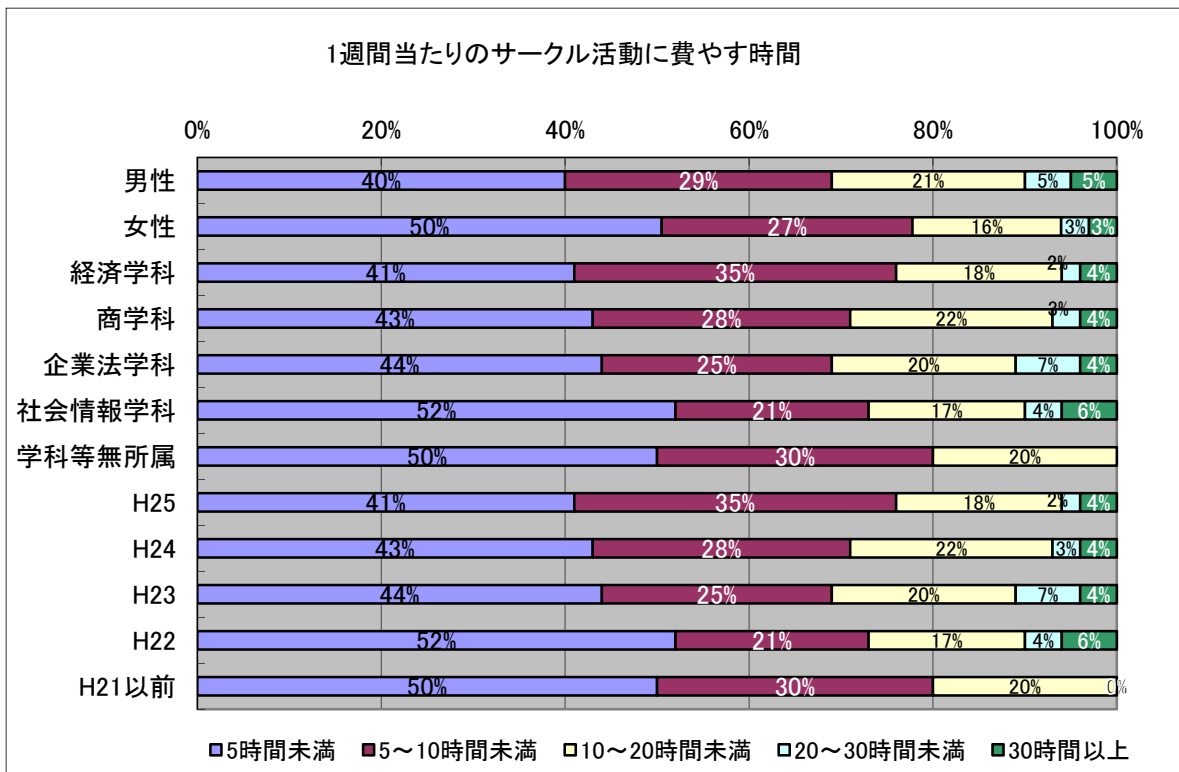


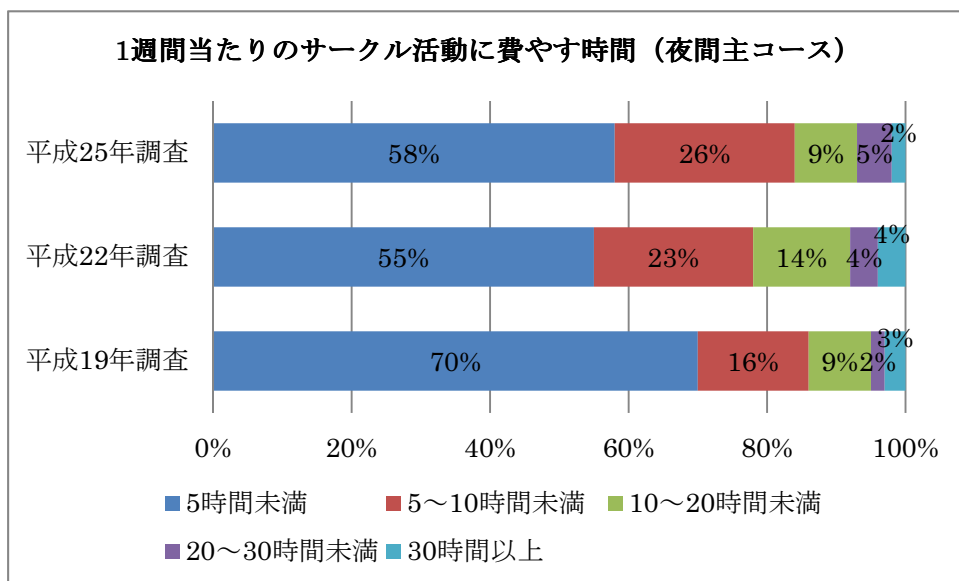
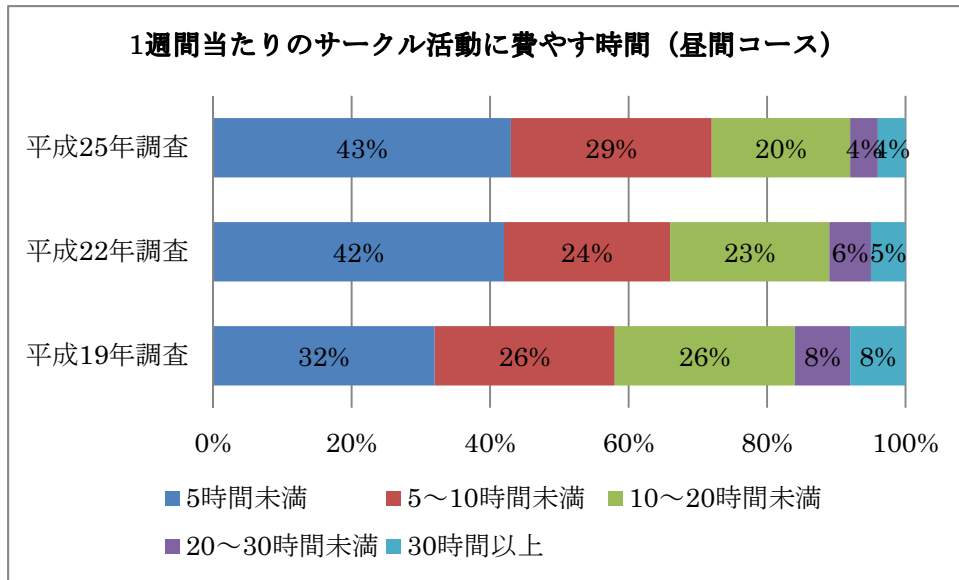
(3) **1週間当たりのサークル活動に費やす時間**は、全体で「5時間未満」が45% 「5時間以上～10時間未満」が28%である。昼間コースの場合、「5時間未満」が43%、「5時間以上～10時間未満」が29%であり、前回調査、前々回調査と比較すると、活動時間が減少している傾向がみられる。夜間主コースの場合、「5時間未満」が58%、「5時間以上～10時間未満」が26%であり、昼間コースと比較すると、「5時間未満」で15ポイント高く、「10時間以上～20時間未満」で11ポイント低い。20時間以上と答えたものの割合も1ポイント低い。平均活動時間は、昼間コースと比較して、夜間主コースのほうが低いと推測される。

男女別で見ると、女性の「5時間未満」が50%であり、これは男性の「5時間未満」より10ポイント高い。学科別で見ると、社会情報学科で「5時間未満」が52%と前回調査と比較して7ポイント増加しているのと、経済学科で「30時間以上」と回答した者の比率が4%で、前回調査と比較して9ポイント減少している。後者は平成24年度の運動系サークルの廃部が要因の1つとして考えられる。

1週間当たりのサークル活動に費やす時間（問1・問2・問4・問45）

問45 サークル活動に費やす時間は1週間に平均何時間ですか。（大学の休業期間を除く）



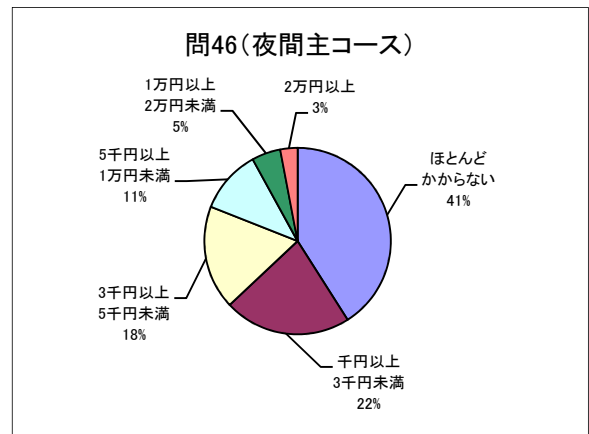
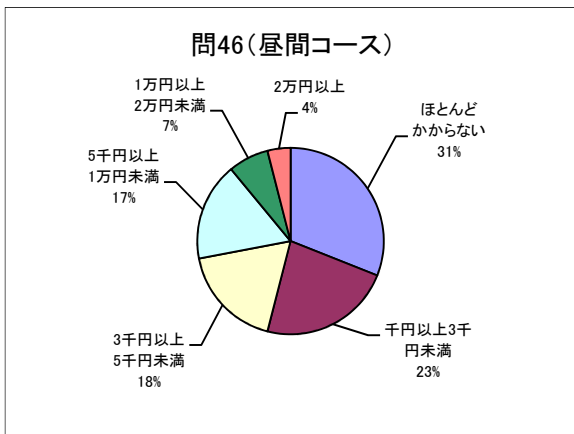
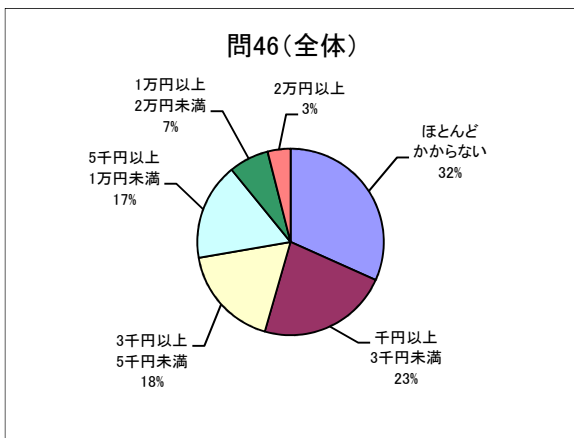
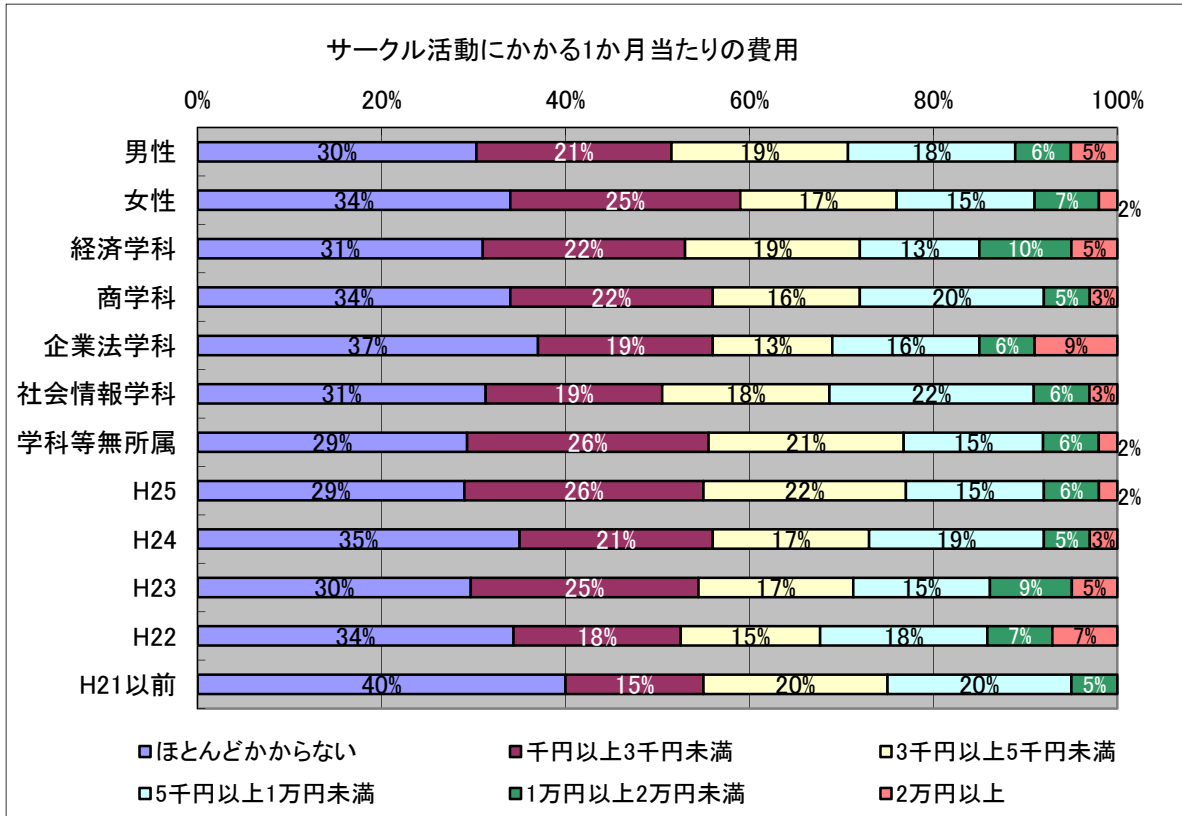


(4) サークル活動にかかる1か月当たりの費用は、昼間コースでは、「ほとんどかからない」が31%、「千円以上～3千円未満」が23%で、夜間主コースでは、「ほとんどかからない」が41%、「千円以上～3千円未満」が22%であった。「3千円以上～5千円未満」、「5千円以上～1万円未満」、「1万円以上～2万円未満」、「2万円以上」の全ての項目で夜間主コースの値が昼間コースの値以下であったので、夜間主コースの学生の費用は昼間コースより低いと推測される。

性別、所属学科別では、男性のかかる費用が女性より平均的に高いと推測される。学科別で見ると、企業法学科の「ほとんどかからない」の比率と「2万円以上」の比率が若干高い。入学年度別では、平成21年以前の過年度生を除き、全体と同様の結果である。

サークル活動にかかる1か月当たりの費用（問1・問2・問4・問46）

問46 サークル活動にかかる費用は1ヶ月に平均いくらですか。（部費、遠征費、合宿費、コンパ代等）



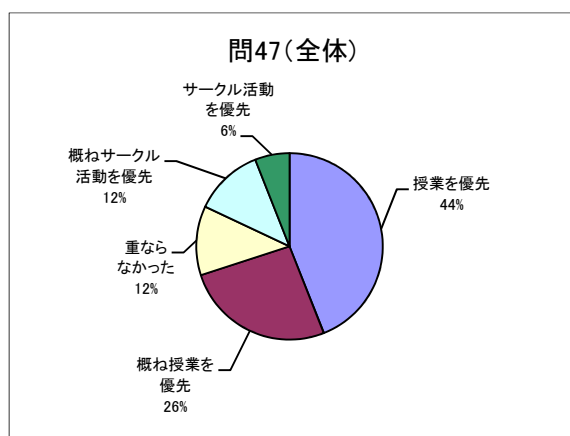
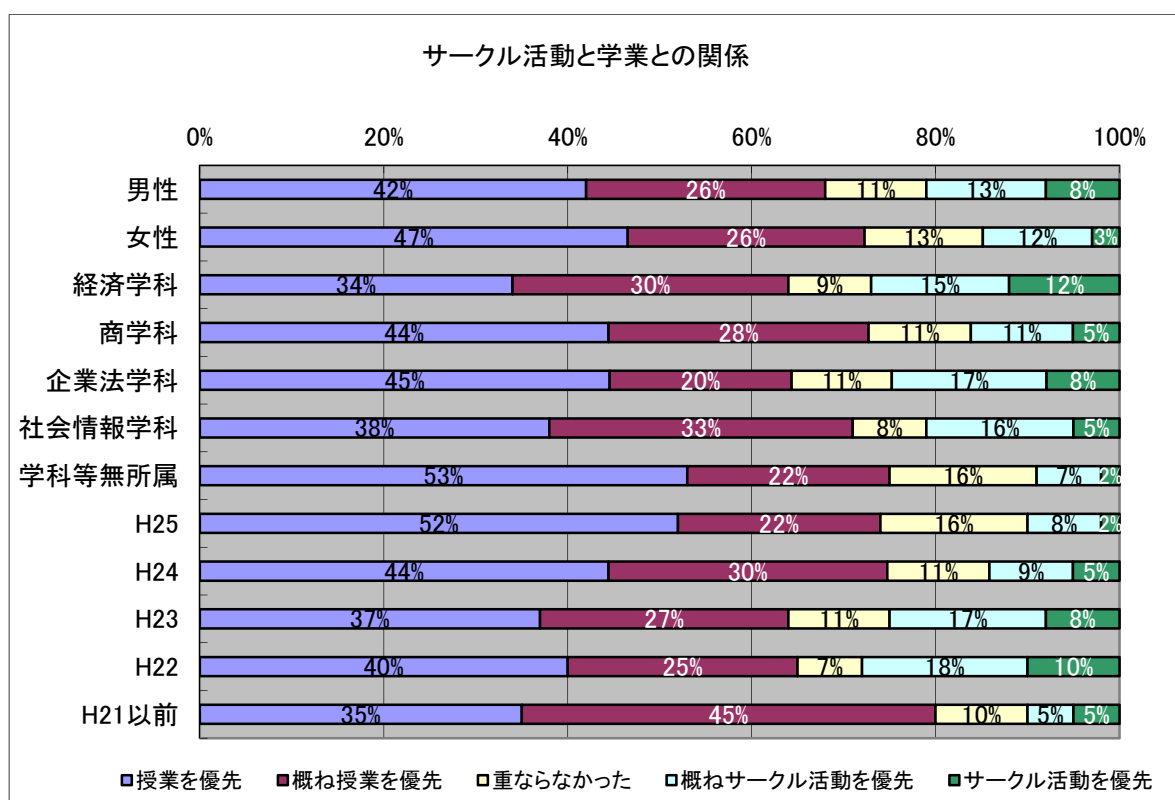
(5) **サークル活動と学業との関係**では、授業を優先したと回答した者の割合が昼間コースで44%、夜間主コースで48%であり、前回調査と比較して、昼間コースで10ポイント、夜間主コースで13ポイント上昇していることと、経済学科と社会情報学科でいずれも9ポイント上昇している。授業を優先する傾向が強まっていると考えられる。

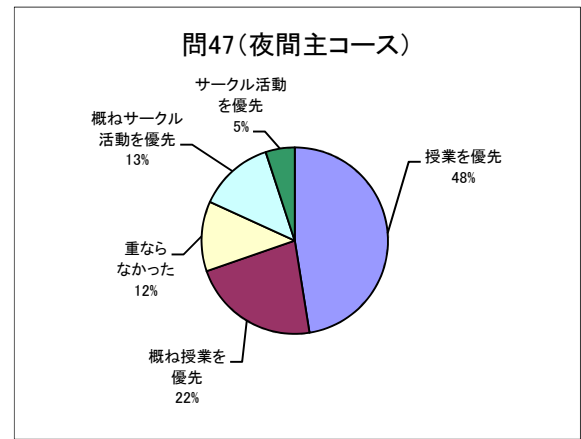
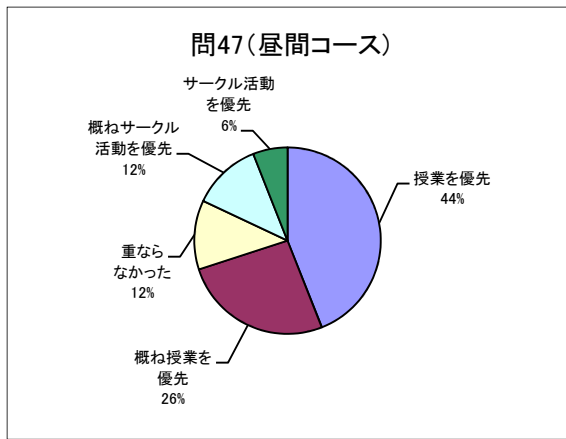
性別で見ると、男性の「概ねサークル活動を優先」、「サークル活動を優先」がいずれも女性より高い。学科別で見ると、「概ねサークル活動を優先」、「サークル活動を優先」の合計の比率は、経済学科で27%、商学科で16%、企業法学科で25%、社会情報学科で21%と差が見られ、学科等無所属では、9%にとどまった。

入学年度別で見ると、平成22年度と平成23年度に入学した学生が、平成24年度と25年度に入学した学生と比較して、サークル活動を優先する傾向が示唆される。

サークル活動と学業との関係（問1・問2・問4・問47）

問47 サークル活動と授業が重なった場合どう対応しましたか。



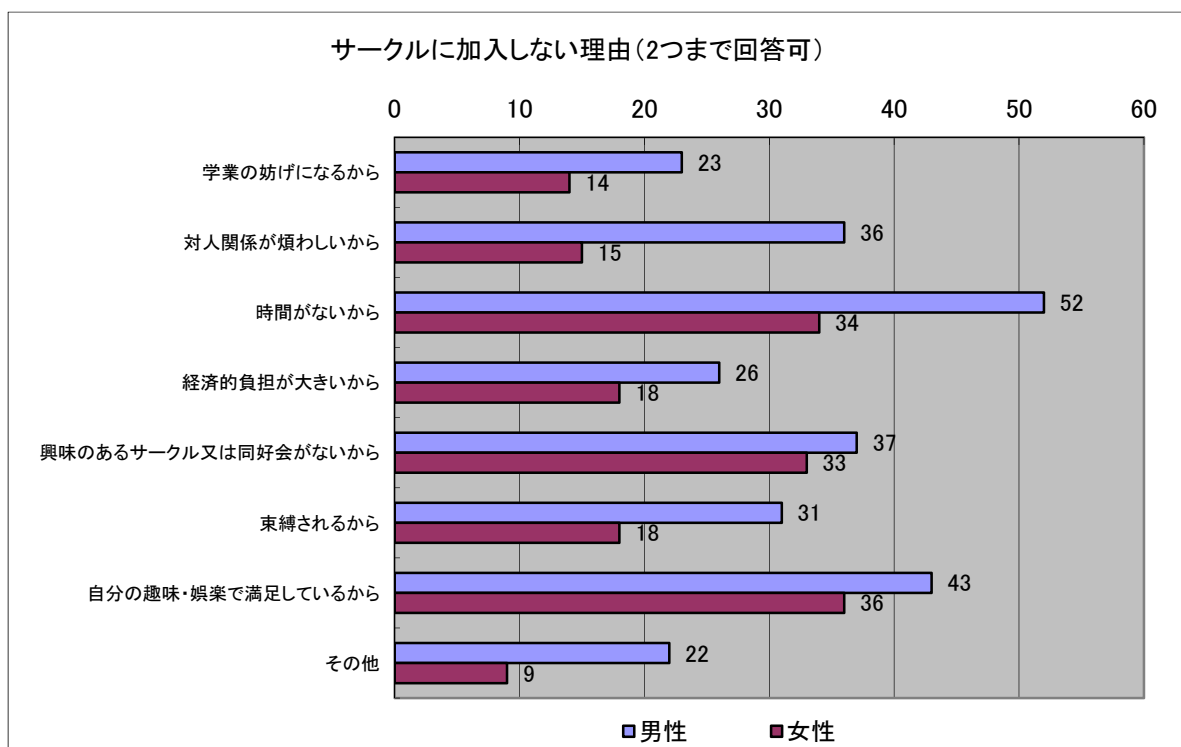


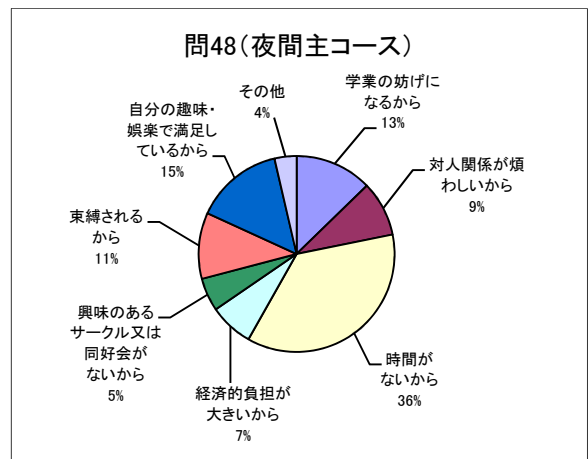
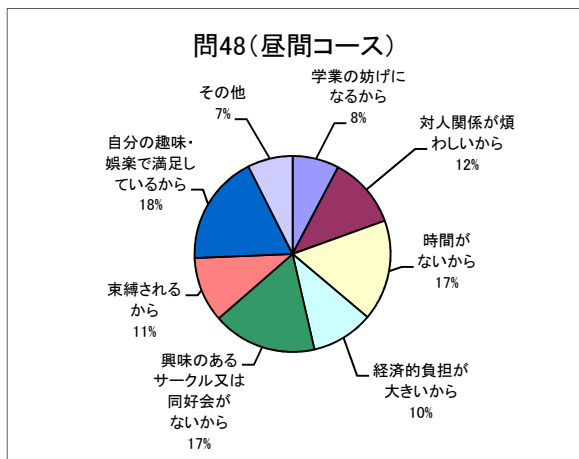
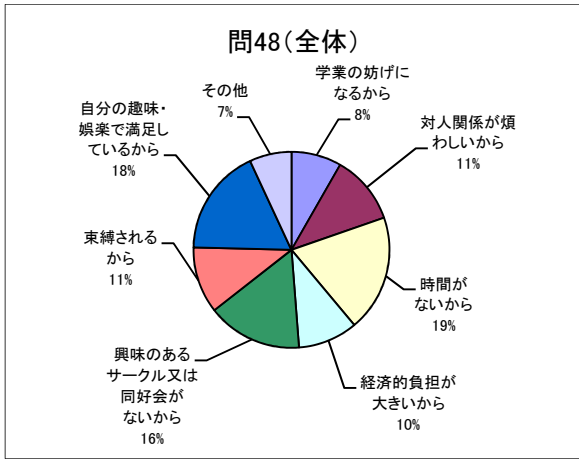
(6) サークルに加入しない理由については、昼間コースでは、「自分の趣味・娯楽で満足しているから」が18%、「興味のあるサークル又は同好会がないから」、「時間がないから」が、それぞれ17%、「対人関係が煩わしいから」が12%である。夜間主コースでは、「時間がないから」が36%、「自分の趣味・娯楽で満足しているから」が15%、「学業の妨げになるから」が13%である。前回調査と比較して、昼間コースは大きな変化がないが、夜間主コースでは「時間がないから」が13ポイント、「学業の妨げになるから」が5ポイント上昇し、「対人関係が煩わしいから」と「経済的負担が大きいから」がいずれも6ポイント減少している。

男女別にみると、男性が「時間がないから」52名、「自分の趣味・娯楽で満足しているから」43名、「興味のあるサークル又は同好会がないから」37名で、女性が「自分の趣味・娯楽で満足しているから」36名、「時間がないから」34名、「興味のあるサークル又は同好会がないから」33名で、順位の違いはあるものの、上位の3項目は同じであった。

サークルに加入しない理由 (問2・問48)

問48 サークルに加入していない理由は何ですか。(2つまで回答可)





8 ボランティア活動について

本調査項目は新規に設けられたものであり、前回までの調査と比較して新たな特徴を探り出すということではできないが、以下、重要と思われる点を指摘しておく。

ボランティア活動参加経験は、学年が高まるとともに当然ながら増加しているが、4年次生では33%となっている。5年以上在籍している学生では、経験者は45%と高い。

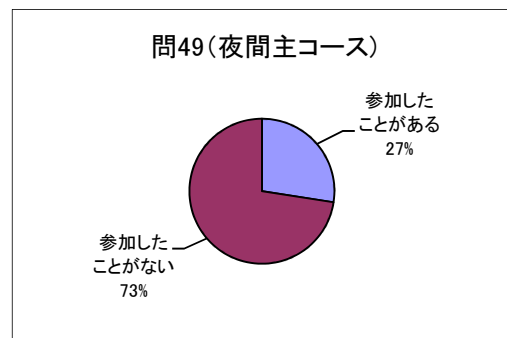
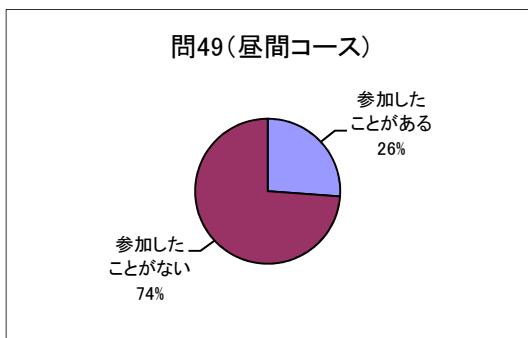
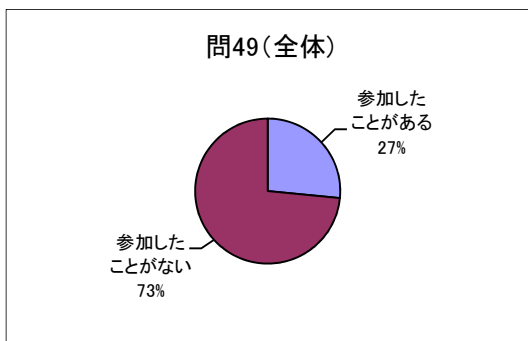
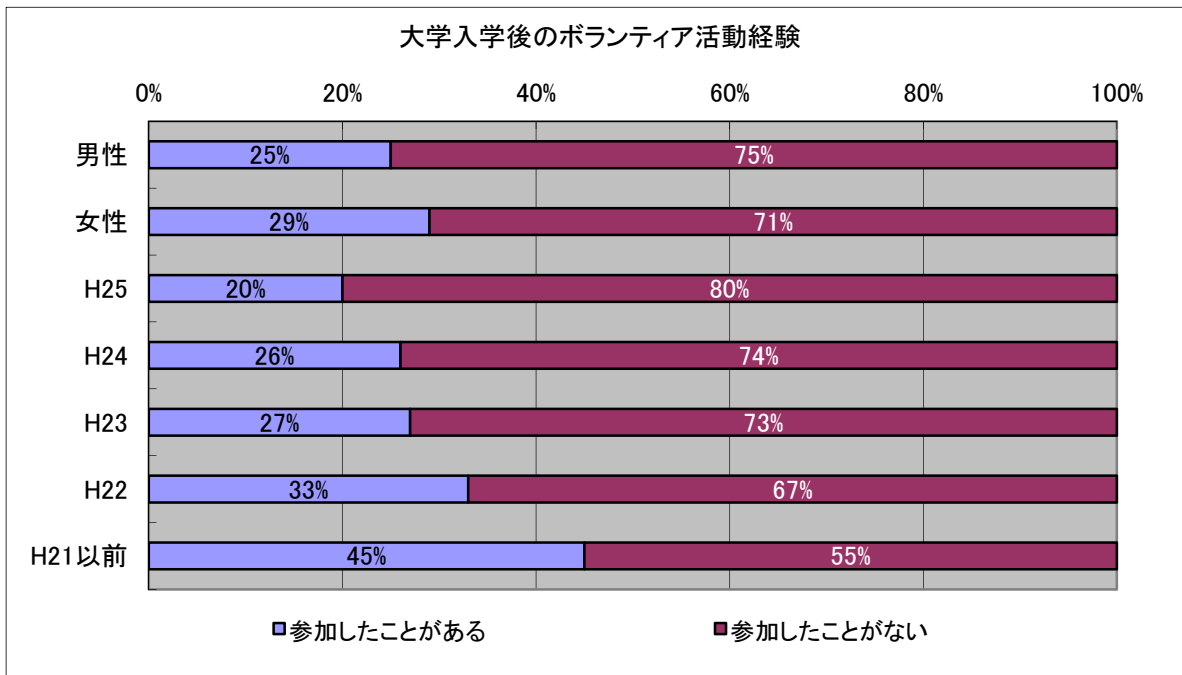
ボランティアの内容は、「地域協力（イベント協力等）」と「清掃・自然保護」が主となっている。

ボランティアの活動日数は、（3日以内）が最も多いが、15日を超えて活動した者も23%存在する。

ボランティアを行うきっかけは、「参加している団体の活動として」というケースが多い。

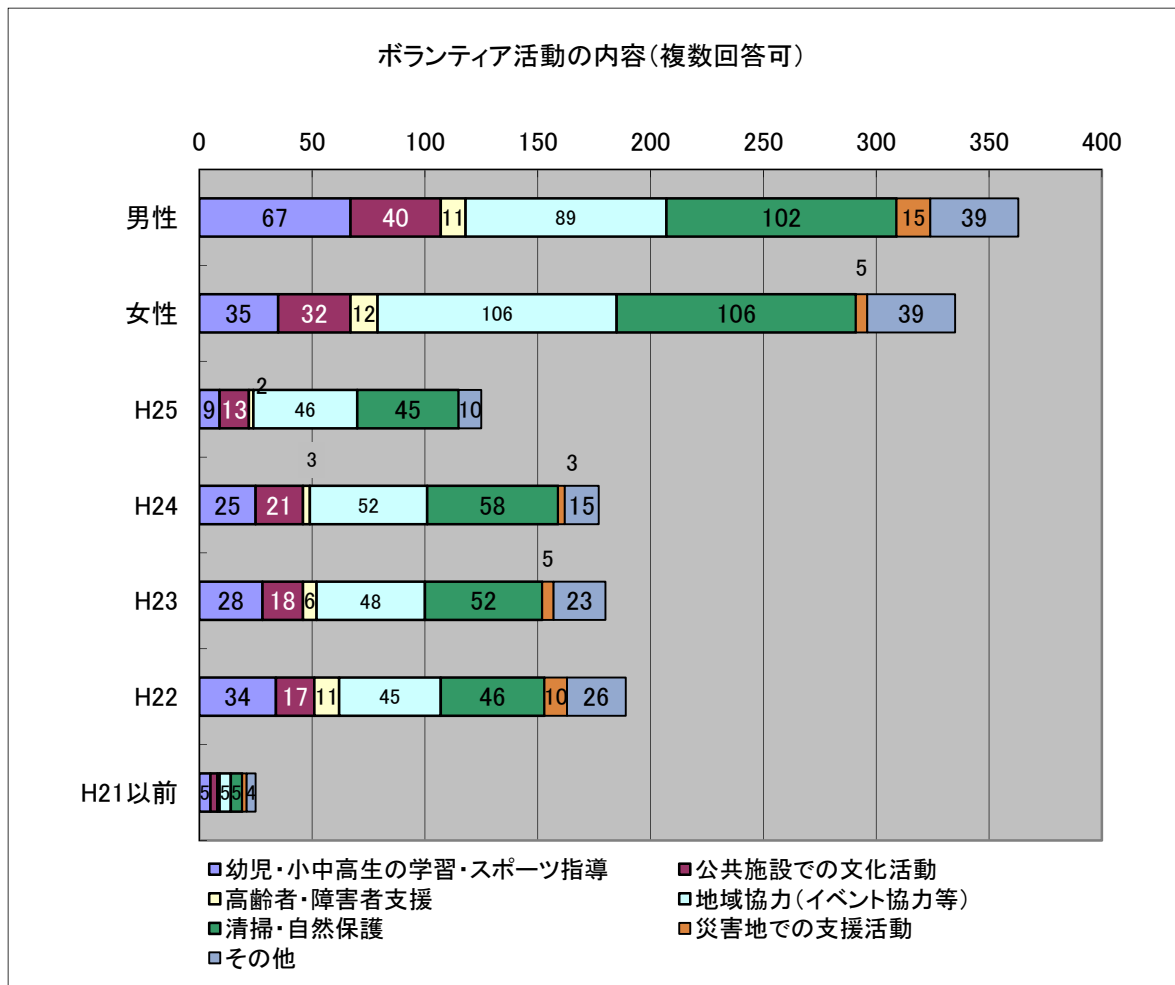
(1) 大学入学後のボランティア活動経験（問1・問2・問49）

問49 大学入学後、ボランティア活動に参加したことがありますか。



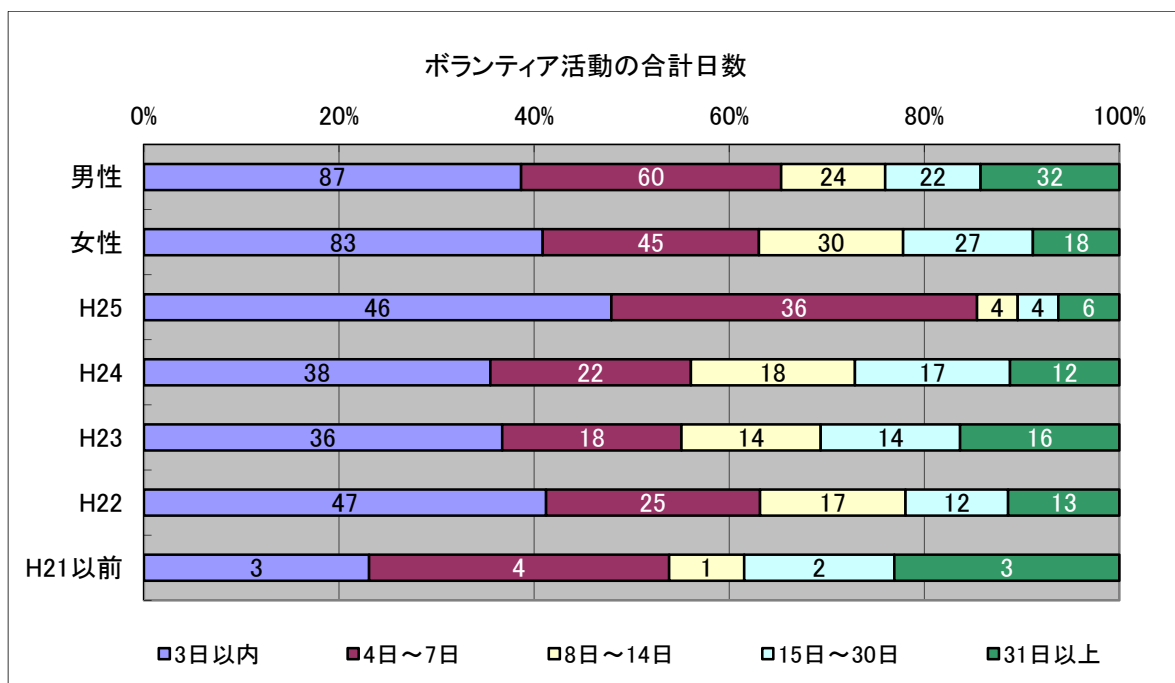
(2) ボランティア活動の内容 (問1・問2・問50)

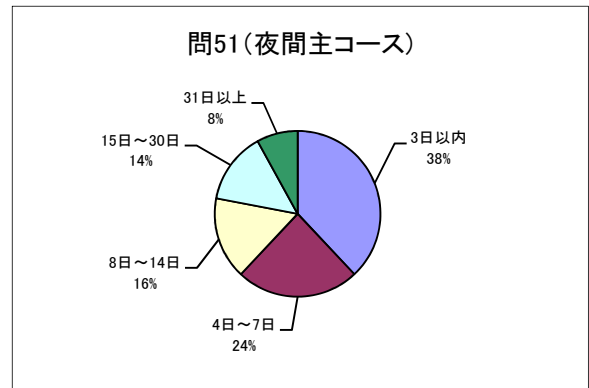
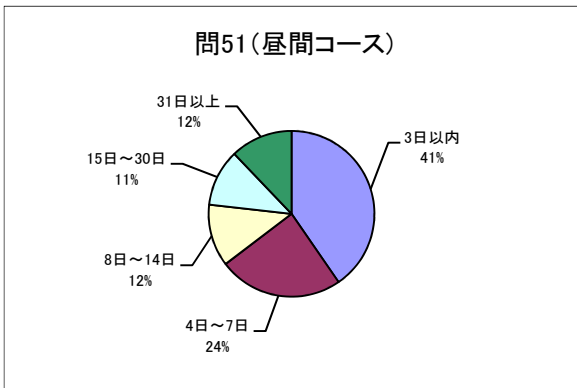
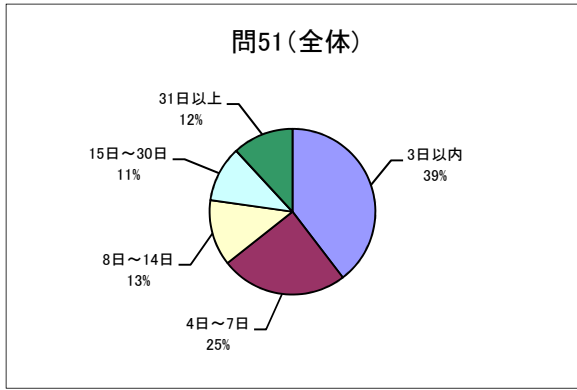
問50 どのような内容のボランティア活動に参加しましたか。(複数回答可)



(3) ボランティア活動の合計日数 (問1・問2・問51)

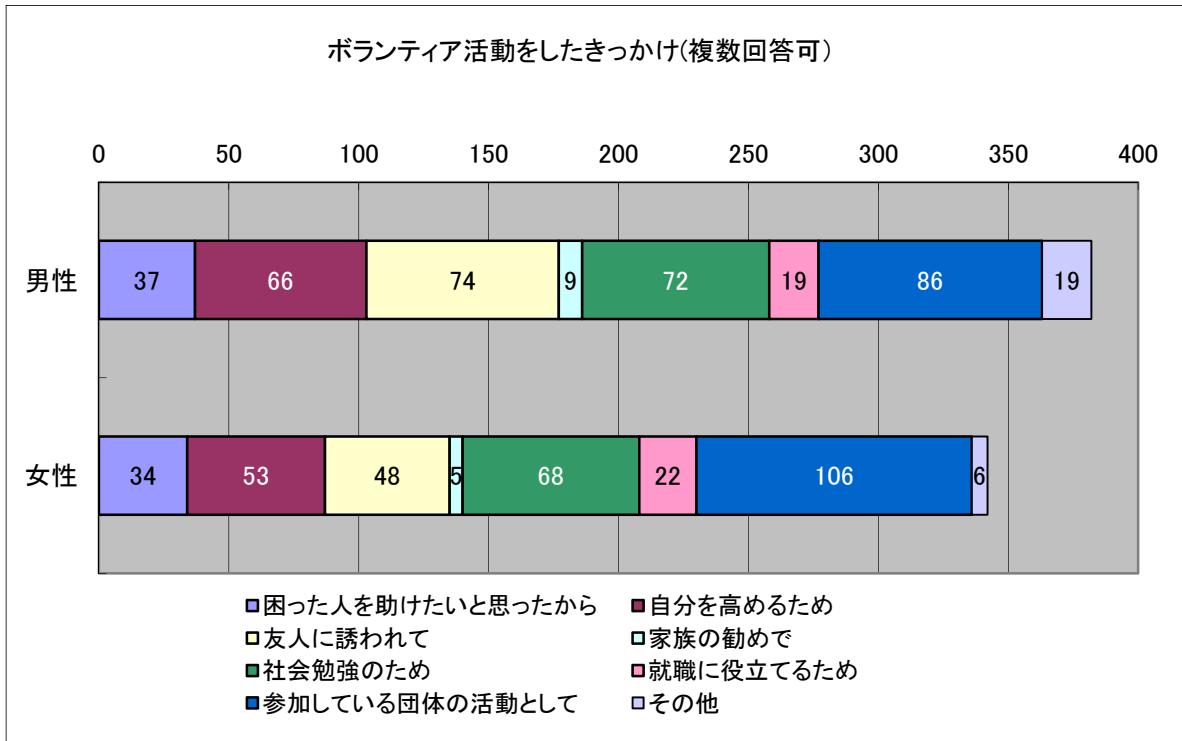
問51 過去に経験したボランティア活動の日数は合計でどれくらいですか。





(4) ボランティア活動をしたきっかけ (問1・問2・問52)

問52 ボランティア活動をすることとしたきっかけは何ですか。(複数回答可)



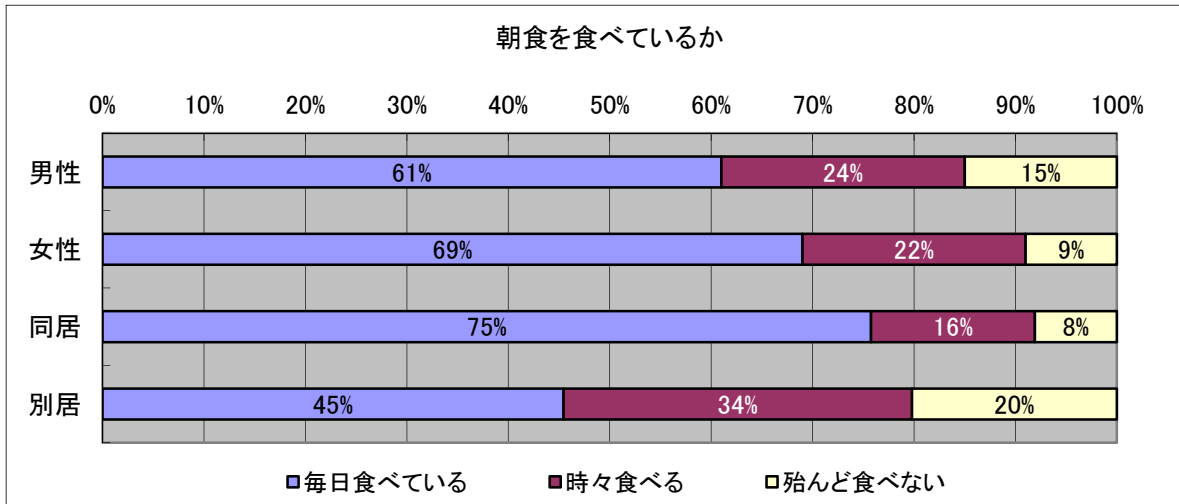
9 健康について

(1) 朝食を食べているか

前回の調査と比べると、「毎日食べている」の割合が男性・女性・同居・別居の全項目において1~4%上昇している。「毎日食べている」の割合が同居で高く、別居で低い傾向は、前回の調査と変わらない。

朝食を食べているか（問2・問18・問53）

問53 朝、食事をしていますか。



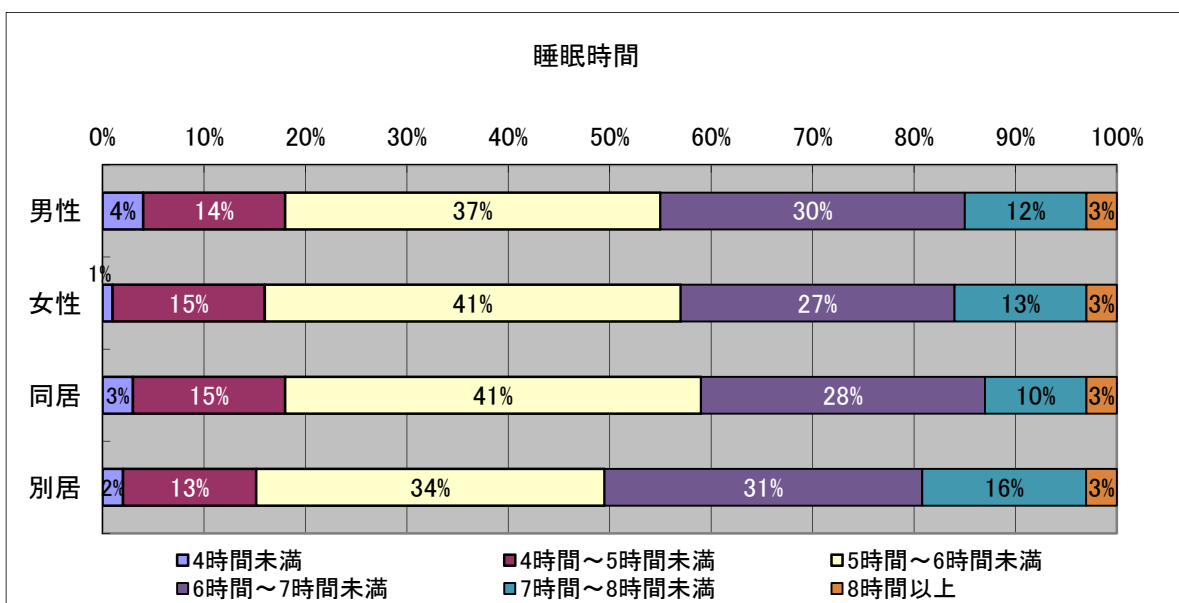
(2) 睡眠時間

今回の調査から追加された設問。「5時間~6時間未満」の割合が最も高く、次に「6時間~7時間未満」が高い。両者の合計は65%以上を占めており、これは男性・女性・同居・別居の全項目で共通している。

なお、同居の学生は別居の学生よりも睡眠時間が短い傾向が見られる。本学の学生は親・親戚と同居する札幌通生が多い（問13および問14）ことから、通学時間が同居の学生の睡眠時間を減少させている一因として考えられる。

睡眠時間（問2・問18・問54）

問54 睡眠時間はどれくらいですか。

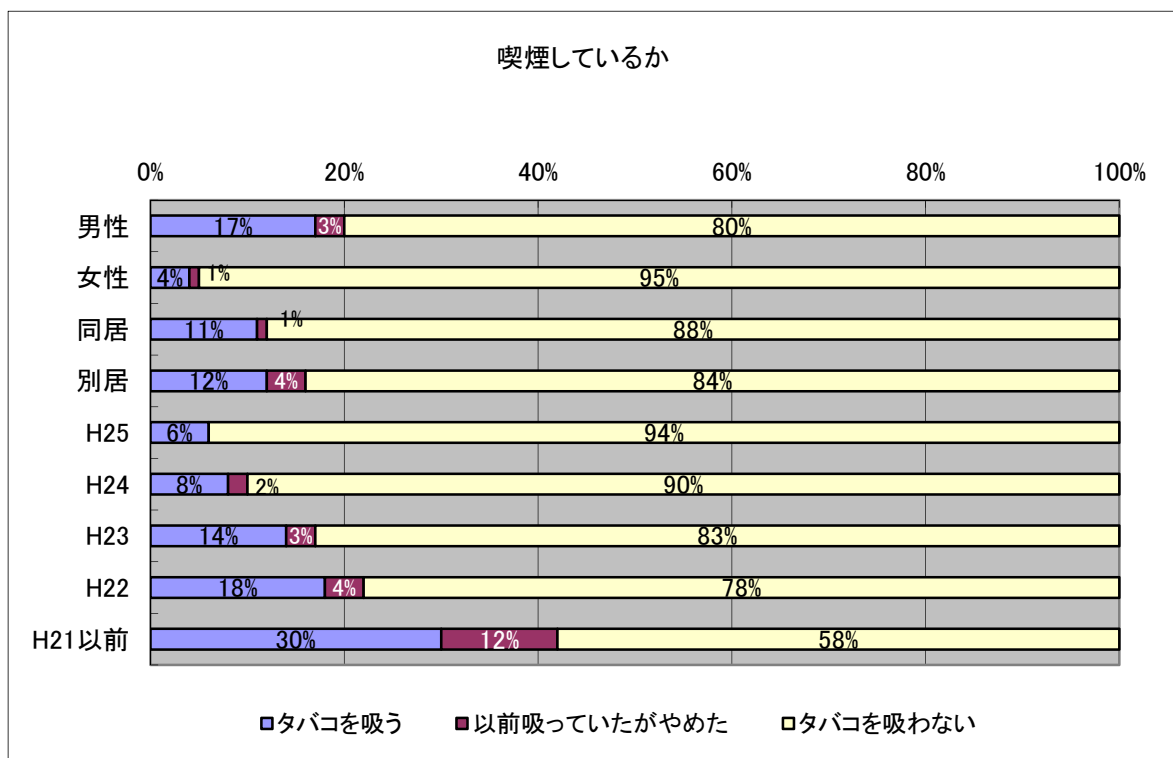


(3) 喫煙しているか

喫煙の割合は若い学年ほど低い。とりわけ平成 25 年度入学生の大半が未成年者であろうから、当然の結果。平成 25 年度入学生において「タバコを吸う」と回答した学生が成年者であることを期待したい。いずれにせよ、前回の調査と比べると、「タバコを吸わない」と「以前吸っていたがやめた」の減少割合は同程度であるから、本来的な非喫煙者のみならず、禁煙者も徐々に増加していることが分かる。

喫煙しているか（問 1・問 2・問 18・問 55）

問 55 タバコを吸いますか。



(4) 飲酒の経験、頻度、程度

喫煙と同様に、飲酒の割合は若い学年ほど低い。その理由も喫煙の場合と同様であるが、しかし飲酒率は平成 25 年度入学生でさえ約半数に達している。高校時代から飲酒しているとは考えにくく、飲酒は本学入学後であろう。そうであるなら飲酒に関する本学の啓発活動が十分ではないことを物語っているのではないか。

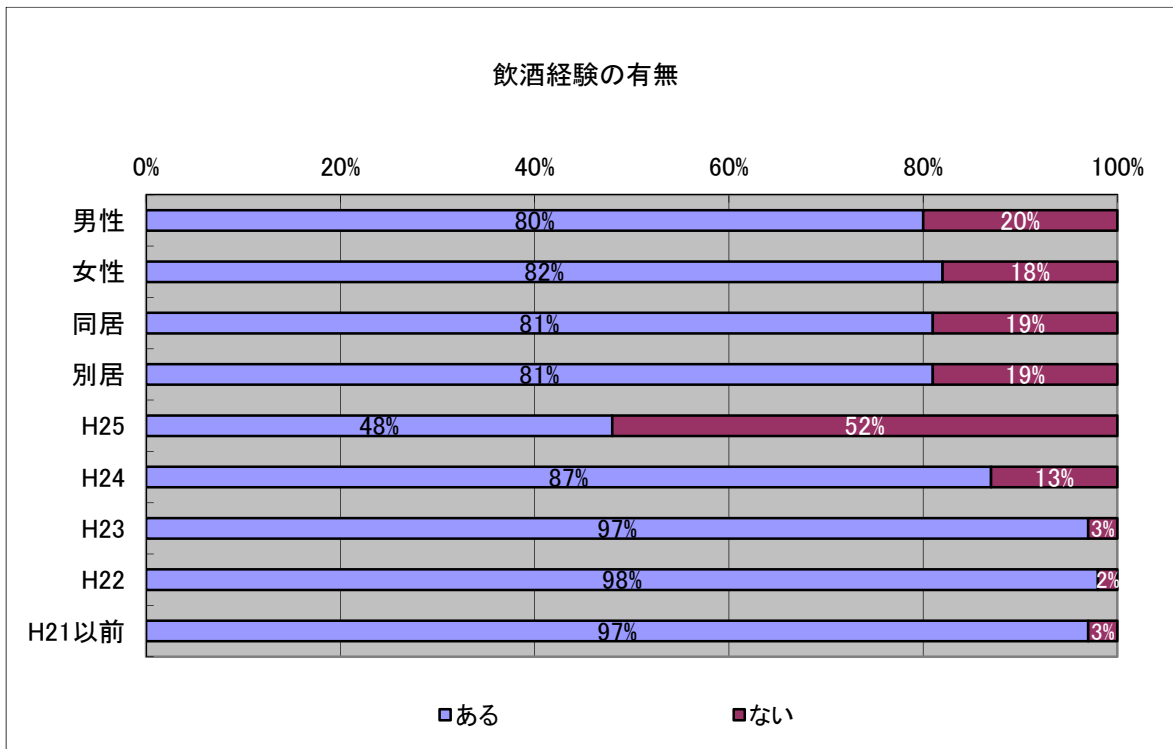
全体として見ると、約 8 割の学生が飲酒経験を有し、その頻度は「時々飲む」が最も高く、次いで割合が高い「コンパ等の時だけ飲む」を合わせれば、6 割を超える。これは男性・女性・同居・別居の全項目で共通しており、前回の調査と変わらない。

問題は「飲酒の程度」。これは今回の調査から追加された設問。まず、「医療機関で手当を受けたことがある」割合が、男女および全学年においてそれぞれで 1~2%見られる。飲酒事故は常に起こり得る状況にあったことが窺われる。

次に、男子学生においては「酔いつぶれるほど」が最も高く、42%を占める。女子学生の「酔いつぶれるほど」の割合は 22%だが、これも決して低い値ではないはず。上述の「飲む頻度」はそれほど高くないことを考えれば、アルコールに対する自分の限界を把握できてない学生が少なくないように見受けられる。

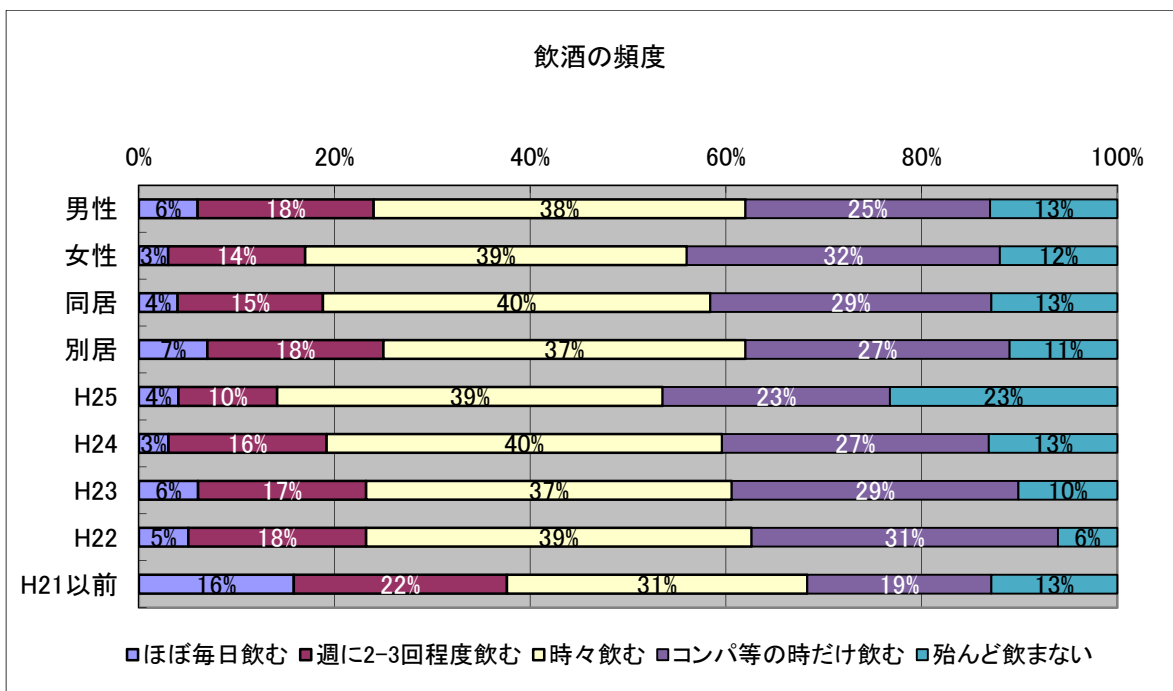
飲酒経験の有無（問1・問2・問18・問56）

問56 飲酒経験はありますか。



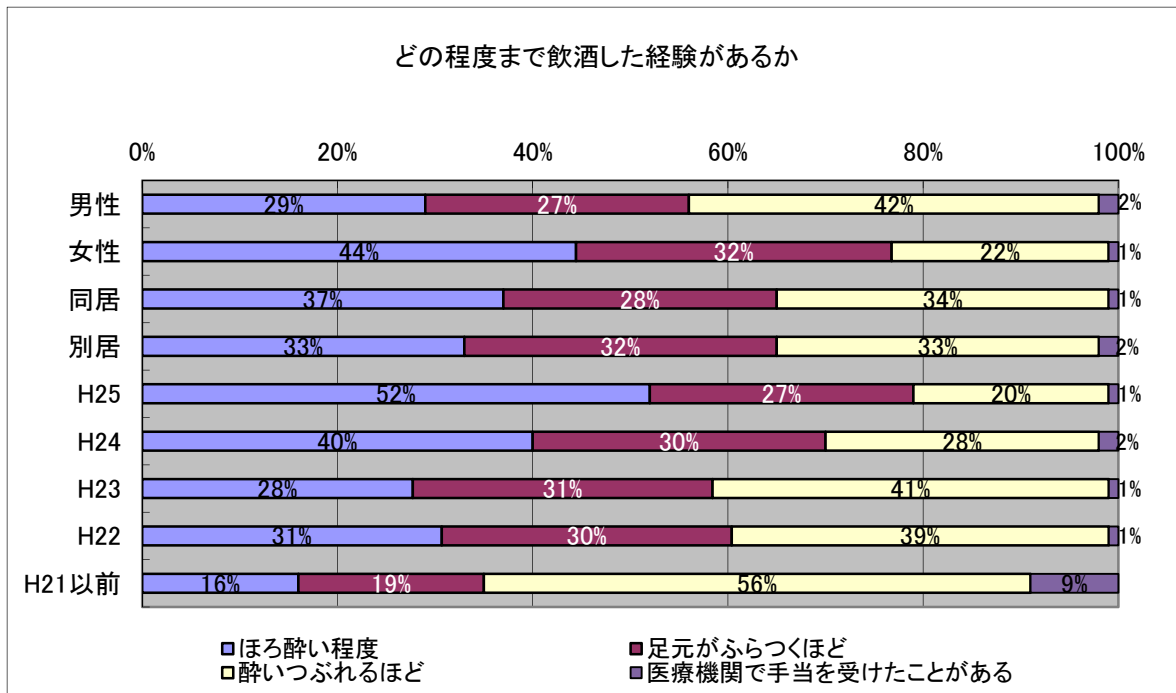
飲酒の頻度（問1・問2・問18・問57）

問57 飲酒の頻度はどの程度ですか。



どの程度まで飲酒した経験があるか（問1・問2・問18・問58）

問58 どの程度まで飲酒したことがありますか。

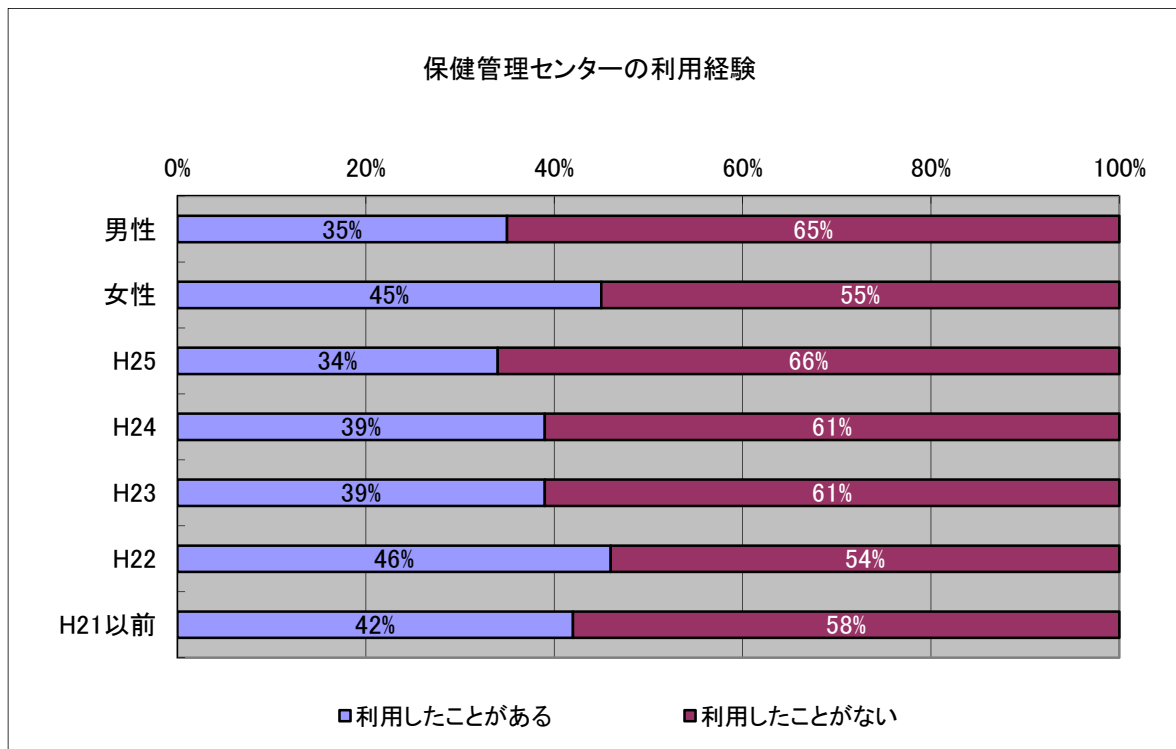


(5) 保健管理センターの利用経験、利用理由

約4割の学生が保健管理センターを利用しており、利用の理由については「その他」を除けば、「健康相談のため」が最も多く、次いで「ケガをしたため」が多い。

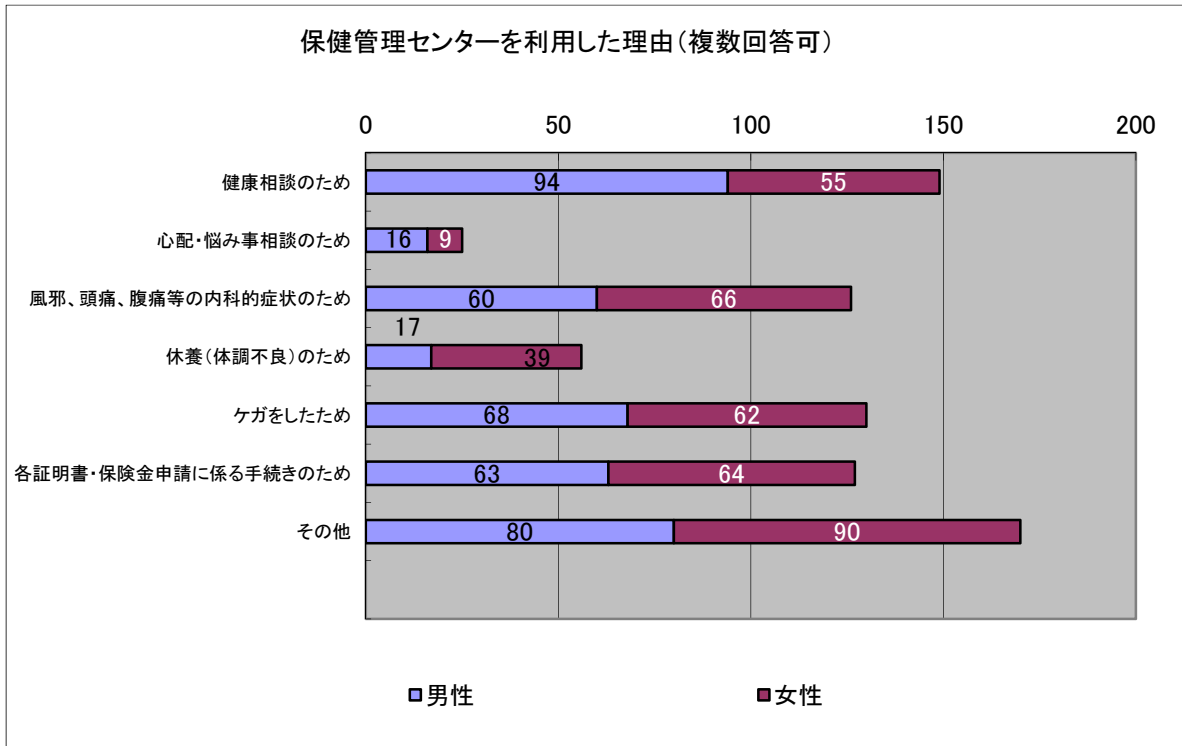
保健管理センターの利用経験（問1・問2・問59）

問59 定期健康診断以外で保健管理センターを利用したことがありますか。



保健管理センターを利用した理由（問2・問60）

問60 保健管理センターを利用したのはどういう理由からですか。（複数回答可）

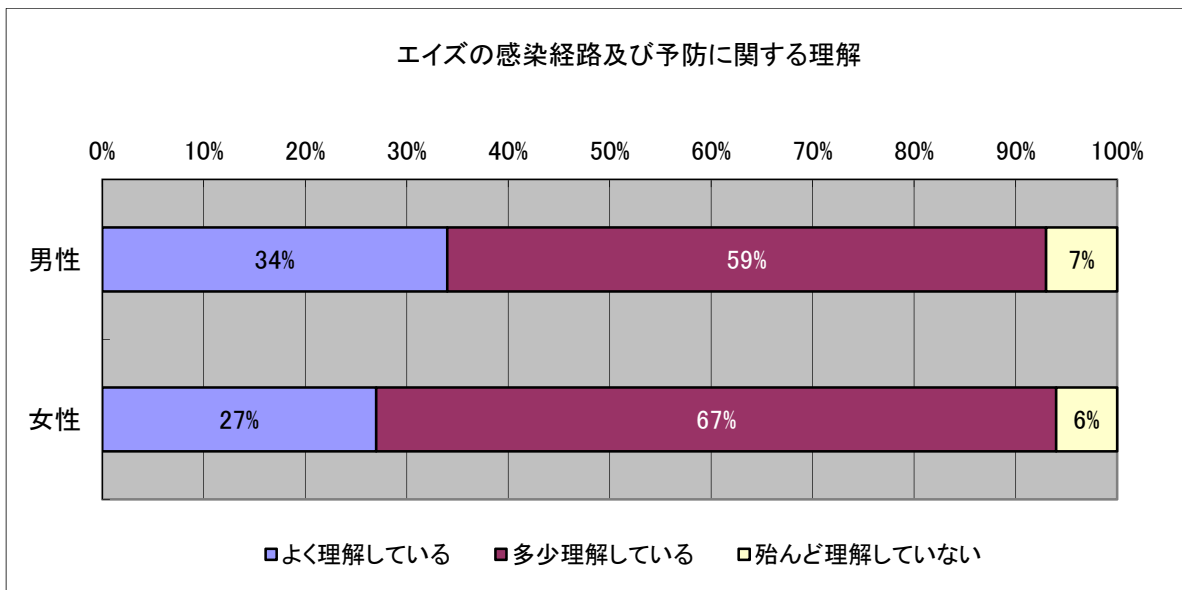


(6) エイズの感染経路及び予防に関する理解

「よく理解している」割合は男子学生においてやや高く、これは前回の調査と同じ。なお、前回の調査においては、「よく理解している」男子学生の割合は33%、女子学生の割合は23%であり、男女差が僅かながら減少している。

エイズの感染経路及び予防に関する理解（問2・問61）

問61 エイズ（A I D S）の感染経路及び予防について理解していますか。



10 友人・悩みについて

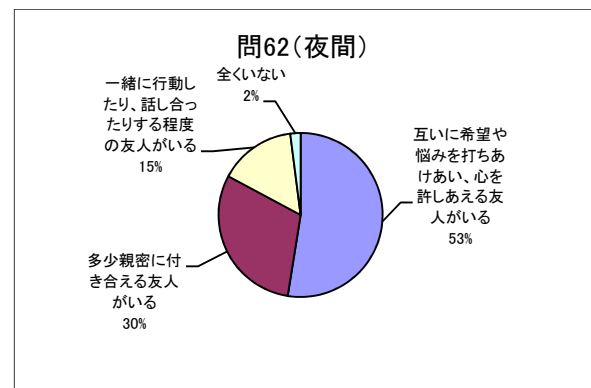
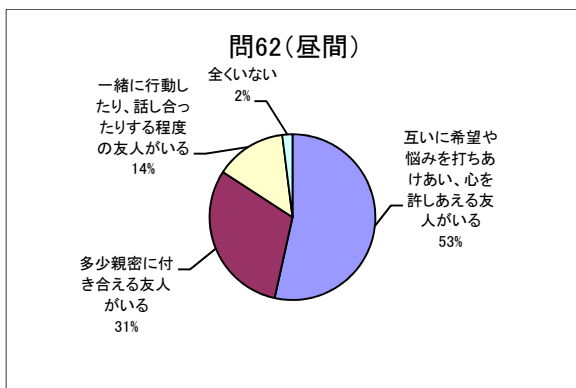
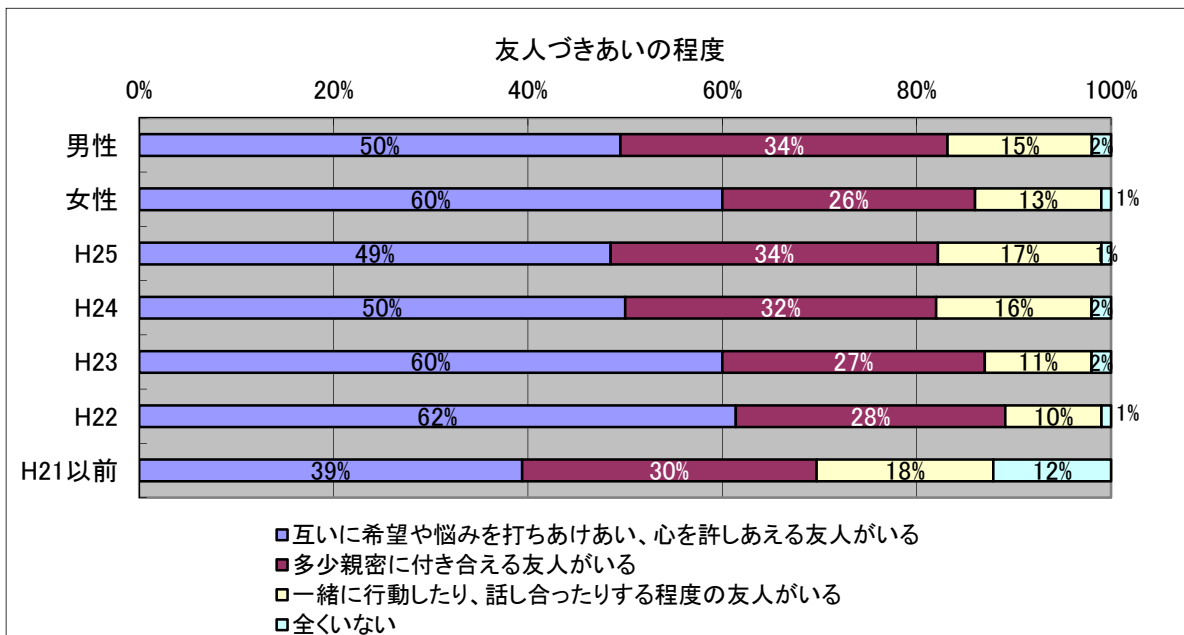
(1) 友人づきあいの程度

若い学年と古い学年を比較すると、後者は「互いに希望や悩みを打ちあけあい、心を許しあえる友人がいる」の割合が相対的に高く、「一緒に行動したり、話し合ったりする程度の友人がいる」の割合が相対的に低い。これは、「友人を見つけたきっかけ」（下記(2)の設問)の回答として「サークルで」の割合が最も高いことから了解されるであろう(1年生の時に赤の他人として初めて接触した者同士が、時を重ねるごとに親交を深め、やがて親友へ昇格した)。

なお、「多少親密に付き合える友人がいる」を合わせれば、男女ともに80%を上回る。

友人づきあいの程度 (問1・問2・問62)

問62 本学の学生の中でどの程度つきあえる友人がいますか。



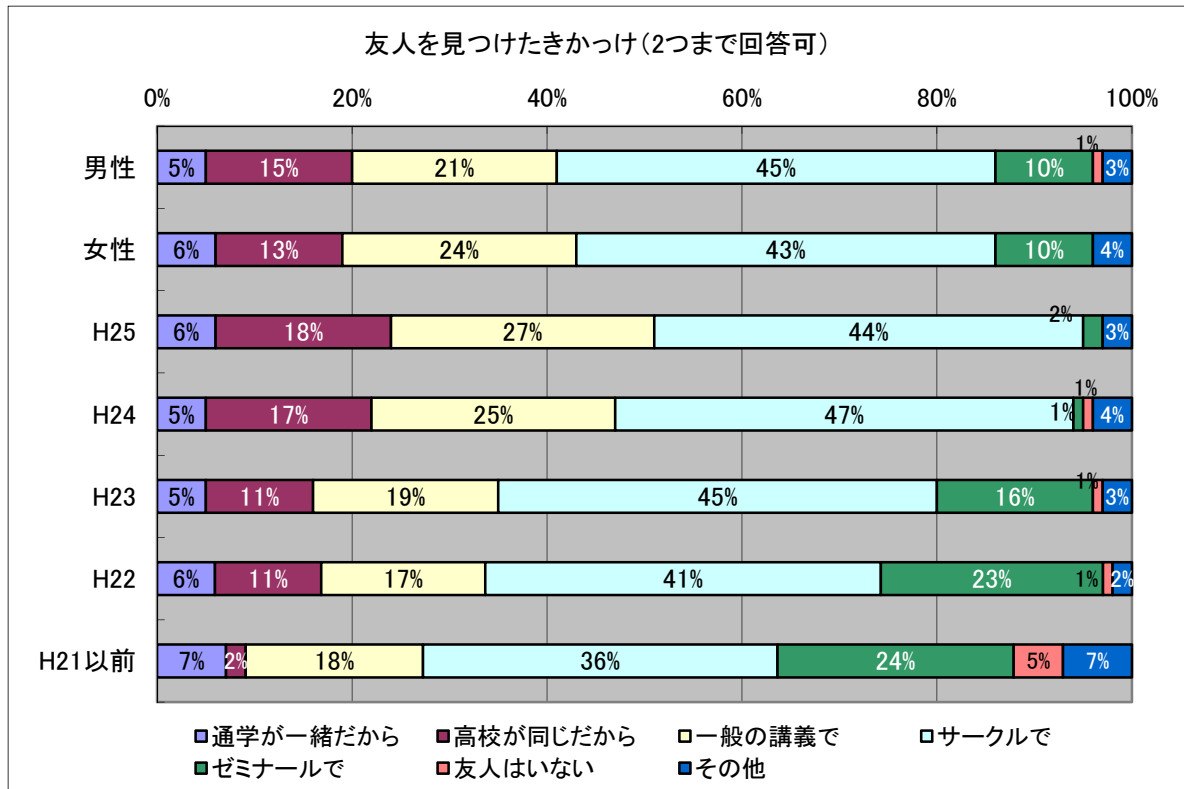
(2) 友人を見つけたきっかけ

「サークルで」が最も多い(男女および全学年ともに4割以上)。これは前回の調査と変わらない。

平成25年度及び平成24年度入学生と平成23年度及び平成22年度入学生を比較すると、前者においては相対的に「一般の講義で」の割合が高く、「ゼミナールで」の割合が低い(0%ではないのは基礎ゼミか)。これは、一方で学年が高くなれば一般講義へ出席する割合が減り、他方で3年次からゼミナールが開始されるのであるからであろう。

友人を見つけたきっかけ（問1・問2・問63）

問63 本学でどのように友人を見つけましたか。（2つまで回答可）



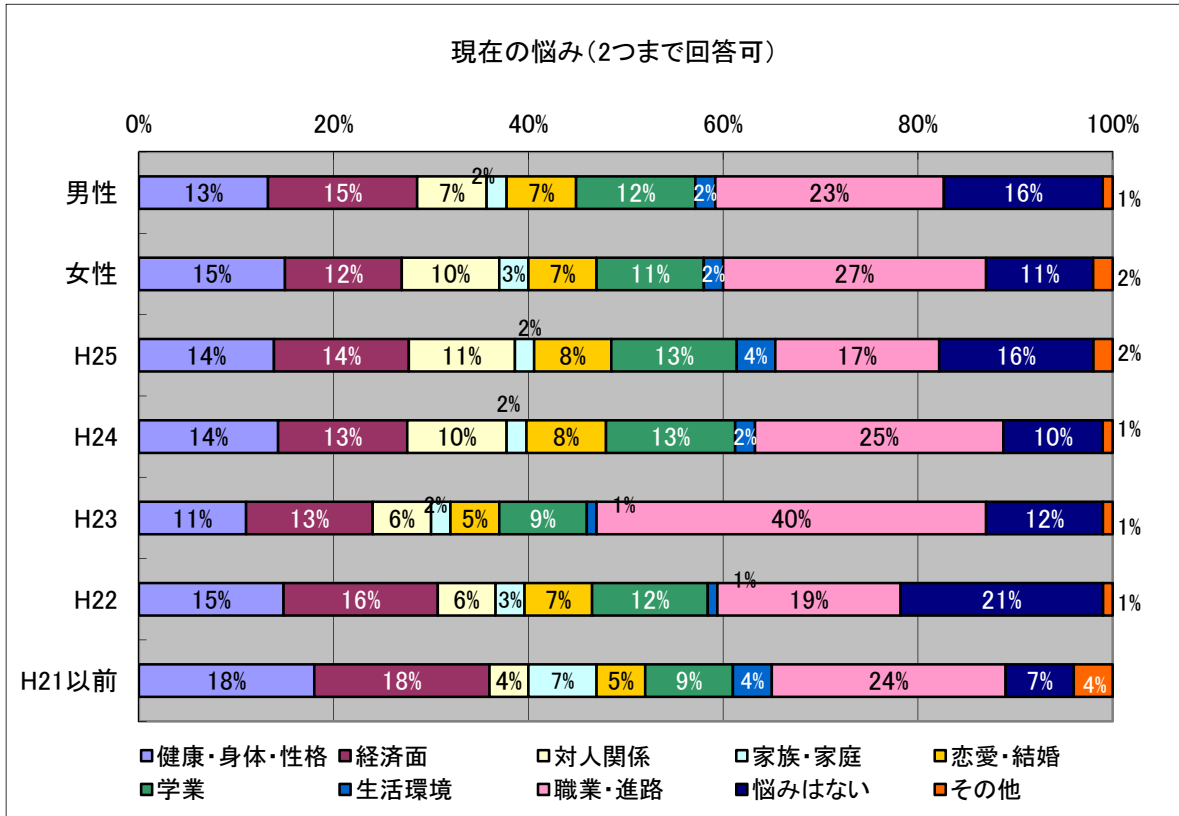
(3) 現在の悩み

男女ともに「職業・進路」の割合が最も高い。男子学生においては次いで「悩みなし」・「経済面」が続き、女子学生においては次いで「健康・身体・性格」・「経済面」が続く。前回の調査においても、「職業・進路」、「健康・身体・性格」、「経済面」が上位を占めていた点は変わらない。

なお、他の学年に比べて、就職活動を直前に控えた平成 23 年度入学生（平成 26 年 3 月現在の 3 年生）は「職業・進路」の割合が突出して高い（本調査の実施時期は平成 25 年 10 月）。ちなみに、前回の調査でも今回と同じ結果が出ている（平成 22 年度の調査実施における平成 20 年度入学生）。

現在の悩み（問 1・問 2・問 64）

問 64 現在悩みがありますか。（2 つまで回答可）



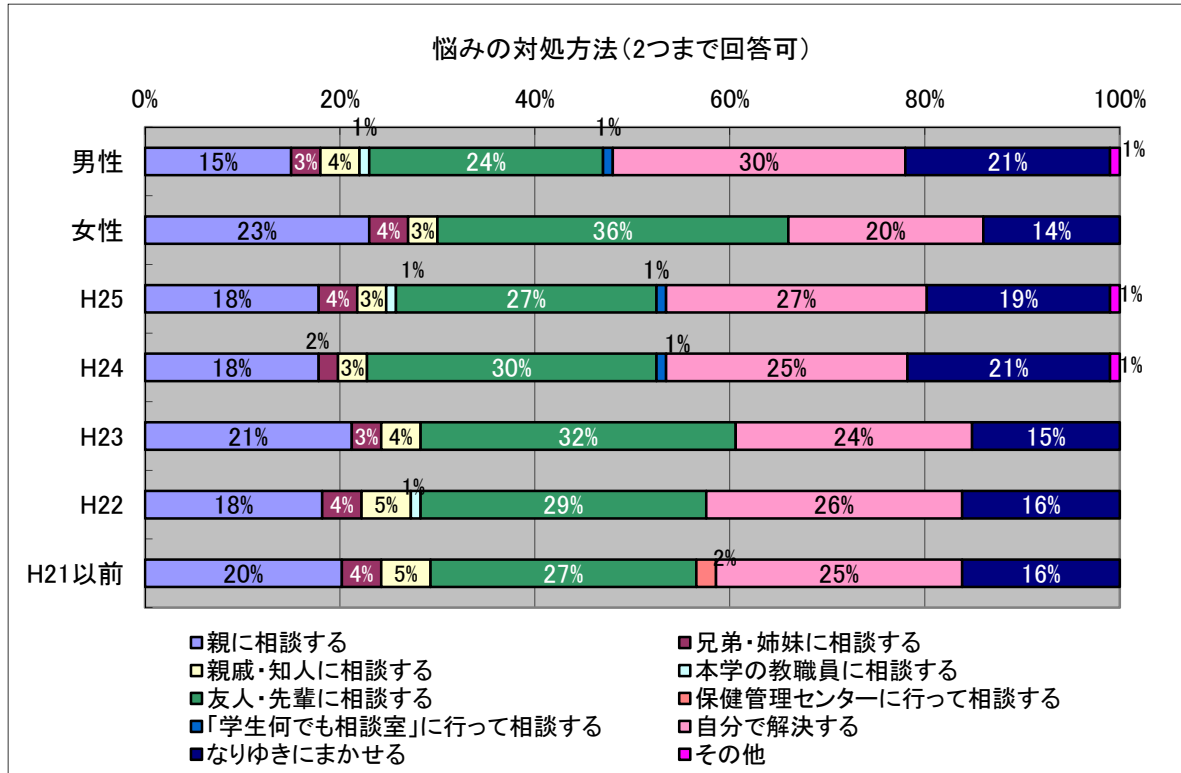
(4) 悩みの対処方法

男子学生は「自分で解決する」が最も多い(30%)。女子学生は「友人・先輩に相談する」が最も多いが(36%)、しかし「自分で解決する」割合も20%ほど存在する。上記(1)の「互いに希望や悩みを打ちあけあい、心を許しあえる友人がいる」の割合が男子学生50%・女子学生60%というアンケート結果から考えると、やや不可解ではある。これも前回の調査と同じ。

なお、「なりゆきにまかせる」が少なくない割合で見られる(男子学生21%、女子学生14%)。悩みの内容が同じであっても、その「重み」が各人によって異なることを示唆しているのでは。

悩みの対処方法（問1・問2・問65）

問65 悩みが生じた場合、どのように対処していますか。また、対処するつもりですか。（2つまで回答可）



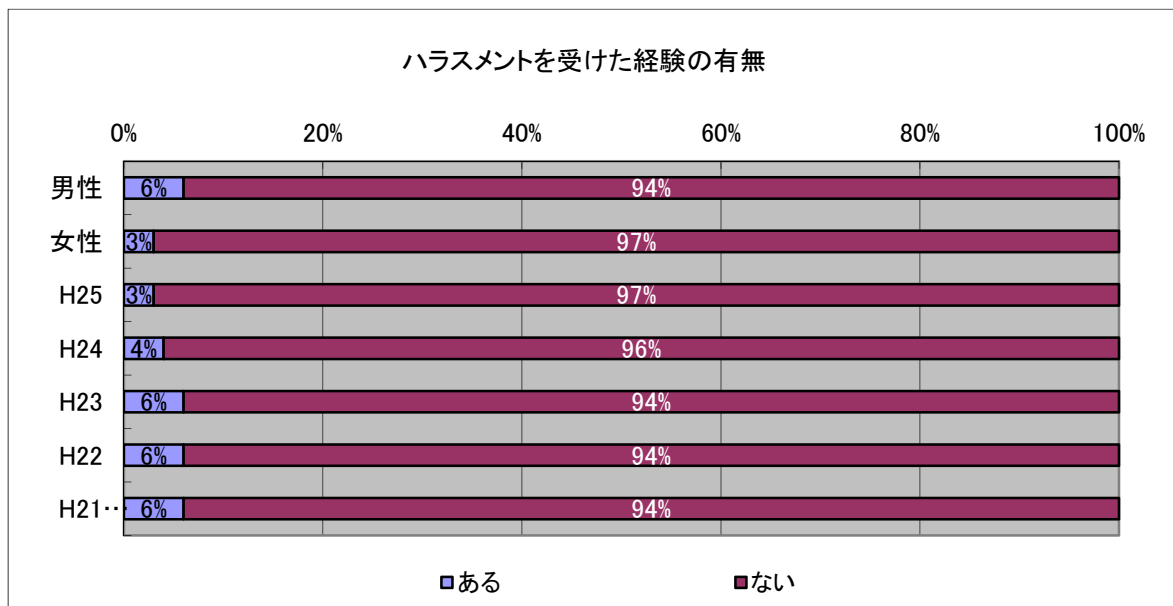
11 ハラスメントについて

(1) ハラスメントを受けた経験の有無

前回の調査と比べて、ハラスメントを受けた割合は、男子学生・女子学生ともに2ポイント減少している。

ハラスメントを受けた経験の有無（問1・問2・問66）

問66 本学の教職員、先輩、友人などからハラスメント（種々のいやがらせ）を受けたことがありますか。

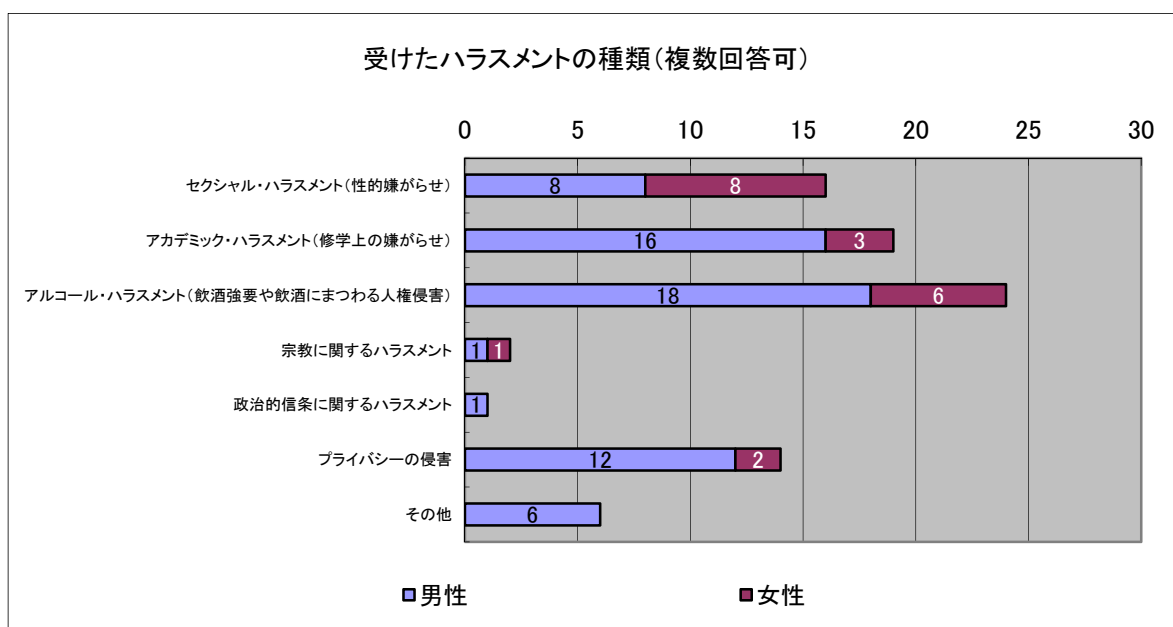


(2) 受けたハラスメントの種類

前回の調査においてはアンケート項目にすら挙げられていなかった「アルコール・ハラスメント」が最も多い。飲酒問題を軽視していた大学側の実態が浮き彫りになっている。アルハラに次いで「アカデミック・ハラスメント」、「セクシャル・ハラスメント」の順に多い点は、前回の調査と同じ。

受けたハラスメントの種類（問2・問67）

問67 どのようなハラスメントを受けましたか。（複数回答可）

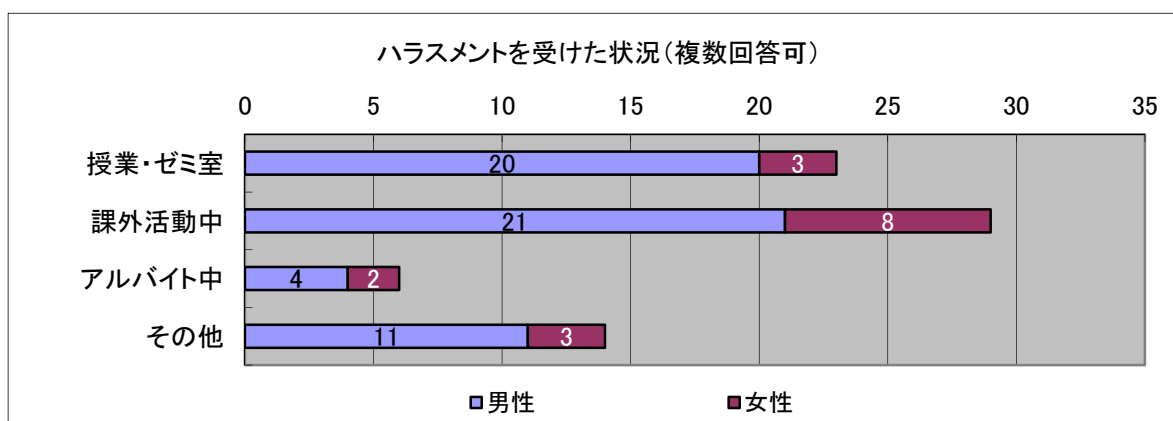


(3) ハラスメントを受けた状況

上記(2)に対応するように、「課外活動中」が最も多く、次いで「授業・ゼミ室」が多い。飲酒の頻度として「コンパ等の時だけ飲む」の割合が相対的に高い(問57)ことを考えれば、アルコール・ハラスメントは部活やサークルにおいて生じている可能性が高い。もちろん、ゼミナールの飲み会を「コンパ等」にカウントするならば、教員によるアルコール・ハラスメントも否定できない。また、授業・ゼミ室におけるアカデミック・ハラスメントについては、教員が加害者である可能性が高い。

ハラスメントを受けた状況(問2・問68)

問68 どのような状況でハラスメントを受けましたか。(複数回答可)



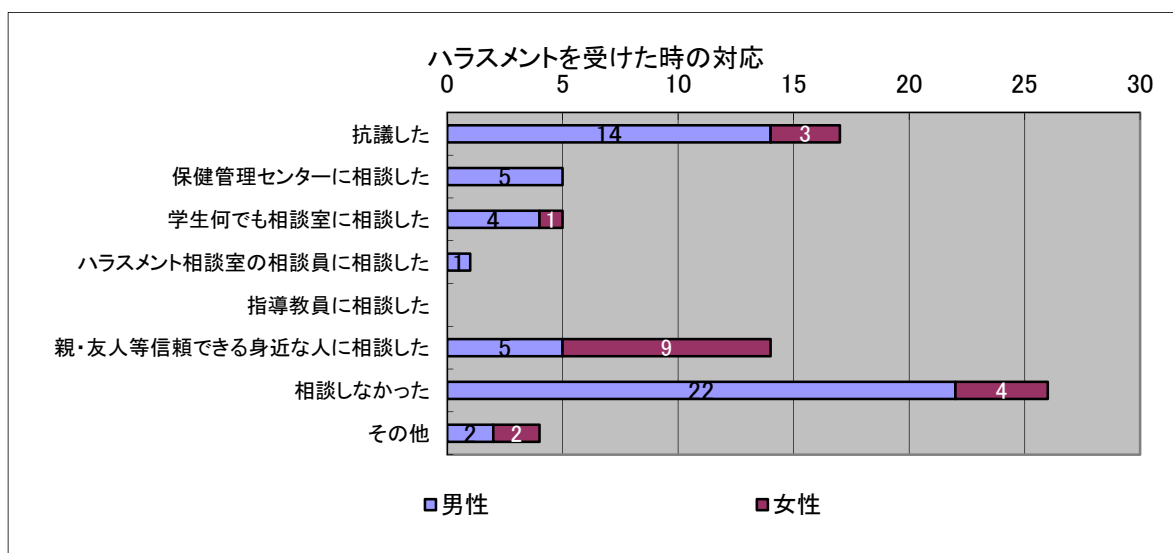
(4) ハラスメントを受けた時の対応

「指導教員に相談した」者は皆無であった。加害者に相談する被害者はいない。教員の側にも、加害者となり得る、という観点からハラスメントについて学ばせる機会を用意する必要があるように思われる。

そもそも、「相談しなかった」という回答が最も多く、これは「悩みの対処方法(問65)」の回答として「自分で解決する」・「なりゆきにまかせる」割合が高かったことと照応している。大学側としては、相談させる、という受け身の姿勢だけでは問題を捉え切ることができず、学生が抱える悩みを積極的に探知していく仕組みも必要なのではないか。

ハラスメントを受けた時の対応(問2・問69)

問69 ハラスメントに対してどのように対応しましたか。(複数回答可)



12 カルト、薬物について

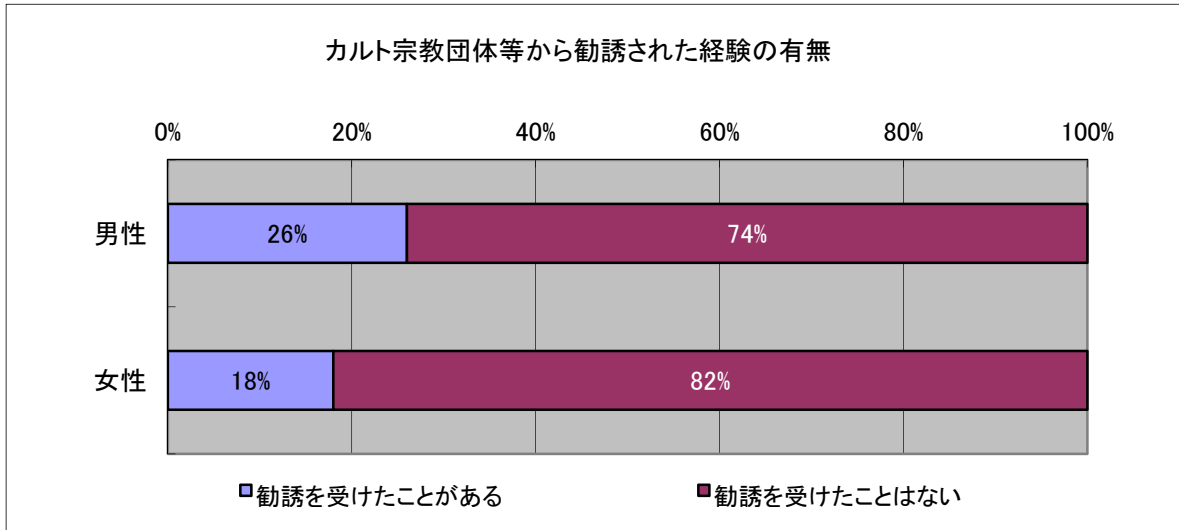
本調査項目は新規に設けられたものであり、前回までの調査と比較して新たな特徴を探り出すということとはできないが、以下、重要と思われる点を指摘しておく。

カルト宗教団体等から勧誘された経験をもつ者は、女性よりも男性の方が多く、男性全体の26%に達している。友人が勧誘されたのを見聞したケースは、全体として比率は下がる。

大麻や脱法ドラッグの使用を勧められた経験も、男性の方が多く、男性全体の3%と僅かであった。友人が勧められたのを見聞したケースは、自分が勧められたケースよりも高い比率となっている。

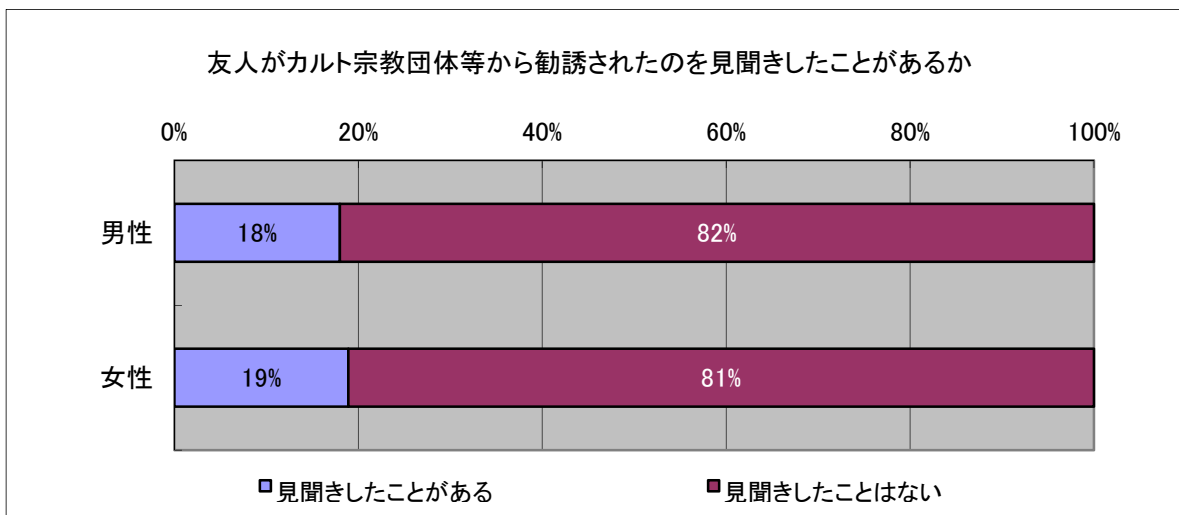
(1) カルト宗教団体等から勧誘された経験の有無 (問2・問70)

問70 カルト宗教団体、自己啓発セミナーから勧誘を受けた経験がありますか。



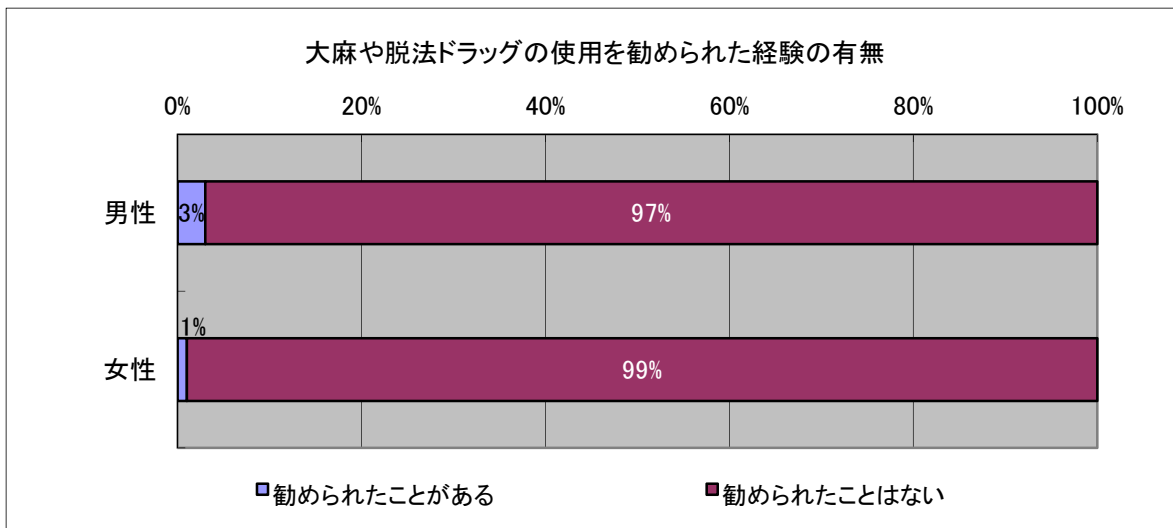
(2) 友人がカルト宗教団体等から勧誘されたのを見聞きしたことがあるか (問2・問71)

問71 友人がカルト宗教団体、自己啓発セミナーから勧誘を受けて困っているのを見聞きしたことがありますか。



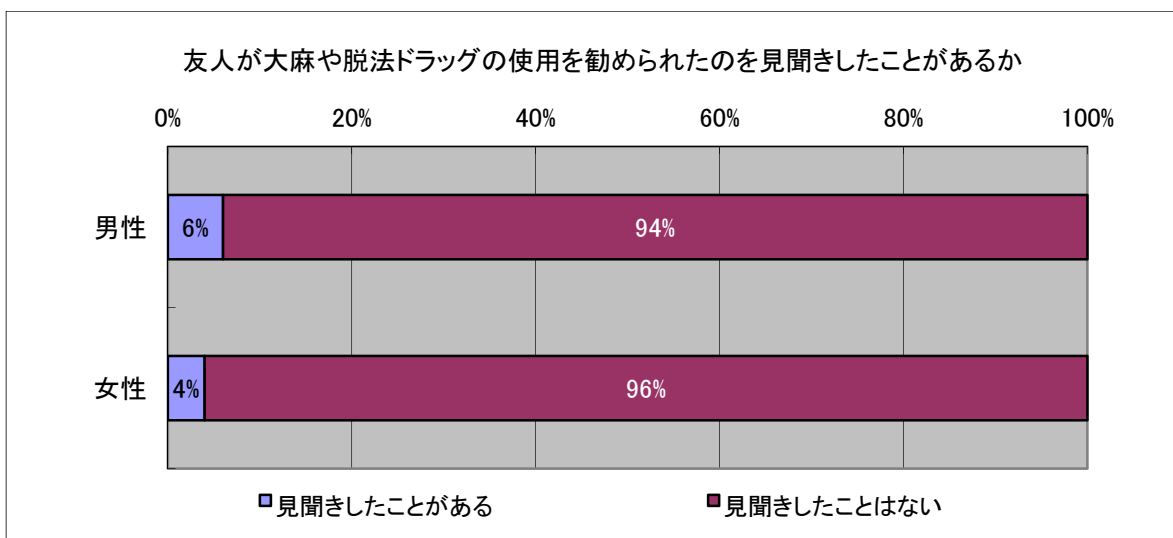
(3) 大麻や脱法ドラッグの使用を勧められた経験の有無 (問2・問72)

問72 大麻や違法ドラッグ (いわゆる脱法ドラッグ) の使用を勧められたことがありますか。



(4) 友人が大麻や脱法ドラッグの使用を勧められたのを見聞きしたことがあるか (問2・問73)

問73 友人が大麻や違法ドラッグ (いわゆる脱法ドラッグ) の使用を勧められたのを見聞きしたことがありますか。



13 就職について

(1) 卒業後の進路

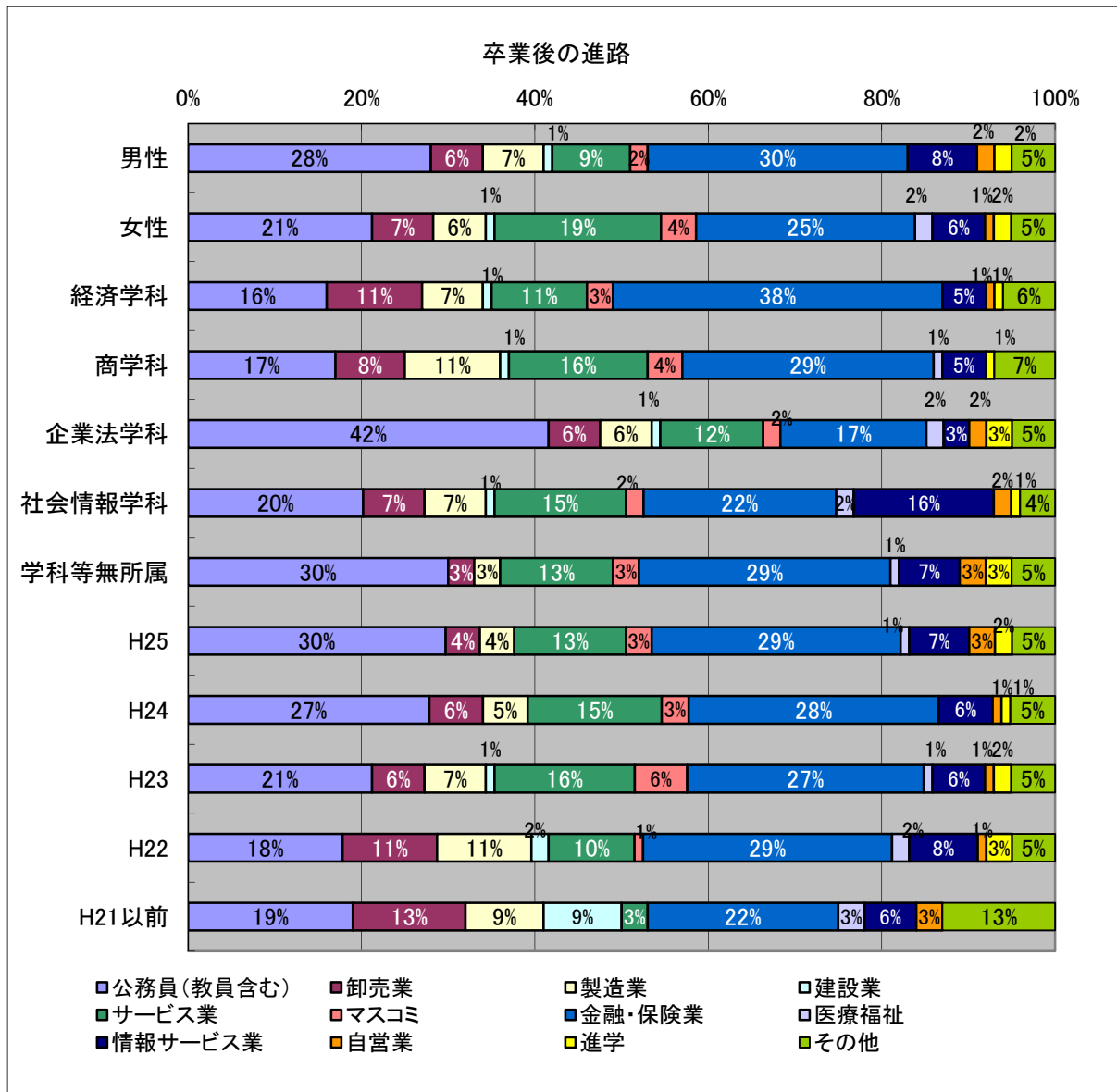
男女ともに、「金融・保険業」と「公務員（教員含む）」の割合が高い。なお、男女別で見ると、女子学生においては「サービス業」の割合が高い点は特徴的である。

学科別の傾向として、経済学科および商学科では「金融・保険業」の割合が高く、これに対して企業法学科では「公務員（教員含む）」の割合が高い。社会情報学科は「金融・保険業」の割合と「公務員（教員含む）」の割合はほぼ同じであるが、その代わりに「情報サービス業」の割合が相対的に高い。

なお、学年が若いほど公務員を希望する学生が多い。不況の影響か・・・と思いきや、前回の調査（の時点）でも学年が若いほど公務員を希望する学生が多かった。つまり、時代の影響というよりも（「商学部」の単科大学において公務員を希望する学生の割合が相対的に高いこと自体は不況の影響かもしれないが）、むしろ当初は漠然と公務員を目指していたものの、その後別の進路を見出したか、あるいは公務員試験勉強から脱落したか、あるいは・・・いずれであるかは本調査から窺い知ることはできない。

卒業後の進路（問1・問2・問4・問74）

問74 卒業後の進路をどのように考えていますか。あるいはどこに決まりましたか。（決まっていないときは第一志望）



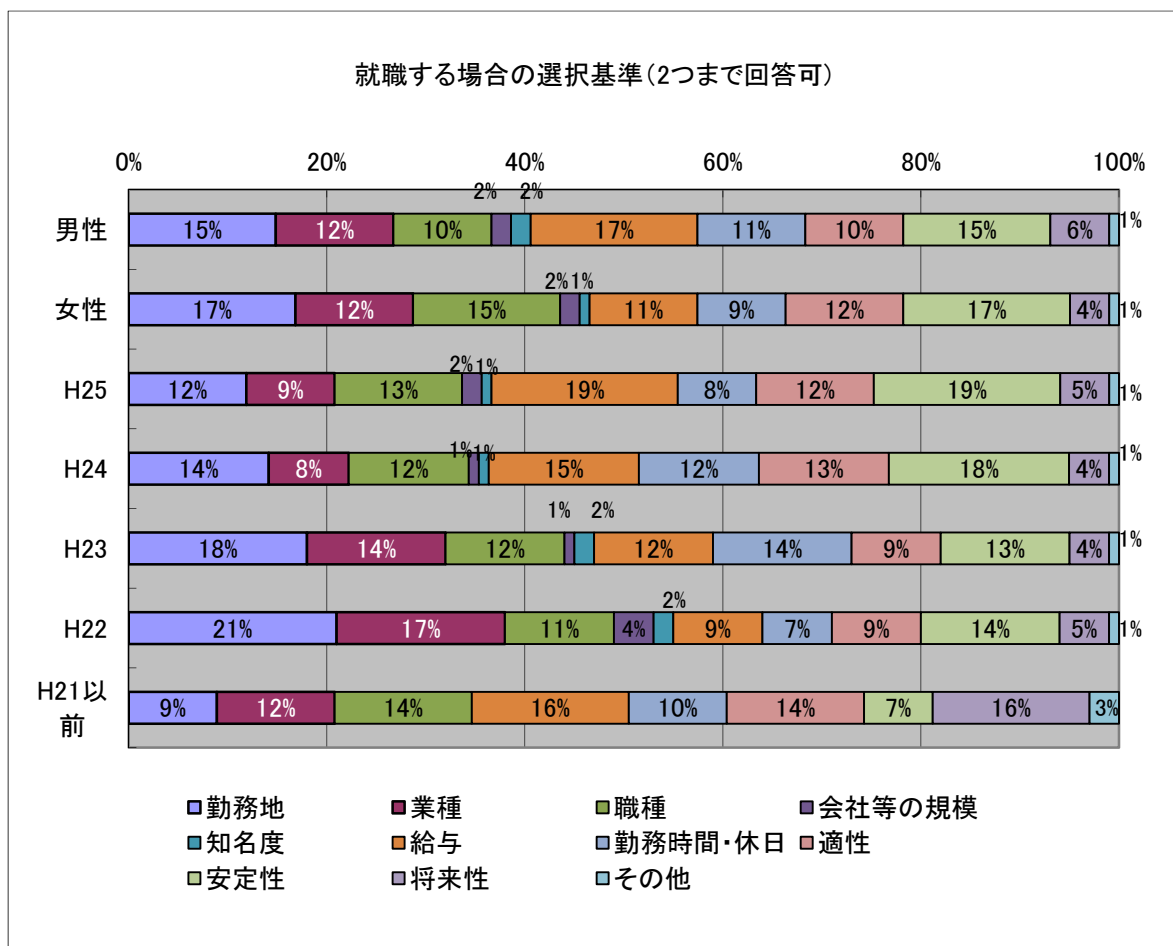
(2) 就職する場合の選択基準

男子学生においては、「給与」の割合が最も高い。前回の調査では、「勤務地」が最も高かった。とはいえ、今回と前回の調査の差は1~2ポイントである。

女子学生においては、「勤務地」と「安定性」が同じ割合で高い。これは前回の調査と同様である。

就職する場合の選択基準（問1・問2・問75）

問75 就職する場合に何を基準に考えますか。あるいは考えましたか。（2つまで回答可）

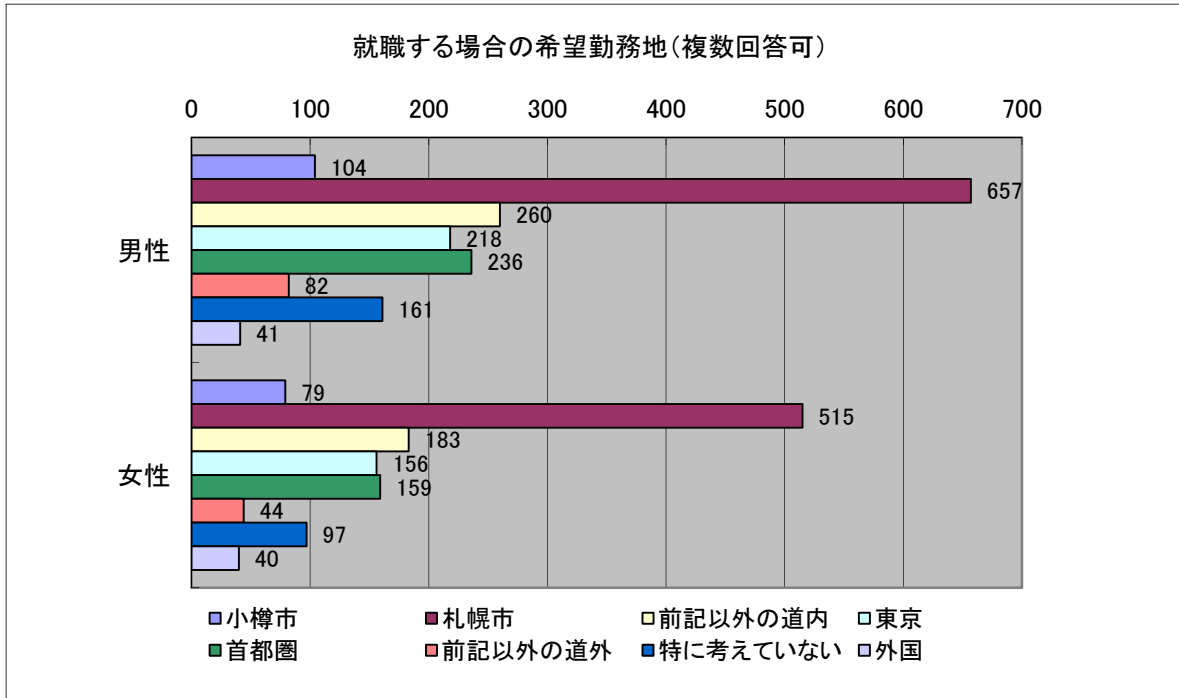


(3) 就職する場合の希望勤務地

男女ともに「札幌市」を希望する者が圧倒的に多い。これは前回の調査と同様である。前回の調査によれば、次に多い希望は「特に考えていない」であった。これに対して、今回の調査で次に多い希望は「前記以外の道内」であった。もっとも、前回の調査で「特に考えていない」と回答した者の中にも最終的には道内を希望した者がいたことは十分に考えられるので、前回にも増して道内志向が強まったのかどうか、は判断しがたい。

就職する場合の希望勤務地（問2・問76）

問76 就職する場合に勤務地はどこを希望しますか。（複数回答可）



(4) 専門学校への通学状況

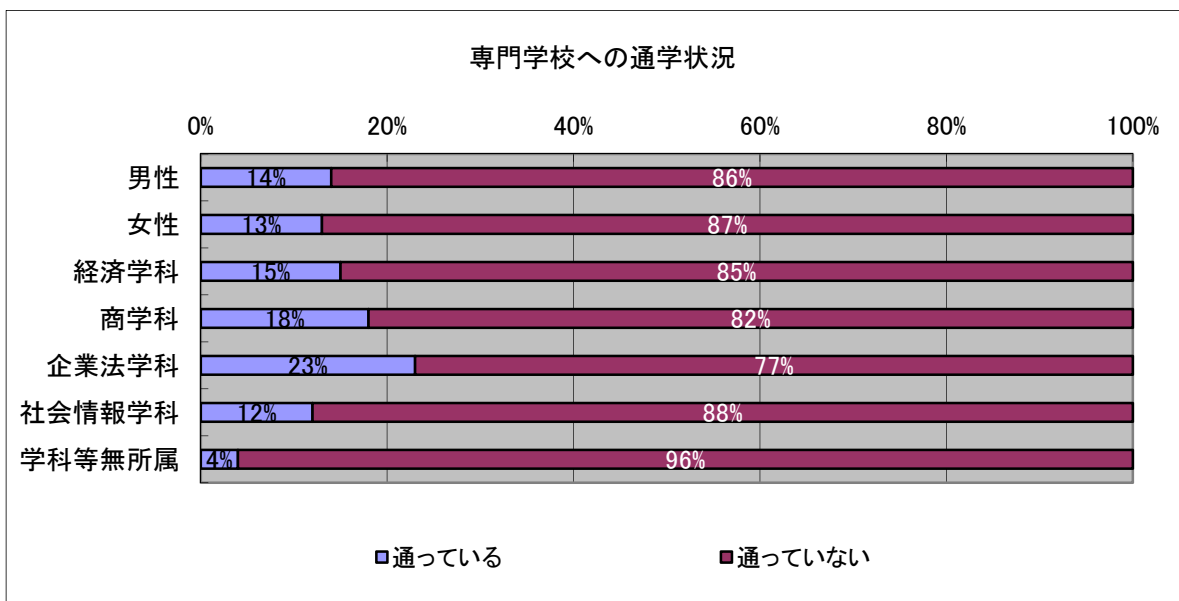
専門学校に通う学生の割合は、女子学生に比べて、男子学生が高い。学科別で見ると、企業法学科が最も高く、次いで商学科が高い。

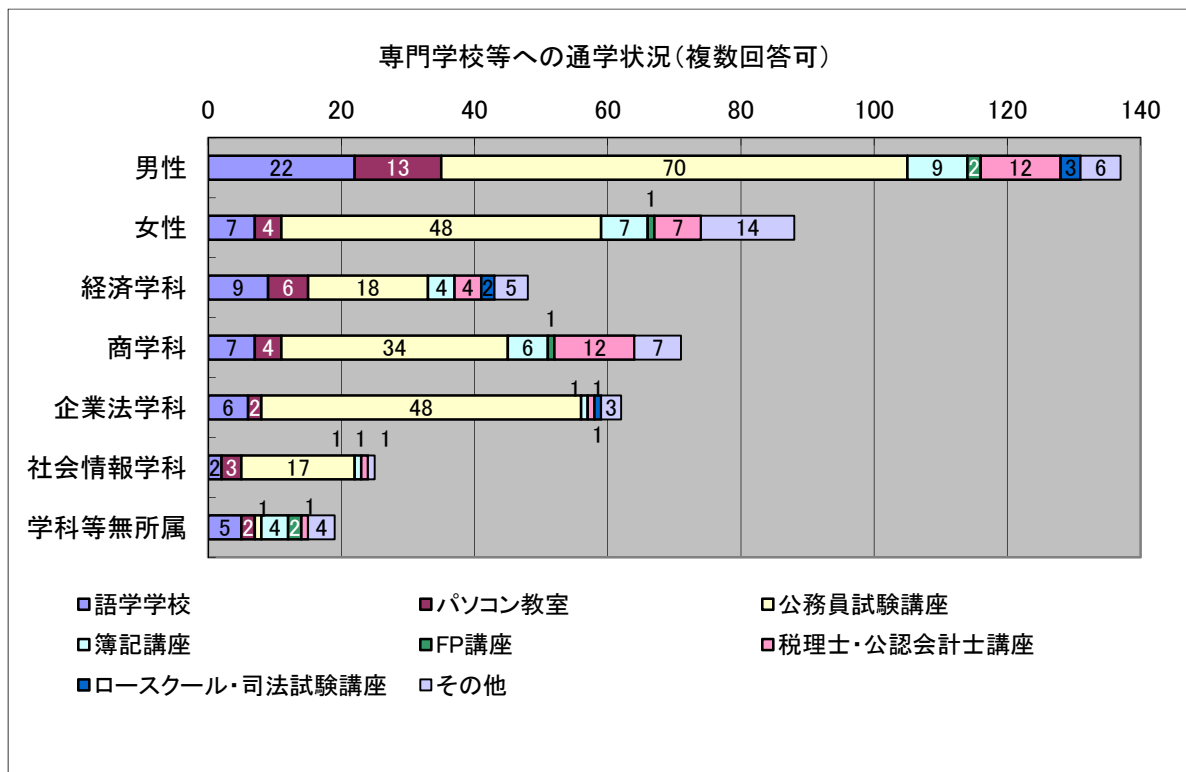
専門学校における講座については、男女別および学科別においても、「公務員試験講座」が最も多い。

なお、商学科においては専門学校へ通う学生数が多く、その中でも特に公務員試験講座を受講する者が多いにもかかわらず、卒業後の進路（希望を含む）として公務員が相対的に少ない（問74）。希望進路が実現できていないのか、それとも希望進路を途中で変更したのか等、気になるところである。

専門学校への通学状況（問2・問4・問77）

問77 将来の就業のために、各種専門学校等に通っていますか。あるいは通っていましたか。（複数回答可）



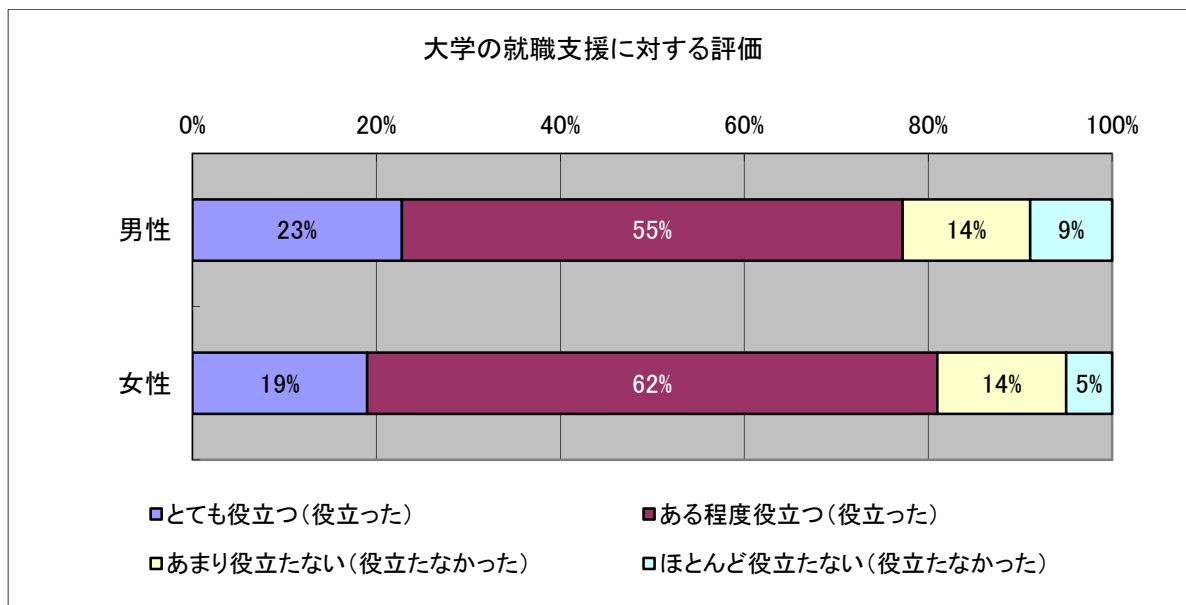


(5) 大学の就職支援に対する評価

今回の調査から追加された設問。男女ともに「役立った」が約8割に達している。しかし、裏を返せば、約2割の学生にとっては「役立たなかった」のであるから、大学側としては厳しい評価と見るべきだろう。

大学の就職支援に対する評価 (問2・問78)

問78 就職活動に関して、大学の支援はどのくらい役立っていますか。あるいは役立ちましたか。

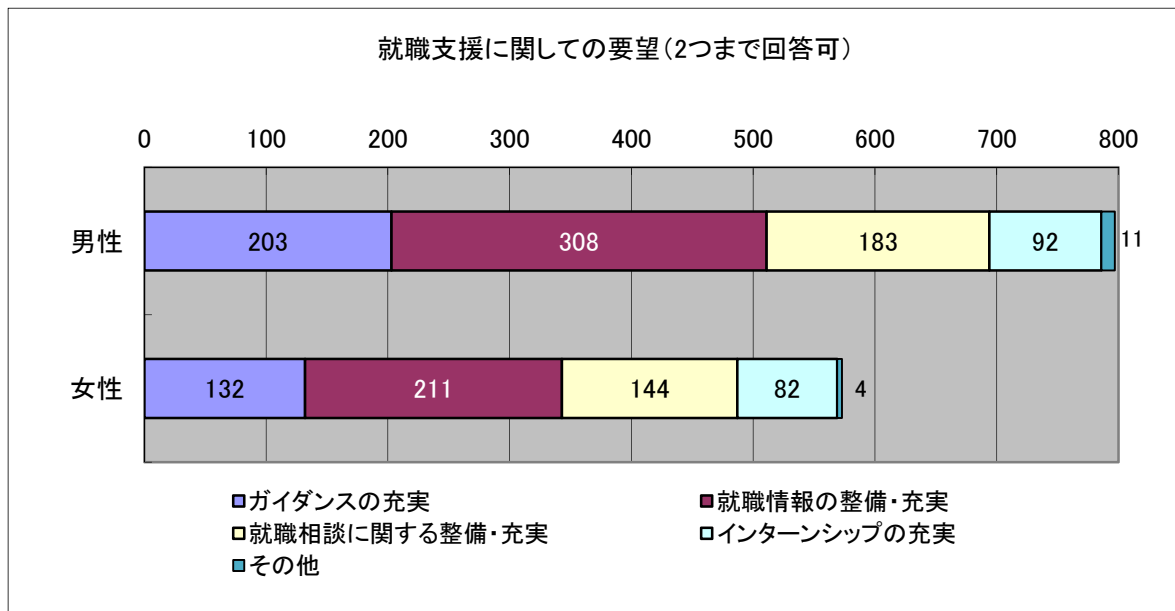


(6) 就職支援に関する要望

男女ともに「就職情報の整備・充実」が多数を占める。これは前回の調査結果と変化なく、大学側の改善が不十分であることが窺われる。上記(5)のアンケート結果を考え合わせるなら、就職支援の要望のみならず、就職支援の不満点を聞き取るアンケートも必要なのではないだろうか。

就職支援に関する要望（問2・問79）

問79 就職に関して、大学にどのような要望がありますか。（2つまで回答可）



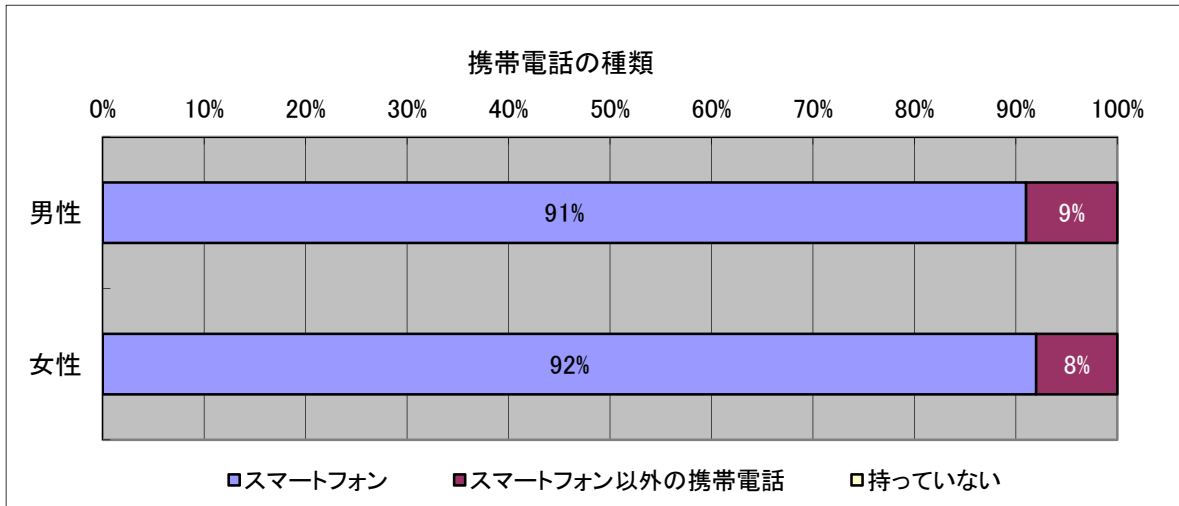
14 その他

(1) 携帯電話の種類

今回の調査から追加された設問。全員が携帯電話を所持し、その中でも「スマートフォン」の所持率が男女ともに9割を超えている。

携帯電話の種類（問2・問80）

問80 携帯電話はどのようなものを使っていますか。

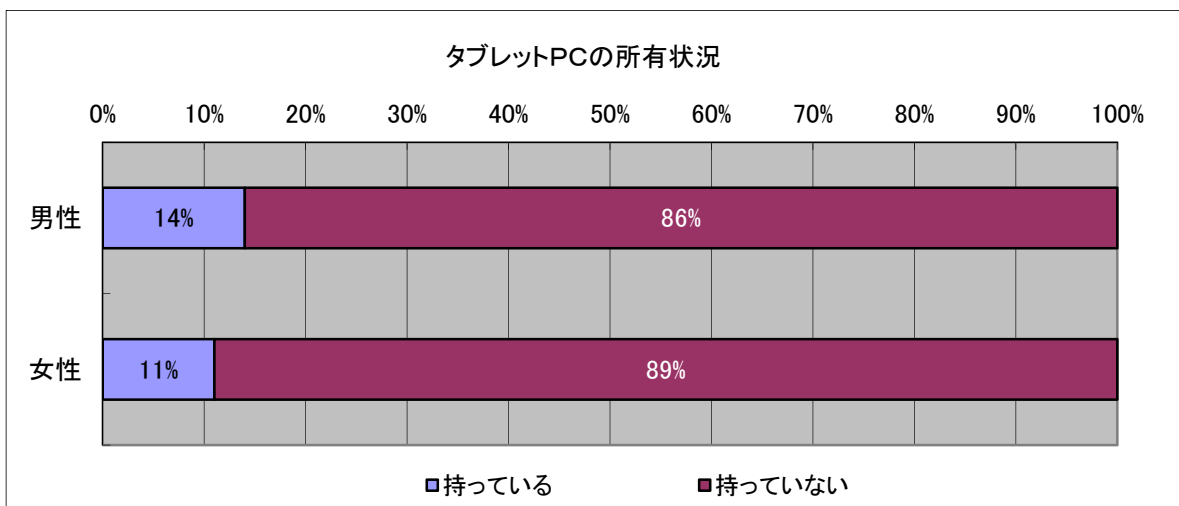


(2) タブレットPCの所有状況

今回の調査から追加された設問。タブレットPCの所持率は約1割であった。タブレットPCは決して安価ではなく、またタブレットPCの機能はスマートフォンで代用できる部分も多いことから、上記(1)の結果も考え合わせれば、当然の結果と言えるかもしれない。

タブレットPCの所有状況（問2・問81）

問81 タブレットPC端末を持っていますか。

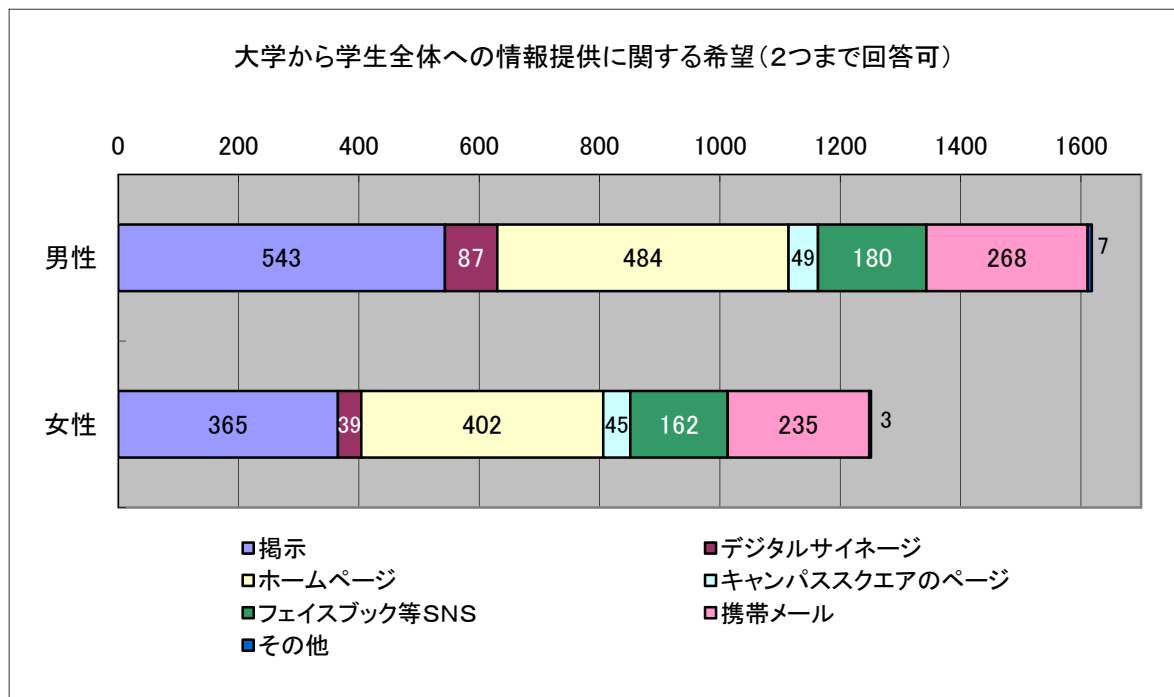


(3) 大学から学生全体への情報提供に関する希望

今回の調査から追加された設問。男女ともに「掲示」と「ホームページ」が多数を占めた。

大学から学生全体への情報提供に関する希望（問2・問82）

問82 大学からの情報提供（学生全体へのお知らせ）はどのような連絡方法がよいと思いますか。（2つまで回答可）



Ⅲ 学生生活実態調査「自由意見」

自由意見に対するコメント	83
「自由意見」	
1. 授業、成績に関すること	85
2. 通学に関すること	88
3. 施設、整備、環境に関すること	88
4. 就職に関すること	92
5. 課外活動に関すること	92
6. 学生センターに関すること	93
7. 図書館に関すること	94
8. 情報処理センターに関すること	94
9. 喫煙に関すること	94
10. 飲酒に関すること	95
11. 大学からの情報提供に関すること	95
12. 大学生協に関すること	97
13. アンケートに関すること	97
14. その他	97

今回の調査から、自由意見に対してもコメントを付すこととした。実に様々な意見が寄せられ、その全てに回答することはできないが、特に意見の多かった「大学の冷暖房施設について」（39件）、「キャンパススクエアの学外閲覧について」（24件）、「抽選による履修決定について」（17件）、「図書館の改修工事について」（17件）、「学務課の対応について」（13件）と「構内禁酒について」（3件）に関して、順次、コメントする。なお、このコメントは、副学長を含めた学生生活実態調査専門委員会メンバーによるものである。

(1) 大学の冷暖房施設について

講義室・ゼミ室が寒いとの意見が多数あったが、本アンケートの調査時期が暖房運転の開始時期（毎年10月20日前後）の前だったことも影響していると思われる。

講義室・ゼミ室に比べ、学務課は暖かいではないかとの意見もあった。これは、暖房設備の違いが要因であろう。学務課（正確には事務棟）や図書館、研究棟の一部は空調（エアコン）ではなく、ボイラー通気のため、部屋単位での室温調節ができず、暖めるときは一気に通気する必要があるため、どうしても一時的に暑い状況になる。理解してほしい。

これまで学生の意見を受け止め、空調の設定温度を上げるなど改善に努めてきたが、今回のアンケートにより一層の改善が必要だと分かった。

学生諸君に快適な学習環境を提供するため、暖房運転時期の見直しを含め、引き続き検討と改善を図ってきたい。

(2) キャンパススクエアの学外閲覧について

大学でしか成績の確認等が行えないのは不合理であり、これを自宅で可能にしてほしい、という自由意見が多く見られた。本学では札通生が多い現状を考えれば、当然の主張であろう。

キャンパススクエアの学外閲覧を実現するためには、セキュリティ確保のため、特別な予算が必要になるが、予算措置の目処が立ったため、早ければ平成27年度から実現できそうである。

(3) 抽選による履修決定について

抽選という方法では取りたい講義が必ずしも取れないので、他の方法を用意してほしい、という自由意見が多かった。学問の機会が時の運によって奪われることは納得できない、という主張は一理ある。

現在、抽選によって履修制限を行うのは、通常、大教室を用意しても座席数以上の履修希望者が殺到して授業が成り立たない、という場合である。ただし、このような履修制限が望ましいとは考えていない。

だが、どのような代替案が考えられるだろうか。まず、「自学科の学生を優先すべき」という意見が見られた。しかし、これは学科の垣根を越えて幅広く学業を修めることができる、という本学の良さを損なわせる。また、学科選抜の成績を基礎づける講義それ自体が抽選である可能性もあり、自学科の学生を優先させることは必ずしも妥当であるとは言いがたい。

では、「成績優秀者を優先する」という方法はどうか。これも妥当ではない。優秀な成績を取るために優秀な成績を取りやすい講義に学生が殺到するかもしれない、そうなれば、学びたい講義内容を学べない、という本来の主張から外れる事態になりかねない。

現在、一部の科目に履修者が過度に集中しないように時間割を工夫したり、同一講義の2クラス開講なども行っている。しかし、これで十分な対応ができているわけではなく、止むを得ず抽選による履修制限も行っている。大規模人数授業の解消のため、さらに検討を重ねていきたい。

また、もし学生諸君が希望する講義の抽選から漏れたとしても、研究室を訪ねる等して、希望する教員から指導を受けることは可能である。ここは学生諸君の積極的な工夫も求めたい。

なお、抽選よりも優れた方法について何かアイデアがある学生諸君は、ぜひアイデアを出してほしい。その際は、抽選を行う講義を担当している教員に相談するのがいいだろう。抽選を行う教員自身も腑に落ちない気持ちを抱いているかもしれないから。

(4) 図書館の改修工事について

なぜ卒業論文の執筆時期に改修工事の期間を被せたのか、という意見が多く見られた。この問題については、不便をかけて申し訳ない、と詫げる他ない。ただ、改修工事は国の予算で行うものであり、予算措置された時期に左右され、まったく自由な時期に実施することはできないという制約が伴い、今回の改修については不幸にも卒業論文の執筆時期と重なってしまった、という事情があった。この点を理解してほしい。

しかしながら、図書館に限らず、今後施設の工事を行うときは、学生諸君を含め利用者の利便性をできるだけ損なわないよう、注意を払っていきたい。

(5) 学務課の対応について

学務課の職員の対応が悪い、具体的に言えば、「態度が悪い」、「優しくない」、「顔が死んでいる」、「上から目線」、「事務処理ミスが酷い」という意見が少なからず見られた。学務課に対する不満は前回の調査結果における自由意見にも表れていたにもかかわらず、今回も同じ結果となってしまった。

窓口業務に携わる職員が疲れていたり体調不良であっても、学生に対する修学支援サービスが不十分となっ
てはいけない。このような点については、改善を図っていきたい。他方で学生諸君は、貨幣を対価に消費サービスを受け取る営利企業の「お客様」ではない。修学上の様々なことについては、職員を頼る前に、まず、自分で考え自分で判断するという姿勢を持ってほしい。

(6) 構内禁酒について

本学では、平成 24 年 5 月の飲酒事故を受けて、構内禁酒を実施した。この状態をいつまで続けるのかは、まだ決めていない。

構内での飲酒を認めるかどうかについては様々な意見がある。自由闊達な雰囲気重んじ、禁酒を早く解除すべしという意見がある一方で、大学という教育の場からはアルコールを排除せよという意見もある。社会や保護者の考え方も無視できない。

本学では、飲酒事故防止のための啓発活動を強化しているが、それを続け、学生や教職員の認識が成熟するのを見ながら、学生を含めた大学構成員全体で議論を尽くしたい。

【1】授業、成績に関すること

【履修に関すること】

授業の抽選制度をやめてほしい。第2外国語など、長期間の履修が必要なものは、途中で言語を変えられるようにしてほしい。抽選から外れても、第一希望の勉強ができる環境がほしかった。特別講義など。
受けたい授業が多数重なっていて、時間割が非常に組みづらいです。
抽選でもれて、自分の受けたい授業を受けられないのが残念である。
履修制限時の抽選の不平等を改善して欲しい。
授業の選択しを多くして空き講を無くしたい。毎時間ごとに席をランダムに変こうしてほしい。
受けたかったゼミが開講してなくてショックです。
この学校の授業を履修する際の抽選という制度が気に入らない。というより、おかしい。本当に興味のある授業に履修制限をかけて、学びたいことも学べず、高い学費を払わせる。そのやり方では視野が広がっていかない。どうかしてくれ。
授業の抽選をなるべく減らして欲しい。全員同じ授業料を払っているのに特定の人が取れないような授業構成は、とても不平等だと思う。
年間40単位以上とれるようにしてほしい。
人気のある講義で抽選の結果がまだわかっていないのに、次回の授業から教科書を使うから購入するように言われてどうすればよいかとまどったことが何度かあるので改善してほしい毎回混みすぎなので。
オリエンテーション期間、4単位の授業だと2コマ目に授業が始まってしまうのをやめてほしい。オリエンテーション期間はオリエンテーションに出席し、話を聞いて授業の履習をするかを判断する時期なのに、授業を始められてしまうとまだ気になっている授業のオリエンテーションを受けることが出来なくて困っている。
4単位の授業はオリエンテーションの週に2回目から普通に授業を行います、それをやられると2回目の授業の時に他と迷っている科目のオリエンテーションと重なるため非常に困ります。出席を取る授業などは特に困ります。履修制限のある授業もグループワークなどでないならやるべきでないと思います。
履修のちゅうせんを少しはこうりよしてほしい3つおちてるから1つはとおすとか。
もう少し講義をばらつかせて欲しい。取りたい講義があっても時間が一緒だとどちらか諦めなければならず困っている。
シラバスが読みづらい。
グループワーク等人数に制限を設ける必要がある授業を除いて、履修制限をかけるのは止めてほしい。そのせいで時間割が希望通りに組めなくて困る。
カリキュラムの見直しをお願いしたい。同じ時間にかぶる授業が多く、取りたい授業がとれない事が多い。4年間しか大学にいれないのでぜひ見直しを。
教室のサイズについて。人が多すぎて、座れない人ができるほどの授業はどう考えてもおかしい。他の授業とのかねあいもあるだろうが、考えて設定してもらいたい。
授業の履修制限をなくしてほしい。そのせいで全く興味のないつまらない授業を受けるハメになってしまった。
一般教養科目の時間割の重複が多く、抽選によって取りたい科目がとれないといったような事が起こらないようにしてほしい。
時間割の重複が多く、取りたい科目が取れないなどのケースが、自分だけでなく周囲の人にもみられたの

で、時間をずらすなどの対策をとってほしい。
授業が少ない。一つの時間に集中しすぎているためうまく時間割調整ができない。
抽選に落ちたせいで、単位を落としたようなもので、抽選の仕方をどうにかしてほしいと思いました。
講義の時間をもっとバラバラにしてほしい。○曜日の△講目にとりたい科目が3つも4つもかぶっているときが何回もある。
もっと少人数の講義を増やし、時間割の自由度を高めてほしい。
授業の履修の仕方に不満があります。今年度の○○○○で前期に履修登録をしていない人は後期の授業が履修できないとこの前のオリエンテーションで連絡されました。前期のうちにアナウンスしていないのに、いきなりそのようにされるのはとても困ります。また今年度前期の○○○○の抽選は自学科の人優先にしてほしかったです。
非開講の授業も、もっと少なくしてほしいです。
キャップ制度について、40単位だとどうしても取りたい授業を取ることができなかつたりするので、上限が増えると嬉しいです。あと、私は企業法学科なので関係はありませんが、自学科の科目なのに、抽選で落ちて履修できなかったと嘆いていた友達がありました。ので、自学科の生徒を他学科の人より優先するなどがあると良いと思います。
正直単位の取り方がわからない。自分が何を学びたいのか、また何を学んでいるのかがたまに分からなくなる時がある。
専攻の発展科目の授業で抽選があり、他学科の人が通り、自学科の人が落とされるのはあり得ないと思いました。
授業の時間曜日がかぶっていて取れない授業が今年たくさんありました。改善されたらうれしいです。
抽選する科目が多すぎると思います。
長期履修制度は、社会人学生にはとてもありがたい制度です。しかし、昼間部の単位を60単位まで履修できますが、夜間主で開講しているものは受講できないため、1年の後期はほとんど昼に授業をとることができませんでした。社会人学生に限っては、昼、夜間わず授業を取れる様にしてもらえれば、仕事や家庭との両立ができると思います。大学は現在18才人口の減少により全入時代となり、選ばれる大学作りが必要となってきています。若い人だけでなく、社会人にも広く門戸を広げていく事で小樽商大も選ばれる大学になると思います。社会人の生涯学習意欲は高いと思いますので、ぜひご検討よろしく申し上げます。
あるコマに授業が集中しすぎているためもう少し分散して欲しい。
教室の広さや先生方の都合等あることは充分承知していますが、履修の制限が多く、特に共通科目において4年次においても履修しきれなくなるのではないかと、少し心配になります。
経済学科の時間割がおかしい。4日連続で1限はつらい。先生方にも事情かあるとはいえ、スケジュールをもっと練ってほしい。
取りたい授業が抽選ではずれ、取れなくなる仕組みをどうにかしてほしい。
授業の履修について。抽選で落ちたからといって受けたい講義が受けられないのはちがうと思う。学生はみんな同じ学費を払っているのだから、そこをもう少し考慮してほしい。自分は興味があったから応募したのに落ちて、周りに「単位がとれそうだからなんとなく受けたら受かった」という人がいて非常に腹が立った。
一般教養の科目が重なっていることが多いため、時間割が組みづらいと感じました。
履修者多数の場合の抽選制をやめてほしい。教室は空いているのだからネット授業でもいいのではないのでしょうか。

抽選を行う教科が多すぎて、時間割を作るのが困難。2年次の英語は基礎、標準、発展と分かれているが、抽選のせいで標準コースの人が発展コースをとったりなど、コース分けする意味がない。

〇〇〇〇の〇〇教員に「あなたのこときらいです。履修やめたら？」って言われて、学務課に訴えました。英語の授業を変えてほしいと頼みました。でも、空いてるクラスだった他のクラスに移動してもいいと言われてももう時間割的にすすめられたクラスには入れませんでした。1人くらいなら移ってもよいのにと思いました。しかも学務課の人に「あーはいはい」というような粗略に扱われ大変傷つきました。時間割ももっとうまくつくれるようにして下さい。

【授業・成績に関すること】

2外の基準（成績）先生によってムラがありすぎて非常にいけません。これで学科所属決めるのはおかしいと思います。

AL教室でもっとタブレット等を有効に利用してはどうだろうか。ALの科目を増やしてもいいんじゃない？

授業で扱うプリントが大学のPCを用いないとプリントアウトできない授業（〇〇〇〇）があるが、そうする事によるメリットが感じられない。

坂の途中で1人暮らしをしている人間は、診断書をもらいに病院に行くくらいなら、そのまま学校に行った方がまだ生産性がある。診断書の添付を廃止しろとはいわないが、そのあたりを考慮した対策をしてほしい。

授業内容に魅力を感じない。

受講しても単位がもらえるだけで自分のためにならない講義がある。

私は社会情報学科に所属しているが、もっと商学に関係のある実学的な講義をして欲しい。

AL教室の設備を整えることも良いことだと思いますが、よく教室のマイクやスクリーンに関するトラブルが起こるのでそこも改善してほしいと思います。さらにAL教室の授業はトラブルが多いので、改めて使い方の説明会などの教育の方に向けて行うべきだと思います。

講義に関しては、講義内容を下の人に合わせるのをやめて、全体的にもっとレベルの高いものにして欲しいです。

他の大学に通う友人の話を聞く度に、商大は魅力の少ない大学に感じてしまいます。もう少しタメになる面白い講義を受けたいです。今のままでは、この大学に来たことを後悔すると思います。

ゼミによって卒論への対策が違いすぎる。私のゼミはてきとうすぎて、何をしてもいいかも分からない。

先生方が使いこなせていないのに、どんどんICT化を進めても意味がないと思う。まずは、使い方の講習を開くべきである。

授業を休んだ際に提出する診察証明書のような物は、1人でくらしている人には厳しいです。具合が悪くて休んでいるのだから、自分の足では病院に行けません。どうしたらいいんでしょうか。

学習が高い。

E-learningを自宅でもできるようにしてほしい。

【その他】

英語だけのクラスをつくるという案もなかなか無謀じゃないかなあとと思います。学生からみた学生のモチベーションをみるとですが。

お願いですので卒業だけはさせて下さい。お願いします。卒論力入れて頑張りますので。

TOEICを受けたくない。500点もとれない。

商大にもクラス制度を作るべきだと思います。入学したてで友人関係をつくる場が少なく、サークルに入るくらいしか手段がありません。サークル→授業をおろそかにする。の悪循環もある気がします。
ALやICTがよく分からない。
ALって本当に使われているんですか？

【2】通学に関すること

バスの本数を増やしてほしい（特に冬）。
バス無料送迎！
大学側に言っても仕方がないことかもしれないが、夜間部学生は帰る時に小樽駅からJR快速がないのが不便だ。

【3】施設、整備、環境に関すること

【施設に関すること】

大学全体として、授業の合間などに使用できるフリースペースを増やしたほうが良いと思います。そうすることによって、様々な活動に幅がでけるとと思います。
食堂を広くしてほしい。
食堂が狭い。
もう少し広い教室を作ってはどうか。
授業がない時間の居場所を作してほしいです。
5号館にエレベーターをつけたほうがいいのではと思っています。4階で授業を行う事が多く、不便な感じがしています。あと、4階での授業中に災害があった場合、避難経路が少ないような気がします。
5号館にエレベーターの設置していただきたい。足が悪い時にあんなに階段登れないです。
野球グラウンドの設備充実をよろしくお願いします。
5号館のエレベーターの設置。
5号館のエレベーター設置。
5号館にエレベーターを設置してほしい。
5号館にもエレベーターがほしい。
学生が交流できるスペースが少なすぎるので、アメニティのような所を増やしてほしい。
AL教室は、使いこなせる先生が少ないので、これ以上必要ないと思う。
寒いので、食堂と3号館をつなげてほしい！！
学生控室のような、休けい場所をもっと増やしてほしい。北海道大学や室蘭工業大学と比べて格段にすくないです。困ります。
自習場所をふやして下さい。
仮眠室がほしいです。
学生寮の駐車場を寮生にも使用させて欲しい。
MH3にあるような机は教科書や辞書を置くには小さいので非常に授業が受けにくい。301教室にあるような机を導入してほしい。

【冷暖房に関すること】

夏期は冷房、冬期は暖房が必要だと思う。取り付けていただきたい。
大学のイメージや知名度を上げようとして高額な機械を導入するよりも冷暖房などをもっとしっかり稼働させられるような（学生側にとって満足できるような）ことをやってもいいのでは？学務課だけはいつも快適な温度ですがそれもどうかと思います。
夏場の冷房、冬場の暖房があまりにもかたよりすぎていて困っている。夏場はあれだけ暑いのに冷房をつけている部屋が全くなく、体調が悪くなったりもした。なので、その点を気をつけてほしい。というか、あれだけ授業でサービスについて学んでいるのに全くできていないのは不自然だと思う。
冬は、部屋が寒いです。
暖房設備の音がうるさくて集中出来なくなるので変えてほしい。
104号室が寒すぎて授業に集中できないので、早急に暖房の調整してほしい。体感温度だと外より寒いことが多いです。ぜひ90分104号室で過ごしてもらって寒さを体感してほしい。
もっと学生が進んで大学に来たいと思うような環境がほしい。冬に上着を着用して授業を受けるのは異常な光景！！
教室が寒い(秋～冬)。または暑い。授業に集中できなくなると思う。
冬の休日、体育館の暖房を入れてほしい。
講義室は夏は暑く冬は寒い。冬に学務課内の職員がうちわであおぎながら仕事をしているのを見かけた時は腹がたった。
冬場は大きな教室（104、105など）が全体的に寒い。
冬が寒いので、暖房設備をしっかりしてほしいです。
講義室が寒過ぎて春先等は、体調に支障が出てしまいました。自分自身でも、服装等に気をつけますが、学校側としても暖房設備を整えて頂きたいです。
夜間の大学内が寒い。何とかしてほしい。
4～5月頃、教室の温度が低すぎたように感じます。
暖房を早くからつけてほしい。
暖房を早くからつけてほしい。学務課は暖房つけすぎ。
冬の暖房をきっちりつけて欲しいです。（11月下旬くらいから）
冬期のヒーターについて。大きな教室の 때가寒すぎる。何年も前から書いているが一向に改善しない。授業を受けるような環境ではない。早く改善を。
夏季、教室が非常に暑い。学生の集中力をなくしている。
改築するよりも温度管理だとか、生徒の環境を整えることに金を使ってほしい。
冬は教室やゼミ室が寒い。コートをぬいだことがない。なのに学務課が一番暖かいのはなぜなのか。
ゼミ室が寒い。
寒い。特に夜間コースの授業時間帯。
AL教室を増やすより、学内の暖房設備をきちんと整えてほしい。
学校が寒い。
冬場寒すぎるのが不満です。さらに事務員の人がいる場合は、とてもあたたかいのは、非常に不公平だと思う。
ゼミ室の暖房を自由に使えるようにしてほしい。
冬の教室寒いです。

教室が寒いことが多いので、ちゃんと暖房をつけて欲しいです。
夏や冬など学務課は快適な温度であるが、教室は暑かったり寒かったりと節電と言いながらかなりの差を感じます。
冬になるととにかく寒いことを改善してほしい。
寒いです。勉強しにくい。
さむい。
3Fの自習室の空調がいつも悪くて、なんだか変なおいまでするので何とかしてほしいです。
これから冬期間に入りますので除雪や暖ぼうの充実を希望します。
冬期の第二体育館がとても寒く、けがにつながりやすい。暖房が新しくなったが、もし暖房の入っている時間が短いのなら、前と比べると変わらないので、しっかりつけて欲しい。学校で泊まれるようにして欲しい。冬は特に寒いので死んでしまう。
教室が寒い時がある（特に冬）。（特に3号館）ゼミ室。
冷暖房の設備をしっかりしてほしい。節電だからって暖房切るのはやめてほしい。160教室とか4,5号館は特に寒い。コート着ても寒い。学務課はいつも適切な温度なのに。

【清掃に関すること】

トイレが汚い。
3号館のトイレもきれいにしてほしい。
学校のそうじを徹底してほしい。
教室、トイレ、ろう下など。きれいに掃除してほしい！！
ほこりが目立つのでもっとこまめにそうじをしてほしい。
全体的に講義室や体育館が汚い。

【工事に関すること】

大学なのに図書館が使えないのは非常に不便です！早く開館して下さい！
早くまた図書館が使えるようになってほしい。また使える日を楽しみに待っている。
この時期の図書館改修は4年生へのいやがらせですか。
図書館の工事を迅速に終わらせて欲しい。
図書館を早く使いたい。
私は音楽系サークルに所属し、普段からサークル会館を利用しています。昨年の夏休み明けから11月にかけて行われたサークル会館の暖房・トイレ工事なのですが、夏休みに学務課による工事の説明会に参加したものの、説明内容は未定の事項が多く不明な点が多いままでした。なぜ工事をするのか、工事の期間はどうなっているのか、あいまいな説明にとどまった状態で工事が始まり、いつのまにかサークル会館は立入り禁止になりました。代替の場所をあらかじめ用意するわけでもなく、突然活動場所を奪われてしまい、私たちは非常に混感しました。さらに、学務課の対応も雑なものであったため、不快になりました。同様に現在行われている図書館の工事、ポスターでの周知のみで、卒業研究をするにあたりとても迷惑しました。卒業研究のために、文献を探すにも、図書館が利用できないリスクはあまりにも重いと思います。事前に、なぜ工事するのか、どうしてこのタイミングなのかを説明したほうが良かったのではないのでしょうか。大学の設備を良くするために様々な工事が行われていると思いますが、在学生のことをもう少し考慮しても良いと思います。
図書館が使えなさすぎ。

札幌のサテライトが使用しなかった。1月まで図書館が使用できないのは、厳しい。
工事期間中がとても不便です。160 教室等がある通路がないと 5 号館へのアクセスが不便。（特に雨。）
今年の図書館工事は卒論を書く時期とかぶっていることから、事務的なことではなく、きちんと大学生のことを配慮して頂きたいと思います。学生が有意義な学生生活を送れるためにもよろしくお願ひ致します。
卒業論文を書かなくてはいけないのに図書館の工事が始まったのには驚きました。時期を考慮してほしいです。
工事について。4 号室の工事が 10 月に入っても続いているのは、どういうことか。おかげで 160 教室も使えない。学業のことを考えての工事で、教室が使えないのは本末転倒。もう少し考えたらどうか。
12 月まで図書館が使えないのは非常に困ります。あと控室もよく使っていたので困っています。できるだけ早く使えるようにしてほしいです。
図書室の改修工事に伴い、学生控室も利用できなくなり、更に 160 教室まで閉鎖してしまうとは思いませんでした。改修が終わるのを楽しみにしています。
早く図書館をもとに戻して下さい。
図書館が工事中で不便である。
あまりにも長時間に及ぶ図書館の工事は学生の学業を妨害するものであり、大学の職務放棄のように感じました。やるにしてももっと他のやり方があったのではないかと思います。五号館、四号館、サークル会館、図書館など工事がここ 1 年でありすぎです。学業のみならずサークル活動等にも影響が出ました。もっとそのあたりを考えてほしいです。工事すればいいというものではないと思います。実際、工事してもあまり学生にとって利になったという印象はありません。
図書館はよく利用しているので、1 日でも早い復興を望んでいます。
同時工事はとても迷惑です。
図書館を完全に閉めてしまうのはやめてほしかった。
図書館が閉鎖されてしまい授業のないときにいる場所がなくなってしまった。自習室も人が多いときがあるので、学生控室のような場所が仮のものでもいいので設置を願ひたい。

【その他】

トイレの乾燥機を使用可能にしてほしい。
最近設備の増設をしているが、本当に学生が必要としているものは増えていない。
学内無線 LAN の範囲の拡大（主にサークル会館など）をお願いしたいです。
カフェスペースの充実。
トイレのポーッとするやつをつける。
5 号館の前の階段が冬になると雪が積もって大変危険です。
トイレのエアータオルについて。節電とのことだが今や電灯を少なくすることの他の節電対策をしていないように見受けられる。エアータオルを使っていた身としては、その節電をするよりも、もっと効率的な節電が出来ることもあると思うが。
174 教室のホワイトボードが見づらい。黒板の方が断然良いです。
食堂が狭い。
坂の上にあるので、学校が遠く感じる。札幌住みの学生にとっては、休みに勉強などするために図書館に行きたいが、遠くて時間がかかるため、不便。

冬の坂が除雪があまりされていなくて危ない。
札幌キャンパスの建設！！
wifi の充実。
そろそろトイレの手を乾かすための機械を動かしてくれるとうれしいです。（ハンカチが乾きにくい季節になったので）
近くにコンビニを作ってください。
電子レンジやポットを生協以外の場所にも置いてほしい。5号館が生協から遠くて、授業の休み時間中に生協に行くのができないため、5号館にジュースやおかしの自販機を増やしてほしい。
電波悪い。
よく迷子になるので、わかりやすい校内地図があつたら掲示してほしいです。
大学のWi-fi環境が劣悪なので改善を求める。つながりにくい教室がある。どこでも（3号館内）どこでもつながるようにしてほしい。
留学生も学生なので、もしこのような調査を留学生には行っていないのであれば、行ってみるとどうでしょうか。一つ、リクエストがあります。私は留学生のチューターを行っており、交換留学で一年間アメリカに留学していた事もあるが気づいた点が一点あります。それは、学内Wi-Fiが充実していないという点です。特に留学生の寮にWi-Fiがないという事にとっても驚き、ショックを受けました。少なくともアメリカの大学は他の留学していた学生の話にもよると、学内では食堂なども含めて全ての場所でWi-Fiが利用可能です。携帯電話を持たない事も多い留学生にとっては、学内中でWi-Fiが利用できるという環境はとても重要なのではないのでしょうか？国際交流に力を入れている商大なのであれば、日本に来たばかりの留学生にとって生活しやすい環境に少しでも近づけるように、留学生の意見なども取り入れて、さらに改善をしていくことを望みます。
時には、大学を24時間開けておいて欲しい。

【4】就職に関すること

就活の情報が何もない。
道外(特に東北)の就職情報をもっと充実させてほしい。
就職活動においてですが、もっと、OBと会える機会を作るべき。
学年関係なく、職業や企業に関してのガイダンスの機会をより増やしてほしい。
1・2年生向けの就職ガイダンス等をもっと行ってほしい。情報が少なく、どういったものであるのか、理解出来ていない。
”就職支援室の使い方”がわからないと利用できないのでは支援の意味がないと思う。リクナビ等のメールの方が役に立った。

【5】課外活動に関すること

夏休み前にサークル会館の部室をローテーションにするという話がありましたが反対です。ローテーションしたところで部室の数が少ないことには変わりはないしピアノなど動かすと壊れる可能性のあるものが多いからです。改修工事をするくらいならサークル会館をもう1つ作るか完全に建てかえて十分にサークルに部室が行きわたるくらいの大きなものにして下さい。

何年か前まで、スノーボードの貸出を行っていたが、老朽化により中止になった。新しい物を購入し、また貸出してほしいと頼んだら断られた。体育常任委員会の立場から、自治会の予算を使い、買い替える事も学校側に断られた。では、どうすればいいのか。対応して欲しい。
サークル会館に新しくつけられた鍵を全然使うことがない。
サークル会館の部屋を無くすべきではない。
サークル棟を改装するよりも新しく建てたほうが良いと思います（勝手な意見ですが・・・）。
是非、軟式テニス部のコートを整備して下さい。硬式のオムニコートも軟式テニス部がたまには使えるようよろしくお願いします。
テニスコートを整備してほしい。
予算の使い方がわかりません。AL教室の代わりにグラウンドを改善して欲しいです。
サークル会館の部室の割り当てをもう1度検討してほしいです。もちろん勉強が第一ですが、サークル活動もしっかり支援してほしいです。
休みの日でも、体育館の器具の貸し出しをしてほしい。
トレーニング設備が少ない。

【6】学生センターに関すること

時々、学務課の方の対応に不満を感じる事があります。例えば、テスト期間中、1講目の受験科目の座席や教室を確認する際、早い時間に行っても掲示されていない時がありました。前もって準備したい、また、余裕を持って来ているのに、そこで時間をロスしてしまいます。その為、8時、また遅くとも8時半までには、掲示して頂きたいです。
学務課の職員の態度が悪い。
職員の対応が悪い時があります。仕方がないのかも知れませんができれば、対応を改善してほしいです。
学務課の人の対応が横暴なので改めてほしい。わからないから学務課に行くのに「こんなのもわかんねーのか」みたいな態度やめてほしい。ずっと室内でルーチンワークをこなしているだろうから仕方がない所もあると思うが、あの学務課全体の気だるい雰囲気なんとかしてほしい。職務に取り組む意識を改めてほしい。
学務課の方々をお願いしたこと(サークル関連)を全くやってくれず、すぐに忘れるのでしっかり仕事してほしい。相手が学生だからと言って蔑ろにしないでほしい。
学務課が学生に優しくない。
学務課の人の対応が冷たい。
学務課の顔が死んでいます。仕事に対する姿勢を今すぐ改善して欲しいです。もっと親身になって相談にのって欲しいです。
事務員の態度が上から目線なので改善してほしい。
学務課の対応がわるいときがある。
相談があつて行っている、用事があつて行っているのに、学務課の窓口のおばさんたちの、子供だから、学生だからと下に見ている感じがとても嫌でした。
学務課の人たちの態度がずっと悪いです。学生の中で話題になっていますよ。どうにかありませんか。そのような人たちを窓口として置いておくのは恥ずかしくないのですか？

私は奨学金を受け取っているのですが、以前、本学奨学金係の提出用紙の記入ミスで受け取りが1ヶ月延びたことがありました。どういうミスかきかせてもらえず、振込がされていないことを電話すると、係の担当の方が「来月の振込になるようです。」とだけ伝えてきました。どうしてそうなるのかと私が聞いてはじめて「提出用紙にミスがありまして・・・」と言われました。私の記入ミスでしょうか？と尋ねると、「いえ、こちらのミスです・・・」と。地方から本学に入学した私にとって、奨学金はとても大切な生活資金です。親からの仕送りを受け取っていないため、振り込まれていないと、親からお金を借りるしかなく、とても困りました。しかしそれ以上に担当の方の対応に怒りを覚えました。その方は、「もし困るようでしたらこちらでお貸しますので連絡の上、こちらに来てください」といいました。きっとその方は奨学金の係でありながら、奨学金をもらっている学生をどこか見下して貧しい子だと思っているのでしょうか。私のミスではないのにどうして私がお願いしてお金を借りに行かなければならないのでしょうか。私が直接奨学金機構と契約することは出来ず、高校か大学の奨学金係を介しての契約になるそうです。その重要な位置にいながらどうしてこういう態度がとれるのか？まさか私の他にもこんなひどい対応をされた人がいるのか？色々考えました。どうか少しでもいい。学生の気持ちになって対応していただきたい。私のような思いをする人がこれからでないよう、係の方に徹底していただけるとありがたいです。長々とすみません。どうかよろしく申し上げます。

【7】図書館に関すること

図書館の営業時間を長くしてほしい。

図書館のコピー機の数が増えてくれると嬉しい。

もっと図書館に本を増やしてほしいです。特にもっと新しい書物が欲しいです。

英語学習に役立つ図書を増やしてほしい。

【8】情報処理センターに関すること

情報処理室のパソコンの起動が遅いのを何とかしてほしい。

情報処理室のパソコンが立ち上がるのが遅い。コピー機を一元化してほしい。（情報と購売で違うので）

情処のPCの起動が遅い。そして時にはダウンする。

【9】喫煙に関すること

喫煙室を増やしてほしいです。

喫煙室が少なすぎる。

喫煙所が少ないです。よろしくお願ひ致します。

喫煙室を増やして欲しい。

ぼくは一年生ですが21歳なのでタバコを吸うという欄を見ても合法です、御安心下さい。

喫煙所がけむたくて目が痛いです。

大学会館まえにいつも学生がタバコを吸っているシーンを見かけます。大学の構内で喫煙はよくないと思います。

【10】飲酒に関すること

大学で酒を飲みたい。以前の学校祭の前夜祭など楽しい行事を増やして欲しい。
飲酒事件以降、年齢確認やいわゆる宅飲みなど、1年次が飲酒する機会はまだまだ多く、未成年が危険に晒されることが多いのが現状だと思います。今後も、1年次やサークル等への飲酒アンケートや注意など継続してもらえると安心して卒業できます。
学内全面禁酒の一部緩和を求める。具体的には、合宿所での飲酒を認めて欲しい。その際には、事前の届け出を必要とした上で、かつての悲惨な事故防止の観点から無理な飲み方をしない、させないという誓約書でも書かせて、管理した上で、認めてほしい。合宿を乗り越えた仲間と楽しく談笑するのが、いけないことなのか。全てのサークルがアメフト部のような狂った馬鹿みたいな飲み方をしていると思っているのなら、それは大間違いだと思う。基本的に自由な大学生活を送る事ができるようにするのが、事務職員の義務なのではないか。どうせ危険な飲み方をした奴等は、1人暮らしの家や店でやっているんだから、ちゃんと申請や誓約させれば学内だろうが学外だろうが、同じことだと思うので合宿所だけ特例で認めてほしい。
飲酒に関して、大した説明をすることもなく、全面禁止にしたのは、いかがなことかと思う。
全部活、全員出席の飲酒講習はやめて欲しい。「出席しなかったら処分を与える」というおどしをして全員出席させた挙句、「全員、自主的に参加してくれてありがとうございます」という発言をしたことにはとても腹が立ちました。
飲酒に対する大学側の意識はまだ低いと考えます。アメリカンフットボールの事故で重大な責任を負うことになったのに学長が顧問の弓道部で飲酒事故があったことについて再発させたことはきわめてありえません。弓道部の飲酒事故に対する学長の報告では、「アルコールに対すとりきめを守っていた。アメフトはそうでなかった。」と学生達に正当化しています。やはり大人は保身するのかと考えました。本当の間違ひとは、同じあやまちを繰り返すことです。この言葉が学長に伝わればいいと思いますが、当時アメフト1年目部員であった者の意見です。

【11】大学からの情報提供に関すること

休講情報などをNETでも見られるようにすべき。
本学は学生への情報の提示が不十分であると感ずることが多々ある。現在行われている四号館や図書館の改修工場などについても、学生全体が知りうるような方法での告知が望ましい。
キャンパススクエアが学内でしか見られないのが非常に不便。
成績確認を自宅からできるようにしてほしい。
成績開示、履習登録を他大学のように学外ネットワークからも可能にして欲しい。
休講情報・教室変更の連絡をインターネットで手軽に確認できるようにしてほしい。その他の事柄も全てネット上で見れば尚更良いです。
札幌サテライトを活用したいです。上野幌から通学していますが、ちょっとした確認作業のために小樽に来るのはお金がかかります。札幌サテライトでの成績表や健康診断表などの印刷ができるようにしてほしいです。
SNSで休講や各々の授業の連絡等を発行して、学生に気づきやすいようにしてほしい。ってか、してください。お願いします。
CampusSquareに学外からも入れるようにしてほしい。

<p>札幌通生としては、本学のパソコンからでしか CampusSquare に入る事が出来ないのはかなり不便です。また、授業の休講情報などがサイトに載っていない時があり、学校に行き損ということも多々あります。</p>
<p>成績を自宅で見れるようにしてほしい。</p>
<p>キャンパススクエアを学外でも見られるようにしてほしい。</p>
<p>掲示室にはられている紙が見づらいし目的のものを見つけにくい。掲示室はられている紙と同じ内容をホームページとかに載せていつでも見れるようになると嬉しい。</p>
<p>キャンパススクエアを学外で見れないのはとても不便だし、私が入学した時の学生が作った冊子に札幌通生が多いという記述があり、成績を見るためだけに札幌からわざわざ学校に行かないといけないのはとても不合理である。掲示板で掲示しているものと同じ内容を商大の HP で見れるようにしてほしい。</p>
<p>キャンパス・スクエアを学外でも見ることができるようになってほしい。</p>
<p>履修成績を自宅パソコン、スマートフォンで閲覧できるようになると有難い。</p>
<p>全体的に大学側からの情報提供が遅いのと一部の人にしか伝わらないようになってきていることに非常に問題意識をもっています。もっと全員が情報を知れるように説明会をしたりメールを活用するなどの対策をしてほしい。とくにサークル会館の話など。</p>
<p>CampusSquare が校内でしかみられないのは不便なので家のパソコンやスマートフォンからアクセスできるようにして下さい。</p>
<p>成績を自宅のパソコンでも見られるようにしてもらいたい。</p>
<p>キャンパス・スクエアを学外に開放してほしい。登録・確認のためだけに通学させるのは非効率。</p>
<p>教室変更などの情報をもっとネットで確認できるようにしてほしい。大学に来ないと分からないことが多い。</p>
<p>学校から学生への連絡はメールですればいいのではないかと思う。</p>
<p>成績などの情報を家からでもみれることができるようにしていただきたいです。</p>
<p>成績を自宅で見られるようにしてほしい。</p>
<p>キャンパススクエアに学外（例えば自宅のパソコン・スマートフォン等）からもアクセスできるようにしてほしいです。</p>
<p>キャンパススクエア家でみたい！です！</p>
<p>自宅からキャンパススクエアにアクセスできるようにして成績の確認を容易にほしい。</p>
<p>成績を自宅からでも見られるようにしてほしい。</p>
<p>もっと IT 化を進めて、学生に情報を与えて欲しい。</p>
<p>家でも確認できるようなサイトが欲しい（時間割、情報など）。</p>
<p>学務からの連絡がすべて遅いです。7月の就活セミナーも、2週間前に郵便物で知らされても、用事等の調節はふつう3週間以内で行うし、急すぎていけないのでやめてほしい。やるなら1ヶ月前とかに知らせるべきです。また11月の保護者説明会も、9月や10月に言われても、両親は共に関東に住んでいるし、飛行機や宿の手配が間に合わなかったり、高くなってしまっているので、年間行事として決まっているものはずだから、4月とか、年度の始めに通知しておくべきです。</p>
<p>教室が変わった際しばしば混乱が起きているので、もう少し目につきやすい場所か方法での提示がほしい。</p>
<p>色々な試みを行っているのはなんとなく知っているが広報が足りないと思う。していても目立たないと思う。</p>
<p>キャンパススクエアの利用を自宅でもできるようにしてほしい。</p>

連絡室での紙での連絡はやめてホームページ上で連絡してほしい。
自宅でも成績確認等ができるようにしてほしい。E-Learning が全然機能していない。
成績などが小樽商大内のキャンパススクエアのみでしか閲覧できないのは非常に不便です。札幌から通っている人のためにも、札幌のところにあるビルで見れるようにしてください。
休講情報をもっと分かりやすく入手したい。
履修登録や成績閲覧が学内からしかできないのは、不便なので、改善を求める。
CampusSquare が学校でしか使えないのはとても不便。

【12】大学生協に関すること

購買のお弁当の種類が少ない。
教科書販売の際の在庫が少ない。
学食メニューを増やしてほしい。
食堂のごまドレッシングを復活させてほしい。

【13】アンケートに関すること

このアンケートを毎年やってほしい。
今私は4年生なのですがこれ（このアンケート）初めて知ったし、この意見が反映されたころには全てのことが私に無関係になってしまってしゃくに触るので毎年アンケートをとって結果を迅速に反映してほしい。自由意見で出たものも全て開示してほしい。
授業や教員に対する不満点は期末に行われるアンケートである程度だされているはずですが、それが改善に結びついているようには思えません。

【14】その他

アルバイト先の店で商大生と思われる客が、騒ぐ、走る、通路内で集団で固まるなどの行動をし、他の客に迷惑であるとともにとても非常識であり、危険です。若者ゆえというものもあるのかもしれませんが、よくはありません。社会でのマナーを教えるというのも教育機関の役目ではないでしょうか。
自分は浪人してまで入った大学での生活がこんなにつまらないとは思ってませんでした。
健康診断の期間をもう少し延ばしてほしい。
アメリカンフットボール部の元部員たちが、他のサークルに入ったり、新しいサークルを作ったりして楽しんでいる様子を見ると、本当に腹が立ちます。どうして軽い処分のみですませたのですか??何もしていない他の学生たちは本当に、とてつもない迷惑を受けているというのに。関係のない学生の将来までも壊してしまうかもしれないというのに。本当に悔しいです。元部員たち全てに重いペナルティを与えるべきではなかったのですか?!私の入っているサークルにもそのような人たちが入って来てさわいでいました。迷惑です!
メンタル面が弱く将来に希望の無い学生を排除すべく、入試には面接を設けるべきだと考える。メンタル弱者は大学に来るべきではない。それを選択肢に入れるべきではない。何か別の方向性（専門学校等）を検討すべきだ。メンタル弱者は大学に来たところで、何も得る事ができない。どうでもよくなってきました。

概ね良好な大学生活を送れていると感じる。特に大きな悩みもなく、将来の展望も明るく考えられている。
単位取得状況だけが心配。

イベント増やして友達作る場がもっとほしいです。

奨学金の金利をもっと下げて欲しいです。一般的な金融業者と大差ないと思います。学業支援は無利子であって欲しいと切に願います。

充実している。

10年後に小樽商大は財政破たんするとうわさが絶えないので、早く健全化して欲しいと思います。

給与型の奨学金を増やすべき。

マルセイユは、パリの地元紙等で治安が悪いと聞きます（外務省の情報でも）。パリ市内の大学と協定を結んでください。

IV 資料 学生生活実態調査「アンケート用紙」

小樽商科大学学生生活実態調査票

1. 基本的事項

質 問	選 択 欄	回 答 欄
問 1 入学したのは、いつですか。	(0) 平成25年 (1) 平成24年 (2) 平成23年 (3) 平成22年 (4) 平成21年以前	【 】
問 2 あなたの性別は。	(0) 男性 (1) 女性	【 】
問 3 所属コースはどちらですか。	(0) 昼間コース (1) 夜間主コース	【 】
問 4 所属学科はどちらですか。(平成25年入学者は、記入しないで下さい)	(0) 経済学科 (1) 商学科 (2) 企業法学科 (3) 社会情報学科	【 】
問 5 出身高校の所在地はどこですか。	(0) 小樽市 (1) 札幌市 (2) 前記以外の北海道 (3) 道外 (都府県) (4) 国外 (5) その他(高卒認定試験(旧大検)・)	【 】

2. 入学の経緯等について

問 6 大学進学を決めた時の動機は何ですか。 (2つまで回答可)	(0) 教養や専門的知識を身につけるため (1) 大学卒の資格を取得するため (2) 将来の就職を考えて (3) すぐ社会に出たくなかったから (4) みんな進学する時代だから (5) 友人が欲しかったから (6) 親、親類に薦められたから (7) 教師に薦められたから (8) その他 ()	【 】 【 】
問 7 本学を最初に知ったのは、どこからの情報ですか。	(0) 教師から (1) 親・親類から (2) 先輩・友人から (3) インターネット (4) 受験雑誌 (5) 説明会 (6) 出前授業 (7) 新聞・テレビ (8) その他 ()	【 】
問 8 本学を選んだ主な動機は何ですか。 (複数回答可)	(0) 国立大学だから (1) 学費が安いから (2) 知名度が高いから (3) 自分の進みたい専攻分野があるから (4) 就職に有利だから (5) 高校の成績・大学入試センター試験の成績を考えて (6) 通学出来る範囲だから (7) 親、親類に薦められたから (8) 教師に薦められたから (9) 予備校で薦められたから (10) その他 ()	【 】 【 】 【 】
問 9 あなたにとって本学は何番目の志望でしたか。	(0) 第一志望 (1) 第二志望 (2) 第三志望以下	【 】

3. 家庭状況について

問 10 主たる家計支持者の住居はどこですか。	(0) 小樽市 (1) 札幌市 (2) 前記以外の北海道 (3) 道外 (都府県) (4) 国外	【 】
問 11 主たる家計支持者の職業は何ですか。	(0) 会社員 (1) 国・地方公務員 (2) 団体職員 (3) 商・工業(自営) (4) 農林・水産(自営) (5) 自由業(医師・弁護士・著述業等) (6) その他 ()	【 】

問 12	主たる家計支持者の年収総額（税込み）は、どのくらいですか。	(0) 300万円未満 (1) 300万円以上500万円未満 (2) 500万円以上700万円未満 (3) 700万円以上1,000万円未満 (4) 1,000万円以上	【 】
------	-------------------------------	---	---------

4. 住居・通学について

問 13	あなたの現住所はどこですか。	(0) 小樽市 (1) 札幌市 (2) その他の市町村 ()	【 】
問 14	誰と一緒に住んでいますか。	(0) 親・親戚 (1) 兄弟姉妹・いとこ・友人 (2) 一人暮らし（賄い付き下宿） (3) 一人暮らし（賄いなし）	【 】
問 15、16は、問14で(1)～(3)のいずれかを選択した方のみ回答してください。			
問 15	現在の住居を選ぶ時に考慮した条件は何ですか。 (2つまで回答可)	(0) 家賃が安い (1) 設備が良い (2) 部屋が広い (3) 部屋が新しい (4) 大学に近い (5) アルバイトに便利 (6) スーパーやコンビニが近い (7) 通学に便利 (8) 友人又は親戚が近くにいる (9) その他 ()	【 】 【 】
問 16	1ヶ月の家賃又は下宿料はいくらですか。	(0) 3万円未満 (1) 3万円以上4万円未満 (2) 4万円以上5万円未満 (3) 5万円以上6万円未満 (4) 6万円以上8万円未満 (5) 8万円以上	【 】
問 17	通学のために要する時間はどのくらいですか。	(0) 15分未満 (1) 15分～30分未満 (2) 30分～1時間未満 (3) 1時間～1時間30分未満 (4) 1時間30分～2時間未満 (5) 2時間以上	【 】

5. 生活費・アルバイトについて

問 18	親(学資負担者)と同居していますか。	(0) 同居 (1) 別居	【 】
問 19	1ヶ月の生活費はどのくらいですか。自宅生は小遣いプラス仕事・アルバイト収入のうち自分のために使う金額を回答してください。	(0) 1万円未満 (1) 1万円以上3万円未満 (2) 3万円以上6万円未満 (3) 6万円以上9万円未満 (4) 9万円以上12万円未満 (5) 12万円以上	【 】
問 20	1ヶ月に親からもらう額(小遣い・仕送り等)はどのくらいですか。	(0) 1万円未満 (1) 1万円以上3万円未満 (2) 3万円以上6万円未満 (3) 6万円以上9万円未満 (4) 9万円以上12万円未満 (5) 12万円以上	【 】
問 21	平成25年度前期授業料免除結果について答えて下さい。	(0) 申請していない (1) 半額免除 (2) 全額免除 (3) 許可されなかった	【 】
問 22	本年度の奨学金受給額(月額)はいくらですか。(日本学生支援機構以外の奨学金を含む)	(0) 1万円未満 (1) 1万円以上3万円未満 (2) 3万円以上6万円未満 (3) 6万円以上9万円未満 (4) 9万円以上12万円未満 (5) 12万円以上 (6) 受給していない	【 】
問23～27は、過去半年間に1ヶ月以上の期間(週1回以上)アルバイトをした方のみ回答してください。			
問 23	アルバイトの職種は何ですか。 (2つまで回答可)	(0) 家庭教師 (1) 学習塾講師 (2) 事務 (3) スーパー、コンビニの店員 (4) (3)以外の店員 (5) 飲食店 (6) 軽労働(荷運び、清掃、イベントの手伝い他) (7) 重労働(建設及び土木作業) (8) 警備員 (9) その他 ()	【 】 【 】
問 24	アルバイトに費やす時間は1週間に平均してどのくらいですか。 (大学の休業期間中を除く)	(0) 5時間未満 (1) 5～10時間未満 (2) 10～15時間未満 (3) 15～20時間未満 (4) 20時間以上	【 】

問 25	アルバイト収入の平均額は1ヶ月にいくらくらいですか。 (大学の休業期間中を除く)	(0) 3万円未満 (1) 3万円以上5万円未満 (2) 5万円以上7万円未満 (3) 7万円以上10万円未満 (4) 10万円以上	【 】
問 26	アルバイトをする主な理由は何ですか。 (2つまで回答可)	(0) 授業料・修学費(教科書、参考図書等) (1) 生活費 (2) サークル活動費 (3) レジャー(旅行を含む) 娯楽・嗜好費 (4) その他()	【 】 【 】
問 27	アルバイトと授業が重なった場合どう対応しましたか。	(0) 授業を優先した (1) おおむね授業を優先した (2) おおむねアルバイトを優先した (3) アルバイトを優先した (4) 重ならなかった	【 】

6. 学習状況について

問 28	1週間のうち、何日間、大学に来ていますか。	(0) 1～2日間 (1) 3～4日間 (2) 5日以上	【 】
問 29	アクティブラーニング(AL)教室での講義に関わる1日平均の予習復習時間はどのくらいですか。	(0) 30分未満 (1) 30分～1時間未満 (2) 1時間～2時間未満 (3) 2時間～4時間未満 (4) 4時間～6時間未満 (5) 6時間以上 (6) AL教室で授業を受けたことがない	【 】
問 30	一般的な教室で行われる講義に関わる1日平均の予習復習時間はどのくらいですか。	(0) 30分未満 (1) 30分～1時間未満 (2) 1時間～2時間未満 (3) 2時間～4時間未満 (4) 4時間～6時間未満 (5) 6時間以上	【 】
問31 は、3、4年次生のみ回答してください(ノンゼミ生を除く)。			
問 31	ゼミに関わる1日平均の予習復習時間(卒論研究も含む)はどのくらいですか。	(0) 30分未満 (1) 30分～1時間未満 (2) 1時間～2時間未満 (3) 2時間～4時間未満 (4) 4時間～6時間未満 (5) 6時間以上	【 】
問32～34 は、本学図書館の改修工事が行われる前(今年度前期)の状況を回答してください。			
問 32	自習の場所はどこですか。 (2つまで回答可)	(0) 自宅 (1) 本学図書館 (2) 本学以外の図書館 (3) 大学会館 (4) 空き教室 (5) ゼミ室 (6) サークル会館 (7) 情報処理センター (8) 言語センター (9) 学生控室 (10) その他()	【 】 【 】
問 33	授業の空き時間は主に何処で過ごしていますか。 (2つまで回答可)	(0) 図書館 (1) 大学会館 (2) 空き教室 (3) ゼミ室 (4) サークル会館 (5) 情報処理センター (6) 言語センター (7) 学生控室 (8) その他()	【 】 【 】
問 34	1週間のうち、本学図書館で過ごす時間はどのくらいですか。	(0) 1時間未満 (1) 1時間～2時間未満 (2) 2時間～3時間未満 (3) 3時間～4時間未満 (4) 4時間～6時間未満 (5) 6時間～8時間未満 (6) 8時間～10時間未満 (7) 10時間以上	【 】
問 35	アクティブラーニング(AL)教室と一般的な教室とを比較して、どちらの教室の方が集中しやすいですか。	(0) AL教室 (1) 一般的な教室 (2) どちらも変わらない (3) AL教室で授業を受けたことがない	【 】

問 36	アクティブラーニング（AL）教室と一般的な教室とを比較して、どちらの教室の方がより知識を獲得できますか。	(0) AL教室 (1) 一般的な教室 (2) どちらも変わらない (3) AL教室で授業を受けたことがない	【 】
問 37	アクティブラーニング（AL）教室と一般的な教室とを比較して、どちらの教室の方が自学自習のやる気が高まりますか。	(0) AL教室 (1) 一般的な教室 (2) どちらも変わらない (3) AL教室で授業を受けたことがない	【 】
問 38	アクティブラーニング（AL）教室と一般的な教室とを比較して、どちらの教室の方が授業時間外学習に要する時間が多いですか。	(0) AL教室 (1) 一般的な教室 (2) どちらも変わらない (3) AL教室で授業を受けたことがない	【 】
問 39	今後、AL教室のようにICT機器の備わった高機能な教室が増えていくことに対してどう思いますか。	(0) 非常に良い (1) 良い (2) どちらでもない (3) 悪い (4) 非常に悪い	【 】
問 40	AL教室のようにICT機器の備わった高機能な教室が増えた場合、どのような目的で利用したいですか。 (複数回答可)	(0) 授業やゼミ (1) 自習・勉強会 (2) サークル活動 (3) 授業の空き時間の談話室として (4) その他 ()	【 】 【 】 【 】
問 41	現在のカリキュラムに満足していますか。	(1) 満足している (2) どちらかという満足している (3) どちらでもない (4) やや満足していない (5) 満足していない	【 】
問 42	現在のカリキュラムについて消化できていますか。	(1) 消化できている (2) どちらかという消化できている (3) どちらでもない (4) どちらかという消化できていない (5) 消化できていない	【 】

7. 課外活動について

問 43	本学のサークルに加入していますか。	(0) 体育系のサークルに加入している (1) 文化系のサークルに加入している (2) 体育・文化系両方のサークルに加入している (3) 以前加入していたが、現在加入していない (4) 加入したことがない	【 】
問44～47 は、サークルに加入している方のみ回答してください。			
問 44	本学のサークルに加入した動機は何ですか。 (2つまで回答可)	(0) サークルの活動内容に魅力があった (1) 集団活動をしたかった (2) 友人を得るため (3) 知識・教養を身につけるため (4) 自分の特技を伸ばすため (5) 心身の鍛練のため (6) 先輩・友人に勧められて (7) 学生生活を豊かにするため (8) 様々な情報を得ることができるため (9) その他 ()	【 】 【 】
問 45	サークル活動に費やす時間は1週間に平均何時間ですか。 (大学の休業期間中を除く)	(0) 5時間未満 (1) 5時間～10時間未満 (2) 10時間～20時間未満 (3) 20時間～30時間未満 (4) 30時間以上	【 】

問 46	サークル活動にかかる費用は1ヶ月に平均いくらですか。 (部費、遠征費、合宿費、コンパ代等)	(0) ほとんどかからない (1) 千円以上 3千円未満 (2) 3千円以上 5千円未満 (3) 5千円以上 1万円未満 (4) 1万円以上 2万円未満 (5) 2万円以上	【 】
問 47	サークル活動と授業が重なった場合どう対応しましたか。	(0) 授業を優先した (1) おおむね授業を優先した (2) おおむねサークル活動を優先した (3) サークル活動を優先した (4) 重ならなかった	【 】
問48 は、サークルに加入していない方のみ回答してください。			
問 48	サークルに加入していない理由は何か。 (2つまで回答可)	(0) 学業の妨げになるから (1) 対人関係がわずらわしいから (2) 時間がないから (3) 経済的負担が大きいから (4) 興味のあるサークル又は同好会がないから (5) 束縛されるから (6) 自分の趣味・娯楽で満足しているから (7) その他 ()	【 】 【 】

8. ボランティア活動について

問 49	大学入学後、ボランティア活動に参加したことがありますか。	(0) 参加したことがある。 (1) 参加したことがない。	【 】
問50～52は、大学入学後にボランティア活動に参加したことがある方のみ回答してください。			
問 50	どのような内容のボランティア活動に参加しましたか。 (複数回答可)	(0) 幼児・小中高生の学習指導 (1) 幼児・小中高生のスポーツ指導 (2) 公共施設での文化活動 (3) 高齢者・障害者支援 (4) 地域協力 (イベント協力等) (5) 清掃・自然保護 (6) 国際交流 (7) 募金活動 (8) 災害地での支援活動 (9) その他 ()	【 】 【 】 【 】
問 51	過去に経験したボランティア活動の日数は合計でどれくらいですか。	(0) 3日以内 (1) 4日～7日 (2) 8日～14日 (3) 15日～30日 (4) 31日以上	【 】
問 52	ボランティア活動をすることとしたきっかけは何ですか。 (複数回答可)	(0) 困った人を助けたいと思ったから (1) 自分を高めるため (2) 友人に誘われて (3) 家族の勧めで (4) 社会勉強のため (5) 就職に役立てるため (6) 参加している団体の活動として (7) その他 ()	【 】 【 】 【 】

9. 健康について

問 53	朝、食事をしていますか。	(0) 毎日食べている (1) 時々食べる (2) 殆ど食べない	【 】
問 54	睡眠時間はどのくらいですか。	(0) 4時間未満 (1) 4時間～5時間未満 (2) 5時間～6時間未満 (3) 6時間～7時間未満 (4) 7時間～8時間未満 (5) 8時間以上	【 】
問 55	タバコを吸いますか。	(0) 吸う (1) 以前吸っていたがやめた (2) 吸わない	【 】
問 56	飲酒経験はありますか。	(0) ある (1) ない	【 】

問57～58は、飲酒経験のある方のみ回答してください。			
問 57	飲酒の頻度はどの程度ですか。	(0) ほぼ毎日飲む (1) 週に2～3回程度飲む (2) 時々飲む (3) コンパ等のときだけ飲む (4) 殆ど飲まない	【 】
問 58	どの程度まで飲酒したことがありますか。	(0) ほろ酔い程度 (1) 足元がふらつくほど (2) 酔いつぶれるほど (3) 医療機関で手当を受けたことがある	【 】
問 59	定期健康診断以外で保健管理センターを利用したことがありますか。	(0) 利用したことがある (1) 利用していない	【 】
問60は、定期健康診断以外で保健管理センターを利用したことがある方のみ回答してください。			
問 60	保健管理センターを利用したのはどうい理由からですか。 (複数回答可)	(0) 健康相談のため (1) 心配・悩み事相談のため (2) 風邪、頭痛、腹痛等の内科的症状のため (3) 休養(体調不良)のため (4) ケガをしたため (5) 各証明書の申請(提出)や保険金申請に係る手続きのため (6) その他()	【 】 【 】 【 】
問 61	エイズ(AIDS)の感染経路及び予防について理解していますか。	(0) 良く理解している (1) 多少理解している (2) 殆ど理解していない	【 】

10. 友人・悩みについて

問 62	本学の学生の中でどの程度つき合える友人がいますか。	(0) 互いに希望や悩みを打ち明け合い、心を許し合える友人がいる (1) 多少親密につき合える友人がいる (2) 一緒に行動したり、話し合ったりする程度の友人がいる (3) 全くいない	【 】
問 63	本学でどのように友人を見つけましたか。 (2つまで回答可)	(0) 通学が一緒だから (1) 高校が同じだから (2) 一般の講義で (3) サークルで (4) ゼミナールで (5) 友人はいない (6) その他()	【 】 【 】
問 64	現在悩みがありますか。 (2つまで回答可)	(0) 健康・身体・性格 (1) 経済面 (2) 対人関係 (3) 家族・家庭 (4) 恋愛・結婚 (5) 学業 (6) 生活環境 (7) 職業・進路 (8) 悩みはない (9) その他()	【 】 【 】
問 65	悩みが生じた場合、どのように対処していますか、又は、対処するつもりですか。 (2つまで回答可)	(0) 親に相談する (1) 兄弟・姉妹に相談する (2) 親戚・知人に相談する (3) 本学の教職員に相談する (4) 友人・先輩に相談する (5) 保健管理センターに行つて相談する (6) 「学生何でも相談室」に行つて相談する (7) 自分で解決する (8) なりゆきにまかせる (9) その他()	【 】 【 】

11. ハラスメントについて

問 66	本学の教職員、先輩、友人などからハラスメント(種々の嫌がらせ)を受けたことがありますか。	(0) ある (1) ない	【 】
問67～69は、「ある」と答えた方のみ、回答してください。			

問 67	どのようなハラスメントを受けましたか。 (複数回答可)	(0) セクシュアル・ハラスメント (性的嫌がらせ) (1) アカデミック・ハラスメント (修学上の嫌がらせ) (2) アルコール・ハラスメント (飲酒強要や飲酒にまつわる人権侵害) (3) 宗教に関するハラスメント (4) 政治的信条に関するハラスメント (5) プライバシーの侵害 (6) その他 ()	【 】 【 】 【 】
問 68	どのような状況でハラスメントを受けましたか。 (複数回答可)	(0) 授業・ゼミ中 (1) 課外活動中 (2) アルバイト中 (3) その他 ()	【 】 【 】 【 】
問 69	ハラスメントに対してどのように対応しましたか。 (複数回答可)	(0) 抗議した (1) 保健管理センターに相談した (2) 学生何でも相談室に相談した (3) ハラスメント相談室に相談した (4) 指導教員に相談した (5) 親・友人等信頼できる身近な人に相談した (6) 相談しなかった (7) その他 ()	【 】 【 】 【 】

12. カルト、薬物について

問 70	カルト宗教団体・自己啓発セミナーから勧誘を受けたことがありますか。	(0) 勧誘を受けたことがある (1) 勧誘を受けたことはない	【 】
問 71	友人が宗教団体・自己啓発セミナーから勧誘を受けて困っているのを見聞きしたことがありますか。	(0) 見聞きしたことがある (1) 見聞きしたことはない	【 】
問 72	大麻や違法ドラッグ (いわゆる脱法ドラッグ) の使用を勧められたことがありますか。	(0) 勧められたことがある (1) 勧められたことはない	【 】
問 73	友人が大麻や違法ドラッグ (いわゆる脱法ドラッグ) の使用を勧められたのを見聞きしたことがありますか。	(0) 見聞きしたことがある (1) 見聞きしたことはない	【 】

13. 就職について

問 74	卒業後の進路をどのように考えていますか。あるいはどこに決まりましたか。(決まっていなときは第一志望)	(0) 公務員(教員含む) (1) 卸小売業 (2) 製造業 (3) 建設業 (4) サービス業 (5) マスコミ (6) 金融・保険業 (7) 医療福祉 (8) 情報サービス業 (9) 自営業 (10) 進学 (11) その他 ()	【 】
問 75	就職する場合に何を基準に考えますか。あるいは考えましたか。 (2つまで回答可)	(0) 勤務地 (1) 業種 (2) 職種 (3) 会社等の規模 (4) 知名度 (5) 給与 (6) 勤務時間・休日 (7) 適性 (8) 安定性 (9) 将来性 (10) その他 ()	【 】 【 】
問 76	就職する場合に勤務地はどこを希望しますか。 (複数回答可)	(0) 小樽市 (1) 札幌市 (2) 前記以外の道内 (3) 東京 (4) 首都圏 (5) 前記以外の道外 (6) 特に考えていない (7) 外国 ()	【 】 【 】 【 】
問 77	将来の就業のために、各種専門学校等に通っていますか。あるいは通っていましたか。 (複数回答可)	(0) 語学学校 (1) パソコン教室 (2) 公務員試験講座 (3) 簿記講座 (4) FP講座 (5) 税理士・公認会計士講座 (6) ロースクール・司法試験講座 (7) 通っていない (8) その他 ()	【 】 【 】 【 】

